秋田県文化財調査報告書第485集

家ノ浦Ⅱ遺跡

―一般国道７号仁賀保本荘道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ―

２０１３・３

秋田県教育委員会

シンボルマークは、北秋田市浦田白坂（しろざか）遺跡
出土の「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年８月発見、高さ７㎝、凝灰岩。

家ノ浦Ⅱ遺跡

（いえ　の　うら　2）

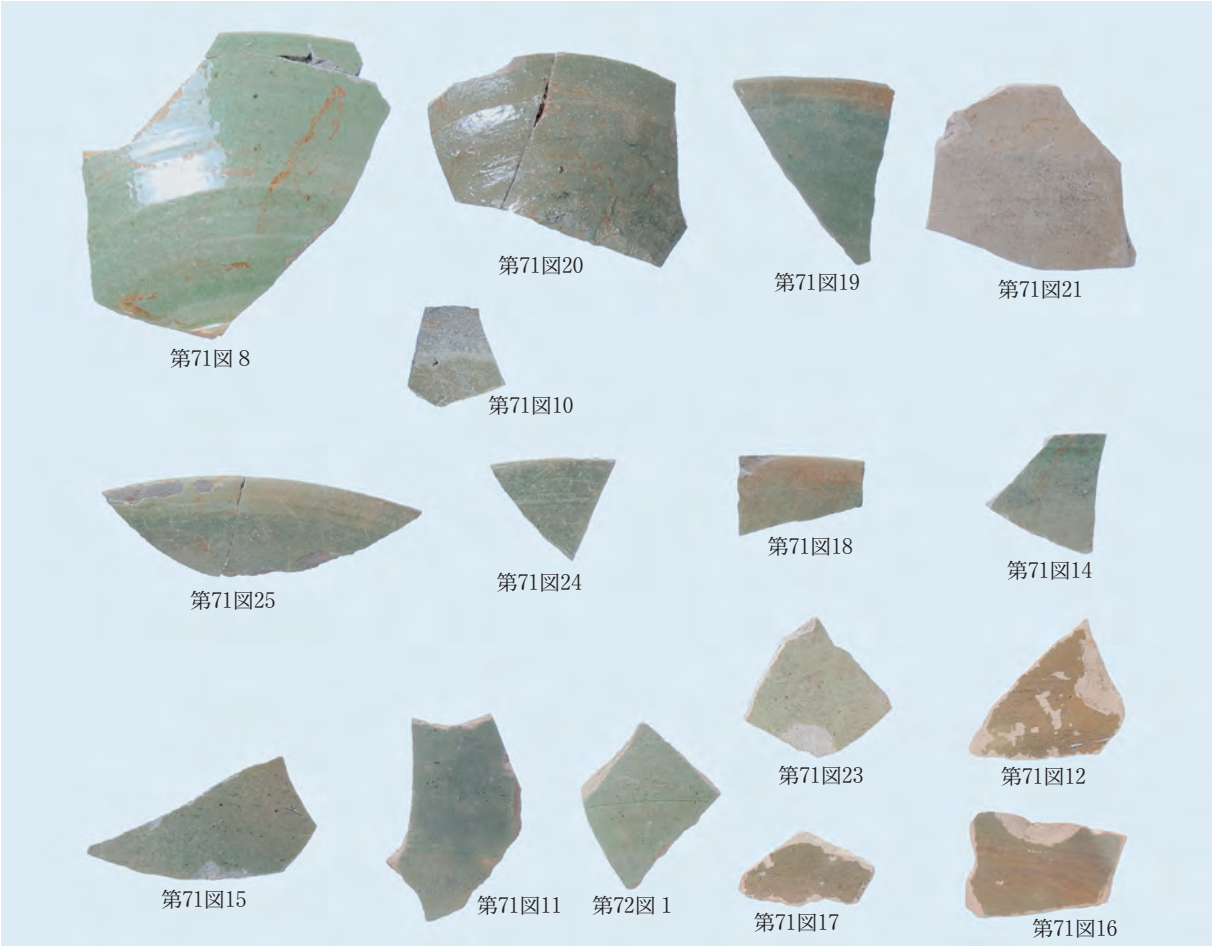
―一般国道７号仁賀保本荘道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ―

２０１３・３

秋田県教育委員会

1　調査区全景（南から）

2　緑釉陶器（1）



1　緑釉陶器（2）

2　墨書土器

序

本県には、これまでに発見された約4,900か所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これら埋蔵文化財の保存・継承と積極的活用は、地域社会の歴史や文化に親しみ、理解を深め、ふるさとを愛する人づくりにつながります。

一方、日本海沿岸東北自動車道をはじめとする高速交通体系の整備は、秋田県がめざす活発な地域交流・連携のための、根幹をなす開発事業であります。本教育委員会では、これらの開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、この道路建設事業に先立って、平成23年度に、にかほ市において実施した家ノ浦Ⅱ遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。調査では、平安時代の掘立柱建物跡や溝跡などとともに緑釉陶器を含む多量の遺物が見つかり、祭祀と鍛冶作業が行われていた場所であることがわかりました。

本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助になることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所、にかほ市教育委員会など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成25年３月

秋田県教育委員会

教育長　米　田　　進

例　　言

1　本書は、一般国道７号仁賀保本荘道路建設事業に伴い、平成23年度に発掘調査した、にかほ市所在の家ノ浦Ⅱ遺跡の発掘調査報告書である。調査内容については、すでにその一部が埋蔵文化財センター年報などによって公表されているが、本報告書を正式なものとする。

2　調査要項

遺　　跡　　名　家ノ浦Ⅱ遺跡（いえのうら２いせき）
遺　跡　略　号　６ＩＮＵⅡ
遺 跡 所 在 地　秋田県にかほ市両前寺字家ノ浦１－１外
調　査　期　間　平成23年６月１日～９月７日
調　査　面　積　3,150㎡
調 査 主 体 者　秋田県教育委員会
調 査 担 当 者　簗瀬　圭二（秋田県埋蔵文化財センター中央調査班　学芸主事）
　　村上　義直（秋田県埋蔵文化財センター中央調査班　文化財主査）
総 務 担 当 者　菊地　尚久（秋田県埋蔵文化財センター中央調査班　主査）
掘削作業管理業務　株式会社三共（現場代理人　渡邊大樹）
調 査 協 力 機 関　国土交通省秋田河川国道事務所、にかほ市教育委員会

3　第３図は、国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所提供の１／1,000工事用図面を、第４図は、国土交通省国土地理院発行の50,000分の１地形図『象潟』をそれぞれ元に作成した。

4　遺跡基本層序と遺構土層図中の土色表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』2005年版に拠った。

5　本書に使用した空中写真は、株式会社シン技術コンサルに委託したものである。

6　発掘調査及び整理作業における以下の作業は、下記の業者に委託した。
水準測量・方眼杭設置業務委託：有限会社　村上測量事務所
木製品・鉄製品保存処理業務委託：株式会社　吉田生物研究所

7　理化学的分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

8　本書の執筆は、簗瀬と村上が行った。第４章は委託分析調査報告を掲載した。編集は、村上が行った。

9　発掘調査及び整理作業において、ご指導・ご助言を賜った以下の方々に記して感謝申し上げます。（五十音順）
荒木志伸　小松正夫　齋藤一樹　高橋照彦　村田淳

凡　例

1　遺構番号は、その種類ごとに略記号を付し、検出順に連番とした。これらの中には精査と整理作業の過程で欠番としたものもある。遺構及び遺物等に用いた略記号は下記のとおりである。

ＳＢ　掘立柱建物跡　　ＳＡ　杭列跡・柵列跡　　ＳＤ　溝跡　　ＳＱ　敷石遺構・集石遺構

ＳＲ　土器埋設遺構　　ＳＫ　土坑　　ＳＮ　焼土遺構　　ＳＳ　鍛冶炉

ＳＸ　性格不明遺構　　ＳＫＰ　柱穴様ピット　　ＲＰ　土器・陶磁器　　ＲＱ　石器

ＲＳ　礫

2　遺構配置図中にあるゴシック体の数字は、柱穴様ピットの遺構番号を表し、当該番号に添えて－●●㎝と記した数字は確認面から底面までの深さを表す。

3　土層番号に用いた数字は、ローマ数字を遺跡基本層位にアラビア数字を遺構土層に使用した。

4　断面図のセクションポイントにおける基準高は、調査時において全て0.100m単位で設定しているが、挿図における基準高の表記は小数点第２位以下の値である00を省略した。

5　土師器のうち、内面が黒色処理されたものを内黒（土師器）、両面が黒色処理されたものを両黒（土師器）とした。また、胴部に叩き目のある土師器の甕を長胴甕として分類・計量を行った。

6　出土遺物一覧表の各指数は、以下の計算で得られた値である。

　底径指数：底径÷口径、高径指数：器高÷口径×100

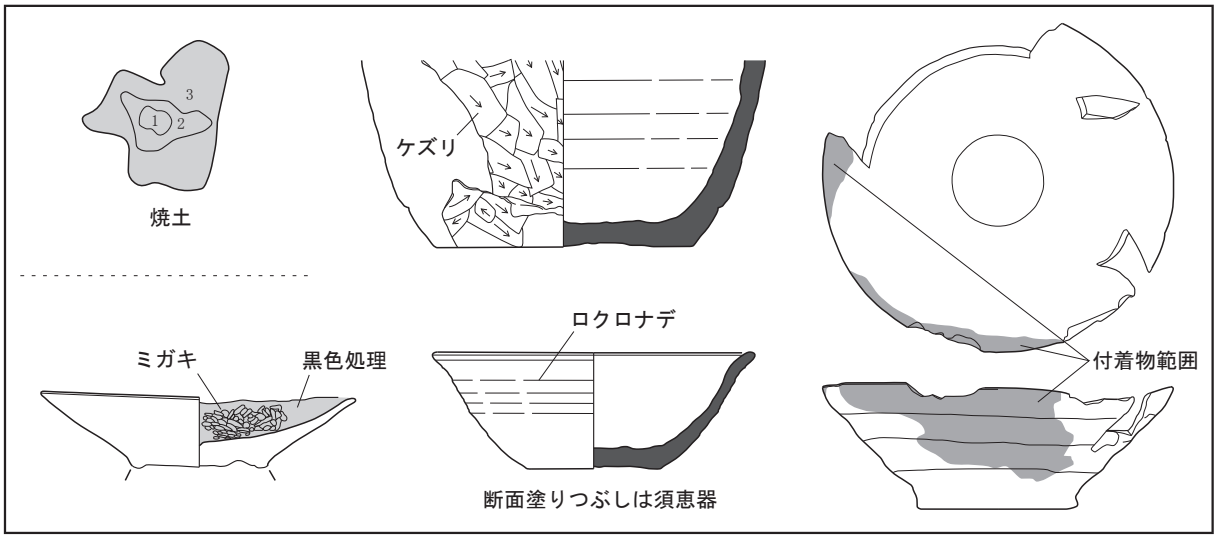
7　遺物の縮尺は、以下のとおりである。

土器：１／３、１／６　土製品：１／３　石器・鉄関連遺物：１／２、１／５

木製品：１／１、１／３、１／４、１／５、１／10

8　土師器・緑釉陶器・灰釉陶器・白磁の破片については、断面線があるものが破片を水平面に置いた状態で実測したもの、断面線のないものが本来の傾きに合わせた状態で実測したものとなる。

9　遺構図・遺物図の網フセ、調整等の凡例は次の通りである。これ以外の場合は、各挿図中に凡例を示した。



目　次

序 …… i
例言 …… ii
凡例 …… iii
目次 …… iv
挿図目次 …… v
表目次 …… v
図版目次 …… vi

第１章　調査の経過 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　発掘調査の経過 …… 2
　第３節　整理作業の経過 …… 3
第２章　遺跡の位置と環境 …… 4
　第１節　地理的環境 …… 4
　第２節　歴史的環境 …… 7
第３章　調査の方法と成果 …… 13
　第１節　調査の方法 …… 13
　　1　発掘調査 …… 13
　　2　整理作業 …… 13
　第２節　基本層序 …… 15
　第３節　検出遺構と遺物 …… 22
　　1　概要 …… 22
　　2　掘立柱建物跡 …… 31
　　3　柵列跡・杭列跡 …… 34
　　4　溝跡 …… 35
　　5　敷石遺構 …… 43
　　6　集石遺構 …… 44
　　7　土器埋設遺構 …… 44
　　8　土坑 …… 45
　　9　焼土遺構 …… 66
　　10　鍛冶炉 …… 69
　　11　性格不明遺構 …… 70
　　12　柱穴様ピット …… 70
　　13　遺構外出土遺物 …… 70
第４章　理化学的分析 …… 153
　第１節　家ノ浦Ⅱ遺跡の自然科学分析 …… 153
　　1　放射性炭素年代測定 …… 153
　　2　テフラ分析 …… 154
　　3　骨同定 …… 156
　第２節　家ノ浦Ⅱ遺跡出土木製品の樹種調査 …… 159
第５章　総括 …… 163

図版

報告書抄録 …… 201

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図 …… 1
第２図　切峰面図と地形区分図…… 5
第３図　路線と発掘調査範囲 …… 6
第４図　家ノ浦Ⅱ遺跡と周辺遺跡位置図 …… 8
第５図　グリッド配置と確認調査トレンチ位置…… 14
第６図　基本層序位置図 …… 17
第７図　基本層序図（１） …… 18
第８図　基本層序図（２） …… 19
第９図　基本層序図（３） …… 20
第10図　基本層序図（４） …… 21
第11図　遺構配置図（全体）…… 23
第12図　遺構配置図（北側）…… 24
第13図　遺構配置図（南側）…… 25
第14図　遺構配置図①・②…… 26
第15図　遺構配置図③…… 27
第16図　遺構配置図④…… 28
第17図　遺構配置図⑤…… 29
第18図　遺構配置図⑥・⑦・⑧…… 30
第19図　ＳＢ114 …… 72
第20図　ＳＢ115 …… 73
第21図　ＳＢ116 …… 74
第22図　ＳＡ124・125・126・127、ＳＢ122 …… 75
第23図　ＳＡ101・103…… 76
第24図　ＳＤ57・72・85 …… 77
第25図　ＳＤ26・59・60・70・85…… 78
第26図　ＳＤ26・60・70 …… 79
第27図　ＳＤ60a・60b・90・92 …… 80
第28図　ＳＤ28・41・42・55・83、ＳＫ128 …… 81
第29図　ＳＤ35・47・56・100…… 82
第30図　ＳＤ49・50・58・92 …… 83
第31図　ＳＤ60a・60b・90・107、ＳＫ82…… 84
第32図　ＳＱ65・113、ＳＲ109…… 85
第33図　ＳＫ01・03・04・05・07・08…… 86
第34図　ＳＫ17・18・19・20・21・22、ＳＮ112 ‥ 87
第35図　ＳＫ23・24・25・27・36…… 88
第36図　ＳＫ29・30・37・38・39・43・44・110 ‥ 89
第37図　ＳＫ45・46・48・54・119…… 90
第38図　ＳＫ51・53・61・79・118…… 91
第39図　ＳＫ63・66・67・68 …… 92
第40図　ＳＫ69・73・74・75・76・81・117 …… 93
第41図　ＳＫ77・84・87・88・94…… 94
第42図　ＳＫ91・95・97・98・99・104…… 95
第43図　ＳＫ105・106・108・111、ＳＤ123、ＳＸ89 …… 96
第44図　ＳＮ10・12・13・14 …… 97
第45図　ＳＮ15・16・32・33、ＳＫ120…… 98
第46図　ＳＮ34・40・52・62、ＳＫ121、ＳＳ09 ‥ 99
第47図　遺構出土土器類（ＳＢ115、ＳＤ26・49・50・57）…… 105
第48図　遺構出土土器類（ＳＤ60）…… 106
第49図　遺構出土土器類（ＳＤ60）…… 107
第50図　遺構出土土器類（ＳＤ60）…… 108
第51図　遺構出土土器類（ＳＤ60・70・85・86）… 109
第52図　遺構出土土器類（ＳＤ86、ＳＱ65、ＳＫ17・24）…… 110
第53図　遺構出土土器類（ＳＫ27・29・36・46・61・73）…… 111
第54図　遺構出土土器類（ＳＫ73・77・82・99・104）…… 112
第55図　遺構出土土器類（ＳＫ106、ＳＲ109、ＳＮ34、ＳＫＰ）…… 113
第56図　遺構出土土器類（SKP）…… 114
第57図　遺構出土土製品・鉄製品・石器 …… 115
第58図　遺構出土鉄床石 …… 116
第59図　遺構外出土土器類１（須恵器）…… 117
第60図　遺構外出土土器類２（須恵器）…… 118
第61図　遺構外出土土器類３（須恵器）…… 119
第62図　遺構外出土土器類４（須恵器）…… 120
第63図　遺構外出土土器類５（土師器）…… 121
第64図　遺構外出土土器類６（土師器）…… 122
第65図　遺構外出土土器類７（土師器）…… 123
第66図　遺構外出土土器類８（土師器）…… 124
第67図　遺構外出土土器類９（土師器）…… 125
第68図　遺構外出土土器類10（土師器）…… 126
第69図　遺構外出土土器類11（土師器）…… 127
第70図　遺構外出土土器類12（土師器）…… 128
第71図　遺構外出土土器類13（土師器・陶磁器）… 129
第72図　遺構外出土土器類14（陶磁器）…… 130
第73図　遺構外出土土製品（硯・支脚）…… 131
第74図　遺構外出土土製品・鉄製品・鉄滓…… 132
第75図　遺構外出土砥石・石器・陶磁器・弥生土器 …… 133
第76図　遺構出土木製品１（ＳＫ73・104・106）… 134
第77図　遺構出土木製品２（ＳＫ104、ＳＡ101・103）…… 135
第78図　遺構外出土木製品１（椀・皿）…… 136
第79図　遺構外出土木製品２（椀・曲物）…… 137
第80図　遺構外出土木製品３（曲物・下駄・桧扇）· 138
第81図　遺構外出土木製品４（題戔軸・木簡・形代・斎串等）…… 139
第82図　遺構外出土木製品５（串状・ヘラ状・箸状）…… 140
第83図　遺構外出土木製品６（小杭状・先端炭化）141
第84図　遺構外出土木製品７（ヘラ状・棒状）…… 142
第85図　遺構外出土木製品８（部材）…… 143
第86図　遺構外出土木製品９（部材・板材）…… 144
第87図　暦年較正結果…… 157
第88図　重鉱物組成 …… 158
第89図　火山ガラス屈折率…… 158
第90図　テフラ試料の砂分の状況 …… 158
第91図　テフラ試料の重鉱物と火山ガラス…… 158
第92図　骨同定試料の状況…… 158
第93図　プレパラート顕微鏡写真（１）…… 161
第94図　プレパラート顕微鏡写真（２）…… 162
第95図　主要遺構の変遷 …… 165
第96図　緑釉陶器・灰釉陶器出土位置…… 165

表　目　次

第１表　家ノ浦Ⅱ遺跡周辺の遺跡一覧（１）…… 9
第２表　家ノ浦Ⅱ遺跡周辺の遺跡一覧（２）……10
第３表　柱穴様ピット一覧表（１）…… 100
第４表　柱穴様ピット一覧表（２）…… 101
第５表　柱穴様ピット一覧表（３）…… 102
第６表　柱穴様ピット一覧表（４）…… 103
第７表　柱穴様ピット一覧表（５）…… 104
第８表　出土遺物一覧表（１）…… 145
第９表　出土遺物一覧表（２）…… 146
第10表　出土遺物一覧表（３）…… 147
第11表　出土遺物一覧表（４）…… 148
第12表　出土遺物一覧表（５）…… 149
第13表　出土遺物一覧表（６）…… 150
第14表　出土遺物一覧表（７）…… 151
第15表　出土遺物一覧表（８）…… 152
第16表　放射性炭素年代測定及び暦年較正結果… 157
第17表　テフラ観察結果 …… 158
第18表　重鉱物分析結果 …… 158
第19表　家ノ浦Ⅱ遺跡出土木製品同定表 …… 160

図　版　目　次

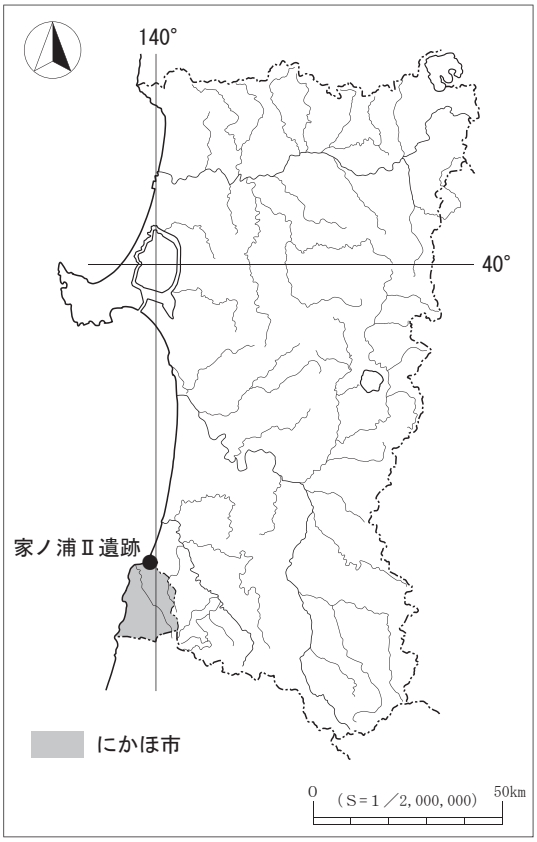
巻頭図版１　１　調査区全景（南から）
　　２　緑釉陶器（１）
巻頭図版２　１　緑釉陶器（２）
　　２　墨書土器
図版１　１　掘立柱建物跡群（上が東南東）
　　２　掘立柱建物跡群（上が東南東）
図版２　１　ＳＢ114（南西→北東）
　　２　ＬＴ46～49遺構確認状態（東→西）
　　３　ＳＡ101確認状態（西→東）
　　４　ＳＡ103ＲＷ１断面（南→北）
図版３　１　ＳＤ28確認状態（南西→北東）
　　２　ＳＤ28・41土層断面（南→北）
　　３　ＳＤ47完掘状態（南東→北西）
　　４　ＳＤ49・50、ＳＫ120・121完掘状態（南西→北東）
　　５　ＳＤ49・50土層断面（北→南）
　　６　ＳＤ56完掘状態（南西→北東）
　　７　西側整地面とＳＤ57確認状態（南→北）
　　８　ＳＤ57完掘状態（南西→北東）
図版４　１　ＳＤ57・72・85完掘状態（南→北）
　　２　ＳＤ60確認状態（南→北）
　　３　ＳＤ60完掘状態（南→北）
　　４　ＳＤ60遺物出土状態（北→南）
　　５　ＳＤ83確認状態（南東→北西）
　　６　ＳＤ90確認状態（南→北）
　　７　ＳＤ92土層断面（南→北）
　　８　ＳＤ100完掘状態（北東→南西）
図版５　１　ＳＤ107土層断面（西→東）
　　２　ＳＤ123土層断面（西→東）
　　３　ＳＱ65確認状態（南→北）
　　４　ＳＱ65、ＳＤ70確認状態（南→北）
　　５　ＳＱ65、ＳＤ60土層断面（南→北）
図版６　１　ＳＫ01・03確認状態（南東→北西）
　　２　ＳＫ01・03完掘状態（南東→北西）
　　３　ＳＫ04完掘状態（東→西）
　　４　ＳＫ05完掘状態（西→東）
　　５　ＳＫ07完掘状態（南西→北東）
　　６　ＳＫ08完掘状態（南西→北東）
　　７　ＳＫ17土層断面（南西→北東）
　　８　ＳＫ17土器出土状態（南西→北東）
図版７　１　ＳＫ19完掘状態（南→北）
　　２　ＳＫ20・21確認状態（北西→南東）
　　３　ＳＫ21完掘状態（北→南）
　　４　ＳＫ22確認状態（南→北）
　　５　ＳＫ23完掘状態（南西→北東）
　　６　ＳＫ24完掘状態（南東→北西）
　　７　ＳＫ25完掘状態（北東→南西）
　　８　ＳＫ27、ＳＤ42確認状態（西→東）
図版８　１　ＳＫ27遺物出土状態（南→北）
　　２　ＳＫ29・30、ＳＤ35完掘状態（南東→北西）
　　３　ＳＫ36完掘状態（南東→北西）
　　４　ＳＫ37完掘状態（西→東）
　　５　ＳＫ38・39（南→北）
　　６　ＳＫ39完掘状態（南→北）
　　７　ＳＫ43・44・110土層断面（北東→南西）
　　８　ＳＫ45完掘状態（北西→南東）
図版９　１　ＳＫ48完掘状態（南→北）
　　２　ＳＫ53完掘状態（東→西）
　　３　ＳＫ61完掘状態（南→北）
　　４　ＳＫ63確認状態・土層断面（北→南）
　　５　ＳＫ66土層断面（南西→北東）
　　６　ＳＫ67土層断面（北→南）
　　７　ＳＫ67完掘状態（北→南）
　　８　ＳＫ68完掘状態（東→西）
図版10　１　ＳＫ69・81完掘状態（南東→北西）
　　２　ＳＫ73完掘状態（北西→南東）
　　３　ＳＫ74土層断面（南→北）
　　４　ＳＫ75土層断面（南→北）
　　５　ＳＫ76土層断面（南→北）
　　６　ＳＫ74・75・76・117完掘状態（南→北）
　　７　ＳＫ77完掘状態（東→西）
　　８　ＳＫ79藁出土状態（北東→南西）
図版11　１　ＳＫ82土層断面（南→北）
　　２　ＳＫ84完掘状態（南東→北西）
　　３　ＳＫ87・88完掘状態（西→東）
　　４　ＳＫ91土層断面（南西→北東）
　　５　ＳＫ94・84完掘状態（南東→北西）
　　６　ＳＫ95確認状態（東→西）
　　７　ＳＫ95完掘状態（北東→南西）
　　８　ＳＫ97完掘状態（南西→北東）
図版12　１　ＳＫ98完掘状態（北西→南東）
　　２　ＳＫ99完掘状態（北→南）
　　３　ＳＫ104遺物出土状態（南東→北西）
　　４　ＳＫ105土層断面（南東→北西）
　　５　ＳＫ106、ＳＤ123完掘状態（西→東）
　　６　ＳＫ111完掘状態（西→東）
　　７　ＳＸ89確認状態（南西→北東）
　　８　ＳＲ109遺物確認状態（南東→北西）
図版13　１　ＳＮ10確認状態（南→北）
　　２　ＳＮ12確認状態（南西→北東）
　　３　ＳＮ13確認状態（北西→南東）
　　４　ＳＮ14・15・16確認状態（北→南）
　　５　ＳＫ18、ＳＮ112確認状態（南東→北西）
　　６　ＳＮ32確認状態（北→南）
　　７　ＳＮ33確認状態（西→東）
　　８　ＳＮ34確認状態（東→西）
図版14　１　ＳＮ52、ＳＫ53確認状態（東→西）
　　２　ＳＮ62確認状態（西→東）
　　３　ＳＳ09確認状態（北西→南東）
　　４　ＳＢ115Ｐ５（SKP470）遺物出土状態（北→南）
　　５　ＬＳ59遺物出土状態（南→北）
　　６　ＬＴ60木製品出土状態（南西→北東）
　　７　ＭＤ・ＭＥ51土層断面（南→北）
　　８　ＭＣ42・43、ＭＤ42基本層序断面Ｉ－Ｊ（西→東）
図版15　１　南西側から見た調査区
　　２　北側沢地最深部（南西→北東）
　　３　調査状況（北西→南東）
　　４　調査状況（南東→北西）
　　５　南側斜面肩部地割れ（東→西）
　　６　基本層序断面Ｅ－Ｆ（南→北）
　　７　基本層序断面Ｇ－Ｈ（北西→南東）
　　８　基本層序断面Ｃ－Ｄ（南東→北西）
図版16　出土遺物１
図版17　出土遺物２
図版18　出土遺物３
図版19　出土遺物４
図版20　出土遺物５
図版21　出土遺物６
図版22　出土遺物７
図版23　出土遺物８
図版24　出土遺物９
図版25　出土遺物10
図版26　出土遺物11
図版27　出土遺物12
図版28　出土遺物13
図版29　出土遺物14
図版30　出土遺物15
図版31　出土遺物16
図版32　出土遺物17
図版33　出土遺物18
図版34　出土遺物19

第１章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯

仁賀保本荘道路は、にかほ市両前寺と本荘Ｉ.Ｃを結ぶ全長12.5㎞の自動車専用道路である。国道７号の交通混雑の緩和や騒音などの沿道環境の改善と災害時の代替道路としての機能確保などを目的としている。この仁賀保本荘道路は国道７号の自動車専用道路であり、接続する象潟仁賀保道路などとともに将来的には総延長約320㎞の日本海沿岸東北自動車道に組み込まれることとなる。

家ノ浦Ⅱ遺跡は、仁賀保本荘道路と象潟仁賀保道路の接続部分である仁賀保Ｉ.Ｃ（仮称）予定地付近にある。仁賀保本荘道路は平成３年12月に基本決定がなされ、以後、平成10年４月新規着工準備、平成12年４月事業化、平成14年７月工事着工を経て平成19年９月に暫定部分11.2㎞が供用開始となっている。これらの事業に伴い、事業主体者である国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所（以下、秋田河川国道事務所）から秋田県教育委員会に対し、平成18年に仁賀保Ｉ.Ｃ（仮称）建設予定地周辺事業地内の埋蔵文化財分布調査についての依頼があった（平成17年７月７日付、国東整秋二調第22号）。これを受け、秋田県教育委員会は、平成18年度から21年度にかけて当該地域の分布調査を行い、家ノ浦Ⅱ遺跡を含む数遺跡を発見し、事業主体者である秋田河川国道事務所に報告した（平成20年12月26日付、教生－1970、平成21年５月26日付、教生－496ほか）。家ノ浦Ⅱ遺跡については、平成21年の５月12日に行われた分布調査で土師器等が出土したことにより、新発見の遺跡とされている[註1]。その後、秋田県教育委員会と秋田河川国道事務所による協議結果を受け、21年10月30日と22年10月18日～22日に秋田県埋蔵文化財センターによる確認調査が行われた。21年度確認調査部分については、旧工業用地造成に伴う削平により遺物包含層が存在しないことが明らかとなり本調査対象範囲からは除外されることとなった[註2]。22年度確認調査部分については、検出された遺構がほとんどなかったが、出土遺物や周辺の遺跡を考慮した結果、平安時代の集落跡と判断され、本発掘調査が必要であると判明し[註3]、その旨を秋田河川国道事務所に通知した（平成23年１月17日付、教生－2172）。その後、両者協議の結果、発掘調査は秋田県埋蔵文化財センターが担当し、平成23年度に3,150㎡を対象に発掘調査を行うことになった。



第１図　遺跡位置図

第２節　発掘調査の経過

調査に先駆け重機による表土除去を４月25日(月)～５月16日(月)までの期間で行った。

第１週　６月１日(水)～６月３日(金)

６月１日(水)調査開始。ベルトコンベアの設置等を含む環境整備と基本土層畦の設定・掘削を実施。１日：齋藤副所長・榮班長調査指導のため来跡。

第２週　６月６日(月)～６月10日(金)

調査区中央部の掘削・精査及び調査区南東部の掘削を実施。基本土層畦沿いの掘削を優先実施。

第３週　６月13日(月)～６月17日(金)

調査区中央部・南東部の掘削を実施。炭化物混じりの古代の遺物包含層からの遺物の出土が顕著であり、かなりの出土量を予想。14日：榮班長、調査指導のため来跡。16日：文化財保護室宇田川文化財主査視察。

第４週　６月20日(月)～６月24日(金)

調査区中央部の掘削及び遺構確認・精査を実施。多数の遺構を確認。今後、さらに増加するものと予想。阿部舘遺跡の調査範囲が本遺跡事務所等用地まで広がることが判明したのに伴い、秋田河川国道事務所と文化財保護室との協議が行われ、急遽、次週早々に本遺跡事務所等を家ノ浦遺跡調査跡地に移転することに決定。21日：榮班長、調査指導及び協議のため来跡。

第５週　６月27日(月)～７月１日(金)

調査区中央部の掘削及び遺構確認・精査を継続実施。焼土遺構、柱穴様ピットを多数確認。阿部舘遺跡の調査範囲拡張に伴う本遺跡事務所等の移転を実施(１日)。

第６週　７月４日(月)～７月８日(金)

調査区中央部の掘削及び遺構確認・精査を継続実施。４日：高橋所長・利部班長・榮班長、調査指導のため来跡。６日：鹿角総務班長・久米副主幹、調査状況確認のため来跡。

第７週　７月11日(月)～７月15日(金)

調査区中央部の遺構確認・精査を継続実施。新たに南側の遺構確認・精査を実施。骨片を含む小土坑(SK38・39)を確認。遺構の重複が多く調査が難航。調査区南部斜面から大量の土器が出土。水辺を意識した祭祀によるものと推測。灰原等も視野に入れた調査が必要との指導。11日：榮班長、調査指導のため来跡、15日：平沢小学校６年生(90名)遺跡見学、15日：齋藤副所長・利部班長・榮班長、調査指導のため来跡。小松正夫氏来跡。

第８週　７月19日(火)～７月22日(金)

調査区中央部の掘削及び遺構確認・精査を継続実施。調査区南部斜面で、ラミナ状の水成堆積層を確認。20日、遺物保管庫の窓ガラスが何者かの手により破損。にかほ警察署に通報。22日：榮班長、調査指導のため来跡。

第９週７月25日(月)～７月29日(金)

調査区中央部の掘削及び遺構確認・精査を継続実施。調査区中央部では、すでに300基以上の柱穴様ピットを確認。建物の復元を急ぐ。28日：元文化財保護室長大野憲司氏、来跡。

第10週　８月１日(月)～８月５日(金)

調査区中央部の掘削及び遺構確認・精査を継続実施。掘削はほぼ終了。遺跡公開（２～４日）に伴い、来跡者へ対応。のべ３日間で来跡者17名。調査区南側に堆積する黒色土は、斜面に自然堆積したものであり、その上に整地層が堆積していることが判明。土中に含まれる白い筋状の堆積物は、火山灰と推定。(註４)

第11週　８月８日（月）～８月12日（金）

調査区北部の掘削及び遺構確認作業を開始。調査区中央部の遺構確認・精査は継続実施。ＳＤ60溝跡から、円礫を敷き詰めた敷石遺構（ＳＱ65）を検出。溝の中に作られた祭祀施設と推測。柱穴群から３間×２間の掘立柱建物跡（ＳＢ114）と、これと重複する外周溝を伴う掘立柱建物跡（ＳＢ115）を抽出。11日：榮班長、調査指導のため来跡。

第12週　８月22日（月）～８月26日（金）

調査区北部の掘削及び遺構確認作業を継続実施。調査区中央部は遺構確認作業終了。遺構精査を継続。調査区北側沢部から緑釉陶器稜椀出土。23日：文化財保護室佐々木室長・宇田川文化財主査、視察のため来跡。26日：榮班長、調査指導のため来跡。

第13週　８月30日（火）～９月２日（金）

調査区北部の掘削及び遺構精査。調査区中央部の遺構精査。地山面のコンター図作成。沢からは、緑釉陶器稜椀の優品や木製品が多数出土。送り場的な性格を予測。31日：県立博物館吉川主査一行、文化財保護室加藤文化財主任秋田大学学生引率し、見学。

第14週　９月５日（月）～９月７日（水）

調査区北部・中央部遺構精査完了。コンター図作成終了。空中写真撮影、撤収作業。全ての調査を終了。遺跡の性格は、主に平安時代の祭祀場と鍛冶作業場の両方を想定。整理作業では、遺構の新旧関係と遺物の年代等を踏まえた遺構群の変遷についての検討が必要。７日：齋藤副所長・榮班長、終了状況確認等のため来跡。

第３節　整理作業の経過

整理作業は、現場作業終了後の平成23年９月７日から平成25年３月31日まで実施した。

平成23年９月から翌年２月までは遺物洗浄と注記作業を行い、平成24年３月から７月までは集計・計量、分類作業を行った。土器等の接合・復元作業を平成24年５月から７月までの期間で行い、遺物の実測とデジタルトレースは、平成24年２月から11月までの期間で行った。

図面関係については、平成23年12月から翌年６月まで遺構第２原図の作成とデジタルトレースを行った。トレース終了図については、平成24年10月～12月の期間に編集作業を行った。平成24年12月から翌25年３月までは、収蔵のためのデータ作成・整理を行った。

註１　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第420集　2010（平成22）年
註２　註１文献
註３　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第465集　2011（平成23）年
註４　この堆積物は、分析の結果、基盤層に含まれる風化した火山灰が露頭等から流出した可能性があることが判明している（第４章第１節３）。

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

家ノ浦Ⅱ遺跡が所在するにかほ市は、秋田県沿岸南西部に位置する。平成17(2005)年３月に仁賀保町・金浦町・象潟町の３町の合併により誕生した新しい市である。面積は240.0㎢で東西約16㎞、南北約23㎞の広がりをもち、北側と東側は由利本荘市、南側は山形県に接している。にかほ市沿岸部は積雪量が少なく、冬から春にかけては県内で最も温暖な地域となっている。

にかほ市域は、南東方向にある鳥海山の北西裾野部分にあたり、鳥海山の火山活動の影響を大きく受けた地域である。この中で家ノ浦Ⅱ遺跡は、非火山性の仁賀保丘陵地の末端部分にあり、地形上は火山活動の影響はほとんど受けていない。

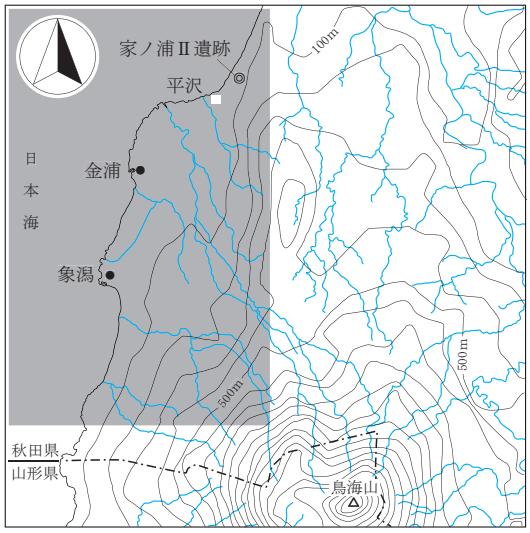
家ノ浦Ⅱ遺跡のある仁賀保丘陵地（Ⅰａ）は（第２図地形区分図）、新第三系天徳寺層・笹岡層、第四系西目層の堆積岩から構成される海底隆起地塊であり、西縁に沿って南北方向に仁賀保衝上断層群が走っている。本遺跡は笹岡層西端に位置し、低地との境にある。西には、仁賀保沖積低地（Ⅲａ）が隣接して広がり、北と西方の海岸を縁取るように仁賀保新期砂丘地（Ⅲｅ）が分布する。南西方向には、鳥海山の噴火に伴う象潟泥流台地（Ⅱｃ）が広がっている。

本遺跡は、北緯39度17分40秒、東経139度58分34秒、ＪＲ羽越本線仁賀保駅から東北東1.1㎞に位置する。立地としては、仁賀保丘陵西側斜面とこれに接する沖積低地との境目の丘陵末端の標高16～20ｍの緩斜面にあり、調査区南側は丘陵地から海に向い西流する小河川の両前寺川に接している。この両前寺川の対岸には横枕遺跡[註1]があり、対岸の僅かに下流側に立沢遺跡がある。また、調査区内北側を北東から南西方向に下る沢の北側には家ノ浦遺跡が、本遺跡東側の斜面上位には阿部舘遺跡がある。本遺跡の広がりは、西側に隣接する国道７号の用地内直下にも及ぶものと考えられる。

本遺跡は、近年まで工場用地として利用されてきたが、それ以前は水田であったことがわかっている[註2]。旧水田面に３ｍ前後盛土造成した後に工場用地として利用されているが、盛土前の水田耕作によって古代の遺物包含層が撹乱を受けている部分も認められた。

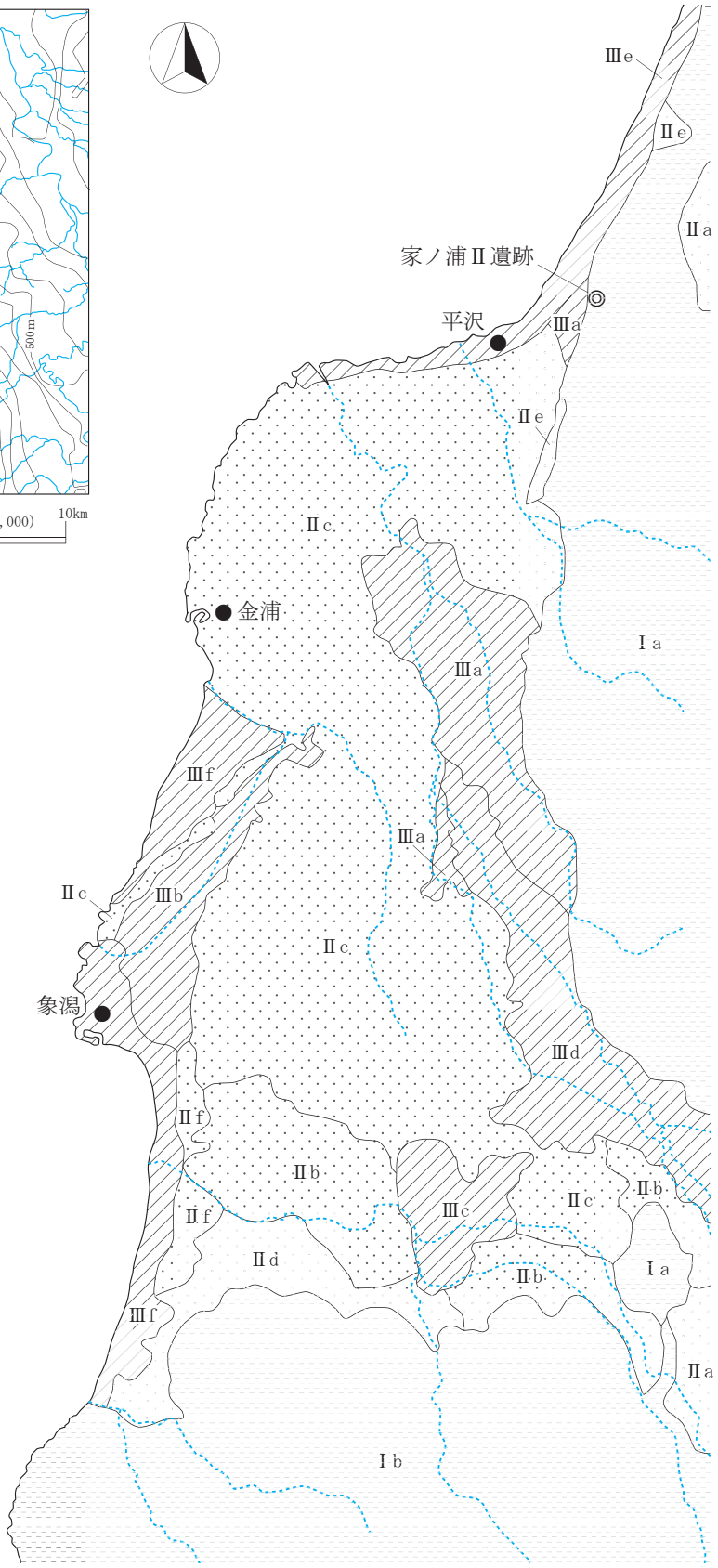
調査区中央部東側には平安時代以前に遡る地滑りの痕跡がある。平面観察では、地山に幅２ｍ前後の砂層が直線的に延びるものである。重機で断ち割ったところ斜めに砂が深く入り込んでおり、地滑りで生じた大きな地割れに砂が流れ込んだものと理解できる。この砂層を掘り込んで構築された平安時代の遺構があるため、この地滑りはそれ以前に起きたもので、平安時代においては既に安定した状態にあったと推定できる。

調査区南側斜面には、両前寺川による浸食痕が確認できたほか、平坦面の端に幅10㎝前後、長さ10ｍほどの両前寺川と平行に断続的な地割れの痕を確認した。川の方に向けて斜面が動いたことに起因するものと考えられる。遺構との新旧関係から、これらの痕跡は古代～中世の所産であることがわかった。調査区南側斜面下の平坦面には、洪水起源の堆積土が見られるため、両前寺川の氾濫原だったことがわかる。



※幅２km未満の谷を埋積して作成
※等高線間隔は 100m

鳥海山周辺地域の切峰面図



Ⅰ　山地・丘陵
　非火山性丘陵
　Ⅰa　仁賀保丘陵地
　火山性山地
　Ⅰb　鳥海火山地

Ⅱ　台地
　Ⅱa　鳥海火山噴出物台地
　Ⅱb　小滝泥流台地
　Ⅱc　象潟泥流台地
　Ⅱd　古期扇状地
　Ⅱe　仁賀保古期砂丘地
　Ⅱf　象潟古期砂丘地

Ⅲ　低地
　Ⅲa　仁賀保沖積低地
　Ⅲb　象潟沖積低地
　Ⅲc　本郷沖積低地
　Ⅲd　横岡新期扇状地
　Ⅲe　仁賀保新期砂丘地
　Ⅲf　象潟新期砂丘地

地形区分図

0　（S＝1／100,000）　4km

第２図　切峰面図と地形区分図（註５文献をもとに作成）

第３図　路線と発掘調査範囲

第２節　歴史的環境

家ノ浦Ⅱ遺跡のある両前寺字家ノ浦は、古くから仁賀保郷と呼ばれる仁賀保町・金浦町・象潟町の三町が平成17(2005)年に合併して誕生した、にかほ市の北端部にある。江戸時代に両前(善)寺村は最上領、本田正純領を経て、元和８(1622)年10月から本荘藩領になる。村は大西目田高の名主斎藤与助に属し、西目とは深いつながりがあったと考えられる。村名の初見は由利十二頭記に元和８(1622)年の村の年貢高25石５斗８升５合とある。明治維新後の明治21(1888)年市制、町村制の公布によって、翌年、当初属していた西目村(現由利本荘市)から平沢村(現にかほ市)に所属替えが行われた[註3]。第４図は、南北方向に伸びる仁賀保高原とその高原を源にして西流する白雪川、北流する西目川によって形成された、沖積低地の東西８㎞、南北11.75㎞の地域を示している。ここでは、第４図に記載された本遺跡を取り巻く106遺跡のうち、発掘調査が実施された遺跡や文献資料等がある遺跡を中心に、旧石器時代から中世までを概観する。なお、以下の番号は第１・２表に対応する。

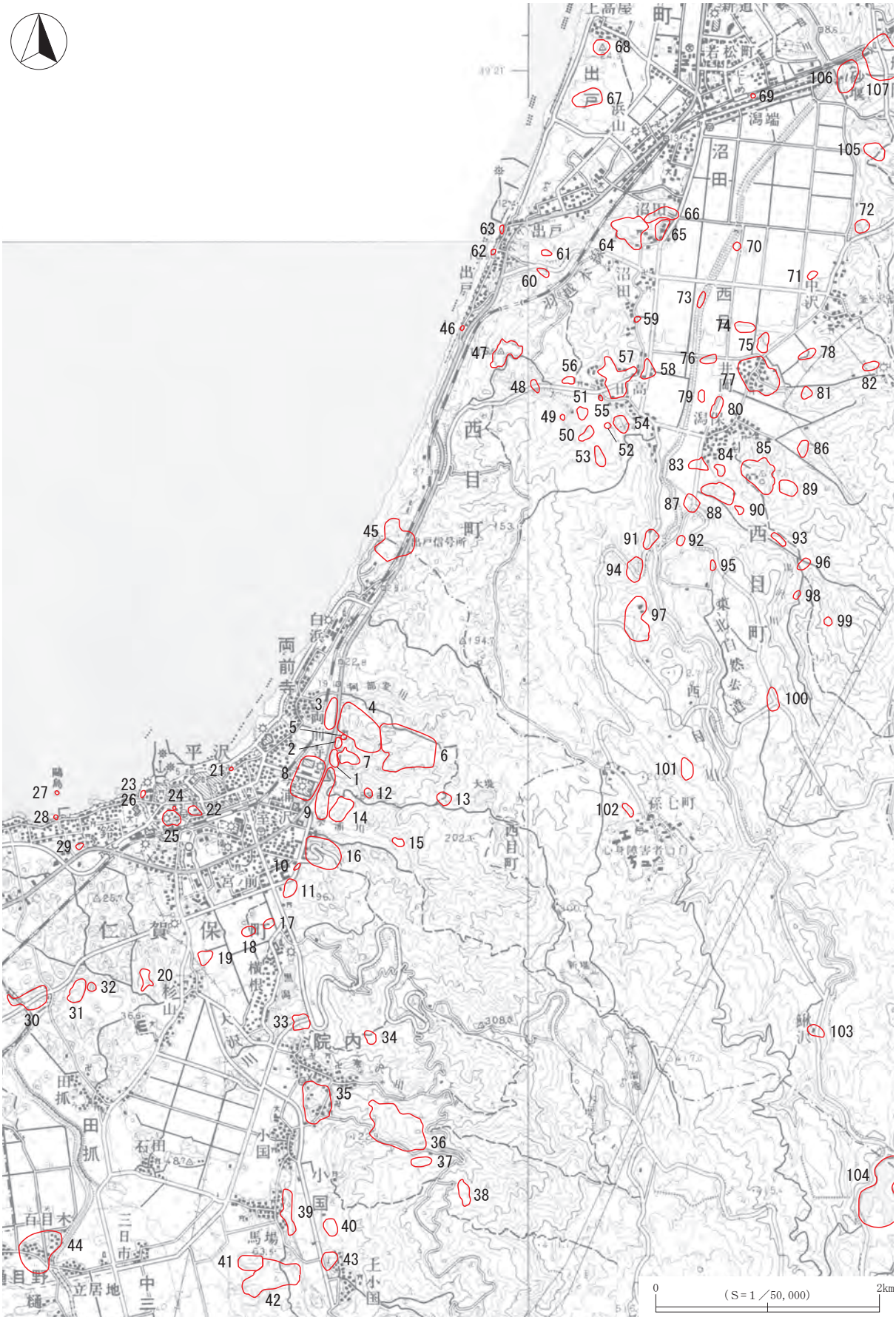
旧石器時代の遺跡は、２か所で確認されている。発掘調査はされていないが、新林遺跡(97)では石刃や剥片が、四角井戸遺跡(104)ではナイフ形石器や彫器、掻器などが採集されている。

縄文時代の遺跡は黒潟(33)、下岩ノ沢(42)、上小国(43)、猿田(45)、浜館(47)、西ノ沢(48)、内山(51)、寺ヶ沢Ⅲ(53)、大西目Ⅰ(56)、根子の沢(57)、エゾ館(64)、オシダテ(67)、土花(68)、中沢(71)、碁石(72)、川袋(74)、客殿森(75)、中ノ目Ⅰ(80)、堅田沢(82)、清水沢(84)、大森橋(87)、館ノ後(89)、内野(92)、角間台(94)、中ノ道(95)、中湯沢Ⅰ(96)、新林、北ノ股(99)、大森台(100)、二ツ森(101)、孫七山(102)、鰍沢(103)、船岡大沢(105)、四角井戸、船岡台(107)遺跡である。このうち、白雪川流域は黒潟、下岩ノ沢遺跡の２か所のみであり、鳥海山の大規模な山体崩落による岩屑なだれが、当地の縄文時代の遺跡を覆ってしまったと考えられている。縄文時代の遺跡を出土遺物で細分すると、早期は、寺ヶ沢Ⅲ遺跡、前期は寺ヶ沢Ⅲ、根子の沢、中ノ目Ⅰ、碁石、四角井戸、北の股、孫七山、鰍沢、船岡台遺跡、中期は下岩ノ沢、根子の沢、中ノ目Ⅰ、碁石、新林遺跡、後期は寺ヶ沢Ⅲ、根子の沢、堅田沢、西ノ沢、客殿森、内野、北ノ股、碁石、角間台、大森橋遺跡、晩期は西ノ沢、中湯沢Ⅰ、北ノ股、根子の沢、角間台遺跡となる。このうち発掘調査された遺跡は２か所である。下岩ノ沢遺跡では縄文時代の陥し穴１基を検出し、縄文中期の土器片が出土した。寺ヶ沢Ⅲ遺跡では早期・前期・後期の土器片が出土した。発掘調査はされていないが、根子の沢遺跡では前期から晩期までの多くの土器が採集され、中には火炎土器などの北陸系の土器が含まれる。中ノ目Ⅰ遺跡では前期～中期までの土器が、船岡台遺跡では縄文中期の円筒上層ｂ式土器、大木７ｂ式土器及び北陸系土器が採集されている。

弥生時代の遺跡には、本遺跡のほかに、家ノ浦遺跡(２)、清水尻Ⅱ遺跡(11)、猿田遺跡、宮崎遺跡(66)などがある。いずれの遺跡も少量の土器が採集されているだけである。

古墳時代の遺跡には宮崎遺跡がある。宮崎遺跡は昭和62年に旧西目町教育委員会によって発掘調査され、古墳時代中期頃と推定される竪穴建物跡１棟、土坑１基のほか、北海道の続縄文文化の終末期に属する北大式土器が検出されている。このほか、井岡遺跡(77)からは古墳時代中期の祭祀遺物と考えられている日本海沿岸では最北の子持勾玉が発見されている。

本遺跡周辺には古代(奈良・平安時代)の遺跡は40か所余りある。このうち発掘調査された遺跡は前



第４図　家ノ浦Ⅱ遺跡と周辺遺跡位置図

第１表　家ノ浦Ⅱ遺跡周辺の遺跡一覧（１）

番号	遺跡地図番号	遺跡名	時　期	種別	文　献
1	214-35-65	家ノ浦Ⅱ	縄文・弥生・古代・中世・近世	集落跡	本書・１
2	214-35-61	家ノ浦	弥生・古代・中世	集落跡	１・２
3	214-35-57	前田表Ⅱ	古代・中世・近世	集落跡	３・４
4	214-35-36	前田表	古代	集落跡	１・５・６・７
5	214-35-15	阿部堂	中世	遺物包含地	５・８・９・10
6	214-35-30	安倍館	中世	館跡	５・８・９・11
7	214-35-68	阿部舘	古代・中世	集落跡	１・11・12
8	214-35-34	立沢	古代	集落跡	５・13
9	214-35-62	横枕	古代・中世	集落跡	１・14・15
10	214-35-66	清水尻Ⅰ	古代	畑耕作地	11・37
11	214-35-67	清水尻Ⅱ	弥生・古代・中世・近世	墓地	11・37
12	214-35-16	旧熊野神社	古代？	寺院跡	５・８
13	214-35-49	須郷谷地	古代？	遺物包含地	5
14	214-35-48	出ヶ沢	古代	遺物包含地	5
15	214-35-17	旧雄野寺	？	寺院跡	5
16	214-35-39	鴻ノ巣館	中世	館跡	５・９
17	214-35-59	上谷地Ⅰ	古代	散布地	14
18	214-35-60	上谷地Ⅱ	古代	集落跡	14・16
19	214-35-58	新脇田	古代	散布地	14
20	214-35-63	深堰	中世・近世	石垣	１・14
21	214-35-14	平沢・琴浦境の立石	？	境界石	5
22	214-35-13	仁賀保家陣屋	近世？	陣屋跡	５・10
23	214-35-11	建武碑Ⅰ	中世	板碑	５・10
24	214-35-12	建武碑Ⅱ	中世	板碑	５・10
25	214-35-53	平沢館	中世	館跡	５・９
26	214-35-10	丁刃森方角石	？	方角石	５・10
27	214-35- 6	吉兵井戸	？	井戸跡	5
28	214-35- 5	淀切不動	近世	磨崖仏	５・10
29	214-35- 7	千石家陣屋	近世	陣屋跡	5
30	214-35-64	六日市	古代・中世	集落跡	１・11・17
31	214-35- 8	法界寺	古代	寺院跡	５・10
32	214-35- 9	高寺	古代・中世・近世	遺物包含地	５・10
33	214-35-47	黒潟	縄文・古代	遺物包含地	5
34	214-35-18	七高神社	？	寺院跡	５・８・10
35	214-35-50	南野	古代・中世	遺物包含地	5
36	214-35-②	山根館	中世	館跡	５・８・９・10・18・19
37	214-35-40	研石	古代？	遺物包含地	5
38	214-35-41	十文字	古代？	遺物包含地	5
39	214-35-33	細久保	古代？	遺物包含地	５・10
40	214-35-19	八森屋敷	古代？	遺物包含地	5
41	214-35-38	丸山館	中世	館跡	５・８・９・10
42	214-35-35	下岩ノ沢	縄文・古代	集落跡	５・10・20
43	214-35-51	上小国	縄文	遺物包含地	5
44	214-35-32	待居館	中世	館跡	５・８・９・10
45	210-41- 6 214-35-55	猿田	縄文・弥生・古代	遺物包含地	５・21・22
46	210-41-29	浜田	近世	一里塚	５・23
47	210-41- 5	浜館	縄文・中世	館跡	５・９・22・23・24
48	210-41-39	西ノ沢	縄文	遺物包含地	５・22
49	210-41-25	大平	？	寺院跡	５・23
50	210-41-59	寺ヶ沢Ⅱ	古代	遺物包含地	5
51	210-41-41	内山	縄文・古代	遺物包含地	5
52	210-41-23	寺ヶ沢Ⅰ	？	寺院跡	５・23
53	210-41-62	寺ヶ沢Ⅲ	縄文・古代・中世	散布地	25・26
54	210-41-19	田高館	中世	館跡	５・９・22
55	210-41-42	大西目Ⅱ	古代・中世	遺物包含地	5
56	210-41-40	大西目Ⅰ	縄文	遺物包含地	5

第２表　家ノ浦Ⅱ遺跡周辺の遺跡一覧（２）

番号	遺跡地図番号	遺跡名	時　期	種別	文　献
57	210-41-10	根子の沢	縄文	遺物包含地	5・22・23・27
58	210-41-52	小深田	古代	遺物包含地	5
59	210-41-33	沼田	古代	遺物包含地	5・22
60	210-41-24	大股	？	寺院跡	5・23
61	210-41-61	下山	近世	番所跡	5
62	210-41-30	里道	近世	砲台跡	5・23
63	210-41-60	里道Ⅱ	近世	番屋跡	5・23
64	210-41- 4	エゾ館	縄文・中世	館跡	5・22・23
65	210-41-28	汭下	縄文	遺物包含地	5
66	210-41- 3	宮崎	弥生・古墳・古代	遺物包含地	5・22・28・29・30
67	210-41- 2	オシダテ	縄文	遺物包含地	5
68	210-41- 1	土花	縄文	貝塚	5・23・30・31
69	210-41-31	弁天前	近世	番屋跡	5
70	210-41-35	向谷地	古代	遺物包含地	5
71	210-41-37	中沢	縄文	遺物包含地	5
72	210-41-34 210- 5-81	碁石	縄文	遺物包含地	5
73	210-41-36	新堰	古代	遺物包含地	5
74	210-41-38	川袋	縄文・古代	遺物包含地	5
75	210-41- 7	客殿森	縄文・古代	遺物包含地	5
76	210-41- 9	鷹橋	古代	遺物包含地	5
77	210-41- 8	井岡	古墳・古代	遺物包含地	5・22・27・28・32・33・34
78	210-41-43	堅田	古代	遺物包含地	5
79	210-41-56	中ノ目Ⅱ	古代	遺物包含地	5
80	210-41-21	中ノ目Ⅰ	縄文	遺物包含地	5・22
81	210-41-17	豊後館	中世	館跡	5・9・22
82	210-41-45	堅田沢	縄文	遺物包含地	5
83	210-41-46	大森	古代	遺物包含地	5
84	210-41-63	清水沢	縄文	散布地	25
85	210-41-11	潟保館	中世	館跡	5・9
86	210-41-58	前ヶ沢	古代	遺物包含地	5
87	210-41-47	大森橋	縄文・古代	遺物包含地	5
88	210-41-18	大学館	中世	館跡	5・9・22
89	210-41-57	館ノ後	縄文	遺物包含地	5
90	210-41-55	湯ノ沢	古代	遺物包含地	5
91	210-41-51	松ノ木	古代	遺物包含地	5
92	210-41-50	内野	縄文	遺物包含地	5
93	210-41-48	中湯沢Ⅱ	古代	遺物包含地	5
94	210-41-13	角間台	縄文	遺物包含地	5・22
95	210-41-14	中ノ道	縄文	遺物包含地	5
96	210-41-20	中湯沢Ⅰ	縄文	遺物包含地	5
97	210-41-12	新林	旧石器・縄文・古代？	遺物包含地	5・22・27
98	210-41-53	大湯沢	古代？	遺物包含地	5
99	210-41-49	北ノ股	縄文	遺物包含地	5・22
100	210-41-54	大森台	縄文・古代？	遺物包含地	5
101	210-41-44	二ツ森	縄文	遺物包含地	5
102	210-41-27	孫七山	縄文	遺物包含地	5
103	210-41-15	鰍沢	縄文	遺物包含地	5
104	210-41-16 214-35-56	四角井戸	旧石器・縄文	遺物包含地	5・22・27
105	210- 5-96	船岡大沢	縄文・古代・近世	散布地	5
106	210- 5-28	花館	中世	館跡	5
107	210- 5-27	船岡台	縄文	遺物包含地	5・18・35・36

田表Ⅱ（３）、前田表（４）、阿部舘（７）、家ノ浦、立沢（８）、横枕（９）、清水尻Ⅰ(10)、清水尻Ⅱ(11)、上谷地Ⅱ(18)、六日市(30)、下岩ノ沢(42)、猿田、寺ヶ沢Ⅲ、宮崎遺跡である。前田表Ⅱ遺跡は本遺跡の北西約100mの低地にある。居住施設はないが、平安時代の遺物が多く出土し、集落の一部であることが判明した。出土した須恵器甕破片には、意図的に破砕して内面に墨を塗布し、広域に散布したと考えられる例がある。(註４) 前田表遺跡では竪穴建物跡内などから平安時代の遺物が出土し、丘陵端の経塚から12世紀頃の須恵器系陶器の四耳壺が出土した。阿部舘遺跡では、９世紀半ば前後に埋没したと推定される最大幅５m以上、深さ1.6m以上の大規模な弧状の溝跡が検出された。家ノ浦遺跡では、古代の竪穴建物跡２棟、掘立柱建物跡５棟などの遺構が検出され、題箋軸木簡、風字硯、石帯などの重要な遺物も出土した。本遺跡の南西約30mにある立沢遺跡では、平安時代の掘立柱建物跡５棟のほか、溝跡、柱穴様ピット、土坑、焼土遺構などが検出され、製塩土器や円面硯、墨書土器、輸入陶磁器等が出土した。横枕遺跡からは、鍛冶工房跡を含む10棟の竪穴建物跡が検出された。本遺跡に近接する前田表Ⅱ、前田表、阿部舘、家ノ浦、横枕、立沢遺跡は同一丘陵の裾部に立地し、密接な関係が想定される。沖積地にある上谷地Ⅱ遺跡では、掘立柱建物跡１棟、溝跡、土坑等が検出され、祭祀場であることが判明した。下岩ノ沢遺跡では、竪穴建物跡３棟、溝跡、土坑等が検出された。猿田遺跡では、土師器や須恵器を伴う溝跡１条と土坑群が、寺ヶ沢Ⅲ遺跡では土師器や須恵器片が出土した。宮崎遺跡では、竪穴建物跡３棟と土師器や須恵器が検出された。沼田遺跡からは８世紀中頃の土師器高坏・長胴甕等が、井岡遺跡からは76点の墨書土器、須恵器が採取されている。

中世の由利地方は由利氏、大弐局、仁賀保氏を始めとする所謂由利十二頭など、小領主の支配が変遷し、これらと関係が考えられる城館遺跡が多くある。本遺跡周辺には安倍館（６）、鴻ノ巣館(16)、平沢館(25)、山根館(36)、丸山館(41)、待居館(44)、浜館、田高館(54)、エゾ館、豊後館(81)、潟保館(85)、大学館(88)、花館(106)などの中世城館がある。本遺跡の北東約500mの丘陵地には、安倍館跡がある。築城者と年代は不明であるが、三つの郭からなる。第一郭（小館）は標高115mにあり、約300㎡の帯郭を有する。第二郭は方形で520㎡を有し、二段の帯郭が北に40mほど伸びて小館との関連を持つ。底箱堀の空堀が南から北に延び、郭と平行に二筋の土塁が現存する。第三郭は標高137mにあり、四段の腰郭のほか、第一・二郭との通路を思わせる土塁の痕跡がある。館全体の南西側は急斜面で、東側は山地を背負い、複雑な地形である。安倍館跡の西側、本遺跡の北東側に阿部堂遺跡（５）があり、中国（唐・宋）の古銭が約360枚出土した。阿部堂遺跡から90mほど離れた家ノ浦遺跡では、同種の銭貨が緡になって1,201枚出土している。香取神社を経由して丘陵へ続く道は明治時代の字切図には現在地とほぼ同じ位置に記載されているが、家ノ浦遺跡の発掘調査で平安時代から中世まで利用された東西方向の道路側溝が検出されたことにより、現在は急斜面にある道が、当時は南側の緩斜面にあったと推測できる。この道は西側に広がる日本海と丘陵上に展開した施設とを結んでいたものとみられ、古代の大溝が確認された阿部舘遺跡や安倍館跡との関連性が考えられる。

註１　本節で言及する遺跡の詳細については、次節を参照されたい。
註２　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第456集　2010（平成22）年
註３　西目町史編集委員会　『西目町史　通史編』　2001（平成13）年
註４　五十嵐一治　「払田柵における律令祭祀の様相と変容－形代としての土器－」『千葉大学文学部考古学研究室30周年記念考古学論攷Ⅰ』　2012（平成24）年
註５　秋田県　『土地分類基本調査　象潟・吹浦』　2003（平成16）年

第１・２表　文献（表中の番号は文献番号に対応する。）

1　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第456集　2010（平成22）年
2　秋田県教育委員会　『家ノ浦遺跡－一般国道７号仁賀保本荘道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ－』　秋田県文化財調査報告書第473集　2012（平成24）年
3　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第439集　2008（平成20）年
4　秋田県教育委員会　『前田表Ⅱ遺跡－一般国道７号仁賀保本荘道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』　秋田県文化財調査報告書第451集　2010（平成22）年
5　秋田県教育委員会　『秋田県遺跡地図（由利地区版）』　2001（平成13）年
6　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第420集　2007（平成19）年
7　秋田県教育委員会　『前田表遺跡－一般国道７号仁賀保本荘道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ－』　秋田県文化財調査報告書第469集　2011（平成23）年
8　仁賀保町史編纂委員会　『仁賀保町史』　1972（昭和47）年
9　秋田県教育委員会　『秋田県の中世城館』　秋田県文化財調査報告書第86集　1981（昭和56）年
10　仁賀保町教育委員会　『仁賀保町史　普及版』　2005（平成17）年
11　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第465集　2011（平成23）年
12　秋田県教育委員会　『阿部舘遺跡－一般国道７号仁賀保本荘道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ－』　秋田県文化財調査報告書第481集　2012（平成24）年
13　仁賀保町教育委員会　『立沢遺跡発掘調査報告』　1987（昭和62）年
14　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第446集　2009（平成21）年
15　秋田県教育委員会　『横枕遺跡－一般国道７号象潟仁賀保道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』　秋田県文化財調査報告書第480集　2012（平成24）年
16　秋田県教育委員会　『上谷地Ⅱ遺跡－一般国道７号象潟仁賀保道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ－』　秋田県文化財調査報告書第461集　2010（平成22）年
17　秋田県教育委員会　『六日市遺跡－一般国道７号象潟仁賀保道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－』　秋田県文化財調査報告書第479集　2012（平成24）年
18　本荘市　『本荘市史　史料編Ⅰ上』　1984（昭和59）年
19　伊藤清郎・山口博之編　『中世出羽の領主と城館　奥羽史研究叢書２』　2002（平成14）年　高志書院
20　仁賀保町教育委員会　『下岩ノ沢遺跡発掘調査報告書』　1986（昭和61）年
21　西目町教育委員会　『猿田遺跡－遺構確認調査報告書－』　1994（平成６）年
22　西目町史編集委員会　『西目町史　資料編』　1998（平成10）年
23　佐々木孝一郎　『西目村の話』　1970（昭和45）年
24　西目町教育委員会　『浜館遺跡調査報告書』　1976（昭和51）年
25　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第401集　2005（平成17）年
26　秋田県教育委員会　『寺ヶ沢Ⅲ遺跡－一般国道７号仁賀保本荘道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ－』　秋田県文化財調査報告書第419集　2007（平成19）年
27　西目町史編集委員会　『西目町史　通史編』　2001（平成13）年
28　冨樫泰時　『日本の古代遺跡　秋田県』　1985（昭和60）年
29　西目町教育委員会　『宮崎遺跡発掘調査報告書』　1987（昭和62）年
30　奈良修介・豊島昴　『秋田県の考古学』　1967（昭和42）年　吉川弘文館
31　秋田県教育委員会　『八郎潟の研究』　1965（昭和40）年
32　高橋学　「秋田県内出土の墨書土器集成」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第１号　1986（昭和61）年
33　池田正治・高橋学　「由利郡西目町で採集された墨書土器－土の下の歴史を索めて－」『秋田考古学』第39号　1987（昭和62）年
34　高橋学　「西目町井岡遺跡で採集された遺物について」『秋田考古学』第40号　1990（平成２）年
35　本荘市教育委員会　『遺跡発掘調査報告書』　1971（昭和46）年
36　本荘市　『本荘市史　通史編』　1986（昭和61）年
37　秋田県埋蔵文化財センター　『秋田県埋蔵文化財センター年報』30 平成23年度　2012（平成24）年

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

１　発掘調査

表土除去作業は、埋蔵文化財センター職員立ち会いのもと重機で行った。その後の仮設施設の設営、発掘作業員による掘削業務の管理等については、「掘削作業管理業務」として一括して外部委託し、受託者の現場代理人がこれを管理・監督した。

調査区内の掘り下げは、盛土から旧耕作土（Ⅰ層）までを重機で行い、中世の遺物包含層（Ⅱ層）から古代の遺物包含層（Ⅳｂ層）までは、人力で行った。基盤層（Ⅴ層）上面で遺構確認を行い、検出した遺構について精査を行った。

調査は、グリッド法で行った。調査対象範囲のほぼ全域に方眼杭を打設するため、範囲内の道路センター杭（№37）をグリッドの原点ＭＡ50（世界測地系平面直角座標第Ｘ系Ｘ＝－77989.351、Ｙ＝－73929.425）とした。これを基準に座標北－南方向を南北の基線とし、これに直交するラインを東西の基線とした。これをもとに４ｍ×４ｍのメッシュを組み、その交点に方眼杭を打設した。方眼の原点を通る南北線をＭＡ、同じく東西線を50とし、南北線はアルファベットの符号を西に向かって昇順となるよう、東西線は数字の符号を北に向かって昇順となるよう付した。この方眼による４ｍ四方の区画は、南東隅にあたる杭の南北と東西の符号を組み合わせ、ＭＡ50のように呼ぶことにした。

遺構は、検出順に01番からの通し番号を付し、遺構の略記号と組み合わせて呼称した。中には、精査の結果により欠番としたものもある。実測図は原則として１/20の縮尺で作図したが、必要に応じて１/10での作図も行った。

遺物は、出土区もしくは出土遺構、出土層位、出土年月日を記録して取り上げを行った。遺物の取り上げ等に用いる測量機器の設置は、調査区内の方眼杭８か所に設定した水準杭をもとに行った。

遺物の収納・取り扱いについては、土器、石器等はチャック付ポリ袋に入れ、コンテナに収納した。木製の遺物については、仮洗いで汚れを落とした後、調査区隣接地に設けた遺物保管用仮設プールで一時的に水浸させ、最終的に埋蔵文化財センター中央調査班で水洗いを行った。

写真撮影は、遺構精査の過程における随所で行ったほか、必要に応じて遺物の出土状況などを記録した。撮影は、35㎜アナログカメラ、デジタルカメラで行い、アナログについてはリバーサルフイルム、モノクロフィルムを使用した。遺跡上空からの写真については、カメラを搭載したラジコンヘリコプターを使用し、アナログ、デジタル両方で撮影を行った。

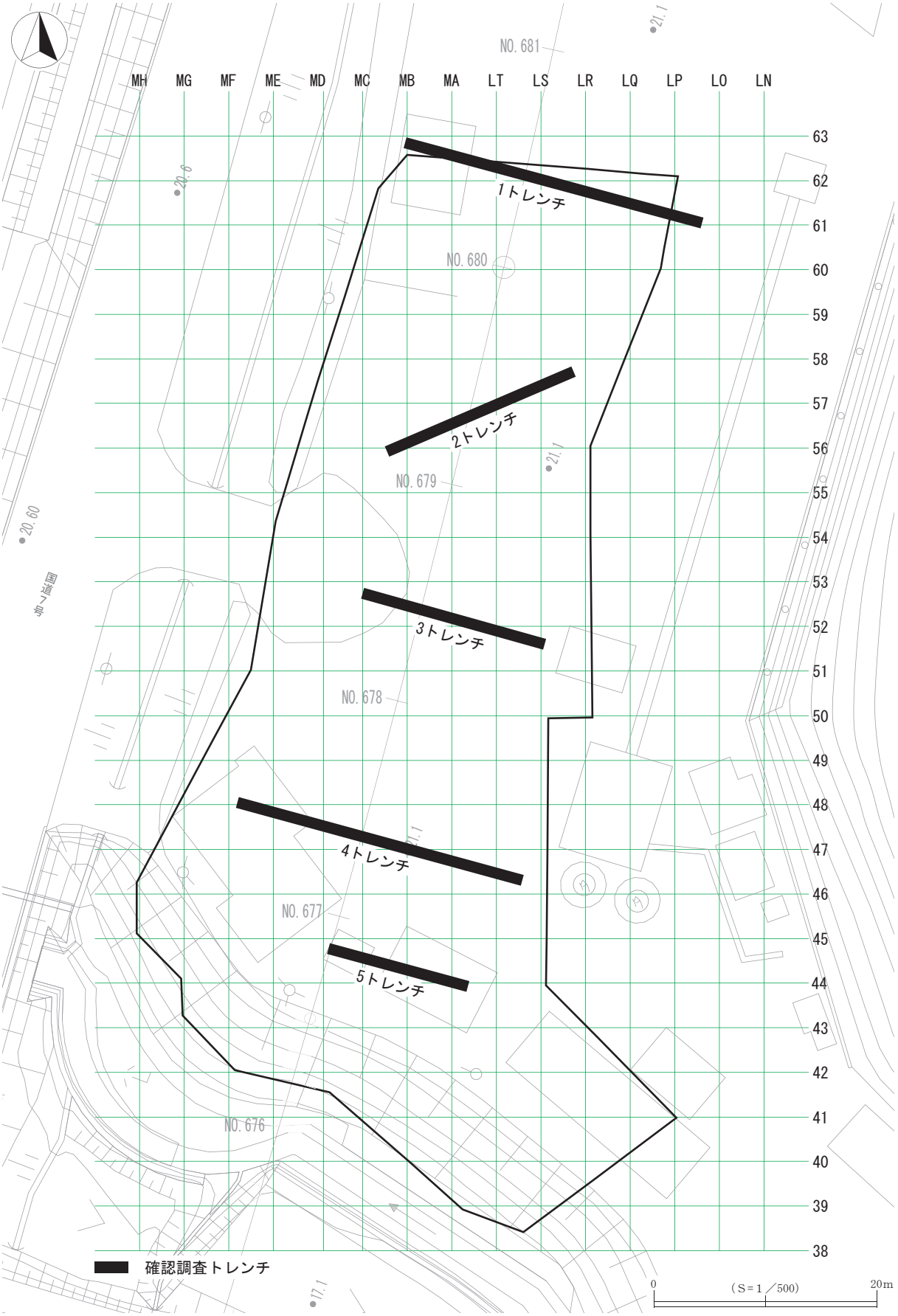
２　整理作業

金属製品以外のほとんどの遺物は、水洗いの後、注記を行った。

土器については、必要に応じて接着剤による接合・エポキシ樹脂充填による復元の後、実測や採拓を行った。

木製遺物については、水洗いの後に必要に応じて外部委託による保存処理等の処置を行い、実測を行った。脆弱な金属製品については外部委託による保存処理後、実測を行った。

土製品、石器等については、必要に応じて実測を行った。なお、報告書掲載遺物に関しては、実測



第５図　グリッド配置と確認調査トレンチ位置

図をデジタルトレースし、遺構等の図面に関しては、現場で作成した図から第２原図を作成し、それをデジタルトレースした。そして、これらのトレース図を編集したものを挿図原稿とした。

第２節　基本層序

仁賀保丘陵の西側末端部に位置する本遺跡の調査前の状況は工場用地跡であった。事前の試掘や確認調査により、それ以前は水田であり、旧水田面から約３ｍの盛土を行い工場用地化されたことが明らかとなっている。水田耕作時には既に削平が行われており、本来の地形は復元が困難な状況にあるが、丘陵西端の斜面中に西に下る狭い緩斜面が南北に広がっていたと考えられ、この緩斜面を中心に主に古代の人々の生活の痕跡が残されている。

調査区中央部は、極めて緩やかな角度で西に下る斜面であり、一つの平坦面と捉えても支障はない。工場用地造成土の下は、灰黄褐色の旧耕作土となり、その下には礫を含む灰黄色～褐灰色土が堆積している。礫の混入量は、下層の方が明らかに多い。礫の供給源は遺跡東側の急斜面付近の基盤層に含まれると想定する礫層と考えられ、その礫を含む表層土が本遺跡内に流れ込み、灰黄色～褐灰色土層を形成したと考えられる。この層からは土師器のほかに白磁の破片（第72図22）が出土しているため、古代末から中世にかけての遺物包含層と考えられるが、中に含まれる遺物に摩耗が顕著であることから整地地業の影響も加わっていると考えられる。なお、耕作の影響は、一部でこの層にも及んでいる（第７図）。古代末から中世の遺物包含層の下には、黄褐色土層（Ⅲａ層）、黄褐色土・炭化物を含む黒褐色土層（Ⅲｃ層）が堆積している。この黒褐色土層には、９世後葉から10世紀前葉にかけての土器が含まれる。この層の下は黄褐色土の地山（Ⅴ層）であり、その境界は直線的であることから、黒褐色土層は古代旧地表面の地均しに伴う盛土層、また、直上に堆積する黄褐色土層は、地山土を由来とする盛土層と考えられ、平安時代に２度にわたって整地地業が行われたことを示している。これらの整地地業層下の堆積層は、黒褐色土（Ⅳｂ層）、黄褐色土（Ⅴ層）と続く。黒褐色土には、地山の混入はほとんどみられず、炭化物の混入量も整地地業層に比べ少なく、古代旧地表面と考えられるが、後の整地地業による撹乱のため、西側と一部を除きほとんどが消失した状態にある。この層の下に堆積する地山黄褐色土層は、遺構底面付近など深い位置においては還元色となる部分がある。なお、西側に残る古代旧地表面上には先述した盛土とは別の盛土層（Ⅲｄ層）が堆積している。この盛土の上に、先述した地均しに伴う下位盛土層（Ⅲｃ層）が堆積しているため、より古い整地地業を示すと考えられる。

北側の沢地は、沢頭の北東方向から南西方向へと下る。沢地内の堆積土の供給源は、主に沢地の上流部調査区外に求められるため、本遺跡の中では限定された特殊な層序となる（第８図）。北側沢地の特長は、十和田ａ火山灰とみられる火山灰をブロック状に含む層（第８図２・３・５層）の堆積と粗砂を伴うラミナ状水成堆積（第８図６～13層）で、他の調査区にはみられない層である。また、整地地業を示す層も認められない。旧耕作土の下には、先の火山灰とみられる小塊を含む層が３層あるが、土器や木製品を中心とする遺物は、主にこれらの下の砂質シルトもしくは粗砂と古代の沢の底面と考えられる泥炭層直上から出土する。土器は中央部緩斜面や南側斜面に比べ須恵器が優勢で、本遺跡内では古手の遺物（９世紀前葉から後葉）が出土する。南側斜面のような10世紀後葉以降の遺物は見当たらない。なお、泥炭層下には、再び植物遺体・砂・粘土などで構成されるラミナ状の水成堆積が続くが、

泥炭層以下を重機で１.5mほど掘削したが遺物を確認することはできなかった。沢地内では古代における新旧２つの沢底（流路状）を確認したが（第８図太線部分）、新しい沢底のラインは土層観察用の畦部分のみの確認に留まった。旧い沢底は、調査区北側境界部分では、平らに近い底面をもつが、下流側では深く浸食され溝状となる。北側の沢地では、９世紀前葉から10世紀前葉の遺物が出土するが、中心となる時期は９世紀後葉頃と推測される。

南側斜面は両前寺川によって開析された部分であるが、川に沿って細長く平坦な氾濫原が広がっている。この斜面末端部から氾濫原にかけて、白色を帯びたシルト質の氾濫性堆積土（第10図１層）が50㎝前後堆積している。本来はもう少し厚い堆積だったと考えられるが、その後の氾濫や水田耕作によって削平されたとみられる。氾濫原から上の斜面には、複数回にわたる河川による浸食痕が確認でき、護岸地業とみられる盛土層にも浸食痕が残されている。これとは別に、斜面には、黒褐色土や黄褐色土の互層による複雑な堆積層が確認できる（第10図47～100層）。上位の黒色土（Ⅲｂ層）は、上位斜面からの流れ込みによる堆積土、上位の黄褐色土（Ⅲａ層）は、斜面上方の緩斜面で行われた整地地業に由来する層と考えられるが、下位の黒色土（Ⅳａ層）に筋状に含まれる灰黄褐色粉状粒子の由来については、分析の結果、少なくとも歴史時代における降下火山灰ではなく、本遺跡より上位にある斜面等に存在した基盤層の露頭から、風化した火山灰等の凝固物が斜面下に流出した可能性が示されている（第４章第１節３）。下位黒色土層の由来については斜面上位古代旧地表面と考えられる。上位黒色土と似て、きめ細かい粒子で構成されている。南側斜面からは、土師器の坏を中心とする多量の土器が出土している。最も旧い浸食底面や下位黒色土層から出土する土器は10世紀初頭前後のものが主体であるが、上位黒色土層から出土した土器の中には11世紀に近いものが含まれていることから、100年ほどの間に斜面の浸食と堆積が繰り返されたことがわかる。

以上、調査区内堆積土の特徴による堆積時期と成因の考察をふまえ、層序をⅠ～Ⅴ層にまとめる。

Ⅰ層：表土

客土と直下の旧耕作土をⅠａ、ｂに細分した。

Ⅰａ：にぶい黄褐色（10YR5/4）砂＋緑灰（10G5/1）粘土　円礫微量含む　工場用地造成に伴う盛土層（客土）

Ⅰｂ：灰黄褐色（10YR4/2）シルト　小礫を少量含む　Ⅱ層由来の旧耕作土

Ⅱ層：中世・近世の遺物包含層

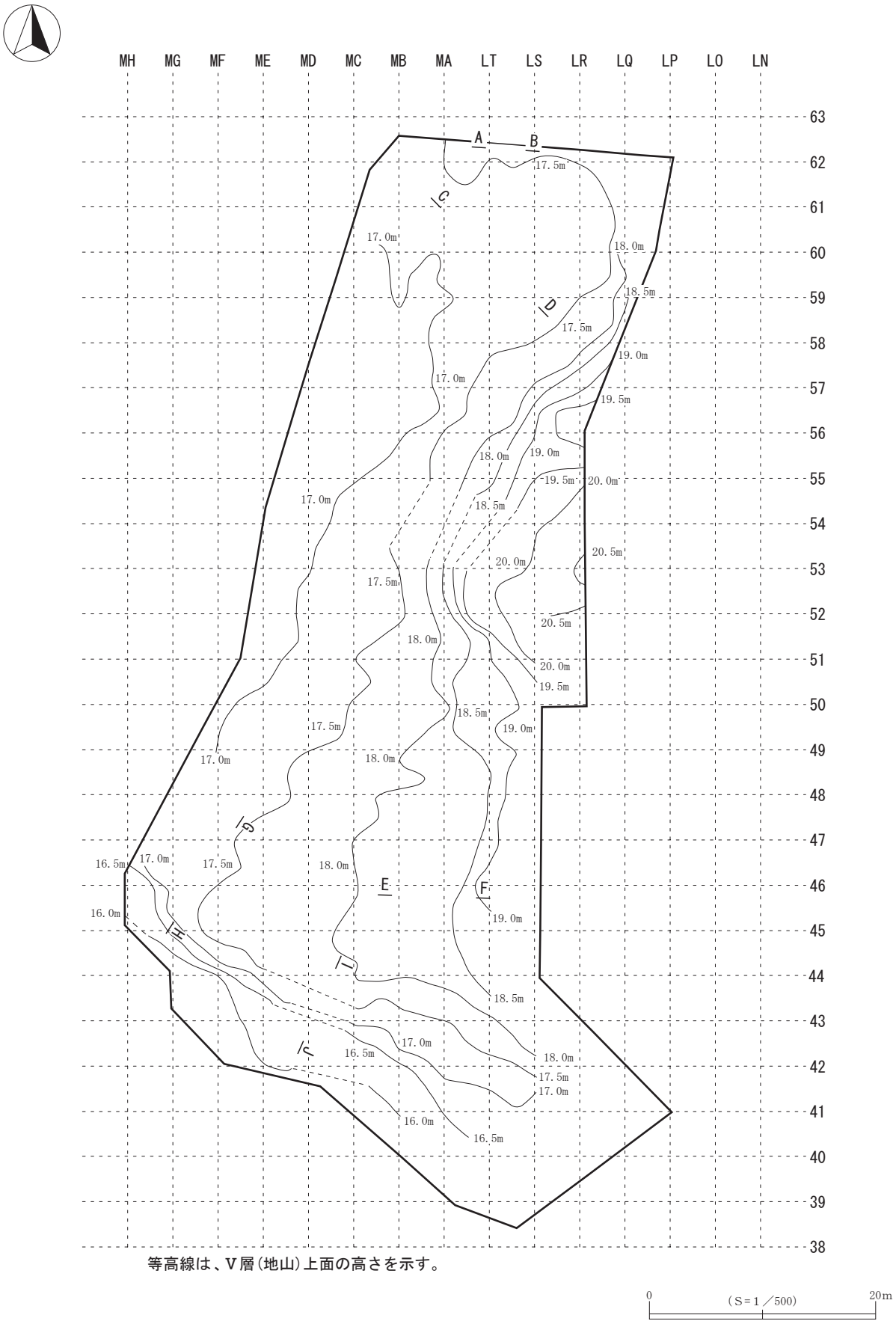
砂礫を含む層で斜面上方（東方）からの流入土を主体とする層である。主に礫の混入量の違いにより、上位のⅡａ層、下位のⅡｂ層に細分した。水田耕作土化された部分もあり、酸化鉄や酸化マンガンの集積層が一部みられる。調査区東側境界付近や、ＳＤ60溝跡東側の斜面付近に厚く堆積する。礫の含有量が多いⅡｂ層は調査区東側に限定される。

Ⅱａ：灰黄褐色（10YR4/2）シルト　小礫（φ５㎜前後）１％未満含む　粘性中　しまり強

Ⅱｂ：褐灰色（10YR4/1）シルト　円～亜角礫10％含む　粘性中　しまり強

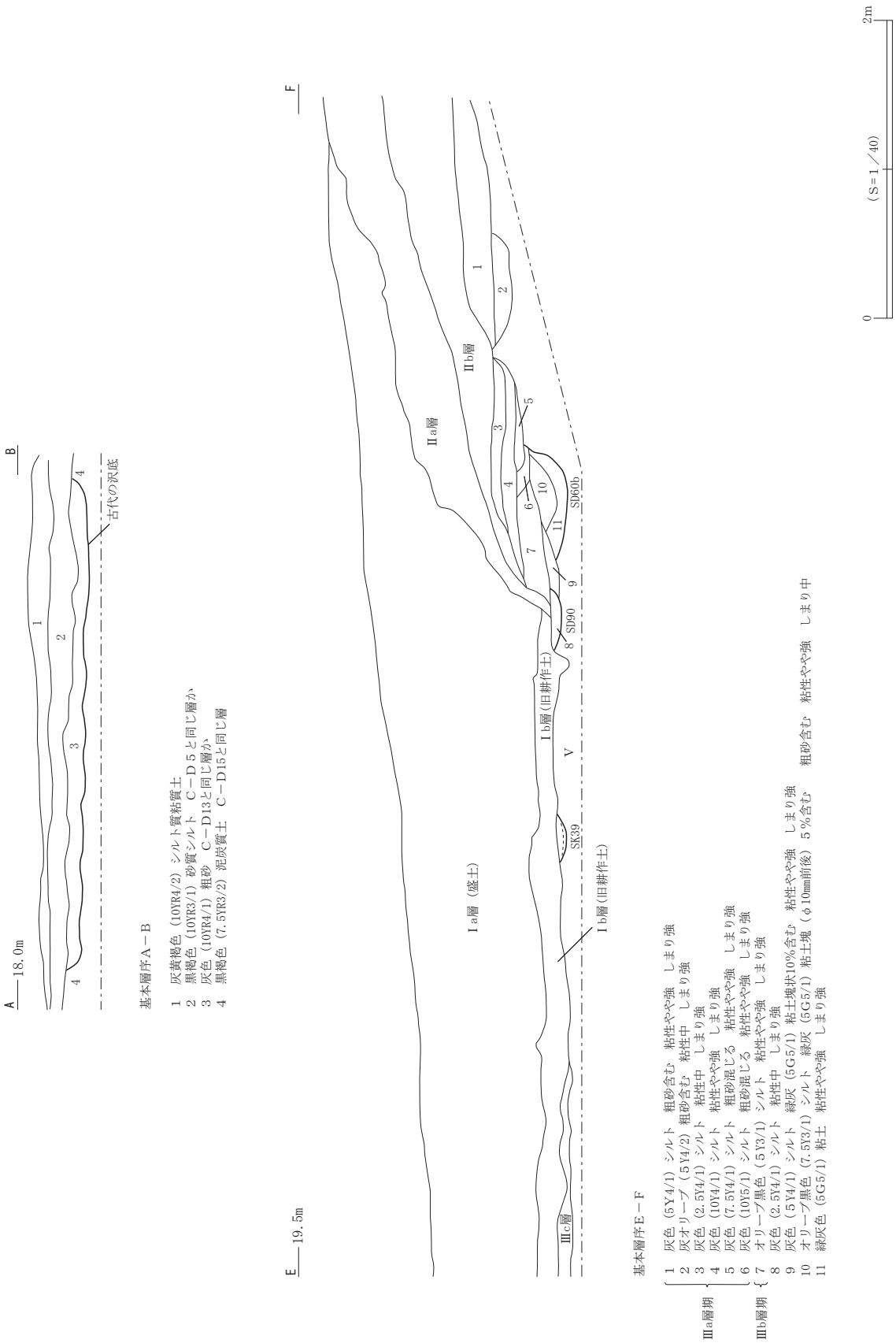
Ⅲ層：古代の整地地業関連層

古代の整地地業に伴う層である。土質・混入物をもとにⅢａ～ｄの４つに細分した。Ⅲａ層は、黄褐色の盛土層で、調査区中央より南側に広がる。ＳＫ08土坑堆積土の状態からⅢａ層形成後に黒色土が形成された可能性が想定できるが、Ⅱｂ層の整地による影響のためか黒色土層を確認することはで

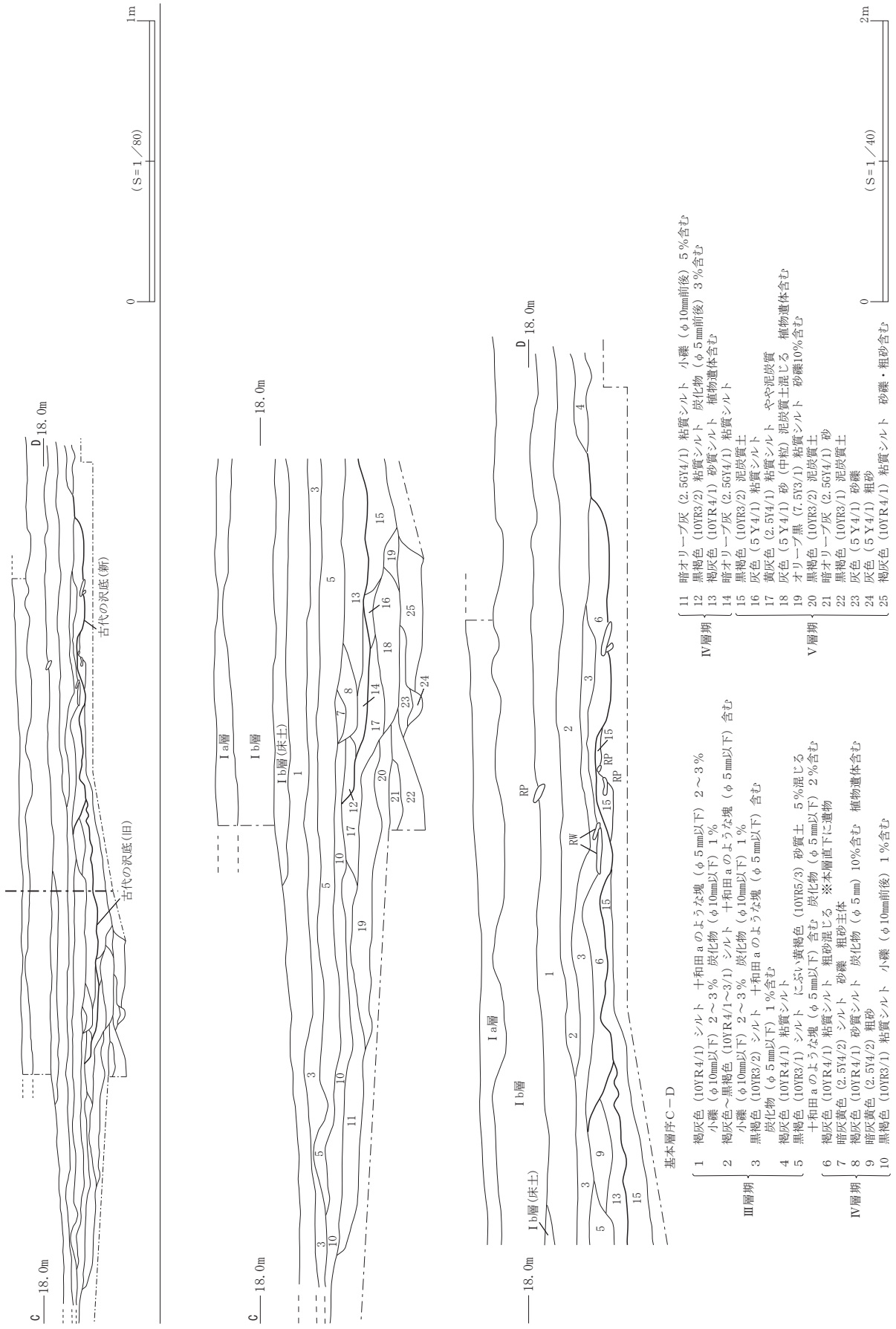


等高線は、Ｖ層（地山）上面の高さを示す。

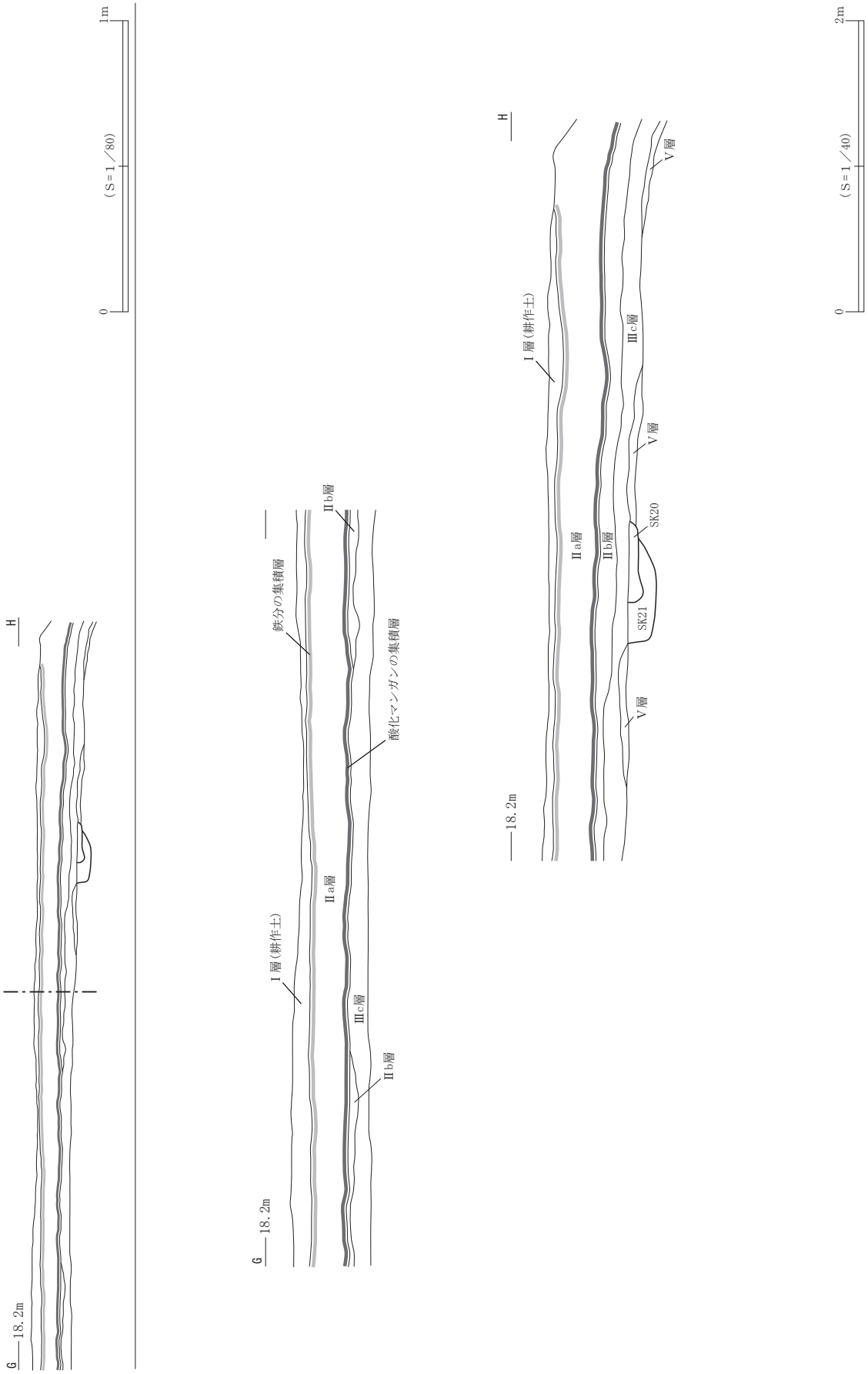
第６図　基本層序位置図


A
B
18.0m
古代の沢底
基本層序Ａ－Ｂ
1　灰黄褐色（10YR4/2）シルト質粘質土
2　黒褐色（10YR3/1）砂質シルト　Ｃ－Ｄ５と同じ層か
3　灰色（10YR4/1）粗砂　Ｃ－Ｄ13と同じ層か
4　黒褐色（7.5YR3/2）泥炭質土　Ｃ－Ｄ15と同じ層
E
F
19.5m
Ⅰa層（盛土）
Ⅱa層
Ⅱb層
Ⅲc層
Ⅰb層(旧耕作土)
SK39
SD90
SD60b
基本層序Ｅ－Ｆ
Ⅲa層期
1　灰色（5Y4/1）シルト　粗砂含む　粘性やや強　しまり強
2　灰オリーブ（5Y4/2）粗砂含む　粘性中　しまり強
3　灰色（2.5Y4/1）シルト　粘性中　しまり強
4　灰色（10Y4/1）シルト　粘性やや強　しまり強
5　灰色（7.5Y4/1）シルト　粗砂混じる　粘性やや強　しまり強
6　灰色（10Y5/1）シルト　粗砂混じる　粘性やや強　しまり強
Ⅲb層期
7　オリーブ黒色（5Y3/1）シルト　粘性やや強　しまり強
8　灰色（2.5Y4/1）シルト　粘性中　しまり強
9　灰色（5Y4/1）シルト　緑灰（5G5/1）粘土塊状10％含む　粘性やや強　しまり強
10　オリーブ黒色（7.5Y3/1）シルト　緑灰（5G5/1）粘土塊（φ10mm前後）５％含む　粗砂含む　粘性やや強　しまり中
11　緑灰色（5G5/1）粘土　粘性やや強　しまり強
0
（S＝1／40）
2m

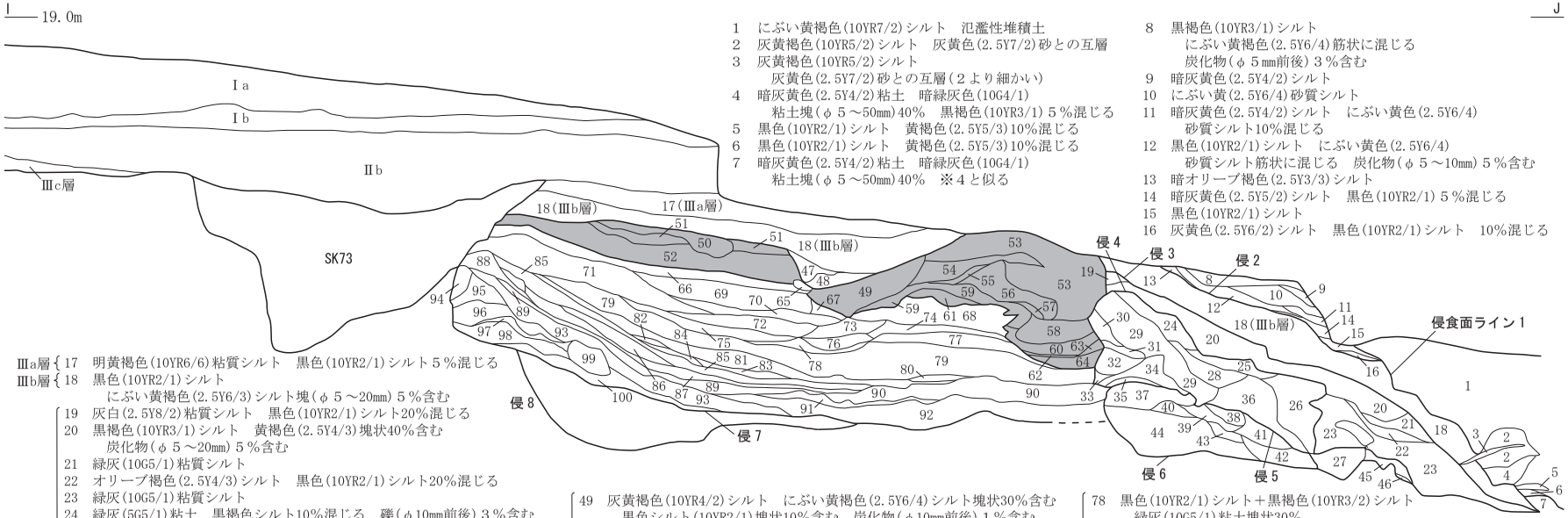
第７図　基本層序図（１）


C
18.0m
D
18.0m
古代の沢底(旧)
古代の沢底(新)
0
1m
(S=1／80)
Ⅰa層
Ⅰb層
Ⅰb層(床土)
RP
RW
0
2m
(S=1／40)
基本層序C－D
Ⅲ層期
1 褐灰色（10YR4/1）シルト　十和田ａのような塊（φ５mm以下）２～３％
小礫（φ10mm以下）２～３％　炭化物（φ10mm以下）１％
2 褐灰色～黒褐色（10YR4/1～3/1）シルト　十和田ａのような塊（φ５mm以下）含む
小礫（φ10mm以下）２～３％　炭化物（φ10mm以下）１％
3 黒褐色（10YR3/2）シルト　十和田ａのような塊（φ５mm以下）含む
炭化物（φ５mm以下）１％含む
4 褐灰色（10YR4/1）粘質シルト
5 黒褐色（10YR3/1）シルト　にぶい黄褐色（10YR5/3）砂質土　５％混じる
十和田ａのような塊（φ５mm以下）含む　炭化物（φ５mm以下）２％含む
Ⅳ層期
6 褐灰色（10YR4/1）粘質シルト　砂礫　粗砂混じる　※本層直下に遺物
7 暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト　砂礫　粗砂主体
8 褐灰色（10YR4/1）砂質シルト　炭化物（φ５mm）10％含む　植物遺体含む
9 暗灰黄色（2.5Y4/2）粗砂
10 黒褐色（10YR3/1）粘質シルト　小礫（φ10mm前後）１％含む
Ⅳ層期
11 暗オリーブ灰（2.5GY4/1）粘質シルト　小礫（φ10mm前後）５％含む
12 黒褐色（10YR3/2）粘質シルト　炭化物（φ５mm前後）３％含む
13 褐灰色（10YR4/1）砂質シルト　植物遺体含む
14 暗オリーブ灰（2.5GY4/1）粘質シルト
15 黒褐色（10YR3/2）泥炭質土
16 灰色（５Y4/1）粘質シルト
17 黄灰色（2.5Y4/1）粘質シルト　やや泥炭質
18 灰色（５Y4/1）砂（中粒）泥炭質土混じる　植物遺体含む
19 オリーブ黒（7.5Y3/1）粘質シルト　砂礫10％含む
Ⅴ層期
20 黒褐色（10YR3/2）泥炭質土
21 暗オリーブ灰（2.5GY4/1）砂
22 黒褐色（10YR3/1）泥炭質土
23 灰色（５Y4/1）砂礫
24 灰色（５Y4/1）粗砂
25 褐灰色（10YR4/1）粘質シルト　砂礫・粗砂含む

第８図　基本層序図（２）


1m
0
(S=1／80)
H
G
18.2m
鉄分の集積層
Ⅱb層
酸化マンガンの集積層
Ⅱa層
Ⅰ層(耕作土)
Ⅲc層
Ⅱb層
G
18.2m
H
Ⅰ層(耕作土)
Ⅱa層
Ⅱb層
Ⅲc層
SK20
SK21
Ⅴ層
Ⅴ層
Ⅴ層
18.2m
2m
0
(S=1／40)

第９図　基本層序図（３）



1　にぶい黄褐色(10YR7/2)シルト　氾濫性堆積土
2　灰黄褐色(10YR5/2)シルト　灰黄色(2.5Y7/2)砂との互層
3　灰黄褐色(10YR5/2)シルト
　灰黄色(2.5Y7/2)砂との互層(２より細かい)
4　暗灰黄色(2.5Y4/2)粘土　暗緑灰色(10G4/1)
　粘土塊(φ５～50mm)40%　黒褐色(10YR3/1)５%混じる
5　黒色(10YR2/1)シルト　黄褐色(2.5Y5/3)10%混じる
6　黒色(10YR2/1)シルト　黄褐色(2.5Y5/3)10%混じる
7　暗灰黄色(2.5Y4/2)粘土　暗緑灰色(10G4/1)
　粘土塊(φ５～50mm)40%　※４と似る
8　黒褐色(10YR3/1)シルト
　にぶい黄褐色(2.5Y6/4)筋状に混じる
　炭化物(φ５mm前後)３%含む
9　暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト
10　にぶい黄(2.5Y6/4)砂質シルト
11　暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト　にぶい黄色(2.5Y6/4)
　砂質シルト10%混じる
12　黒色(10YR2/1)シルト　にぶい黄色(2.5Y6/4)
　砂質シルト筋状に混じる　炭化物(φ５～10mm)５%含む
13　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)シルト
14　暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト　黒色(10YR2/1)５%混じる
15　黒色(10YR2/1)シルト
16　灰黄色(2.5Y6/2)シルト　黒色(10YR2/1)シルト　10%混じる

Ⅲa層
Ⅲb層
17　明黄褐色(10YR6/6)粘質シルト　黒色(10YR2/1)シルト５%混じる
18　黒色(10YR2/1)シルト
　にぶい黄褐色(2.5Y6/3)シルト塊(φ５～20mm)５%含む

Ⅲc層期
19　灰白(2.5Y8/2)粘質シルト　黒色(10YR2/1)シルト20%混じる
20　黒褐色(10YR3/1)シルト　黄褐色(2.5Y4/3)塊状40%含む
　炭化物(φ５～20mm)５%含む
21　緑灰(10G5/1)粘質シルト
22　オリーブ褐色(2.5Y4/3)シルト　黒色(10YR2/1)シルト20%混じる
23　緑灰(10G5/1)粘質シルト
24　緑灰(5G5/1)粘土　黒褐色シルト10%混じる　礫(φ10mm前後)３%含む
25　黄褐色(2.5Y5/4)砂質シルト　黒褐色シルト10%混じる
26　緑灰(5G5/1)粘土　砂礫(φ１～10mm)20%含む
27　黒褐色(10YR3/1)シルト
　黄褐色(210YR5/6)粘質シルト塊(φ10mm前後)10%含む
　炭化物(φ10mm前後)５%含む
28　緑灰(5G5/1)粘土　礫(φ５～10mm)10%含む
29　緑灰(5G5/1)粘土　砂礫(φ１～10mm)10%含む
30　黄褐色(2.5Y5/4)粘土　礫含む
31　黄褐色(2.5Y5/3)砂礫
32　黄褐色(2.5Y5/3)砂礫＋シルト
33　緑灰(10G5/1)粘土塊
34　黒色(10YR2/1)シルト　灰黄褐色(10YR6/2)粉状粒子僅かに含む
35　黄褐色(2.5Y4/4)砂質シルト
36　緑灰(5G5/1)粘土　砂礫(φ５～50mm)40%含む
37　黄褐色(2.5Y5/4)シルト＋砂礫　暗緑灰(10G4/1)粘質シルト塊状40%含む
38　黒褐色(10YR3/1)シルト　暗緑灰(５G4/1)粘質シルト塊状含む
　炭化物(φ10mm)前後５%含む
39　黒色(10YR2/1)シルト
　暗緑灰(５G4/1)粘質シルト塊(φ10mm前後)５%含む
　炭化物(φ５～10mm前後)５%含む
40　暗緑灰(５G4/1)粘質シルト　黒色シルト(10YR2/1)塊状５%含む
41　砂礫(φ１～５mm)粘土塊状15%含む
42　暗緑灰(５G4/1)粘質シルト　黒褐色(10YR3/1)シルト塊状10%含む
43　黄褐色(2.5Y5/3)砂
44　砂礫(φ１～20mm)　暗緑灰(５G4/1)粘土塊状50%含む
45　灰オリーブ(５Y5/2)シルト
46　オリーブ灰(2.5Y4/3)シルト
47　褐灰色(10YR4/1)シルト
　黒色(10YR2/1)シルト・にぶい黄褐色(2.5Y6/4)シルト共に20%混じる
　炭化物(φ10mm前後)５%含む
48　褐灰色(10YR4/1)シルト　にぶい黄褐色(2.5Y6/4)シルト塊(φ10～30mm)20%含む
　炭化物(φ15mm前後)10%含む

Ⅲc層期
49　灰黄褐色(10YR4/2)シルト　にぶい黄褐色(2.5Y6/4)シルト塊状30%含む
　黒色シルト(10YR2/1)塊状10%含む　炭化物(φ10mm前後)１%含む
50　暗灰黄(2.5Y5/2)砂質シルト　黒色(10YR2/1)シルト塊状10%混じる
51　灰オリーブ(５Y6/2)シルト
52　にぶい黄色(2.6Y6/4)シルト　黒色(10YR2/1)シルト塊状15%混じる
53　灰白(2.5Y8/2)粘土　砂10%混じる　礫(円礫φ３～30mm)40%含む
54　黄褐色(2.5Y5/4)砂質シルト
55　にぶい黄(2.5Y6/4)粗砂
56　灰色(7.5Y6/1)粘質シルト
57　灰白(2.5Y8/2)粘土　砂10%混じる　礫(円礫φ３～30mm)
58　黄褐色(2.5Y5/3)礫(円礫φ３～30mm)　灰白(2.5Y8/2)　粘土混じる
59　黄褐色(2.5Y5/3)砂質シルト
60　灰色(7.5Y6/1)粘質シルト　砂礫(φ１～50mm)10%含む
61　黄褐色(2.5Y5/3)シルト　黒色(10YR2/1)シルト20%混じる
62　黒色(10YR2/1)シルト
63　黄褐色(2.5Y5/4)砂質シルト
64　黄褐色(2.5Y5/4)砂質シルト　黒色(10YR2/1)シルト筋状に10%含む

Ⅳa層
65　黒褐色(10YR3/1)シルト　にぶい黄色(2.5Y6/4)シルト塊10%含む
66　黒色(10YR2/1)シルト　にぶい黄色(2.5Y6/4)シルト塊(φ10mm前後)10%
　炭化物(φ５mm前後)５%含む
67　黒色(10YR2/1)シルト＋にぶい黄色(2.5Y6/4)シルト塊
68　黒色(10YR2/1)シルト　炭化物(φ10mm前後)５%含む
69　黒褐色(10YR3/1)シルト　炭化物(φ５mm前後)３%含む
70　黒色(10YR2/1)シルト　灰黄褐色(10YR6/2)粉状粒子筋状に５%含む
　炭化物(φ５mm以下)１%含む
71　黒褐色(10YR3/1)シルト　炭化物(φ５mm前後)１%含む
72　黒色(10YR2/1)シルト　黒褐色(10YR3/2)シルト10%混じる
　灰黄褐色(10YR6/2)粉状粒子筋状に20%含む
73　緑灰(10G5/1)砂質シルト
74　黒色(10YR2/1)シルト　灰黄褐色(10YR6/2)粉状粒子10%含む
75　黒色(10YR2/1)シルト＋黒褐色(10YR3/2)シルト
　緑灰(10G5/1)粘土塊状10%
76　灰色(10Y5/1)砂質シルト　黒褐色(10YR3/2)シルト　20%混じる
77　黒色(10YR2/1)シルト
78　黒色(10YR2/1)シルト＋黒褐色(10YR3/2)シルト
　緑灰(10G5/1)粘土塊状30%
79　黒色(10YR2/1)シルト＋黒褐色(10YR3/2)シルト
　灰黄褐色(10YR6/2)粉状粒子10%含む
80　緑灰(10G5/1)粘質シルト　黒色(10YR2/1)シルト筋状に僅かに混じる
81　黒色(10YR2/1)シルト＋黒褐色(10YR3/2)シルト
　緑灰(10G5/1)粘土塊状10%
82　にぶい黄褐色(10YR4/3)
83　黒褐色(10YR3/2)シルト　灰褐色(7.5YR4/2)焼土　20%混じる
84　にぶい黄褐色(10YR5/4)　灰褐色(7.5YR4/2)焼土　５%混じる
85　黒色(10YR2/1)シルト＋黒褐色(10YR3/1)シルト
　緑灰(10G5/1)粘土塊(φ20mm以下)３%　炭化物(φ５mm以下)３%
86　緑灰(10G5/1)粘土
87　黒色(10YR2/1)シルト
88　黄褐色(2.5Y5/4)シルト　粘質シルト
　黒褐色(10YR3/1)シルト10%混じる
89　黒色(10YR2/1)シルト　緑灰(10G5/1)粘土塊状５%含む
90　緑灰(10G5/1)粘質シルト
91　黒褐色(10YR3/1)シルト　黒色(10YR2/1)シルト互層状に堆積
92　オリーブ灰(2.5GY5/1)粘質シルト　黒色(10YR2/1)シルト　５%混じる
93　黒色(10YR2/1)シルト　オリーブ灰(2.5GY5/1)
　粘質シルト塊(φ10mm前後)５%含む
94　黄褐色(2.5Y5/4)シルト
95　緑灰(10G5/1)粘質土　黒褐色(10YR3/1)シルト　15%混じる
96　緑灰(10G5/1)粘質土　黒褐色(10YR3/1)シルト　30%混じる
97　黒色(10YR2/1)シルト　緑灰(10G5/1)シルト塊５%
　炭化物(φ５mm以下)１%
98　緑灰(10G5/1)粘質土　黒褐色(10YR3/1)シルト　10%混じる
99　緑灰(10G5/1)粘質土　黒褐色(10YR3/1)シルト　30%混じる
100　黒色(10YR2/1)シルト　緑灰(10G5/1)粘土塊状20%
　灰黄褐色(10YR6/2)粉状粒子筋状に３%(一部)含む

0　(S＝1／40)　2m

第10図　基本層序図(４)

きなかった。Ⅲｂ層は、南側斜面に堆積する上位黒色土層で、Ⅲｃ層の地均しとⅢａ層の盛土の間に形成されたと考えられる層で、きめ細かい粒子で構成される黒色シルトを基調とする。Ⅲｃ層とは、色調・混入物・しまりなどにも明らかな違いが認められる。Ⅲｃ層は、黒色～黒褐色土と黄褐色土の混入土を主体とする層で炭化物を含む。この層は、整地地業（地均し）を示す層で、これによってⅤ層上面が広範囲にわたり削られ、Ⅳｂ層とともに撹乱されることによりⅢｃ層が形成されたと推測する。整地地業の影響がⅤ層まで及ばなかった部分は、Ⅳ層中における撹乱となるため、Ⅴ層由来土がほとんど確認できないが、色調が濃く炭化物を多く含む点でⅣｂ層とは異なる。Ⅲｄ層は、古代旧表土Ⅳｂ層直上の黄褐色の盛土層であり、旧地形がやや急に落ち込む調査区西側部分に堆積している。

Ⅲａ：黄褐色(2.5Y5/3)シルト　粘性やや強　しまり強

Ⅲｂ：黒色(10YR2/1)シルト　黄褐色シルト塊（φ５～20㎜前後）０～５％含む

Ⅲｃ：黒色～黒褐色(10YR2/1～10YR3/2)シルト　黄灰粘土塊（φ10㎜前後）５～15%、炭化物（φ５㎜前後）５％含む

Ⅲｄ：黄褐色（10YR5/6）シルト　黒褐色（10YR3/2）シルト斑状10％、砂礫（φ0.1～５㎜）、炭化物１％未満含む

Ⅳ層：古代の遺物包含層

整地地業前の古代旧表土である。中央部平坦面においてはⅢ層期の整地地業により消失するが、西側整地地業層下やＳＤ60溝跡の東側に残存している。本層下の旧地形は、やや急角度で西に下っているため整地地業による削平を免れたと考えられる。本層の二次堆積層と考えられる南側斜面の下位黒色土層をⅣａ層とし、西側斜面の残存部分をⅣｂ層とする。Ⅳａ層は、Ⅲｂ層と似て、きめ細かい粒子で構成されている。なお、沢地内の火山灰を含む層、砂質シルト層は、Ⅳ層と同時異相の堆積層と判断される。

Ⅳａ：黒色～黒褐色（10YR2/1～10YR2/2）シルト　地山塊、炭化物を少量含む　灰黄褐色粉状粒子を筋状に含む　粘性中～やや強　しまり強

Ⅳｂ：黒褐色～暗褐色（10YR2/2～10YR3/2）シルト　地山塊、炭化物を少量含む　粘性中～やや強　しまり強

Ⅴ層：地山

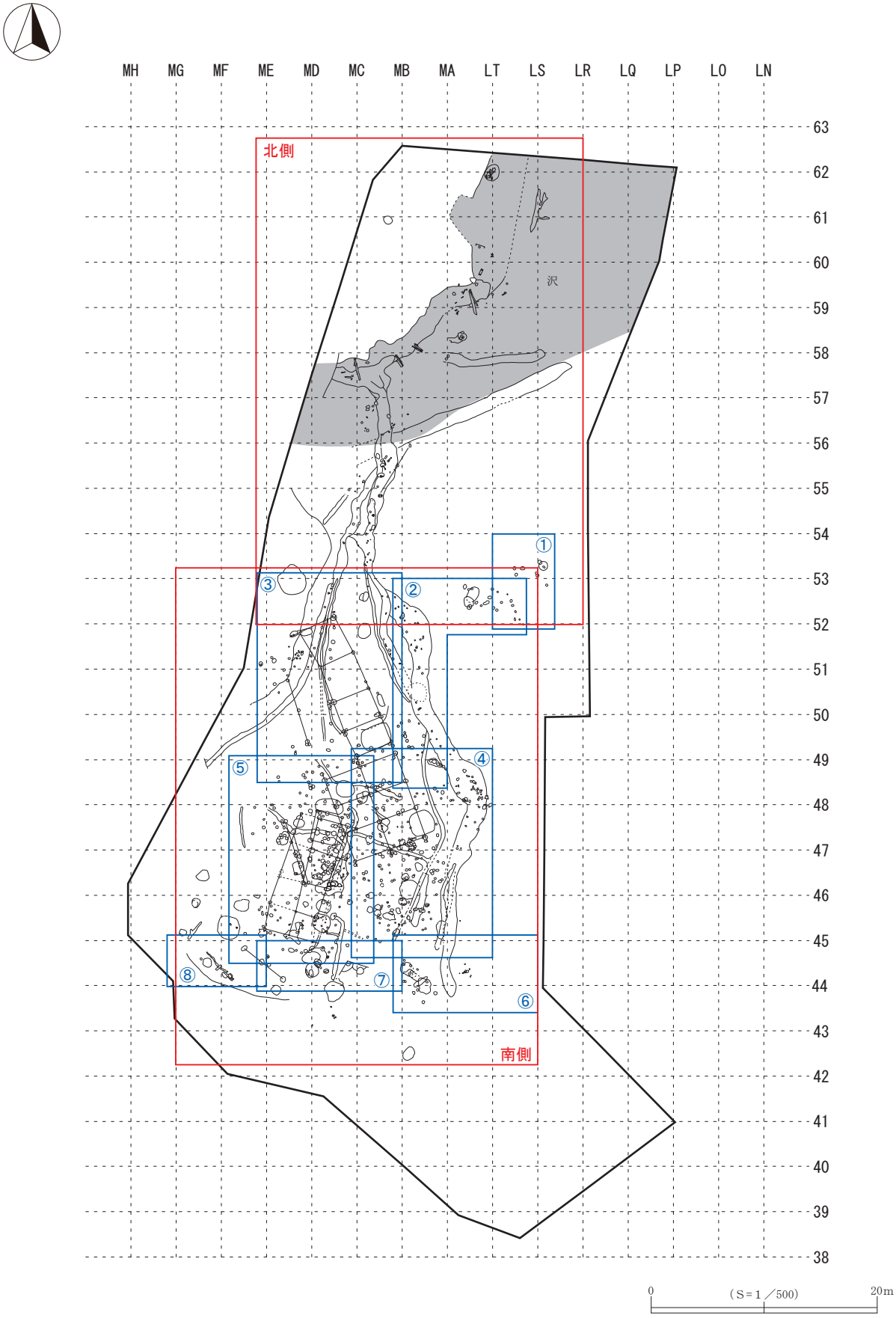
黄褐色を中心とする色調の層であるが、場所によって色調が異なる。多くの遺構の確認面である。ＳＤ60溝跡が走る東側斜面直下には、東側斜面上からの崩落土や泥炭質の黒色土が存在するが、いずれも遺物は含まない。

Ⅴ：黄褐色(2.5YR～10YR)シルト　粘性やや強　しまり強　地山(基盤層)

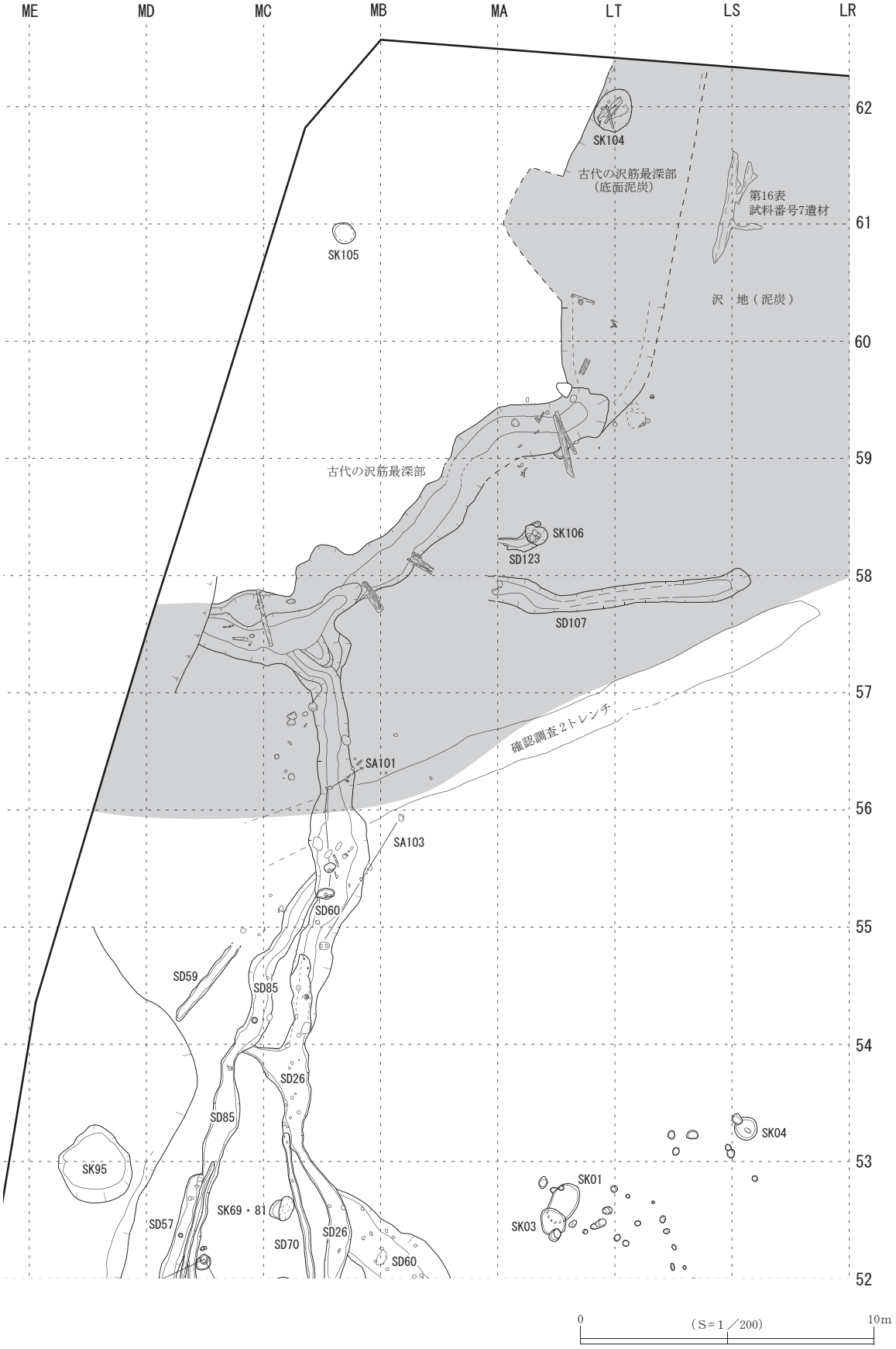
第３節　検出遺構と遺物

１　概要

検出した遺構は、掘立柱建物跡４棟、柵列跡・杭列跡６条、溝跡22条、敷石遺構１基、集石遺構１基、土器埋設遺構１基、土坑65基、焼土遺構13基、鍛冶炉１基、性格不明遺構１基、柱穴様ピット475基である。なお、柱穴様ピットは、掘立柱建物跡４棟、柵列跡５条で構成する柱穴55基を含めた数字で

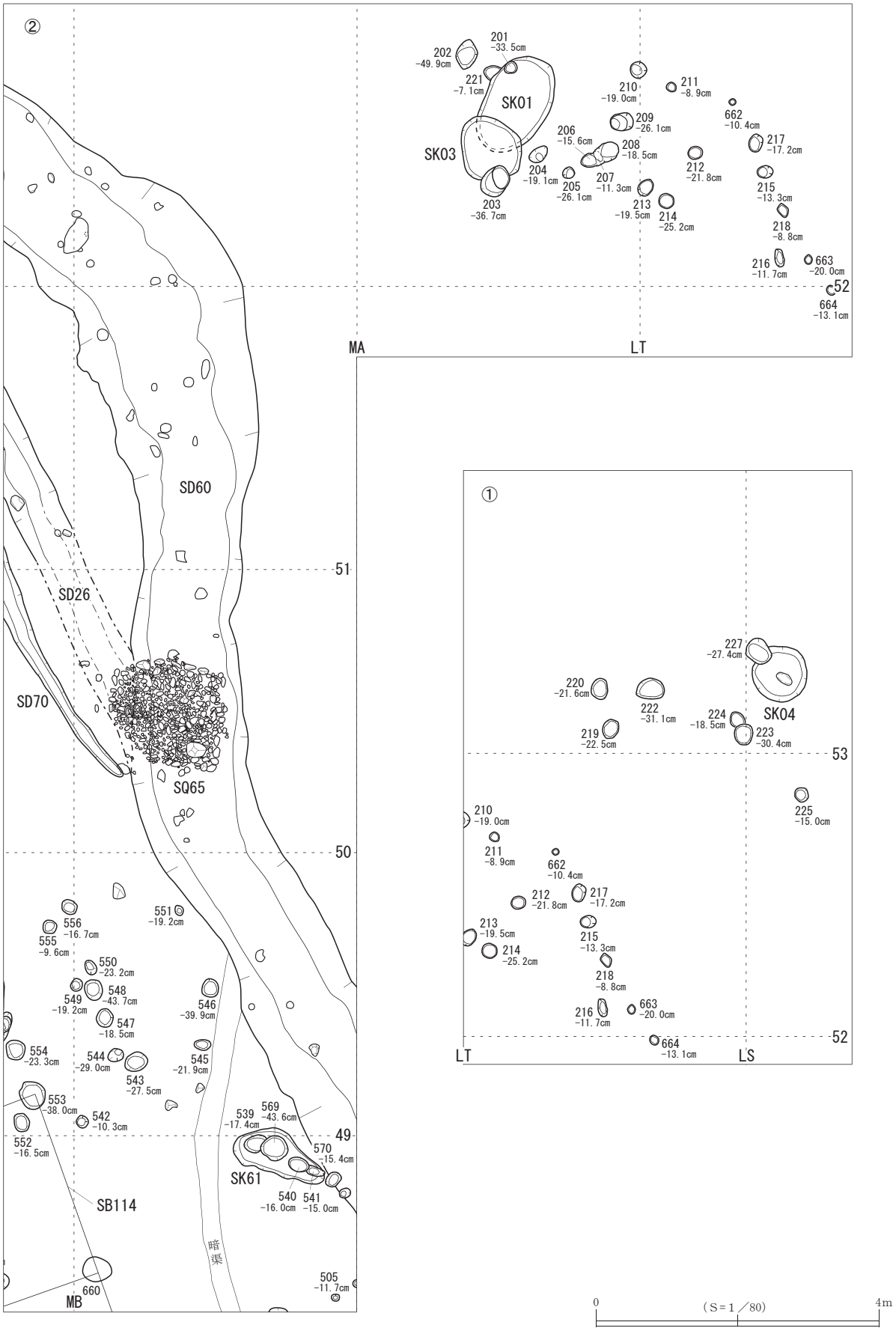


第11図　遺構配置図（全体）

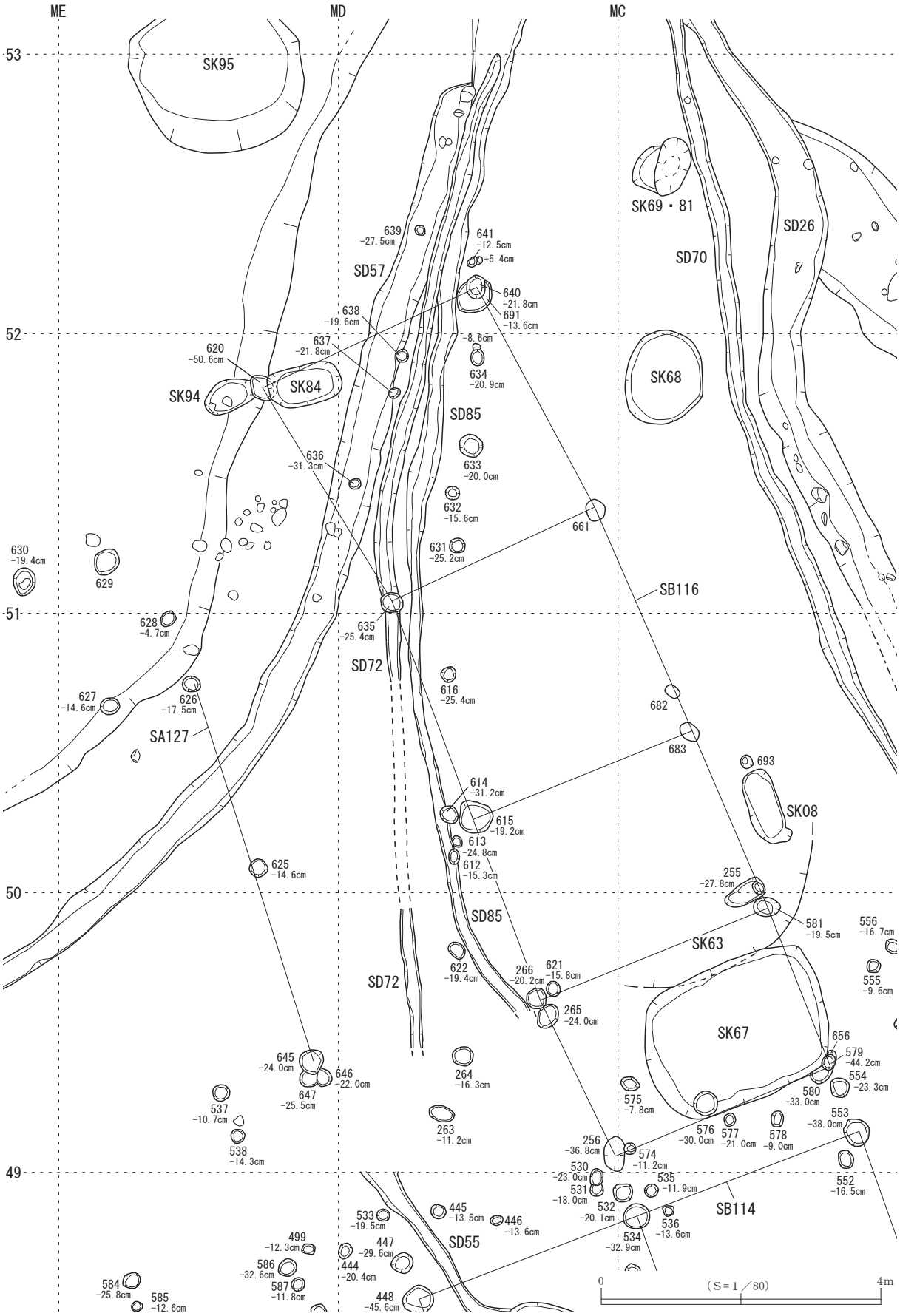


第12図　遺構配置図（北側）

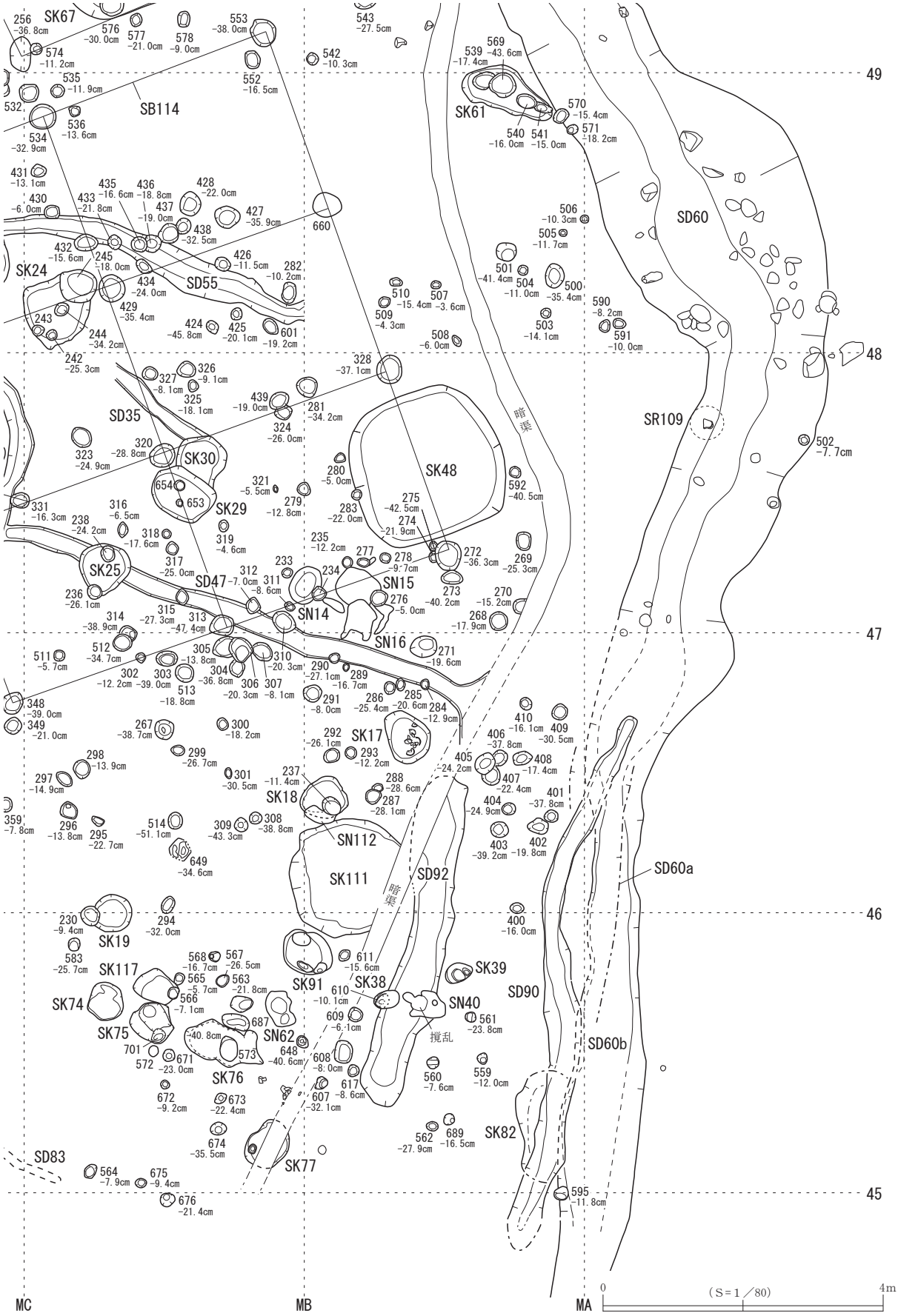
第13図　遺構配置図（南側）



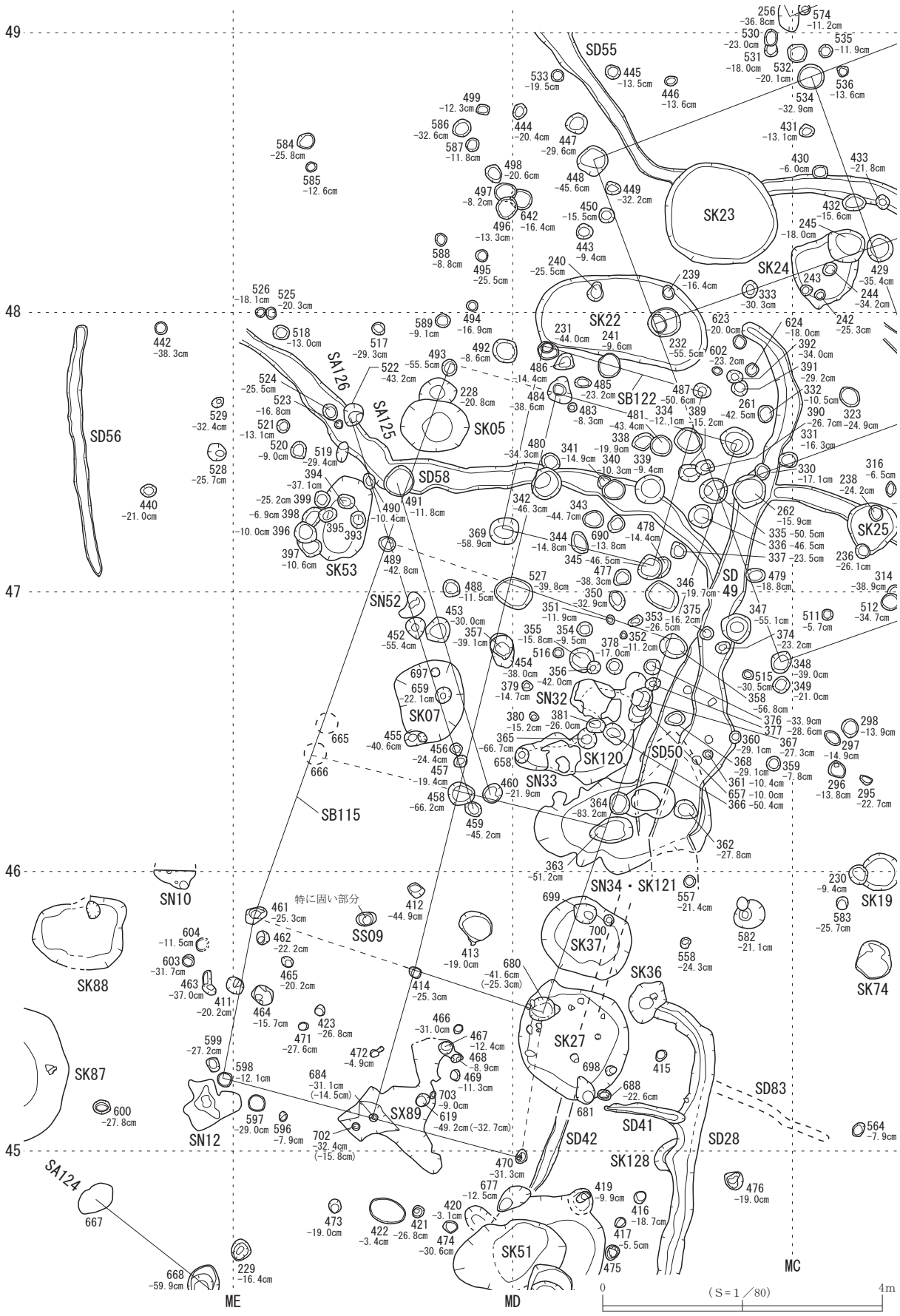
第14図　遺構配置図①・②


ME
MD
MC
53
52
51
50
49
SK95
SK69・81
SD26
SD70
SD57
SK68
SK94
SK84
SD85
SB116
SD72
SA127
SK08
SK63
SK67
SB114
SD55
639 -27.5cm
641 -12.5cm
-5.4cm
640 -21.8cm
691 -13.6cm
638 -19.6cm
637 -21.8cm
-8.6cm
634 -20.9cm
620 -50.6cm
633 -20.0cm
636 -31.3cm
632 -15.6cm
661
631 -25.2cm
630 -19.4cm
629
635 -25.4cm
628 -4.7cm
616 -25.4cm
682
627 -14.6cm
626 -17.5cm
683
693
614 -31.2cm
615 -19.2cm
613 -24.8cm
612 -15.3cm
625 -14.6cm
255 -27.8cm
581 -19.5cm
556 -16.7cm
555 -9.6cm
622 -19.4cm
266 -20.2cm
621 -15.8cm
265 -24.0cm
656
579 -44.2cm
554 -23.3cm
580 -33.0cm
553 -38.0cm
552 -16.5cm
645 -24.0cm
646 -22.0cm
647 -25.5cm
264 -16.3cm
575 -7.8cm
537 -10.7cm
538 -14.3cm
263 -11.2cm
576 -30.0cm
577 -21.0cm
578 -9.0cm
256 -36.8cm
574 -11.2cm
530 -23.0cm
531 -18.0cm
535 -11.9cm
532 -20.1cm
536 -13.6cm
534 -32.9cm
533 -19.5cm
445 -13.5cm
446 -13.6cm
499 -12.3cm
447 -29.6cm
586 -32.6cm
444 -20.4cm
587 -11.8cm
584 -25.8cm
585 -12.6cm
448 -45.6cm
0
(S=1／80)
4m

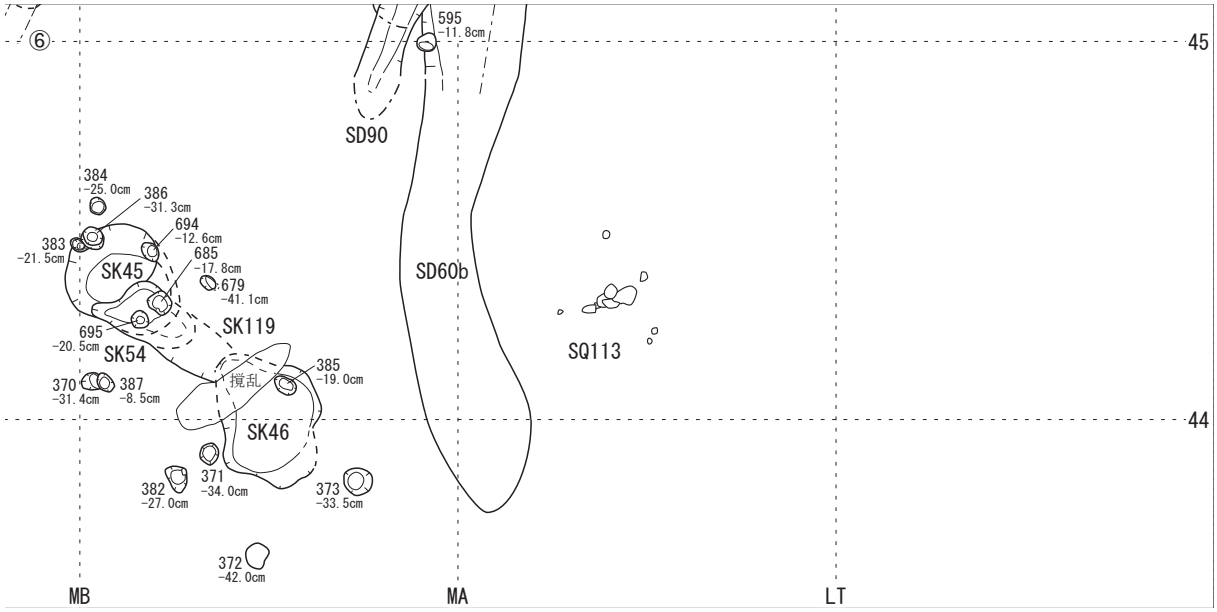
第15図　遺構配置図③

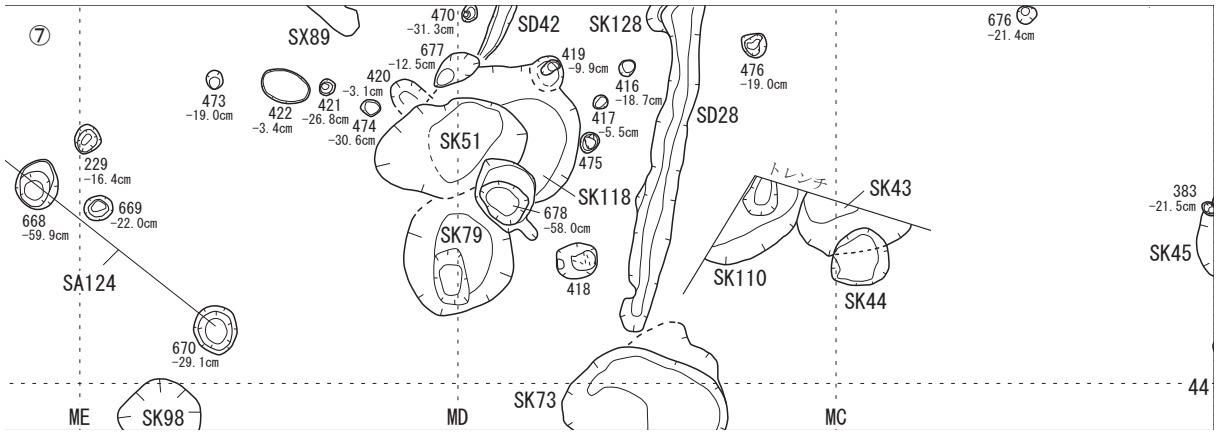

SK67
SB114
SK61
SD60
SK24
SD55
SD35
SK30
SK29
SK48
SR109
SK25
SD47
SN15
SN14
SN16
SK17
SK18
SN112
SK111
SD92
SD60a
SK19
SK117
SK74
SK75
SK91
SK38
SK39
SN40
SD90
SN62
SK76
SD60b
SK82
SK77
SD83
暗渠
攪乱
49
48
47
46
45
MC
MB
MA
0
(S＝1／80)
4m

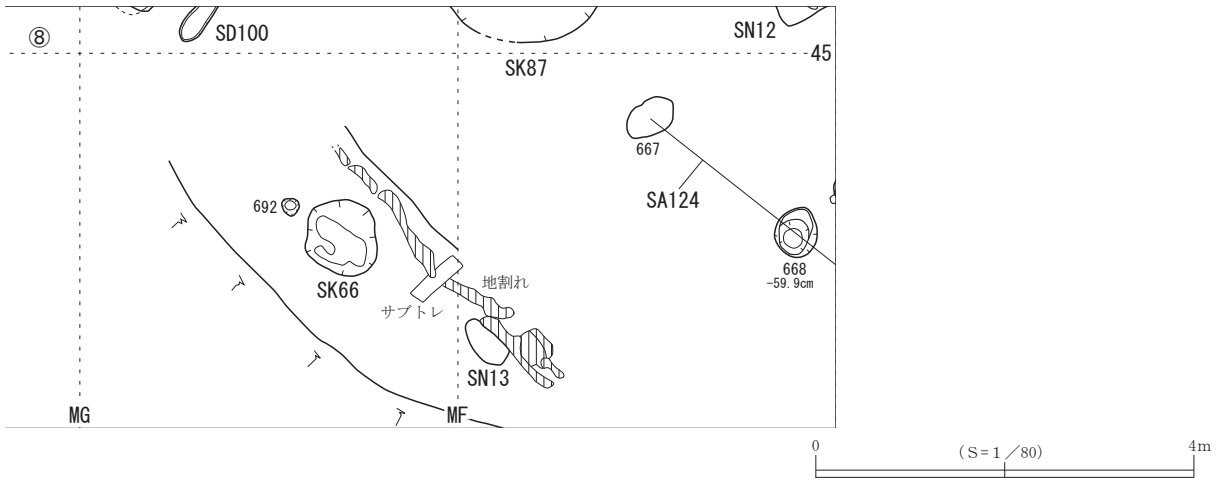
第16図　遺構配置図④


49
48
47
46
45
ME
MD
MC
SD55
SK23
SK24
SK22
SB122
SA126
SA125
SK05
SD56
SD58
SK53
SN52
SK07
SN32
SK120
SD50
SN33
SB115
SD 49
SK25
SN34・SK121
SK19
SN10
SS09
特に固い部分
SK88
SK37
SK36
SK74
SK27
SK87
SN12
SX89
SD83
SD41
SD42
SD28
SK128
SA124
SK51
0
(S=1／80)
4m

第17図　遺構配置図⑤







第18図　遺構配置図⑥・⑦・⑧

ある。これらの遺構のほとんどが平安時代のものと考えられ、調査区中央部の標高17～18mの緩斜面に分布している。掘立柱建物跡と柵列跡・杭列跡には、同時存在したものと時期差が認められるものがある。溝跡は、幅が20～30cmの狭いものと幅50cm以上の広いものがあり、後者からは完形に近い土師器が多数出土している。広い溝の中（ＳＤ26・60の交点）からは、川原石を敷き詰めた敷石遺構（ＳＱ65）が検出された。土坑は、円形・楕円形平面のものが多く、土器を中心とする一定量の遺物を含む例が多い。鍛冶炉は１基のみの確認であるが、焼土遺構も鍛冶作業に関係した可能性がある。以上の遺構から、本遺跡では、土器等の埋納もしくは一括廃棄等を伴う溝や土坑による祭祀と鍛冶作業が行われたことも想定される。このうち、溝跡と一部の掘立柱建物跡については軸方向が一致するため、両者は同時に存在し、建物は祭祀に関連したものであったことも想定される。遺跡の性格は、重複遺構等の新旧関係等から、概ね土坑や溝を使用する祭祀（域）から鍛冶工房域へ変遷したことがうかがえる。これらの動きとは別に、多量の遺物が出土した南側斜面においては、一貫して両前寺川の水辺を利用した遺物の大量廃棄を伴う祭祀が行われていたものと想定される。

さらに、北側の沢地では、遺構数は少ないものの、須恵器・土師器を中心とする土器や、重ねた状態の椀・皿・曲物・多量の箸状木製品・斎串・家具の一部・建築部材など多様な木製品が出土している。巨大な須恵器甕の口縁部や緑釉陶器の優品なども出土しているため、廃絶儀礼などに伴う祭祀が行われたと想定される。

中央部緩斜面より２ｍほど標高の高い調査区東側には、平坦面があり、そこからも土坑（ＳＫ01・03）や柱穴様ピットが検出されている。これより東側は大規模な撹乱を受けており調査対象から除外した部分であるが、本来の遺跡の広がりはこちらにも及んでいた可能性が高い。

遺物は、縄文時代の石器（石匙）、弥生時代の土器、近世の磁器等が僅かに出土したほかは、須恵器、土師器、緑釉陶器、灰釉陶器、白磁、土製品、石器（砥石）、木製品、鉄製品、鉄滓など平安時代の遺物が多数を占める。遺物量等については、本節の13　遺構外出土遺物の項で触れる。

２　掘立柱建物跡

ＳＢ114掘立柱建物跡（第19図、図版１・２）

[位置] ＭＡ47・48、ＭＢ47～49、ＭＣ46～48

[検出の経緯] Ｖ層上面で柱穴様ピットを精査中、長方形の柱穴配列を確認し掘立柱建物跡と判断した。

[重複] ＳＫ22土坑と切り合う。本遺構を構成するＰ２（ＳＫＰ232）柱穴がＳＫ22土坑埋土を掘り込んでいるため、新旧関係は、ＳＫ22→ＳＢ114の順となる。その他、ＳＢ115掘立柱建物跡、ＳＤ35・47・49・55溝跡、ＳＫ23・24・25・29・30・48土坑、ＳＮ14・15焼土遺構と69基の柱穴様ピットが、遺構内にあるが、関連性や新旧関係は不明である。

[規模・形態] 桁行３間（北北西－南南東）7.8m（柱間距離約2.6m）×梁行２間（西南西－東北東）6.6m（柱間距離約3.3m）、計12本の柱穴で構成される総柱の掘立柱建物跡である。軸方向は Ｎ－20°－Ｗである。柱穴は径45cm前後と周辺の柱穴様ピットに比べ大きく、深さも50cm前後と深く、Ｐ２（ＳＫＰ232）・Ｐ３（ＳＫＰ335）柱穴など柱当たりの残るものもある。

[埋土] 柱穴の埋土は、黒褐色のⅣｂ層由来土を基調とし、Ｖ層地山小塊や炭化物を含む。

[出土遺物] 各柱穴の埋土から、須恵器破片、土師器破片等の遺物が出土したが、意図的な埋納の痕跡

は確認できなかった。埋め戻しに伴い混入したものがほとんどと考える。遺物は土器片が中心で、詳細な時期決定に使用できるようなものはないが、中世までは下らない。８基の柱穴から合わせて、須恵器の坏破片18.8ｇ・壺甕類破片67.4ｇ、土師器の坏破片173.1ｇ・内黒坏破片23.7ｇ・甕破片150.5ｇ・鍋破片36.1ｇ・器種不明小片42.0ｇが出土した。

[所見] 東側桁方向の柱筋が北に近接するＳＢ116掘立柱建物跡と一致するため、ほぼ同時期で関連性のある建物と推定する。また、西側の桁方向の柱筋の延長線上にあるＳＡ127柵列跡、桁方向と溝の方向が一致するＳＤ60溝跡も同時期の遺構と推定する。ＳＤ60との関係から祭祀に関連した建物の可能性がある。

ＳＢ115掘立柱建物跡（第20図、図版１・14）

[位置] ＭＣ44～47、ＭＤ44～47、ＭＥ45

[検出の経緯] Ｖ層上面で柱穴様ピットを精査中、長方形の柱穴配列を確認し掘立柱建物跡と判断した。

[重複] 本遺構を構成するＰ４（ＳＫＰ680）柱穴がＳＫ27土坑と切り合う。本遺構に伴うＳＤ50溝跡と連続すると見られるＳＤ42溝跡がＳＫ27土坑の埋土を掘り込んでいるため、本建物跡はＳＫ27土坑より新しいといえる。従って、新旧関係は、ＳＫ27→ＳＢ115の順となる。また、遺構内の位置関係から、ＳＳ09、ＳＮ32･33･52は同時存在したと推測する。その他、ＳＢ114･122建物跡、ＳＡ125･126柵列跡、ＳＤ58溝跡、ＳＫ05･07･37･120･121土坑、ＳＮ34焼土遺構、ＳＸ89性格不明遺構、70基の柱穴様ピットが遺構内にあるが、関連性や新旧関係は不明である。

[規模・形態] ４間（北北東－南南西）10.7m×２間（西北西－東南東）4.2m、計15本の柱穴で構成される掘立柱建物跡である。軸方向は Ｎ－19°－Ｅである。検出当初は、２間×１間の建物を想定したが、南側・西側の柱穴群を検討した結果、４間×２間の建物と判断した。南側１間がやや柱筋からずれ、柱穴の大きさもやや小さい。西側の桁方向の柱穴は、庇と考えられる。東側の桁方向の柱穴は、南端のＰ５（ＳＫＰ470）柱穴を除き径40㎝前後と周辺の柱穴様ピットに比べ大きく深さもあり、柱当たりの残るものもある。建物の東側を囲うようにＳＤ42・49・50溝跡が巡る。

[埋土] 柱穴の埋土は、黒褐色のⅣｂ層由来土を基調とし、Ｖ層地山小塊や炭化物を含む。

[出土遺物] 各柱穴の埋土から、須恵器破片、土師器破片等の遺物が出土した。この中で、南東隅のＰ５（ＳＫＰ470）柱穴からは、完形に近い土師器の坏（第47図１）が出土している。地鎮等の目的で埋納された可能性がある。Ｐ５以外の柱穴からは、意図的な埋納の痕跡は確認できず、埋め戻しに伴い混入したものがほとんどと考える。詳細な時期決定に使用できるような遺物はないが、中世までは下らない。８基の柱穴から合わせて、須恵器の坏破片5.9ｇ・壺甕類破片25ｇ、土師器の坏破片287.4ｇ・内黒坏破片14.0ｇ・甕破片261.0ｇ・長胴甕破片13.5ｇ・鍋破片2.0ｇ・器種不明小片47.0ｇが出土した。第47図１は、Ｐ５（ＳＫＰ470）埋土から出土した土師器の坏である。ロクロナデ調整で底部の切り離しは回転糸切りによるものである。

[所見] 本遺構範囲内には、多くの柱穴様ピットや土坑、焼土遺構、鍛冶炉などが含まれるが、新旧関係は不明である。ＳＮ32・33焼土遺構、ＳＳ09鍛冶炉の存在、建物と溝の位置関係などから、鍛冶工房跡と推定する。

ＳＢ116掘立柱建物跡（第21図、図版１）

[位置] ＭＢ49～51、ＭＣ49～52、ＭＤ51

[検出の経緯] Ｖ層上面を精査中に柱穴群を確認したが、ＳＡ127柵列跡を含めて構造物としての正確な平面形を捉えることができなかった。整理作業において、ＳＡ127柵列跡とは異なる掘立柱建物跡と判断した。Ｐ３（ＳＫＰ615）・Ｐ４（ＳＫＰ266）・Ｐ５（ＳＫＰ256）・Ｐ９（ＳＫＰ581）柱穴周辺に分布する柱穴様ピットは、これらの柱の添材の痕跡の可能性がある。

[重複] Ｐ１（ＳＫＰ620）柱穴は、ＳＫ94土坑を切り、ＳＫ84土坑に切られることから、新旧関係は、ＳＫ94→ＳＢ116→ＳＫ84の順となる。また、Ｐ９（ＳＫＰ581）柱穴がＳＫ63を切るため、ＳＫ63→ＳＢ116となる。その他、遺構内にＳＤ57・72・85溝跡、ＳＫ67土坑、16基の柱穴様ピットがあるが、関連性や新旧関係は不明である。なお、ＳＫＰ580柱穴は、Ｐ10（ＳＫＰ579）柱穴の掘方もしくは柱抜き取り痕の可能性がある。

[規模・形態] 桁行４間（北北西－南南東）12.18m（柱間距離約2.4～3.6m）×梁行１間（西南西－東北東）3.4m（柱間距離約3.3～3.5m）、計10本の柱穴で構成される掘立柱建物跡である。軸方向はＮ－24°－Ｗである。北西隅のＰ１（ＳＫＰ620）柱穴が柱筋からやや西側にずれる。柱穴は径30㎝を超えるものが多く、周辺の柱穴様ピットに比べ大きい。

[埋土] 柱穴の埋土は、黒褐色のⅣｂ層由来土を基調とし、Ｖ層地山小塊や炭化物を含む。

[出土遺物] 各柱穴の埋土から、須恵器破片、土師器破片等の遺物が出土したが、意図的な埋納の痕跡は確認できなかった。埋め戻しに伴い混入したものがほとんどと考える。詳細な時期決定に使用できるような遺物はないが、中世までは下らない。２基の柱穴から合わせて、須恵器の壺甕類破片15.2ｇ、土師器の坏破片21.0ｇ・甕破片26.3ｇ・器種不明小片3.9ｇが出土した。

[所見] 桁行の柱間に差があるため、増築した可能性がある。桁方向の柱筋が南に近接するＳＢ114掘立柱建物跡と一致するため、同時期で関連性のある建物と推定する。また、西側３ｍに平行するＳＡ127柵列跡、桁方向と溝の方向が一致するＳＤ26溝跡もほぼ同時期の遺構と推定する。ＳＢ114やＳＤ26との関係から祭祀に関連した建物の可能性がある。北西隅のＰ１（ＳＫＰ620）がⅢｄ層による西側整地部分との境界にあり、整地前は西に下る斜面の肩の不安定な部分にあるため、本遺構は整地により平坦面が確保された後に構築された遺構と推定する。従って、西側の整地→ＳＢ116・114掘立柱建物跡の流れが想定できる。

ＳＢ122掘立柱建物跡（第22図、図版１）

[位置] ＭＣ・ＭＤ47

[検出の経緯] 整理作業において、図上復元した掘立柱建物跡である。本遺構を構成する柱穴はＶ層上面で検出した。

[重複] Ｐ１（ＳＫＰ231）柱穴がＳＫ22土坑とＰ４（ＳＫＰ345）柱穴がＳＫＰ478柱穴様ピットと重複する。Ｐ１柱穴がＳＫ22土坑を切るため、新旧関係は、ＳＫ22→ＳＢ122の順となる。Ｐ４（ＳＫＰ345）柱穴とＳＫＰ478柱穴様ピットの関係は不明である。また、範囲内に含まれるＳＢ114・115掘立柱建物跡とＳＤ58溝跡や15基の柱穴様ピットとの関連性や新旧関係は不明である。

[規模・形態] 桁行１間（北北東－南南西）2.7m×梁行１間（西北西－東南東）2.3m、４本の柱穴で構成される掘立柱建物跡である。軸方向はＮ－14°－Ｅである。柱穴の深さは50㎝前後と周辺の柱穴様ピットよりも深い。

[埋土] 柱穴の埋土は、黒褐色のⅣｂ層由来土を基調とし、Ｖ層地山小塊や炭化物を含む。

[出土遺物] 各柱穴の埋土から、須恵器破片、土師器破片等の遺物が出土したが、意図的な埋納の痕跡は確認できなかった。埋め戻しに伴い混入したものがほとんどと考える。詳細な時期決定に使用できるような遺物はないが、中世までは下らない。３基の柱穴様ピットから合わせて、須恵器の坏破片28.4ｇ、土師器の坏破片21.0ｇ・甕破片62.5ｇ・器種不明小片1.9ｇが出土した。

[所見] ＳＢ114・115掘立柱建物跡と重複するが新旧も含め関係や性格は不明である。

３　柵列跡・杭列跡

ＳＡ101杭列跡（第23図、図版２）

[位置] ＭＢ55

[検出の経緯] Ｖ層上面を精査中に複数の杭材を確認し、それらのまとまりを杭列と判断した。

[重複] ＳＤ60溝跡埋土に本遺構が構築されている。新旧関係は、ＳＤ60→ＳＡ101の順となる。

[規模] 長さ：4.95m（北東－南西：1.26m、北－南：3.69m）。

[所見] 長さ25.6～64.7㎝のミカン割材を中心とする９本の杭材で構成される杭列である。ＲＷ７（ＳＫＰ644）・ＲＷ８（ＳＫＰ643）以外は杭の打ち込みによるものと考えられるがＲＷ６は掘方を伴うものであった可能性がある。列としての並びは認められるものの、杭間の距離は一定ではないため、性格は不明である。

ＳＡ103杭列跡（第23図、図版２）

[位置] ＭＡ54、ＭＢ54・55

[検出の経緯] Ｖ層上面を精査中に杭材を確認し、それらのまとまりを杭列と判断した。

[重複] ＳＤ60溝跡埋土に本遺構が構築されている。新旧関係は、ＳＤ60→ＳＡ103の順となる。

[規模] 長さ：5.23m（北東－南西）。

[所見] 長さ30.6～52.3㎝のミカン割材を中心とする４本の杭材で構成される杭列であるが、性格は不明である。ＲＷ３には掘方が伴っていた可能性がある。

ＳＡ124柵列跡（第22図、図版１）

[位置] ＭＤ・ＭＥ44

[検出の経緯] 整理作業で図上復元した柵列跡である。本遺構を構成する柱穴はＶ層上面で検出した。

[重複] なし。

[規模・形態] 長さ（北北西－南南東、Ｎ－52°－Ｗ）4.35m、３基の柱穴で構成される柵列跡である。

[埋土] 柱穴の埋土は、黒褐色のⅣｂ層由来土を基調とし、Ｖ層地山小塊や炭化物を含む。

[所見] 周辺の柱穴様ピットより大きな掘方をもつが、目的は不明である。遺物は出土しなかった。

ＳＡ125柵列跡（第22図、図版１）

[位置] ＭＤ46・47

[検出の経緯] 整理作業で図上復元した柵列跡である。本遺構を構成する柱穴はＶ層上面で検出した。

[重複] Ｐ１（ＳＫＰ491）柱穴とＳＤ58溝跡が重複するが新旧は不明である。

[規模・形態] 長さ（北北西－南南東、Ｎ－17°－Ｗ）4.7m、３本の柱で構成される柵列跡である。

[埋土] 柱穴の埋土は、黒褐色のⅣｂ層由来土を基調とし、Ｖ層地山小塊や炭化物を含む。

[所見] ＳＡ126柵列跡と近接し平行するため、建て替えの新旧を示す可能性がある。ＳＢ115掘立柱建物跡と重複するが、関係は不明である。遺物は出土しなかった。

ＳＡ126柵列跡（第22図、図版１）

[**位置**]ＭＤ46・47

[**検出の経緯**]整理作業で図上復元した柵列跡である。本遺構を構成する柱穴はⅤ層上面で検出した。

[**重複**]Ｐ１（ＳＫＰ522）柱穴とＳＤ58溝跡が重複するが新旧は不明である。

[**規模・形態**]長さ（北北西－南南東、Ｎ－17°－Ｗ）5.85m、３基の柱穴で構成される柵列跡である。

[**埋土**]柱穴の埋土は、黒褐色のⅣｂ層由来土を基調とし、Ⅴ層地山小塊や炭化物を含む。

[**出土遺物**]Ｐ２（ＳＫＰ452）柱穴から、土師器の坏破片2.5ｇ・甕破片13.1ｇ・器種不明小片2.7ｇが出土した。

[**所見**]ＳＡ125柵列跡と近接し平行するため、建て替えの新旧を示す可能性がある。ＳＢ115掘立柱建物跡と重複するが、関係は不明である。

ＳＡ127柵列跡（第22図、図版１）

[**位置**]ＭＤ49・50

[**検出の経緯**]整理作業で図上復元した柵列跡である。Ⅴ層上面を精査中に柱穴群を確認したが、構造物として正確な平面形を捉えることができなかった。整理作業において、柵列跡と判断した。

[**重複**]Ｐ３（ＳＫＰ645）がＳＫＰ646･647と重複するが、新旧は不明である。建て替えの可能性もある。

[**規模・形態**]長さ（北北西－南南東、Ｎ－18°－Ｗ）5.7m、３基の柱穴で構成される柵列跡である。Ｐ２（ＳＫＰ625）柱穴を中心に、北にＰ１（ＳＫＰ626）柱穴、南にＰ３（ＳＫＰ645）柱穴が同じ距離（柱間2.85m）に位置する。

[**埋土**]柱穴の埋土は、黒褐色のⅣｂ層由来土を基調とし、Ⅴ層地山小塊や炭化物を含む。

[**所見**]ＳＢ116掘立柱建物跡と軸方向が一致するため、同時期の遺構と推定する。遺物は出土しなかった。

４　溝跡

ＳＤ26溝跡（第25・26図、図版５）

[**位置**]ＭＢ51～54、ＭＣ53

[**検出の経緯**]Ⅴ層上面で黒色土の帯状の広がりを確認し、精査により溝跡と判断した。

[**重複**]ＳＤ60溝跡と重複し、同溝跡を切る。新旧関係は、ＳＤ60→ＳＤ26の順となる。

[**規模・形態**]長さ（北－南）：（12.96）m、幅：0.16～0.37m、深さ：0.2m。確認面から底面までは浅く、壁の立ち上がりは急である。底面はほぼ平らである。北側に緩やかに下るが、高低差は小さい。

[**埋土**]埋土はⅣｂ層由来土にⅤ層由来土塊・炭化物・砂礫を含む層であり、底面付近にラミナ状の水成堆積が認められる部分があることから、溝機能時の自然堆積を経て埋め戻しされたと判断する。

[**出土遺物**]須恵器の壺･甕類破片68.7ｇ、土師器の坏破片98.6ｇ、磨石１点1,038ｇが出土した。この他に、被熱を受けた円礫が多く出土した。遺物のほとんどが底面付近からの出土である。

[**所見**]ＭＡ50、ＭＢ50・51で北西－南東方向に、ＭＢ52・53で直線状に北北西－南南東方向に延びる。本遺構とＳＤ60溝跡の交点にＳＱ65敷石遺構が構築されているが、ＳＤ60溝跡を埋め戻し本遺構の底面と同じ高さに調整した上でＳＱ65敷石遺構が構築されているため、ＳＱ65敷石遺構は本遺構とほぼ同時に作られたものと推定する。

ＳＤ28溝跡（第28図、図版３）

[位置] ＭＣ44・45

[検出の経緯] Ｖ層上面で黒褐色土の広がりを確認し、精査により溝跡と判断した。

[重複] ＳＫ36･128土坑、ＳＤ41･83溝跡と重複する。ＳＫ36、ＳＤ83との新旧関係は確認できなかったが、本遺構がＳＫ128を切り、ＳＤ41に切られるため、新旧関係は、ＳＫ128→ＳＤ28→ＳＤ41の順となる。

[規模・形態] 長さ（北東－南西）：5.99m、幅：0.4m、深さ：0.14m。大部分は直線であるが、北端付近で西へ隅丸状に曲がっている。底面は、ほぼ平らであるが、底面幅は一様ではない。

[埋土] 埋土はＶ層由来土小塊・炭化物を含むⅣｂ層由来土の単一層であり、埋め戻しと判断する。

[出土遺物] 埋土から、須恵器の壺・甕類胴部破片23.4ｇ、土師器の坏破片148.3ｇ・内黒坏破片12.8ｇ・甕破片244.0ｇ・鍋破片52.0ｇ・器種不明小片149.6ｇが出土した。

[所見] ＳＢ115掘立柱建物跡に伴う外周溝と同様の溝の可能性があるが、対応する建物を検出することはできなかった。

ＳＤ35溝跡（第29図、図版８）

[位置] ＭＢ47

[検出の経緯] Ｖ層上面で、にぶい黄褐色土の帯状の広がりを確認し、精査により溝跡と判断した。

[重複] ＳＫ30土坑と重複し、同遺構に切られる。新旧関係は、ＳＤ35→ＳＫ30の順となる。

[規模・形態] 長さ（北西－南東）：(1.43) m、幅：0.20～0.25m、深さ：0.08～0.10m。確認面から底面までは浅く、壁の立ち上がりはやや急である。底面はほぼ平らであるが、北西側に下る。

[埋土] 埋土はＶ層由来土にⅣｂ層由来土を斑状に含む層であり、埋め戻しと判断する。

[出土遺物] 埋土から、土師器の坏破片98.8ｇ・甕破片22.2ｇ・器種不明小片16.0ｇが出土した。

[所見] 両端部は上面の削平のため、消失したものと考えられる。区画溝の可能性がある。

ＳＤ41溝跡（第28図、図版３）

[位置] ＭＣ45

[検出の経緯] Ｖ層上面で黒褐色土の広がりを確認し、精査により溝跡と判断した。

[重複] ＳＤ28溝跡と重複し、本遺構がＳＤ28溝跡を切るため、新旧関係は、ＳＤ28→ＳＤ41となる。

[規模・形態] 長さ（西北西－東南東）：1.13m、幅：0.19m、深さ：0.10m。直線的な溝跡で、ＳＤ28溝跡に垂直に接している。底面は、ほぼ平らである。

[埋土] 埋土はＶ層由来土小塊・炭化物を含むⅣｂ層由来土の単一層で、埋め戻しと判断する。

[所見] 小規模な溝であるため、性格は不明である。遺物は出土しなかった。

ＳＤ42溝跡（第28図、図版７）

[位置] ＭＣ44・45

[検出の経緯] Ｖ層上面で黒褐色土の広がりを確認し、精査により溝跡と判断した。

[重複] ＳＫ27･37土坑と重複する。本遺構が両遺構を切る。新旧関係は、ＳＫ27･37→ＳＤ42の順となる。

[規模・形態] 長さ（西北西－東南東）：(4.1) m、幅：0.2m、深さ：0.1m。直線的な溝跡である。ＳＫ27土坑より南側では、上端・下端の形状を確認することができたが、これより北では確認レベルが少し低くなってしまったことから、残存状態が悪く掘り込みを図化することができなかった。ＳＫ27土坑より南側の底面はほぼ平らである。

[埋土] 埋土はＳＤ28溝跡と同様で、Ｖ層由来粘土小塊、炭化物を含むⅣｂ層由来土の単一層で、埋め

戻しと判断する。

[**出土遺物**]埋土から、土師器の坏破片13.6ｇ・甕破片28.5ｇ・器種不明小片5.5ｇが出土した。

[**所見**]北側延長線上にＳＤ50溝跡があり、本来は連続する同一の溝と推定する。

ＳＤ47溝跡（第29図、図版３）

[**位置**]ＭＡ46、ＭＢ・ＭＣ47

[**検出の経緯**]Ｖ層上面で、にぶい黄褐色土の帯状の広がりを確認し、精査により溝跡と判断した。

[**重複**]ＳＫ25土坑、ＳＤ49溝跡と重複し、ＳＫ25土坑に切られる。ＳＤ49溝跡との関係は不明である。新旧関係は、ＳＤ47→ＳＫ25の順となる。この他、10基の柱穴様ピットと切り合うが、新旧関係は不明である。

[**規模・形態**]長さ（西北西－東南東）：(6.97)ｍ、幅：0.21～0.35m、深さ：0.04～0.22m。確認面から底面までは浅く、壁の立ち上がりはやや急である。底面はほぼ平らであるが、北西に下る。

[**埋土**]埋土は２つに分けた。１層がＶ層由来土にⅣｂ層由来土を斑状に含む層、２層がⅣｂ層由来土にＶ層由来土を斑状に含む層であり、埋め戻しと判断する。

[**出土遺物**]埋土から、土師器の坏破片485.3ｇ・内黒坏破片16.3ｇ・甕破片250.6ｇ・器種不明小片105.1ｇが出土した。

[**所見**]西端部はＳＤ49溝跡とＭＣ47区でほぼ垂直に交差するが、時期差のない可能性もある。東端部は旧水田に伴う暗渠によって破壊されている。区画溝の可能性がある。

ＳＤ49溝跡（第30図、図版３）

[**位置**]ＭＢ47、ＭＣ46・47

[**検出の経緯**]Ｖ層上面で暗褐色土の帯状の広がりと、その南端に不整楕円形の暗褐色土の広がりを確認した。後の精査により、２条の溝跡と土坑が切り合っていることが判明した。

[**重複**]ＳＤ47･50･58溝跡、ＳＮ34焼土遺構、ＳＫ121土坑と重複し、ＳＤ50溝跡、ＳＫ121土坑を切る。ＳＮ34焼土遺構はＳＫ121土坑埋土上面に形成された遺構である。ＳＤ47・58溝跡との新旧関係は不明である。新旧関係は、ＳＫ121→ＳＤ50→ＳＤ49→ＳＮ34の順となる。ＳＫＰ362柱穴は本遺構埋土で確認したため本遺構より新しい。その他、９基の柱穴様ピットと重複するが新旧関係は不明である。

[**規模・形態**]長さ（北北東－南南西）：(7.93)ｍ、幅（北北西－南南東）：0.22～0.75m、深さ：0.05～0.23m。確認面から底面までは浅く、壁の立ち上がりはやや急である。底面はほぼ平らである。北西側に緩やかに傾斜し、高低差は小さい。北端が北西方向に曲がる。

[**埋土**]埋土はＶ層由来のにぶい黄褐色土粒・塊、炭化物粒・材を含む暗褐色土を主体とする。埋め戻しと判断する。

[**出土遺物**]埋土から、須恵器の壺・甕類破片36.7ｇ、土師器の坏破片227.3ｇ・甕破片230.5ｇ・器種不明小片1.7ｇが出土した。

[**所見**]ＳＤ50溝跡を作り替えた溝の可能性がある。南側は不明瞭であるが、延長線上にＳＤ47溝跡が延びているため、本来は連続する同じ溝の可能性がある。ＳＢ115掘立柱建物跡の東側を囲うように巡るため、建物に伴う排水溝と推定する。

ＳＤ50溝跡（第30図、図版３）

[**位置**]ＭＣ46

[検出の経緯] Ｖ層上面で暗褐色土の帯状プランと、その南端に不整楕円形の暗褐色土の広がりを確認した。後の精査により、２条の溝跡と土坑が切り合っていることが判明した。

[重複] ＳＤ49溝跡、ＳＮ34焼土遺構、ＳＫ121土坑と重複し、ＳＫ121土坑を切り、ＳＤ49溝跡に切られる。ＳＮ34焼土遺構はＳＫ121土坑埋土上面に形成された遺構である。新旧関係は、ＳＫ121→ＳＤ50→ＳＤ49→ＳＮ34の順となる。その他、ＳＫＰ368柱穴様ピットと切り合うが新旧関係は不明である。

[規模・形態] 長さ（北北東－南南西）：(2.98) m、幅：0.14～0.50m、深さ：0.09m。確認面から底面までは浅く、壁の立ち上がりはやや急である。底面はほぼ平らである。北西側に緩やかに傾斜し、高低差は小さい。

[埋土] 埋土はＶ層由来のにぶい黄褐色土小塊、炭化物粒・材を含むⅣｂ層由来土を主体とする。埋め戻しと判断する。

[出土遺物] 埋土から、土師器の甕破片401.6ｇ・器種不明小片223.3ｇが出土した。

[所見] ＳＤ49溝跡が作られる前の溝の可能性がある。南側は不明瞭であるが、延長線上にＳＤ47溝跡が延びているため同じ遺構の可能性がある。ＳＢ115掘立柱建物跡に伴う排水溝と推定する。

ＳＤ55溝跡（第28図）

[位置] ＭＢ・ＭＣ48

[検出の経緯] Ｖ層を精査中に、暗褐色土の帯状の広がりを確認し、後の精査により溝跡と判断した。

[重複] ＳＫ23土坑と重複し、同遺構に切られる。新旧関係は、ＳＤ55→ＳＫ23の順となる。その他、８基の柱穴様ピットと切り合うが新旧関係は不明である。

[規模・形態] 長さ（北西－南東）：(8.40) m、幅：0.18～0.51m、深さ：0.06～0.12m。確認面から底面までは浅く、壁の立ち上がりはやや急である。底面は、ほぼ平面を保ちながら西側に緩やかに下る。

[埋土] 埋土は、Ⅳｂ層由来土にＶ層由来土小塊・焼土小塊・炭化物を含む層で、埋め戻しと判断する。

[出土遺物] 埋土から、土師器の坏破片214.7ｇ・内黒坏破片0.7ｇ・甕破片99.2ｇ・鍋破片26.5ｇ・器種不明小片41.3ｇが出土した。

[所見] 両端部は消失しているため不明瞭である。南側4.2mにあるＳＤ58溝跡とほぼ平行する位置にあるため、同時期の区画溝の可能性がある。

ＳＤ56溝跡（第29図、図版３）

[位置] ＭＥ47

[検出の経緯] Ｖ層上面で黒褐色土の広がりを確認し、精査により溝跡と判断した。

[重複] なし。

[規模・形態] 長さ（南－北）：3.62m、幅：0.23m、深さ：0.1m。直線的な溝跡である。底面は平らで、壁は急角度で立ち上がる。

[埋土] 埋土は、灰黄色粘土塊、炭化物を含む黒褐色土からなり、２つに分けた。２層は標高が高い東側からの流れ込みによる最初の堆積層で、溝機能時の自然堆積を経て埋め戻しが行われたと判断する。

[出土遺物] 埋土から、土師器の坏破片18.0ｇ・器種不明小片2.4ｇが出土した。

[所見] 性格は不明である。

ＳＤ57溝跡（第24図、図版３・４）

[位置] ＭＣ50～53、ＭＤ49～51、ＭＥ49、ＭＦ48・49

[**検出の経緯**] Ｖ層上面で黒褐色土の帯状の広がりを確認し、精査により溝跡と判断した。

[**重複**] ＳＤ72溝跡と重複し、同遺構に切られる。新旧関係は、ＳＤ57→ＳＤ72の順となる。その他、ＳＫＰ636～639・650柱穴様ピットと重複するが新旧関係は不明である。

[**規模・形態**] 長さ（北北東－南南西）：30.2m、幅：0.33～0.82m、深さ：0.15m。確認面から底面までは浅く、壁の立ち上がりはやや急である。底面は、ほぼ平面を保ちながら南西側に向かって下る。

[**埋土**] 埋土は、Ⅳｂ層由来土とＶ層由来土の混合土からなるが、レンズ状の堆積を示し、一部底面付近ではラミナ状の水成堆積が確認できることなどから、地表面からの崩落土などによる自然堆積を経て埋め戻しが行われたと判断する。

[**出土遺物**] 埋土から、須恵器の壺・甕類破片120.1ｇ、土師器の坏破片81.8ｇ・内黒坏破片84.9ｇ・甕破片407.8ｇ・長胴甕286.3ｇ・鍋破片19.7ｇ・器種不明小片93.9ｇが出土した。

[**所見**] ＭＤ～ＭＦ区で北東－南西方向に緩やかに弧状に、ＭＢ・ＭＣ区で北北東－南南西方向に直線状に延びる。南端部は調査区外に延びるため未確認である。隣接するＳＤ72・85溝跡とは、底面の傾斜が逆となり、旧地形に沿って南西側に下る整地前の溝跡と推測する。降雨時には水が流れていたと推定する。

ＳＤ58溝跡（第30図）

[**位置**] ＭＣ・ＭＤ46

[**検出の経緯**] Ｖ層上面で暗褐色土の帯状の広がりを確認し、精査により溝跡と判断した。

[**重複**] ＳＤ49溝跡、10基の柱穴様ピットと重複するが、新旧関係は不明である。

[**規模・形態**] 長さ（北西－南東）：(8.00) m、幅：0.18～0.50m、深さ：0.13～0.45m。確認面から底面までは浅く、壁の立ち上がりはやや急である。底面は、平面を保ちながら西に向かって下る。

[**埋土**] 埋土は、１層がⅣｂ層由来土にＶ層由来土を含む層で、２層がＶ層由来土にⅣｂ層由来土を斑状に含む層である。ラミナ状の水成堆積は確認できず、２つの層は、埋め戻し作業の中で生じた単位を示すと判断する。

[**所見**] 東端部はＳＤ49溝跡と重複するが、時期差のない遺構の可能性がある。北側5.2mにあるＳＤ55溝跡とほぼ平行する位置にある。西端部は上面の削平のため、消失し不明瞭である。区画溝の可能性がある。遺物は出土しなかった。

ＳＤ59溝跡（第25図）

[**位置**] ＭＣ54

[**検出の経緯**] Ｖ層で黒褐色土の帯状の広がりを確認し、精査により溝跡と判断した。

[**重複**] なし。

[**規模・形態**] 長さ（北東－南西）：(3.52) m、幅：0.08～0.39m、深さ：0.02～0.08m。確認面から底面までは浅く、壁の立ち上がりはやや急である。底面は、南西に向かって下る。

[**埋土**] 埋土はⅣｂ層由来土にＶ層由来土小塊・炭化物を含む層で、埋め戻しと判断する。

[**出土遺物**] 埋土から、土師器の内黒坏破片3.0ｇ・器種不明小片5.3ｇが出土した。

[**所見**] 北端部は消失し不明瞭である。区画溝の可能性が考えられる。

ＳＤ60溝跡（第25～27図、図版４・５）

[**位置**] ＬＴ43～49、ＭＡ48～52、ＭＢ51～57

[検出の経緯] Ｖ層上面で暗褐～黒褐色土の帯状の広がりを確認し、精査により溝跡と判断した。

[重複] ＳＤ26溝跡、ＳＱ65敷石遺構、ＳＲ109土器埋設遺構と重複し、ＳＤ26溝跡に切られる。ＳＱ65敷石遺構は本遺構を埋め戻した後、構築されているため本遺構より新しい。また、本遺構内から出土したＳＲ109土器埋設遺構は、土器の残存状態から、本遺構埋没後に埋設された可能性が高い。新旧関係は、ＳＤ60→ＳＤ26・ＳＱ65、ＳＤ60→ＳＲ109の順となる。その他６基の柱穴様ピットと重複するが新旧関係は不明である。

[規模・形態] 長さ（北西－南東）：58.9m、最大幅：2.9m、深さ：0.5m。確認面から底面までは比較的深く、壁の立ち上がりはやや急である。底面は凹凸があり、北側に緩やかに下り、北端部で沢に接続する。南端部は上面の削平のため、消失した可能性がある。南端部付近の45～47ラインでは、上下に２分され、埋土上層の新しい溝をＳＤ60ａ、古い溝をＳＤ60ｂとする。

[埋土] 斜面直下に構築された遺構であり、埋土はＶ層由来のにぶい黄褐色土粒・塊と炭化物粒・材、砂礫を多量に含む黒～暗褐色土を主体とする。ラミナ状の水成堆積が認められ、溝機能時の自然堆積を経て埋め戻しされたと判断する。埋土には被熱を受けた円礫等が多量に投棄されている。

[出土遺物] 須恵器の坏破片150.5ｇ・壺・甕類破片1,346.2ｇ、土師器の坏破片5,217.7ｇ・内黒坏破片３点128.7ｇ・甕破片1,528.1ｇ・長胴甕破片578.8ｇ・鍋破片284.7ｇ・器種不明小片427.2ｇ、灰釉陶器破片69.7ｇ、支脚破片32.7ｇ、砥石20.4ｇ、礫が出土した。遺構範囲が広いため、須恵器、土師器、灰釉陶器など様々な種類の遺物が出土した。なかでも、土師器の坏の出土量が突出し、底面から完形に近い状態で出土したものも少なくない。土師器の坏には、底面から丸みをもって立ちがるもの、直線的に立ち上がるものがある。第48図１は、須恵器の大甕の胴部である。第61図４の大甕と同一個体とみられる。内面に２種類の当て具痕がある。第50図９は、底面に記号のような墨書が記された土師器の坏である。第51図１は灰釉陶器瓶類の肩部で、筋状の深緑色の釉が掛かる。ＳＫ61土坑出土破片と接合した。第58図１・２は、埋土から出土した被熱痕がある礫である。１は、黒く煤けた部分が広範囲に広がる。２は、平たい面があり中央部に鉄分様の付着物があり、磁着するため鉄床石と推定する。

[所見] 斜面直下に構築された溝で、ラミナ状堆積が確認できることから、水が流れていたと推定する。底面標高から、水は南から北側の沢に流れ込んでいたとみられ、底面付近から完形に近い状態で大量に出土した土師器（坏）から、水辺を利用した祭祀が行われていたと推定する。また、この他に本遺構埋土からは祭祀関連の遺構と考えられるＳＲ109土器埋設遺構が検出されているため、一定期間に渡り祭祀が行われていたと考えられる。本遺構とＳＤ26溝跡の交点に構築されるＳＱ65敷石遺構は、本遺構を埋め戻しＳＤ26溝跡の底面と同じ高さにした上で構築されていることから、ＳＱ65敷石遺構の構築に合わせて水路を直線化したものがＳＤ26溝跡である可能性が高い。45～47ラインで確認したＳＤ60ｂ溝跡は、当初からの溝（ＳＤ60ａ）が土砂の堆積により浅くなったのを受け、掘り返し改修したものと推測する。溝の断面形や底面標高から、北に位置するＳＤ26溝跡と一連のものである可能性がある。本遺構の埋土からは、被熱痕のある大礫が多数出土したが、中には東側斜面から落下したような状態のものも見受けられる。斜面上位でも鍛冶作業等が行われていた可能性を想定する必要がある。

ＳＤ70溝跡（第25・26図、図版５）

[位置] ＭＡ50、ＭＢ50～53

[検出の経緯] Ｖ層上面で帯状の黒褐色土の広がりを確認し、精査により溝跡と判断した。

[**重複**] ＳＤ26溝跡と重複し、同遺構を切る。新旧関係は、（ＳＤ60）→ＳＤ26→ＳＤ70の順となる。

[**規模・形態**] 長さ（北－南）：(12.96) m、幅：0.16～0.37m、深さ：0.07～0.10m。確認面から底面までは浅く、壁の立ち上がりは急である。底面は、ほぼ平面を保ちながら北側に向かって緩やかに下る。

[**埋土**] 埋土は２つに分けた。１層がⅣｂ層由来土にⅤ層由来土を含む層であり、２層がⅤ層由来土にⅣｂ層由来土を含む層である。２層にはラミナ状の水成堆積が認められるため、溝機能時の自然堆積を経て、埋め戻しされたと判断する。

[**出土遺物**] 埋土から、須恵器の壺・甕類破片176.2ｇ、土師器の坏破片452.2ｇ・内黒坏破片102.2ｇ・甕破片40.7ｇ・長胴甕29.0ｇ・器種不明小片28.2ｇが出土した。

[**所見**] 南端部は上面の削平のため、消失した可能性がある。区画溝の可能性がある。

ＳＤ72溝跡（第24図、図版４）

[**位置**] ＭＣ49～53

[**検出の経緯**] Ⅴ層上面で暗褐色土の帯状の広がりを確認し、精査により溝跡と判断した。

[**重複**] ＳＤ57・85溝跡と重複し、同遺構を切る。新旧関係は、ＳＤ57→ＳＤ72、ＳＤ85→ＳＤ72の順となる。ＳＫＰ635柱穴様ピットと重複するが、新旧関係は不明である。

[**規模・形態**] 長さ（北－南）：(14.30) m、幅：0.13～0.25m、深さ：0.02～0.07m。確認面から底面までは浅く、壁の立ち上がりは急である。底面は、ほぼ平面を保ちながら北側に向かって下る。

[**埋土**] 埋土はⅣｂ層由来土にⅤ層由来土塊・炭化物を含む層で、埋め戻しと判断する。

[**所見**] ＭＣ49～50で直線状に、ＭＣ51～52で緩やかに弧状に北－南方向に延びる。南端部は上面の削平のため、消失したものと推定する。ＳＤ85溝跡とほぼ同位置で構築され、ＳＤ57・85溝跡とＭＣ52で交わるが最も新しい溝跡である。区画溝の可能性がある。遺物は出土しなかった。

ＳＤ83溝跡（第28図、図版４）

[**位置**] ＭＢ・ＭＣ45

[**検出の経緯**] Ⅴ層上面で灰褐色土の帯状の広がりを確認し、精査により溝跡と判断した。

[**重複**] ＳＤ28溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。

[**規模・形態**] 長さ（西北西－東南東）：1.85m、幅：0.15m、深さ：0.1m。壁は急角度で立ち上がる。

[**埋土**] 埋土はⅣｂ層由来土にⅤ層由来土塊・炭化物を含む層で、埋め戻しと判断する。

[**所見**] 詳細な記録はなく、写真で位置を復元した。遺物は僅かで土師器の坏小片が2.1ｇ出土した。

ＳＤ85溝跡（第24・25図、図版４）

[**位置**] ＭＣ49～53

[**検出の経緯**] Ⅴ層で暗褐色土の帯状の広がりを確認し、精査により溝跡と判断した。

[**重複**] ＳＤ57・72溝跡と重複し、ＳＤ57溝跡を切り、ＳＤ72溝跡に切られる。新旧関係は、ＳＤ57→ＳＤ85→ＳＤ72の順となる。ＳＫＰ612～614柱穴様ピットと重複するが、新旧関係は不明である。

[**規模・形態**] 長さ（北－南）：(18.02) m、幅：0.11～0.57m、深さ：0.13m。確認面から底面までは浅く、壁の立ち上がりはやや急である。底面はほぼ平らな面を保ちながら、北へ緩やかに下る。

[**埋土**] 埋土は２つに分けた。１層がⅣｂ層由来土にⅤ層由来土を含む層で、２層がⅤ層由来土にⅣｂ層由来土を含む層である。２層にはラミナ状の水成堆積が確認できることから、溝機能時の自然堆積を経て埋め戻しが行われたと判断する。

[**出土遺物**] 埋土から、須恵器の壺・甕類の胴部破片607.2ｇ、土師器の坏破片154.1ｇ・甕破片25.4ｇ・長胴甕11.8ｇ・器種不明小片5.3ｇが出土した。

[**所見**] 残存する南端のＭＣ49で北西－南東方向に、北端のＭＣ53で北東－南西方向に緩やかに弧状に延びる。両端部は上面の削平のため、消失したものと推定する。ＳＤ72溝跡とほぼ同位置で構築され、ＳＤ57・72溝跡とＭＣ52で交わる。ＳＤ72溝跡より古く、ＳＤ57溝跡より新しい溝跡である。区画溝の可能性がある。

ＳＤ90溝跡（第31図、図版４）

[**位置**] ＬＴ46、ＭＡ44～46

[**検出の経緯**] Ｖ層上面で浅黄色土の広がりを確認し、精査により溝跡と判断した。

[**重複**] ＳＫ82土坑、ＳＤ60溝跡と重複する。新旧関係は、ＳＤ60→ＳＤ90→ＳＫ82の順となる。

[**規模・形態**] 長さ（北北東－南南西）：(7.85)ｍ、幅：0.3～0.5ｍ（Ⅲｃ層上面における幅1.4ｍ）、深さ：0.32ｍ。南西部分の上端がＳＫ82土坑によって切られる。緩く蛇行する溝跡である。確認面での幅は、0.3～0.5ｍほどであるが、Ｅ－Ｆ層序断面の観察により、掘り込み面と考えられるⅢｃ層上面における幅は1.4ｍほどあったことが判明した。底面はほぼ平らで、壁は緩やかに立ち上がる。

[**埋土**] 他の遺構とは異なり、浅黄色の埋土を基調とする。埋土は２つに分けたが、ともに自然堆積層と判断する。１層は、東側斜面上位からの土の流れ込みが顕著だったことを示す。

[**出土遺物**] 埋土から、土師器の坏破片19.7ｇ・器種不明小片4.4ｇが出土した。

[**所見**] 東側の斜面下にあることから、ＳＤ60溝跡埋没後に排水目的として作られた溝と推測する。

ＳＤ92溝跡（第30図、図版４）

[**位置**] ＭＡ45・46

[**検出の経緯**] Ｖ層上面で褐灰色土の広がりを確認し、精査により溝跡と判断した。

[**重複**] ＳＫ38、ＳＮ40、ＳＫＰ610柱穴様ピットと重複し、これらの遺構を切る。新旧関係は、ＳＫ38・ＳＮ40・ＳＫＰ610→ＳＤ92の順となる。

[**規模・形態**] 長さ（北北東－南南西）：(4.78)ｍ、幅：0.6ｍ、深さ：0.22ｍ。北西部が旧水田の暗渠によって破壊されているが、直線的な溝跡と推測する。底面にはなだらかな起伏がある。

[**埋土**] 埋土は、灰黄色粘土小塊・炭化物を含む褐灰色土からなり、埋め戻しによるものと判断する。

[**出土遺物**] 土師器の坏破片8.0ｇが出土した。

[**所見**] 性格は不明である。

ＳＤ100溝跡（第29図、図版４）

[**位置**] ＭＦ45

[**検出の経緯**] Ｖ層上面で黒褐色土の広がりを確認し、精査により溝跡と判断した。

[**重複**] なし。

[**規模・形態**] 長さ（北東－南西）：1.91ｍ、幅：0.26ｍ、深さ：0.08ｍ。直線的な溝跡である。底面は平らで、壁は急角度で立ち上がる。

[**埋土**] 埋土は、灰黄色粘土塊・炭化物を含む褐灰色土からなるが、埋土が薄く情報に乏しいため、堆積成因を判断することはできなかった。

[**出土遺物**] 埋土から、土師器の坏破片4.8ｇ・器種不明小片1.4ｇが出土した。

[所見]性格は不明である。

ＳＤ107溝跡（第31図、図版５）

[位置]ＬＲ57・58、ＬＳ57・58、ＬＴ57

[検出の経緯]Ｖ層上面を精査中に灰黄褐色土の広がりを確認し、精査により溝跡と判断した。

[重複]なし。

[規模・形態]長さ（東－西）：(8.74) m、幅：0.5～1.0m、深さ：0.36m。直線的な溝跡である。本来はさらに西側へ延びるものと推測する。底面は一様ではなく、低くえぐられた部分からは礫が出土した。壁の立ち上がりも場所によって異なるが、全体的にはやや急角度で立ち上がる。

[埋土]埋土は砂を含む褐灰色土からなり、水成堆積により比較的短期間で埋没したと判断する。

[出土遺物]底面から長径25㎝前後の大形の礫が２点出土した。

[所見]性格は不明である。

ＳＤ123溝跡（第43図、図版５・12）

[位置]ＬＴ58

[検出の経緯]北側沢地内で灰黄褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と溝の重複と判断した。

[重複]ＳＫ106土坑と切り合うが、新旧関係を明らかにすることができなかった。ＳＫ106土坑部分にのみ遺物が集中することから、本遺構埋没後にＳＫ106土坑が掘り込まれた可能性がある。

[規模・形態]長さ（東－西）：1.6m、幅（北－南）：0.63m、深さ：不明。緩やかに蛇行する可能性がある。壁の立ち上がりはやや急である。

[埋土]暗褐色の砂質シルトが堆積していたが詳細は不明である。

[所見]残存部分が僅かであるため、性格は不明である。遺物は出土しなかった。

５　敷石遺構

ＳＱ65敷石遺構（第32図、図版５）

[位置]ＭＡ50

[検出の経緯]ＳＤ26・60溝跡を精査中に、円礫の集中地点を確認し、後の精査により敷石遺構であることが判明した。

[重複]ＳＤ26・60溝跡の交点に本遺構が構築されているが、ＳＤ60溝跡を埋め戻しＳＤ26溝跡の底面と同じ高さに調整した上で本遺構が構築されているため、本遺構はＳＤ26とほぼ同時に作られたものと推定する。従って新旧関係は、ＳＤ60→ＳＤ26・ＳＱ65の順となる。

[規模・形態]長軸（北西－南東）：2.00m、短軸（北東－南西）：1.58mの楕円形の広がり。ＳＤ60溝跡に粘土塊を楕円形に置き、その上に円礫を敷き詰め、礫の間に粘土塊を充填して構築されたものと考える。敷石の上面はほぼ平らであるが、外周部には比較的大きな礫を使用し、一段高く敷き詰める傾向が見られる。一部に砂岩が含まれ、礫のない部分は軟質の礫が劣化などにより原形が崩れた可能性が考えられる。南東側に他と比較して極端に大きな円礫（第32図ＲＳ１）が立体的に突出して設置される。礫は全体に被熱を受け赤みを帯び、直下で須恵器壺もしくは甕破片を検出した。

[埋土]ＳＤ60溝跡の埋土上に構築された遺構である。本遺構の構築に伴う層は１層で、礫を設置するために充填した粘土である。２～３層は自然堆積層である。１層上面の礫の間に砂が堆積するが、本来はＳＤ60溝跡の水成堆積と考えられる。

[**出土遺物**] 礫の上下から出土した遺物を一応本遺構出土遺物として捉えると、須恵器の坏破片79.2ｇ土師器坏（破片含む）133.0ｇ・甕破片251.8ｇ・長胴甕破片10.1ｇが出土した。本遺構の上面に水成堆積と考えられるラミナ状の砂層の痕跡が確認され、この水成堆積土から完形の土師器坏が２個（第52図２・３）出土した。これらは、ＳＤ26埋土出土遺物の可能性も想定される。

[**所見**] 本遺構はＳＤ26溝跡と底面レベルが近いことから、ＳＤ60溝跡を埋め戻し底面を上げ整えた上で構築されたものと推定する。本遺構構築後もＳＤ60溝跡の下流側が機能していたかは定かではないが、ＳＤ26溝跡と同時に本遺構が構築され、ＳＤ60溝跡上流側からの流れが直線化されたと推測できる。本遺構は溝の中に楕円形に礫を敷き詰めるという類例の少ない遺構であり、祭祀に関わる遺構と推定する。

６　集石遺構

ＳＱ113集石遺構（第32図）

[**位置**] ＬＴ44

[**検出の経緯**] Ⅳ層上面を精査中に大礫の集中地点を確認し、集石遺構と判断した。

[**重複**] なし。

[**礫・遺物の広がり**] 長軸（北北西－南南東）：1.31m、短軸（西南西－東北東）：1.05m。8個の礫からなる集石遺構である。ＲＳ２・３・４・５が積み重なっている。全ての礫に被熱痕が認められる。礫集中部分の最下位に位置する礫と最上位に位置する礫との高低差は20㎝ほどあるため、これらの礫は地表面上に積み上げたものではなく、本来、土坑に埋納したものである可能性が高い。

[**出土遺物**] 周辺から、高台付の須恵器坏破片や土師器破片が出土した。

[**所見**] 礫集中部分は土坑に伴う遺物群である可能性が高いが、掘り込みを確認することはできなかった。土坑掘削に伴い生じたⅤ層土をそのまま埋め戻したためと推測する。礫周辺の想定埋土部分には、黒色系の土が確認できないことから、掘削時、遺構周辺には腐食土が発達せず地山が露出した状態に近かったと推測する。被熱した礫をまとめて埋納した遺構と推測されるが、具体的な性格は不明である。

７　土器埋設遺構

ＳＲ109土器埋設遺構（第32図、図版12）

[**位置**] ＬＴ47

[**検出の経緯**] ＳＤ60溝跡を精査中に、土師器坏の上に載った砥石を確認し、後の精査により土器埋設遺構であることが判明した。

[**重複**] ＳＤ60溝跡底面付近で出土したが、土師器坏及び砥石の検出状況から溝埋没後に埋土を掘り込んで構築したものと考えられる。

[**規模・形態**] 正位に置かれた土師器坏の上に２個体の土師器坏を置き、その上に砥石を置いたものである。上位の坏は割れて下位の土器内埋土に混在した状態であったため、合口の状態であったか否かは不明である。砥石は重く坏よりも大きなものにもかかわらず下位の坏が大きく形態を崩していないことから、小さな穴に土器を入れ、その上に重しとして砥石を置いたと推測する。

[**出土遺物**] ほぼ完形の土師器の坏が３点と、砥石が出土した。土器内部からは、土以外の検出物はなかった。第55図２・３が上位の坏、４が下位の坏である。第57図６は、砥面や溝状の筋、蜂の巣状の敲打

痕を残す砥石で、1,076.9ｇの重さがある。

[所見]土器内からは土以外の混入物は検出されなかった。祭祀に伴う遺構と推測する。

８　土坑

ＳＫ01土坑（第33図、図版６）

[位置]ＬＴ52

[検出の経緯]Ｖ層上面で黒褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[重複]ＳＫ03土坑、ＳＫＰ201・221柱穴様ピットと重複し、ＳＫ03土坑、ＳＫＰ201柱穴様ピットに切られ、ＳＫＰ221を切る。新旧関係は、ＳＫＰ221→ＳＫ01→ＳＫ03、ＳＫＰ221→ＳＫ01→ＳＫＰ201の順となる。

[規模・形態]長軸（北東－南西）：(1.42)ｍ、短軸（北西－南東）：(0.96)ｍ、深さ：0.28ｍの楕円形。壁は急角度で立ち上がり、底面はほぼ平らである。

[埋土]埋土は２つに分けた。１層は旧地表面付近のⅣｂ層由来土にＶ層由来土小塊・炭化物・円礫を含む層、２層はＶ層由来土に旧地表面付近のⅣｂ層由来土小塊・炭化物・円礫を含む層で、ともに遺構掘削土による連続した埋め戻しの作業の中における単位を示すと判断する。

[出土遺物]埋土から、土師器の坏破片118.7g・甕破片368.5g・器種不明小片24.2gが出土した。

[所見]本遺構はＳＤ60溝跡の東側斜面上位の狭い平坦面にあり、調査区の大部分を占める下位面で検出した土坑と性格を異にする可能性がある。重複するＳＫ03土坑と埋土の堆積状況は似るが、ともに性格は不明である。

ＳＫ03土坑（第33図、図版６）

[位置]ＬＴ52

[検出の経緯]Ｖ層上面で黒褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[重複]ＳＫ01土坑、ＳＫＰ203柱穴様ピットと重複し、ＳＫＰ203柱穴様ピットに切られ、ＳＫ01土坑を切る。新旧関係は、ＳＫ01→ＳＫ03→ＳＫＰ203、ＳＫ01→ＳＫ03の順となる。

[規模・形態]長軸（北西－南東）：0.99ｍ、短軸（北東－南西）：0.87ｍ、深さ：0.15ｍの略円形。確認面から底面までは浅く、壁の立ち上がりは底面付近は緩やかで、開口部に向かってやや急である。底面は丸底気味である。

[埋土]埋土は２つに分けた。１層は旧地表面付近のⅣｂ層由来土にＶ層由来土小塊・炭化物を含む層、２層はＶ層由来土に旧地表面付近のⅣｂ層由来土小塊・炭化物を含む層で、ともに遺構掘削土を連続して埋め戻す作業の中における単位を示すと判断する。

[所見]本遺構はＳＤ60溝跡の東側斜面上位の狭い平坦面にあり、調査区の大部分を占める下位面で検出した土坑と性格を異にする可能性がある。重複するＳＫ03土坑と埋土の堆積状況は似るが、ともに性格は不明である。遺物は出土しなかった。

ＳＫ04土坑（第33図、図版６）

[位置]ＬＳ53

[検出の経緯]Ｖ層上面で黒色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[重複]ＳＫＰ227柱穴様ピットと重複し、同遺構に切られる。新旧関係は、ＳＫ04→ＳＫＰ227の順となる。

[**規模・形態**] 長軸（北－南）：0.78m、短軸（西－東）：0.78m、深さ：0.31mの略円形。壁の立ち上がりはほぼ垂直である。底面は平らである。

[**埋土**] 埋土は２つに分けた。１層は旧地表面付近のⅣｂ層由来土にⅤ層由来土小塊・炭化物を含む層、２層は地山土（地滑り流入土）由来の褐色砂質土に旧地表面付近のⅣｂ層由来土小塊・Ⅴ層由来土小塊・炭化物を含む層で、ともに遺構掘削土による連続した埋め戻し作業の中における単位を示すと判断する。

[**出土遺物**] 埋土から、土師器の坏破片95.9g・長胴甕破片16.7g・甕破片77.2g・器種不明小片19.5ｇが出土した。また、１層中央付近には長さ26㎝、径13㎝の円柱状の礫が斜めに置かれていた。

[**所見**] 本遺構はＳＤ60溝跡の東側の一段高いところにあり、下位面で検出した土坑と性格を異にする可能性がある。遺構中央部で出土した円柱状の礫は、墓等の標柱となっていた可能性がある。

ＳＫ05土坑（第33図、図版６）

[**位置**] ＭＤ47

[**検出の経緯**] Ⅴ層上面で黒褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**] ＳＫＰ228柱穴様ピットと重複し、同遺構を切る。新旧関係は、ＳＫＰ228→ＳＫ05の順となる。

[**規模・形態**] 長軸（西－東）：0.97m、短軸（北－南）：0.74m、深さ：0.22mの楕円形。壁の立ち上がりは南北方向がやや急で、東西方向が緩やかである。

[**埋土**] 埋土は２つに分けた。１層は当時の地表面付近のⅣｂ層由来土にⅤ層由来土小塊・炭化物を含む層、２層はⅤ層由来土に旧地表面付近のⅣｂ層由来土小塊・炭化物を含む層であり、ともに遺構掘削土による連続した埋め戻し作業の中における単位を示すと判断する。

[**出土遺物**] 埋土から、土師器の坏破片285.0ｇ・内黒坏破片38.8ｇ・甕破片37.9ｇ・器種不明小片23.0ｇ、須恵器の壺・甕破片20.6ｇ等の土器破片、支脚破片59.0ｇが出土した。

[**所見**] 祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性がある。

ＳＫ07土坑（第33図、図版６）

[**位置**] ＭＤ46

[**検出の経緯**] Ⅴ層上面で黒褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**] ＳＫＰ455・659・697柱穴様ピットと切り合うが、新旧関係は不明である。

[**規模・形態**] 長軸（北北西－南南東）：1.16m、短軸（東北東－西南西）：0.98m、深さ：0.08mの略円形。確認面から底面までは浅く、壁の立ち上がりは不明瞭である。底面は遺構中央部に向かって緩やかに傾斜する。

[**埋土**] 埋土は、Ⅴ層由来粘土小塊・炭化物を含むⅣｂ層由来の黒褐色土による単一層で、遺構掘削土による埋め戻しと判断する。

[**出土遺物**] 埋土から、土師器の甕破片60.3ｇが出土した。

[**所見**] 本遺構は、当時の生活面上で行われた地均しを示すⅢｃ層形成後に掘り込まれた遺構の可能性が高い。遺構の形状から祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性があるが、残存部分が遺構底面付近のみであるため詳細は不明である。

ＳＫ08土坑（第33図、図版６）

[**位置**] ＭＢ50

[**検出の経緯**]Ⅲａ層上面で黒褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**]ＳＫ63土坑埋土を掘り込んで構築された可能性がある。

[**規模・形態**]長軸(北西－南東)：1.13m、短軸(北東－南西)：0.52m、深さ：0.06mの長楕円形。確認面から底面までは浅く、壁の立ち上がりは不明瞭である。底面はほぼ平らである。

[**埋土**]埋土は、Ⅴ層由来粘土小塊・炭化物を含むⅣｂ層由来黒褐色土による単一層で、遺構掘削土による埋め戻しと判断する。

[**出土遺物**]埋土から、土師器の坏破片30.2ｇ・内黒坏破片17.0ｇ・甕破片33.6ｇ・器種不明小片8.2ｇが出土した。

[**所見**]埋土は黄褐色土の混入量が少いため、Ⅲａ層の盛土整地が安定した後に形成された土に由来する可能性がある。本遺跡では珍しい長楕円の平面形をもつが、性格は不明である。

ＳＫ17土坑(第34図、図版６)

[**位置**]ＭＡ46

[**検出の経緯**]Ⅴ層上面で黒褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**]なし。

[**規模・形態**]長軸(北－南)：0.76m、短軸(西－東)：0.61m、深さ：0.16mの楕円形。確認面から底面までは浅く、壁の立ち上がりは底面付近で緩やかで開口部に向けてやや急になる。底面は丸底気味である。

[**埋土**]埋土は３つに分けた。１層が旧地表面付近のⅣｂ層由来土を基調とする土にⅤ層由来土小塊・炭化物・焼土粒を含む層、２・３層はⅤ層由来土を基調とする土に旧地表面付近のⅣｂ層由来土や炭化物を含む層で、３つの層は遺構掘削土による連続した埋め戻し作業の中における単位を示すと判断する。

[**出土遺物**]土師器の坏破片487.7ｇ・内黒坏破片104.9ｇ・甕破片104.3ｇ・器種不明小片37.4ｇ、支脚破片16.5ｇ、鉄滓114.1ｇ等が出土した。内黒を含む完形に近い土師器の坏３点が１層下面の遺構中央付近で出土した。２点は正位の状態で出土している。なお、内黒坏は細片が多く復元することができなかった。第52図７・８は土師器の坏である。８は底部からややくびれて胴部へと立ち上がり、底部は台に近い形状となる。

[**所見**]土坑内に土器等の遺物を入れ、埋め戻したとみられる。祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性がある。

ＳＫ18土坑(第34図、図版13)

[**位置**]ＭＡ・ＭＢ46

[**検出の経緯**]Ⅴ層上面で黒褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**]ＳＮ112焼土遺構、ＳＫＰ237柱穴様ピットと重複し、これらの遺構に切られる。新旧関係は、ＳＫ18→ＳＮ112、ＳＫ18→ＳＫＰ237の順となる。

[**規模・形態**]長軸：0.67m(西－東)、短軸：0.58m(北－南)、深さ：0.09mの不整円形。確認面から底面までは浅く、壁の立ち上がりは緩やかである。底面は丸底である。

[**埋土**]埋土は、Ⅴ層由来土小塊・焼土小塊・炭化物を含むⅣｂ層由来土による単一層で、遺構掘削土による埋め戻しと判断する。埋土上面南西部分には、ＳＮ112焼土遺構が形成されている。ＳＫ18土坑埋土上面には焼土塊が点在しているため、ＳＮ112焼土遺構使用時の掻き出し等の際に広がった可

能性がある。

[所見]出土遺物もなく、性格は不明である。

ＳＫ19土坑（第34図、図版７）

[位置]ＭＢ45・46

[検出の経緯]Ｖ層上面で黒褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[重複]ＳＫＰ230柱穴様ピットと重複し、同遺構に切られる。新旧関係は、ＳＫ19→ＳＫＰ230の順となる。

[規模・形態]長軸（西－東）：(0.47)ｍ、短軸（北－南）：(0.53)ｍ、深さ：0.09ｍの略円形。確認面から底面までは浅く、壁の立ち上がりは緩やかである。底面は丸底である。

[埋土]埋土は、Ｖ層由来土小塊・炭化物・焼土粒を含むⅣｂ層由来土による単一層で、遺構掘削土による埋め戻しと判断する。

[出土遺物]埋土から、土師器の坏破片11.1ｇ・甕破片225.7ｇ・器種不明小片5.9ｇが出土した。

[所見]遺物は少ないが、祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性がある。

ＳＫ20・21土坑（第34図、図版７）

[位置]ＭＦ45

[検出の経緯]Ｖ層上面で黒褐色土と灰黄褐色土が混在した土の広がりを確認し、精査により重複する土坑と判断した。

[重複]ＳＫ20土坑がＳＫ21土坑を切るため、新旧関係は、ＳＫ21→ＳＫ20の順となる。

[規模・形態]ＳＫ20土坑は、長軸（北西－南東）：0.67m、短軸（北東－南西）：0.52m、深さ：0.13mの不整円形。ＳＫ21土坑は長軸（北－南）：0.83m、短軸（東－西）：0.74m、深さ：0.23mの不整円形。両遺構とも北側壁は底面から急角度で立ち上がるが、南半部は緩やかに立ち上がる。

[埋土]ＳＫ21土坑の埋土はＶ層由来の灰黄褐色粘土塊が主体であり、埋め戻しの様相を示すが、ＳＫ20土坑は粘土塊を含まない黒褐色土層の存在から、底面を覆い尽くすような埋め戻しは行われなかったと推測する。遺構掘削の際に生じた掘り上げ土が、遺構の底面に落下したか、または軽く埋め戻しが行われた後、１層が自然堆積した可能性がある。

[出土遺物]ＳＫ20土坑からは、土師器の坏破片14.9ｇ・器種不明小片1.1ｇが、ＳＫ21土坑からは土師器の坏破片20.5ｇ・甕破片13.3ｇ・器種不明小片6.7ｇが出土した。

[所見]ＳＫ20・21ともに埋土は薄い色調でⅢｃ層由来土とは異なるため、Ⅲｃ層形成以前であるⅣｂ層期に掘り込まれた遺構と推測する。性格はともに不明である。

ＳＫ22土坑（第34図、図版７）

[位置]ＭＣ47･48

[検出の経緯]Ｖ層上面で黒色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[重複]ＳＢ114Ｐ２（ＳＫＰ232）・ＳＫＰ231・239～241柱穴様ピットと重複し、同遺構に切られる。新旧関係は、ＳＫ22→ＳＫＰ231・ＳＢ114Ｐ２（ＳＫＰ232）・239・240・241の順となる。

[規模・形態]長軸（西－東）：(2.49)ｍ、短軸（北－南）：1.21m、深さ：0.17mの楕円形。確認面から底面までは浅く、壁の立ち上がりはやや急である。底面は平らである。

[埋土]埋土は２つに分けた。１層がⅣｂ層由来土にＶ層由来土小塊・炭化物・焼土粒を含む層、２層

はⅤ層由来土にⅣｂ層由来土小塊・炭化物・円礫を含む層で、ともに遺構掘削土による連続した埋め戻し作業の中における単位を示すと判断する。

[**出土遺物**] 埋土から、須恵器の壺・甕類破片1,149.7ｇ、土師器の坏破片888.1ｇ・内黒坏破片321.5ｇ・甕破片286.2ｇ・器種不明小片192.1ｇが出土した。１層から土師器の坏破片が多く出土した。

[**所見**] ＳＢ114掘立柱建物跡よりも古い遺構であり、整地地業以前の土坑の可能性が高い。土坑内に土器等の遺物を入れ、埋め戻したとみられる。祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性がある。

ＳＫ23土坑（第35図、図版７）

[**位置**] ＭＣ48

[**検出の経緯**] Ⅴ層上面で暗褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**] ＳＤ55溝跡と重複し、同遺構を切る。新旧関係は、ＳＤ55→ＳＫ23の順となる。

[**規模・形態**] 長軸（西－東）：(1.60)ｍ、短軸（北－南）：1.44m、深さ：0.14mの略円形。確認面から底面までは浅く、壁の立ち上がりはほぼ垂直である。底面は平らである。

[**埋土**] 埋土は２つに分けた。１層がⅣｂ層由来土にⅤ層由来土小塊・炭化物・焼土粒を含む層、２層はⅤ層由来土にⅣｂ層由来土小塊・炭化物を含む層で、ともに遺構掘削土による連続した埋め戻し作業の中における単位を示すと判断する。

[**出土遺物**] 埋土から、土師器の坏破片115.7ｇ・甕破片157.5ｇ・器種不明小片79.9ｇが出土した。

[**所見**] 土坑内に土器等の遺物を入れ、埋め戻したとみられる。祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性がある。

ＳＫ24土坑（第35図、図版７）

[**位置**] ＭＢ48

[**検出の経緯**] Ⅴ層上面で暗褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**] ＳＫＰ242～245柱穴様ピットと重複し、これらの遺構に切られる。新旧関係は、ＳＫ24→ＳＫＰ242～245の順となる。

[**規模・形態**] 長軸（北北東－南南西）：(0.75)ｍ、短軸（西北西－東南東）：(0.98)ｍ、深さ：0.17mの不整円形。壁の立ち上がりはほぼ垂直である。底面は平らである。

[**埋土**] 埋土は２つに分けた。１層がⅣｂ層由来土にⅤ層由来土小塊・炭化物を含む層、２層は逆にⅤ層由来土にⅣｂ層由来土小塊・炭化物を含む層で、ともに遺構掘削土による連続した埋め戻し作業の中における単位を示すと推測する。

[**出土遺物**] 埋土から、須恵器の壺・甕類破片15.0ｇ、土師器の坏破片128.4ｇ・甕破片824.6ｇ・器種不明小片87.3ｇ、鉄滓12.7ｇが出土した。

[**所見**] 土坑内に土器等の遺物を入れ、埋め戻したとみられる。祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性がある。

ＳＫ25土坑（第35図、図版７）

[**位置**] ＭＢ47

[**検出の経緯**] Ⅴ層上面で、にぶい黄褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**] ＳＤ47溝跡、ＳＫＰ236・238柱穴様ピットと重複する。ＳＤ47、ＳＫＰ238を切り、ＳＫＰ236に切られる。新旧関係は、ＳＤ47・ＳＫＰ238→ＳＫ25→ＳＫＰ236の順となる。

[**規模・形態**] 長軸（北－南）：0.74m、短軸（西－東）：0.73m、深さ：0.20mの略円形。壁の立ち上がりは、底面から壁にかけて丸みを帯び、開口部に向かってほぼ垂直に立ち上がる。底面は平らである。

[**埋土**] 埋土は３つに分けた。１～３層は、Ⅴ層由来土にⅣｂ層由来土・炭化物を含む層で、Ⅳｂ層由来土の混入量は下層に向かうほど少なくなり、１・２層には炭化物が含まれる。１～３層は、遺構掘削土による連続した埋め戻し作業の中における単位を示すと判断する。本遺構埋土は、他の土坑に比べⅣｂ層由来土の含有量が少ない。

[**出土遺物**] 埋土から、土師器の坏破片19.3ｇ・器種不明小片5.7ｇが出土した。

[**所見**] 出土遺物が少なく、性格不明である。

ＳＫ27土坑（第35図、図版７・８）

[**位置**] ＭＣ45

[**検出の経緯**] Ⅴ層上面で黒褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**] 本遺構の埋土をＳＤ42溝跡が掘り込んで構築されているため、ＳＫ27→ＳＤ42の順となる。ＳＫＰ681柱穴様ピットは、本遺構確認時に本遺構に優先する平面形を確認したため、本遺構より新しいといえ、新旧関係は、ＳＫ27→ＳＫＰ681の順となる。ＳＢ115掘立柱建物跡Ｐ４（ＳＫＰ680）との関係は、ＳＤ42溝跡と同一と見られるＳＤ50溝跡がＳＢ115掘立柱建物跡に伴うものであるため、新旧関係は、ＳＫ27→ＳＢ115の順となる。ＳＫＰ688柱穴様ピットとの新旧関係は不明である。

[**規模・形態**] 長軸（西北西－東南東）：1.58m、短軸（北北東－南南西）：1.56m、深さ：0.22mの円形。底面は平らで、壁周辺には大小４基の柱穴様ピットが掘り込まれている。既述したＳＢ115Ｐ４（ＳＫＰ680）・ＳＫＰ681以外については、本遺構との関係は不明である。

[**埋土**] 埋土は２つに分けた。Ⅴ層を由来とする黄灰色粘土塊を含むⅣｂ層由来土が主体となり、Ⅲｃ層に似る。底面直上の２層には粘土小塊を多く含み、埋土上層の１層は、黄灰色粘土の混入量が少ない。これらの堆積状態は、遺構掘削土を上部から順に遺構内に埋め戻していった結果を示すと考えられるため、１・２層は、遺構掘削土による連続した埋め戻し作業の中における単位を示すと判断する。

[**出土遺物**] 須恵器の壺・甕類破片10.3ｇ、土師器の坏破片715.1ｇ・内黒坏破片36.2ｇ・甕破片953.5ｇ・長胴甕破片39.4ｇ・鍋鉢破片46.2ｇ・器種不明小片225.3ｇ、緑釉陶器手付瓶底部破片１点145.4ｇ、被熱礫１点が出土した。底面付近からは、比較的大きな土器片が出土している。ＲＰ８は、緑釉陶器手付瓶の底部片であり、ＳＸ89、ＭＣ43、ＭＤ44・45、ＭＥ48から出土した胴部破片と接合している（第53図３）。第53図１は土師器の坏である。底部から胴部へ向けてややくびれながら立ち上がるため、底部は台に近い形状となる。第53図３（ＲＰ８）はＲＰ８と前述の５点が接合したもので、同一個体と見られる肩部（第72図３・４）も出土している。薄黄緑色の釉がかかり、胴部には浅い幅広の陰刻による文様が確認できる。第58図３は、平らな面を持ち被熱痕が確認できる礫で、鉄床石の可能性がある。

[**所見**] 土坑内に土器等の遺物を入れ、埋め戻したとみられる。祭祀に伴う廃棄用土坑と推測する。

ＳＫ29土坑（第36図、図版８）

[**位置**] ＭＢ46

[**検出の経緯**] Ⅴ層精査中に、にぶい黄褐色土の広がりを確認し、後の精査により土坑と判断した。

[**重複**] ＳＫ30土坑、ＳＫＰ653･654柱穴様ピットと重複し、ＳＫ30を切り、ＳＫＰ653･654に切られる。新旧関係は、ＳＫ30→ＳＫ29→ＳＫＰ653・654の順となる。

[**規模・形態**] 長軸（北西－南東）：0.89m、短軸（北東－南西）：0.66m、深さ：0.17mの楕円形。壁の立ち上がりは、南側がほぼ垂直で北側が急角度である。底面は平らである。

[**埋土**] 埋土は２つに分けた。１・２層とも、Ⅴ層由来土に、Ⅳｂ層由来土・炭化物を含む層であり、ともに遺構掘削土による連続した埋め戻し作業の中における単位を示すと判断する。

[**出土遺物**] 埋土から、須恵器の壺・甕類破片68.2ｇ、土師器の坏破片34.6ｇ・甕破片216.9ｇ・器種不明小片4.5ｇが出土した。

[**所見**] 土坑内に土器等の遺物を入れ、埋め戻したとみられる。祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性がある。

ＳＫ30土坑（第36図、図版８）

[**位置**] ＭＢ46

[**検出の経緯**] Ⅴ層で、にぶい黄褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**] ＳＫ29土坑、ＳＤ35溝跡と重複し、ＳＤ35溝跡を切り、ＳＫ29土坑に切られる。新旧関係は、ＳＤ35→ＳＫ30→ＳＫ29の順となる。

[**規模・形態**] 長軸（北西－南東）：0.89m、短軸（北東－南西）：0.66m、深さ：0.17mの楕円形。壁は急角度で立ち上がり、底面は平らである。

[**埋土**] 埋土はⅤ層由来土にⅣｂ層由来土・炭化物を含む層であり、遺構掘削土による埋め戻しと判断する。

[**出土遺物**] 埋土から、土師器の坏破片93.1ｇ・甕破片7.2ｇ・器種不明小片4.6ｇが出土した。

[**所見**] 祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性がある。

ＳＫ36土坑（第35図、図版８）

[**位置**] ＭＣ45

[**検出の経緯**] Ⅲ層精査中に黒褐色土の広がりを確認し、後の精査により土坑と判断した。

[**重複**] ＳＤ28溝跡と接するが新旧関係は不明である。

[**規模・形態**] 長軸（北東－南西）：0.67m、短軸（北西－南東）：0.49m、深さ：0.21mの楕円形。底面は丸底気味で、壁はやや急角度で立ち上がる。

[**埋土**] 埋土はⅤ層を由来とする黄灰粘土小塊を含む黒褐色土が主体となりⅢｃ層に似る。埋め戻しと判断する。

[**出土遺物**] 埋土から、須恵器の壺・甕類胴部破片117.3ｇ、土師器の坏破片7.4ｇ・甕破片129.2ｇ・器種不明小片41.5ｇ、椀形鍛冶滓135.6ｇが出土した。第53図５は、須恵器の甕胴部である。平行叩き・当て具痕が確認できる。

[**所見**] 土坑内に土器等の遺物を入れ、埋め戻したとみられる。祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性がある。

ＳＫ37土坑（第36図、図版８）

[**位置**] ＭＣ45

[**検出の経緯**] Ⅲｃ層精査中に黒褐色土の広がりを確認し、後の精査により土坑と判断した。

[**重複**] ＳＫＰ699・700柱穴様ピットと重複するが新旧関係は不明である。

[**規模・形態**] 長軸（北西－南東）：1.31m、短軸（北東－南西）：1.1m、深さ：0.4mの楕円形。底面はほぼ平らで、壁はやや急角度で立ち上がる。

[**埋土**] Ⅲｃ層上面から掘り込まれ、かつ埋土上面から遺構外にかけてⅢａ層が堆積することから、Ⅲｃ層→ＳＫ37→Ⅲａ層の流れがわかる。埋土は３分されるが、それぞれⅢｃ層由来土にⅤ層由来土・炭化物が混入したものと判断され、ＳＫ27土坑同様、遺構掘削土による連続した埋め戻し作業の中にお

ける単位を示すと判断する。

[**出土遺物**] 埋土から、須恵器の壺・甕類胴部破片81.7ｇ、土師器の坏破片502.4ｇ・内黒坏破片8.0ｇ・甕破片366.4ｇ・鍋破片10.5ｇ、器種不明小片390.6ｇが出土した。

[**所見**] 土坑内に土器等の遺物を入れ、埋め戻したとみられる。祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性がある。

ＳＫ38土坑（第36図、図版８）

[**位置**] ＭＡ45

[**検出の経緯**] Ｖ層精査中に黒褐色土の小さな楕円形の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**] ＳＤ92溝跡と重複し、ＳＤ92の埋土に形成されるため、新旧関係は、ＳＤ92→ＳＫ38となる。ＳＫＰ610柱穴様ピットとの関係は不明である。

[**規模・形態**] 長軸（東－西）：0.39m、短軸（北－南）：0.25m、深さ：0.11mの楕円形。底面はほぼ平らで被熱した痕跡があり、硬くしまっている。壁は急角度で立ち上がる。

[**埋土**] 焼骨片、炭化物を含む黒褐色土が堆積し、底面直上付近に炭化物が多く見られる。

[**出土遺物**] 埋土から、土師器の坏破片3.1ｇ・甕破片27.2ｇが出土した。

[**所見**] 底面付近に焼土や炭化物が多く見られることや埋土に焼骨を含むことから、遺構内で火を焚き動物を燃やしたと推測する。同様の形態をもつＳＫ39土坑とは、0.7mと近い位置にある。骨片の同定では、焼骨であることは確認できたものの種類や部位の特定には至らなかった（第４章第１節３）。

ＳＫ39土坑（第36図、図版８）

[**位置**] ＭＡ45

[**検出の経緯**] Ⅳ層精査中に黒褐色土の広がりを確認し、後の精査により土坑と判断した。

[**重複**] なし。

[**規模・形態**] 長軸（東北東－西南西）：0.41m、短軸（北北西－南南東）：0.28m、深さ：0.14mの楕円形。底面にはやや凹凸があり、硬くしまっている。壁は急角度で立ち上がる。

[**埋土**] 焼骨片、炭化物を含む黒褐色土が堆積する。

[**出土遺物**] 埋土から、土師器の坏破片9.9ｇ・甕破片4.5ｇ、底面から被熱した石器１点、礫１点、焼骨片が出土した。ＳＫ38土坑とは異なり、底面に被熱した痕跡は認められない。第57図５は、被熱した石器である。平たい面や、敲打によるへこみ・潰れが確認でき、磁着するため鉄床石の可能性がある。

[**所見**] 被熱した礫と焼骨を埋納した土坑と推測する。同様の形態をもつＳＫ38とは、0.7mと近い位置にある。骨片の同定では、焼骨であることは確認できたものの種類や部位の特定には至らなかった（第４章第１節３）。

ＳＫ43土坑（第36図、図版８）

[**位置**] ＭＢ・ＭＣ44

[**検出の経緯**] Ｖ層上面を精査中に遺構の重複と見られる黒褐色土の広がりを確認し、後の精査により重複した３つの土坑であることが判明した。

[**重複**] ＳＫ44土坑と重複し、ＳＫ44に切られるため、新旧関係は、ＳＫ43→ＳＫ44となる。ＳＫ110土坑と接するが新旧関係は不明である。

[**規模・形態**] 長軸（東－西）：（1.21）m、短軸（北－南）：（0.7）m、深さ：0.15mの楕円形？。底面はほぼ平らで、壁は緩い角度で立ち上がる。

[**埋土**]Ⅳｂ層由来土にⅤ層由来土・炭化物を含み、埋め戻しと判断する。

[**出土遺物**]埋土から、土師器の坏破片37.5ｇ・甕破片72.6ｇ・長胴甕破片7.1ｇ・器種不明小片79.1ｇが出土した。

[**所見**]トレンチによりほとんどが消失しているため、性格は不明である。

ＳＫ44土坑（第36図、図版８）

[**位置**]ＭＣ44

[**検出の経緯**] Ⅴ層上面を精査中に遺構の重複と見られる黒褐色土の広がりを確認し、後の精査により重複した３つの土坑であることが判明した。

[**重複**] ＳＫ43土坑と重複し、ＳＫ43土坑を切る。新旧関係は、ＳＫ43→ＳＫ44の順となる。

[**規模・形態**] 長軸（北東－南西）：0.67m、短軸（北西－南東）：0.6m、深さ：0.08mの円形。底面はほぼ平らで、壁は急角度で立ち上がる。

[**埋土**]Ⅳｂ層由来土にⅤ層由来土・炭化物を含み、埋め戻しと判断する。

[**出土遺物**]埋土から、土師器の坏破片9.5ｇ・甕破片11.8ｇ・器種不明小片10.6ｇが出土した。

[**所見**]確認面から底面までは浅く、遺物も少ないため、性格は不明である。

ＳＫ45土坑（第37図、図版８）

[**位置**]ＭＢ・ＭＣ44

[**検出の経緯**] Ⅴ層上面を精査中に遺構の重複と見られる黒褐色土の広がりを確認し、後の精査により重複した４つの土坑であることが判明した。

[**重複**] ＳＫ54・119土坑、ＳＫＰ383・386・694柱穴様ピットと重複する。ＳＫ54・119を切り、ＳＫＰ383に切られる。新旧関係は、ＳＫ54→ＳＫ119→ＳＫ45→ＳＫＰ383の順となる。ＳＫＰ386・694との関係は不明である。

[**規模・形態**] 長軸（北西－南東）：（1.31）m、短軸（北東－南西）：1.11m、深さ：0.11mの楕円形。底面は傾斜するものの平らな面を有する。壁は北側が緩やかな角度で立ち上がるのに対し、南側はやや急角度で立ち上がる。

[**埋土**]Ⅳｂ層由来土にⅤ層由来土小塊・炭化物を含み、埋め戻しと判断する。

[**出土遺物**] 土師器の坏破片169.4ｇ・内黒坏破片39.0ｇ・甕破片131.7ｇ・鍋破片20.9ｇ・器種不明小片118.4ｇが出土した。土師器の坏・甕の土器片が確認面付近から比較的多く出土した。

[**所見**]土坑内に土器等の遺物を入れ、埋め戻したとみられる。祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性がある。

ＳＫ46土坑（第37図）

[**位置**]ＭＡ43・44

[**検出の経緯**] Ⅴ層上面を精査中に遺構の重複と見られる黒褐色土の広がりを確認し、後の精査により重複した４つの土坑であることが判明した。

[**重複**] ＳＫ119土坑と重複し、ＳＫ119を切る。新旧関係は、ＳＫ119→ＳＫ46の順となる。遺構内にＳＫＰ385柱穴様ピットが掘り込まれているが新旧関係は不明である。

[**規模・形態**]長軸（北北東－南南西）：1.54m、短軸（東北東－西南西）：1.25m、深さ：0.14mの不整形。北側が耕作等の撹乱で破損している。底面はほぼ平らで、壁は緩やかな角度で立ち上がる。

[**埋土**] 埋土は２つに分けた。１層は、Ⅳｂ層由来にⅤ層由来土小塊・炭化物を含む層、２層はⅤ層由

来土にⅣｂ層由来土小塊・炭化物を含む層で、ともに遺構掘削土による連続した埋め戻し作業の中における単位を示すと判断する。

[**出土遺物**] 須恵器の壺・甕類胴部破片8.0ｇ、土師器の坏破片122.3ｇ・甕破片37.7ｇ・器種不明小片92.8ｇ、支脚破片270.0ｇが出土した。確認面付近から土師器の坏・甕、須恵器の壺・甕などの土器片、土製支脚などが比較的多く出土した。

[**所見**] 土坑内に土器等の遺物を入れ、埋め戻したとみられる。祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性がある。

ＳＫ48土坑（第37図、図版９）

[**位置**] ＭＡ47

[**検出の経緯**] Ｖ層上面を精査中に、暗褐色土・炭化物を含むオリーブ黄色土のコの字状の広がりを確認し、後の精査により土坑であることが判明した。

[**重複**] ＳＢ114、ＳＫＰ283柱穴様ピットと重複し、ＳＫＰ283に切られる。新旧関係は、ＳＫ48→ＳＫＰ283の順となる。ＳＢ114との新旧関係は不明である。

[**規模・形態**] 長軸（西北西－東南東）：2.16m、短軸（北北西－南南東）：2.08m、深さ：0.64mの隅丸方形。壁の立ち上がりはほぼ垂直である。底面は平らである。

[**埋土**] 埋土上面には整地に関連するⅡｂ・Ⅱａ層が堆積する。埋土は、１・２層ともＶ層由来土にⅣｂ層由来土・炭化物を含む層であるが、Ⅳｂ層由来土の混入量が異なり、２層の方が多い。ともに遺構掘削土による連続した埋め戻し作業の中における単位を示すと判断する。

[**出土遺物**] 埋土から、須恵器の壺・甕類胴部破片5.3ｇ、土師器の坏破片382.1ｇ・内黒坏破片244.0ｇ・甕破片505.3ｇ・長胴甕破片82.5ｇ・鍋破片43.2ｇ・器種不明小片305.8ｇ、支脚破片34.2ｇが出土した。

[**所見**] 北西約6.5mにあるＳＫ67土坑とは規模や軸方向が類似し、他の土坑とは平面形・深さ・立ち上がりの角度などが明らかに異なる。ＳＢ114掘立柱建物跡のプラン内に重複し、軸方向も一致するが、性格は不明である。ＳＢ116掘立柱建物跡とＳＫ67土坑との関係に似る。

ＳＫ51土坑（第38図）

[**位置**] ＭＣ・ＭＤ44

[**検出の経緯**] Ｖ層精査中に遺構の重複と見られる灰黄褐色土の広がりを確認し、精査により３つの土坑と柱穴様ピットの重複と判断した。

[**重複**] ＳＫ79・118土坑、ＳＫＰ420・678柱穴様ピットと重複する。ＳＫ79は平面・断面にて本遺構に切られることを確認したが、ＳＫ118、ＳＫＰ420については確認面にて本遺構が優先する平面形を確認したため、本遺構より古いといえる。ＳＫＰ678については、確認面にて本遺構に優先する平面形を確認したため、本遺構より新しいと判断する。従って新旧関係は、ＳＫ118・ＳＫＰ420・ＳＫ79→ＳＫ51→ＳＫＰ678の順となる。

[**規模・形態**] 長軸（東－西）：1.65m、短軸（北－南）：1.04m、深さ：0.52mの楕円形。底面に平らな部分は少なく、壁は急角度で立ち上がる。

[**埋土**] 本遺跡から検出された多数の土坑埋土とは色調が異なり、灰黄褐色の淡い色調を基調とする。重複するＳＫ79土坑も同様な埋土であり、ともに埋め戻しと判断する。

[**出土遺物**] 埋土から、土師器の内黒坏破片22.4ｇ・甕破片7.9ｇ・器種不明小片25.7ｇが出土した。

[**所見**] Ⅲａ層形成以降の柱穴と考えられるＳＫＰ678よりも旧いが、古代の遺構埋土とは異なるため、

ＳＫＰ678とともに中近世期に下る遺構の可能性がある。性格は不明である。

ＳＫ53土坑（第38図、図版９・14）

[**位置**]ＭＤ47

[**検出の経緯**]Ｖ層上面でにぶい黄褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**]ＳＫＰ393～399・490柱穴様ピットと重複し、これらの遺構に切られる。新旧関係は、ＳＫ53→ＳＫＰ393～399・490の順となる。

[**規模・形態**]長軸（北北東－南南西）：1.24m、短軸（東南東－西南西）：0.75m、深さ：0.22mの楕円形。壁の立ち上がりは、北側が緩やかで、南側は底面付近で丸みを帯びるもののほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸底気味である。

[**埋土**]埋土は２つに分けた。１層がⅣ層由来土にⅣｂ層由来土・炭化物を含む層である。２層がⅣｂ層由来土にＶ層由来土小塊・炭化物を含む層である。ともに遺構掘削土による連続した埋め戻しの作業の中における単位を示すと判断する。

[**出土遺物**]埋土から、須恵器の壺・甕類破片26.2ｇ、土師器の坏破片36.5ｇ・内黒坏破片89.0ｇ・甕破片90.3ｇ・長胴甕破片24.2ｇ・器種不明小片42.9ｇが出土した。

[**所見**]土坑内に土器等の遺物を入れ、埋め戻したとみられる。祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性がある。

ＳＫ54土坑（第37図）

[**位置**]ＭＡ44

[**検出の経緯**]Ｖ層上面を精査中に遺構の重複と見られる黒褐色土の広がりを確認し、後の精査により重複した４つの土坑であることが判明した。

[**重複**]ＳＫ45・119土坑、ＳＫＰ685・695柱穴様ピットと重複し、ＳＫＰ695を除き本遺構を切る。新旧関係は、ＳＫ54→ＳＫ119・ＳＫＰ685→ＳＫ45の順となるが、ＳＫＰ695との新旧は不明である。

[**規模・形態**]長軸（北西－南東）：1.07m、短軸（北東－南西）：0.65m、深さ：0.17mの不整形。底面はほぼ平らで、壁は緩やかな角度で立ち上がる。

[**埋土**]土層記録なし。

[**所見**]他遺構との重複により残存部が少なく、性格は不明である。遺物は出土しなかった。

ＳＫ61土坑（第38図、図版９）

[**位置**]ＭＡ48・49

[**検出の経緯**]Ｖ層上面で黒褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**]ＳＫＰ539～541・569柱穴様ピットと重複し、これらの遺構に切られる。新旧関係は、ＳＫ61→ＳＫＰ539～541・569の順となる。

[**規模・形態**]長軸（西北西－東南東）：1.36m、短軸（北北東－南南西）：0.62m、深さ：0.10mの不整楕円形。壁の立ち上がりはほぼ垂直である。底面は平らである。

[**埋土**]埋土は２つに分けた。１層がⅣｂ層由来土にⅣ層由来土小塊・炭化物を含む層で、２層がＶ層由来土にⅣｂ層由来土・炭化物を含む層である。ともに遺構掘削土による連続した埋め戻し作業の中における単位を示すと判断する。

[**出土遺物**]埋土から、須恵器の坏破片33.8ｇ・壺・甕類破片18.4ｇ、土師器の坏破片106.4ｇ・内黒坏破片24.3ｇ・甕破片101.4ｇ・長胴甕破片24.8ｇ・器種不明小片72.0ｇ、灰釉陶器破片１点6.9ｇが出土

した。灰釉陶器は、ＳＤ60溝跡出土の破片と接合した（第51図１）。

[所見] 土坑内に土器等の遺物を入れ、埋め戻したとみられる。祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性がある。

ＳＫ63土坑（第39図、図版９）

[位置] ＭＢ49・50

[検出の経緯] Ⅴ層上面で黒褐色土の広がりを確認し、当初は落ち込みにⅣｂ層由来の黒褐色土が堆積しているものと捉えていたが、後の精査により土坑であることが判明した。

[重複] ＳＫ67土坑、ＳＫＰ255・581柱穴様ピットと重複し、これらの遺構に切られる。ＳＫＰ581についてはＳＫ63土坑埋土上面で平面形を確認し、ＳＫ67については、ＳＫ67の平面形がＳＫ63の平面形に優先することを確認した。新旧関係は、ＳＫ63→ＳＫ67、ＳＫ63→ＳＫＰ255・581の順となる。

[規模・形態] 全体の約3／4がトレンチによって削平されている。長軸（西－東）：（1.71）m、短軸（北－南）：1.28m、深さ：0.25mの楕円形か。壁の立ち上がりは緩やかである。底面は丸底状である可能性がある。

[埋土] 埋土は２つに分けた。１・２層ともⅣｂ層由来土にⅤ層由来土を含む層である。２つの層は、遺構掘削土による連続した埋め戻しの作業の中における単位を示すと判断する。

[出土遺物] 埋土から、須恵器の壺・甕類破片77.2ｇ、土師器の坏破片272.0ｇ・内黒坏破片5.4ｇ・甕破片459.0ｇ・器種不明小片150.8ｇが出土した。

[所見] 形状等不明な点が多く、性格不明である。

ＳＫ66土坑（第39図、図版９）

[位置] ＭＦ44

[検出の経緯] Ⅴ層精査中に褐灰色土の円形の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[重複] なし。

[規模・形態] 長軸（北北西－南南東）：0.83m、短軸（東北東－西南西）：0.78m、深さ：0.11mの円形。底面には起伏があり、壁は緩やかな角度で立ち上がる。

[埋土] 埋土は２つに分けた。１層はⅣｂ層由来の褐灰色土にⅤ層由来土・炭化物を含む層で、２層はⅤ層由来のにぶい黄色土に炭化物を含む層である。ともに遺構掘削土による連続した埋め戻しの作業の中における単位を示すと判断する。

[出土遺物] 埋土から、土師器の坏破片29.2ｇ・器種不明小片4.1ｇが出土した。

[所見] 遺構の残存度が低く断定はできないが、祭祀に伴う又は廃棄用土坑の可能性がある。

ＳＫ67土坑（第39図、図版９）

[位置] ＭＢ49

[検出の経緯] Ⅴ層上面で隅丸方形状の平面形を確認し、精査により土坑と判断した。

[重複] ＳＫ63土坑・ＳＫＰ576・579・580・656柱穴様ピットと重複し、ＳＫＰ576・579に切られ、ＳＫ63、ＳＫＰ580・656を切る。新旧関係は、ＳＫ63→ＳＫ67、ＳＫＰ580・656→ＳＫ67→ＳＫＰ576・579の順となる。

[規模・形態] 長軸（西北西－東南東）：2.70m、短軸（北北西－南南東）：2.00m、深さ：0.59mの隅丸方形。壁の立ち上がりはほぼ垂直で、底面はほぼ平らである。

[埋土] 埋土は３つに分けた。１～３層ともⅤ層由来土にⅣｂ層由来土・炭化物を含む層である。３つ

の層は、遺構掘削土による連続した埋め戻しの作業の中における単位を示すと判断する。

[**出土遺物**] 埋土から、須恵器の壺・甕類破片32.6ｇ、土師器の坏破片171.1ｇ・甕破片333.9ｇ・長胴甕破片114.9ｇ・鍋破片46.2ｇ・器種不明小片21.6ｇが出土した。

[**所見**] 南東に約6.5mにあるＳＫ48土坑とは規模や軸方向が類似し、他の土坑とは平面形・深さ・立ち上がりの角度などが明らかに異なる。ＳＢ116掘立柱建物跡のプラン内に重複し、軸方向も一致するが、性格不明である。ＳＢ114掘立柱建物跡とＳＫ48土坑との関係に似る。

ＳＫ68土坑（第39図、図版９）

[**位置**] ＭＢ51・52

[**検出の経緯**] Ｖ層上面で黒褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**] なし。

[**規模・形態**] 長軸（北－南）：(1.34)ｍ、短軸（西－東）：1.10m、深さ：0.12mの楕円形。確認面から底面までは浅く、壁の立ち上がりはほぼ垂直である。底面は平らである。

[**埋土**] 埋土は２つに分けた。１層がⅣｂ層由来土にＶ層由来土小塊・炭化物を含む層で、２層がＶ層由来土にⅣｂ層由来土小塊・炭化物を含む層である。ともに遺構掘削土による連続した埋め戻しの作業の中における単位を示すと判断する。

[**出土遺物**] 埋土から、須恵器の壺・甕類破片20.0ｇ、土師器の坏破片21.1ｇ・内黒坏破片2.5ｇ・甕破片2.3ｇ・器種不明小片6.4ｇが出土した。

[**所見**] 出土遺物は少ないが、土坑内に土器等の遺物を入れ、埋め戻したとみられる。祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性がある。

ＳＫ69土坑（第40図、図版10）

[**位置**] ＭＢ52

[**検出の経緯**] Ｖ層上面で黒褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**] ＳＫ81土坑と重複し、ＳＫ81に切られる。新旧関係は、ＳＫ69→ＳＫ81の順となる。

[**規模・形態**] 長軸（北北西－南南東）：(0.72)ｍ、短軸（西南西－東南東）：(0.32)ｍ、深さ：0.08mの不整略円形。壁の立ち上がりは緩やかで、底面は平らである。

[**埋土**] Ⅳｂ層由来土にＶ層由来土小塊・炭化物を含む層で、埋め戻しと判断する。

[**所見**] 出土遺物もなく、性格は不明である。

ＳＫ73土坑（第40図、図版10）

[**位置**] ＭＣ44

[**検出の経緯**] Ｖ層精査中に灰黄褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**] なし。

[**規模・形態**] 長軸（北北東－南南西）：2.16m、短軸（東南東－西北西）：1.72m、深さ：1.06mの不整円形。遺構最深部の傾斜する面を底面として捉えた。北側の壁は急角度で立ち上がるが、南側の壁は緩やかな角度で立ち上がる。

[**埋土**] Ｖ層由来のやや明るめの黄褐色系の土と暗めのⅣｂ層由来の黒色系の土で構成される。レンズ状の堆積を示し、遺構掘削土等が流れ込んで堆積したと判断する。

[**出土遺物**] 埋土から、土師器の坏破片223.9ｇ・甕破片30.2ｇ・器種不明小片46.6ｇ、羽口破片63.0ｇ、

用途不明木製品２点が出土した。

[所見] 遺構南側には、両前寺川の氾濫によるものとみられる浸食ラインが確認でき、本遺構は、この浸食部分に堆積した古代の遺物包含層（Ⅳａ層に比定）やⅢａ層を切って構築されているため、Ⅲａ層による盛土後に掘り込まれたものといえる。性格は不明である。

ＳＫ74土坑（第40図、図版10）

[位置] ＭＢ45

[検出の経緯] Ｖ層精査中に灰黄褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[重複] なし。

[規模・形態] 長軸（北－南）：0.56m、短軸（東－西）：0.52m、深さ：0.08mの略円形。底面はほぼ平らで、壁はやや急角度で立ち上がる。

[埋土] 炭化物やＶ層由来土を含むⅣｂ層由来の褐灰色土の単一層で、埋め戻しと判断する。

[出土遺物] 埋土から、土師器の坏破片4.4ｇ・器種不明小片1.1ｇが出土した。

[所見] 掘り込み面からの深さが浅く遺物も少ないため性格は不明であるが、形状や埋土はＳＫ117土坑と似る。

ＳＫ75土坑（第40図、図版10）

[位置] ＭＢ45

[検出の経緯] Ｖ層精査中に黒褐色の土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[重複] ＳＫＰ701柱穴様ピットと重複するが、新旧関係は不明である。

[規模・形態] 長軸（北西－南東）：0.6m、短軸（北東－南西）：0.59m、深さ：0.25mの略円形。遺構内北側に深さ39㎝の一段深い掘り込みがある。掘り込み周辺を除き、壁は緩やかな角度で立ち上がる。

[埋土] 埋土は２つに分けた。１層はⅣｂ層由来土、２層はⅣｂ層由来土にＶ層由来土・炭化物を含む層である。

[出土遺物] 埋土から、土師器の坏破片21.0ｇ・甕破片109.5ｇ・器種不明小片33.4ｇが出土した。

[所見] １層が柱痕跡、２層が根固め土とする柱穴の可能性も考えられる。

ＳＫ76土坑（第40図、図版10）

[位置] ＭＢ45

[検出の経緯] Ｖ層上面で灰黄色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[重複] ＳＫＰ573柱穴様ピットと重複し、ＳＫＰ573に切られる。新旧関係はＳＫ76→ＳＫＰ573の順となる。

[規模・形態] 長軸（西北西－南南東）：1.2m、短軸（東－西）：0.64m、深さ：0.1mの不整形。確認面から底面までが浅いため、明瞭な底面・壁を認識することはできなかった。

[埋土] 炭化物を含む灰黄色土の単一層である。埋土が薄く、堆積成因を判断することはできなかった。

[出土遺物] 埋土から、土師器の坏破片206.7ｇ・甕破片8.6ｇ・器種不明小片49.7ｇが出土した。

[所見] 確認面から底面までは浅いが、遺物量は多く祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性がある。

ＳＫ77土坑（第41図、図版10）

[位置] ＭＢ45

[検出の経緯] Ｖ層精査中に灰黄褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**]なし。

[**規模・形態**]長軸(北東－南西)：(0.69)ｍ、短軸(北西－南東)：0.56m、深さ：0.15mの略円形。底面には起伏があり、壁はやや急角度で立ち上がる。

[**埋土**]Ⅳｂ層由来土にⅤ層由来土小塊・炭化物を含む。遺構掘削土による埋め戻しと判断する。

[**出土遺物**]埋土から、土師器の坏破片117.5ｇ・甕破片18.1ｇ・器種不明小片19.2ｇが出土した。第54図２は、南西壁付近の底面から、ほぼ完形で正立した状態で出土した土師器の坏である。底部・胴部とも薄手である。

[**所見**]地鎮等の目的による土器埋納土坑と推測する。

ＳＫ79土坑(第38図、図版10)

[**位置**]ＭＣ・ＭＤ44

[**検出の経緯**]Ⅴ層上面で遺構の重複と見られる灰黄褐色土の広がりを確認し、精査により土坑の重複と判断した。

[**重複**]ＳＫ51・118土坑、ＳＫＰ678柱穴様ピットと重複する。ＳＫ51は、平面・断面にて本遺構を切ることを確認し、ＳＫ118については、平面で本遺構に切られていることを確認した。ＳＫＰ678については、平面にて本遺構より優先する平面形を確認したため、本遺構より新しいものと判断する。従って、新旧関係は、ＳＫ118→ＳＫ79→ＳＫ51→ＳＫＰ678の順となる。

[**規模・形態**]長軸(東－西)：(1.25)ｍ、短軸(北－南)：1.17m、深さ：0.71mの円形。底面には起伏があり、南側に柱穴様の浅い掘り込みがある。壁は急角度で立ち上がる。

[**埋土**]本遺跡から検出された多数の土坑埋土とは色調が異なり、灰黄褐色の淡い色調を基調とする。重複するＳＫ51土坑も同様な埋土であり、ともに埋め戻しと判断する。

[**出土遺物**]遺構埋土上層部から、藁が出土した。

[**所見**]ＳＫ51土坑同様、古代の遺構埋土とは異なるほか、古代の盛土であるⅢａ層を掘り込んでいることなどから、中近世期に下る遺構の可能性が高い。底面にある柱穴様の掘り込みは、本遺構よりも古い柱穴の底面付近の可能性がある。性格は不明である。

ＳＫ81土坑(第40図、図版10)

[**位置**]ＭＢ52

[**検出の経緯**]Ⅴ層上面で黒褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**]ＳＫ69土坑と重複し、ＳＫ69を切る。新旧関係は、ＳＫ69→ＳＫ81の順となる。

[**規模・形態**]長軸(北北東－南南西)：0.85m、短軸(西北西－東南東)：0.47m、深さ：0.17mの楕円形。壁の立ち上がりはやや急で、底面は丸底気味である。

[**埋土**]埋土はⅣｂ層由来土にⅤ層由来土塊・炭化物を含む層で、埋め戻しと判断する。

[**所見**]出土遺物もなく、性格は不明である。

ＳＫ82土坑(第31図、図版11)

[**位置**]ＭＢ45

[**検出の経緯**]Ⅴ層精査中に灰黄褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**]ＳＤ60・90溝跡と重複する。新旧関係は、ＳＤ60→ＳＤ90→ＳＫ82の順となる。

[**規模・平面形**]長軸(北－南)：(1.33)ｍ、短軸(東－西)：(0.64)ｍ、深さ：0.15mの略円形。東側の平

面形については明らかにすることができなかった。

[**形状・特徴**]底面はほぼ平らであり、壁は急角度で立ち上がる。

[**埋土**]埋土は３つに分けた。１層はⅤ層由来土に炭化物を含む層、２層はⅣｂ層由来土にⅤ層由来土・炭化物を含む層、３層はⅣｂ層由来土にⅤ層由来土・炭化物を含む層である。１・２層は埋め戻しによる層、３層は周辺からの流れ込みによる自然堆積層と判断する。

[**出土遺物**]埋土から、須恵器の壺・甕類破片16.5ｇ、土師器の坏破片85.8ｇ・内黒坏破片15.8ｇ・甕破片315.5ｇ・器種不明小片1.7ｇが出土した。

[**所見**]しばらく開口していた痕跡の残る土坑であるが、まとまった出土遺物があり、祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性もある。

ＳＫ84土坑(第41図、図版11)

[**位置**]ＭＣ・ＭＤ51

[**検出の経緯**]Ⅴ層上面で暗褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**]ＳＫＰ620柱穴様ピットと重複し、同遺構を切る。新旧関係は、ＳＫＰ620→ＳＫ84の順となる。

[**規模・形態**]長軸(西南西－東北東)：1.04m、短軸(北北西－南南東)：0.57m、深さ：0.46mの楕円形。壁の立ち上がりはほぼ垂直である。底面はほぼ平らである。

[**埋土**]埋土は４つに分けた。１・３層がⅣｂ層由来土にⅤ層由来土・炭化物を含む層であり、２・４層がⅤ層由来土にⅣｂ層由来土・炭化物を含む層である。４つの層は、遺構掘削土による連続した埋め戻し作業の中における単位を示すと判断する。

[**出土遺物**]埋土から、須恵器の壺・甕類破片57.0ｇ、土師器の坏破片14.6ｇ・内黒坏破片8.6ｇ・甕破片51.0ｇ・器種不明小片7.0ｇが出土した。

[**所見**]本遺跡に多い円形の土坑とは異なり、隅丸方形に近い平面形をもち比較的深い。出土遺物も少なく、性格は不明である。

ＳＫ87土坑(第41図、図版11)

[**位置**]ＭＥ・ＭＦ45

[**検出の経緯**]Ⅴ層精査中に黒褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**]なし。

[**規模・形態**]長軸(北西－南東)：2.23m、短軸(北東－南西)：2.01m、深さ：0.38mの不整円形。
底面はほぼ平らで、北側の壁はやや急角度で立ち上がるが、南側の壁は緩やかな角度で立ち上がる。

[**埋土**]埋土は４つに分けた。１～３層はⅣｂ層由来土にⅤ層由来土・炭化物を含む層、４層はⅤ層由来土にⅣｂ層由来土を大量に含む層である。遺構掘削土による連続した埋め戻しの作業の中における単位を示すと判断する。

[**出土遺物**]埋土から、須恵器の壺・甕類胴部破片228.3ｇ、土師器の坏破片572.1ｇ・甕破片822.7ｇ・長胴甕破片63.5ｇ・鍋破片9.6ｇ・器種不明小片436.0ｇ・須恵器転用硯１点153.3ｇが出土した。

[**所見**]土坑内に土器等の遺物を入れ、埋め戻したとみられる。祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性がある。

ＳＫ88土坑(第41図、図版11)

[**位置**]ＭＥ45・46

[**検出の経緯**]Ⅴ層精査中に黒褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[重複]なし。

[規模・形態] 長軸（東－西）：1.47m、短軸（北－南）：1.06m、深さ：0.28mの楕円形。底面はほぼ平らであり、北側の壁はやや急角度で立ち上がるが、南側の壁は緩やかな角度で立ち上がる。北側底面に小さな落ち込みがあるが、詳細は不明である。

[埋土]Ⅳｂ層由来とⅤ層由来の混合土に炭化物を含む層で、遺構掘削土による埋め戻しと判断する。

[出土遺物] 埋土から、土師器の坏破片10.2ｇ・甕破片90.9ｇ・長胴甕破片28.8ｇ・器種不明小片87.2ｇが出土した。

[所見]土坑内に土器等の遺物を入れ、埋め戻したとみられる。祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性がある。

ＳＫ91土坑（第42図、図版11）

[位置]ＭＢ45

[検出の経緯]Ⅴ層精査中に灰黄褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[重複]なし。

[規模・形態] 長軸（北西－南東）：0.78m、短軸（北東－南西）：0.63m、深さ：0.11mの略円形。底面には起伏があり、３つの小穴状の落ち込みがある。壁は東壁が緩やかな角度で立ち上がるほかは、急角度で立ち上がる。

[埋土]炭化物を含むⅤ層由来土による層で、遺構掘削土による埋め戻しと判断する。

[出土遺物]埋土から、土師器の坏破片17.5ｇ・内黒坏破片10.4ｇ・器種不明小片11.3ｇ、土錘１点8.0ｇが出土した。

[所見]土坑内に土器等の遺物を入れ、埋め戻したとみられる。祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性がある。

ＳＫ94土坑（第41図、図版11）

[位置]ＭＤ51

[検出の経緯]Ⅴ層上面で、にぶい黄褐色土粒・塊の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[重複] ＳＫＰ620柱穴様ピットと重複し、同遺構に切られる。新旧関係は、ＳＫ94→ＳＫＰ620の順となる。

[規模・形態] 長軸（北東－南西）：0.84m、短軸（北西－南東）：0.45m、深さ：0.15mの楕円形。壁の立ち上がりはほぼ垂直である。底面はほぼ平らである。

[埋土] 埋土は２つに分けた。１層がⅤ層由来土にⅣｂ層由来土・炭化物を含む層、２層がⅤ層由来土（グライ化した暗緑灰色シルト）にⅣｂ層由来土・炭化物を含む層で、ともに遺構掘削土による連続した埋め戻し作業の中における単位を示すと判断する。

[出土遺物] 埋土から、須恵器の坏破片2.8ｇ・壺・甕類破片155.7ｇ、土師器の坏破片4.8ｇ・器種不明小片15.1ｇ、被熱した礫１点が出土した。

[所見]遺物には被熱した礫を含むが、性格は不明である。

ＳＫ95土坑（第42図、図版11）

[位置]ＭＤ52・53

[検出の経緯]Ⅲｄ層上面で黄褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[重複]なし。

[規模・形態] 長軸（北－南）：2.65m、短軸（西－東）：2.50m、深さ：0.35mの不整円形。壁の立ち上が

りは南側が急で、他はほぼ垂直である。底面はほぼ平らである。

[埋土] 埋土は５つに分けた。１・２層がⅤ層由来土である黄褐～暗緑灰色粘土にⅣｂ層由来土・炭化物を含む層、３・５層がⅣｂ層由来土に炭化物を含む層、４層はⅤ層由来土を主体とする層で、１・２層は埋め戻し、３～５層は自然の流入土と判断する。２層以下はグライ化する。

[出土遺物] 埋土から、須恵器の壺・甕類破片107.0ｇ、土師器の坏破片18.7ｇ・甕破片26.2ｇが出土した。

[所見] 西側整地地業（Ⅲｄ層）が完了した後の遺構である。掘削後、しばらくは開口していたと推測する。平面形状から、地鎮や祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性があるが、遺物は少ない。

ＳＫ97土坑（第42図、図版11）

[位置] ＭＦ46

[検出の経緯] Ⅴ層精査中に灰オリーブ色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[重複] なし。

[規模・形態] 長軸（北西－南東）：(1.18)ｍ、短軸（北東－南西）：0.97m、深さ：0.14mの略円形。壁は底面から緩やかな角度で変曲点をもたずに立ち上がる。遺構内の凹凸は少ない。

[埋土] Ⅴ層由来土の灰オリーブ色土と褐灰色土の混合土に炭化物を含む層からなり、遺構掘削土による埋め戻しと判断する。

[出土遺物] 埋土から、土師器の甕破片28.9ｇ・長胴甕破片54.5ｇ・器種不明小片18.8ｇが出土した。

[所見] 遺物が少なく、性格は不明である。

ＳＫ98土坑（第42図、図版12）

[位置] ＭＤ43

[検出の経緯] Ⅳ層精査中に灰黄色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[重複] なし。

[規模・形態] 長軸（北西－南東）・短軸（北東－南西）：0.79m、深さ：0.13mの隅丸方形。壁は遺構中心部から緩やかな角度で変曲点をもたずに立ち上がる。遺構内の凹凸は少ない。

[埋土] Ⅳｂ層由来の褐灰色土塊・炭化物を含むⅤ層由来の灰黄褐色土による埋め戻しと判断する。

[所見] 出土遺物もなく、性格は不明である。

ＳＫ99土坑（第42図、図版12）

[位置] ＭＦ45

[検出の経緯] Ⅴ層精査中に灰黄褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[重複] なし。

[規模・形態] 長軸（東－西）：0.67m、短軸（北－南）：0.59m、深さ：0.12mの不整形。底面はほぼ平らで壁はやや急に立ち上がるが、南西側はフラスコ状にオーバーハングしながら立ち上がる。

[埋土] Ⅳｂ層由来土小塊・炭化物を含むⅤ層由来土からなる層で、遺構掘削土による埋め戻しと判断する。

[出土遺物] 埋土から、須恵器の壺・甕類胴部破片15.6ｇ、土師器の坏破片50.7ｇ・内黒坏破片3.9ｇ・甕破片1,280.6ｇ・器種不明小片38.9ｇが出土した。

[所見] 祭祀に伴う廃棄用土坑の可能性がある。

ＳＫ104土坑（第42図、図版12）

[**位置**]ＬＳ61・62、ＬＴ61・62

[**検出の経緯**]調査区北側沢地内で黒色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**]なし。

[**規模・形態**]長軸（北東－南西）：1.52m、短軸（北西－南東）：1.23m、深さ：0.21mの円～楕円形。底面中央部が深く落ち込む他は、浅い窪地状の掘り込みになる。

[**埋土**]黒色土による自然堆積と判断する。

[**出土遺物**]埋土から、須恵器の坏破片17.7ｇ、土師器の坏破片291.7ｇ・長胴甕破片33.1ｇ・器種不明小片46.8ｇ、用途不明の木製品５点、礫２点が出土した。第54図11は、墨書のある土師器の坏胴部である。「貯」の異体字とみられる字が確認できる。第76図４は、一端が炭化したヘラ状の木製品である。第77図１は、用途不明の大型の木製品である。検出時は、一つのものが、取り上げの際に中央部で折れてしまった。全体的に加工痕が顕著である。中央部で両側から抉りが入り極端に細くなる。両端には茎のような作り出しがある。

[**所見**]沢地を掘り込み、遺材や礫などを廃棄した土坑と推測する。

ＳＫ105土坑（第43図、図版12）

[**位置**]ＭＢ60・61

[**検出の経緯**]調査区北側沢地内で砂礫と粗砂の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**]なし。

[**規模・形態**]長軸（北西－南東）：0.82m、短軸（北東－南西）：1.23m、深さ：0.22mの円形。底面には起伏があり、壁はやや急角度で立ち上がる。

[**埋土**]記録はないが、下層に砂礫、上層に粗砂が堆積していた。レンズ状の自然堆積と推測する。

[**出土遺物**]埋土から、須恵器の坏破片12.1ｇ、土師器の坏破片3.0ｇが出土した。

[**所見**]性格は不明である。

ＳＫ106土坑（第43図、図版12）

[**位置**]ＬＴ58

[**検出の経緯**]北側沢地内で灰黄褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と溝の重複と判断した。

[**重複**]ＳＤ123溝跡と切り合うが、新旧関係を明らかにすることができなかった。本遺構部分にのみ遺物が集中することから、ＳＤ123溝跡埋没後に本遺構が掘り込まれた可能性がある。

[**規模・形態**]長軸（西北西－東南東）：0.82m、短軸（北北東－南南西）：0.62m、深さ：0.2mの略円形。底面はやや傾斜し、壁の立ち上がりはやや急である。

[**埋土**]灰黄褐色の砂礫層に褐灰色シルトが少量混じる。自然堆積と推測する。

[**出土遺物**]埋土から、須恵器の壺・甕類胴部破片177.2ｇが出土した。その他、底面付近で比較的大きな礫が５点重なるように出土した。内２点が被熱した礫である。

[**所見**]礫をまとめて廃棄した土坑と推測する。

ＳＫ108土坑（第43図）

[**位置**]ＭＡ42

[**検出の経緯**]Ｖ層上面で灰黄褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**]なし。

[規模・形態] 長軸（北東－南西）：1.24m、短軸（北西－南東）：0.62m、深さ：0.42mの楕円形。底面はほぼ平らであり、壁は急角度で立ち上がる。

[埋土] 灰黄褐色の単一層であるが、壁際の一部にⅤ層由来土が堆積する。埋め戻しと判断する。

[所見] 出土遺物もなく性格は不明であるが、中・近世の遺物包含層であるⅡ層より下からの検出で、かつⅡ層とは異なる埋土であることから、中世以前の土坑と考える。

ＳＫ110土坑（第36図、図版８）

[位置] ＭＣ44

[検出の経緯] Ⅴ層上面を精査中に遺構の重複と見られる黒褐色土の広がりを確認し、後の精査により重複した３つの土坑であることが判明した。

[重複] ＳＫ43土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

[規模・形態] 長軸（北東－南西）：(1.3) m、短軸（北西－南東）：(0.74) m、深さ：0.18m、楕円形？。底面中央部がやや深く落ち込んでいる。壁は緩やかな角度で立ち上がる。

[埋土] 炭化物やⅤ層由来土を塊状に含むⅣｄ層由来土による層からなり、埋め戻しと判断する。

[出土遺物] 埋土から、土師器の坏破片2.1ｇ・甕破片28.2ｇ・器種不明小片93.9ｇが出土した。

[所見] トレンチによりほとんどが消失しているため、不明な点が多い。

ＳＫ111土坑（第43図、図版12）

[位置] ＭＡ45・46、ＭＢ45・46

[検出の経緯] Ⅴ層上面で褐灰色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[重複] なし。

[規模・形態] 長軸（東－西）：(1.65) m、短軸（北－南）：1.66m、深さ：0.2mの円形。東側が水田に伴う暗渠で破壊されているが、残存形から平面形は円形と推測する。底面はほぼ平らであり、壁は急角度で立ち上がる。

[埋土] Ⅴ層由来土を塊状に含む褐灰色土が堆積していた。埋め戻しと推測する。

[出土遺物] 底面からこぶし大の礫が２点出土した。

[所見] 埋土の状態から古代の土坑と考える。性格は不明である。

ＳＫ117土坑（第40図、図版10）

[位置] ＭＢ45

[検出の経緯] Ⅴ層精査中に褐灰色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[重複] ＳＫＰ565・566柱穴様ピットと重複するが、新旧関係は不明である。

[規模・形態] 長軸（北西－南東）：0.6m、短軸（北東－南西）：0.47m、深さ：0.12mの略円形。底面はほぼ平らで、東～南壁はほぼ垂直に立ち上がり、浅い皿状となる。

[埋土] 炭化物やⅤ層由来土を含むⅣｂ層由来の褐灰色の単一層で、近接するＳＫ74土坑と同様埋め戻しと判断する。

[所見] 出土遺物がないため性格は不明であるが、形状や埋土はＳＫ74土坑と似る。

ＳＫ118土坑（第38図）

[位置] ＭＣ・ＭＤ44

[検出の経緯] Ⅴ層精査中に複数遺構の重複と見られる灰黄褐色土の広がりを確認し、精査により３つ

の土坑と柱穴様ピットの重複であると判断した。

[**重複**] ＳＫ51・79土坑、ＳＫＰ419・420・677・678柱穴様ピットと重複する。ＳＫ76、ＳＫ51及びＳＫＰ678が本遺構を切るため新旧関係は、ＳＫ118→ＳＫ79→ＳＫ51→ＳＫＰ678の順となる。ＳＫＰ419・420・677との新旧関係は不明である。

[**規模・形態**] 長軸（北西－南東）：(1.69) m、短軸（北東－南西）：(1.37) m、深さ：(0.24) mの円形。ＳＫ51・79土坑に切られ、不明な部分が多いが、これらの遺構よりも浅かったと推測する。

[**埋土**] Ⅲｃ層に似た埋土であるが詳細は不明である。

[**出土遺物**] 当初、本遺構の埋土をⅢｃ層の斜面への落ち込みと誤認したため、本遺構上包含層出土遺物の中に本遺構出土遺物が含まれる可能性が高い。

[**所見**] ＳＫ51・79土坑とは明らかに埋土が異なり、Ⅲｃ層に類似するため古代の遺構と考える。性格は不明である。

ＳＫ119土坑（第37図）

[**位置**] ＭＡ44

[**検出の経緯**] Ⅴ層上面を精査中に遺構の重複と見られる黒褐色土の広がりを確認し、後の精査により重複した４つの土坑であることが判明した。

[**重複**] ＳＫ45・46・54土坑と重複する。本遺構がＳＫ54土坑を切り、ＳＫ45・46土坑に切られる。新旧関係は、ＳＫ54→ＳＫ119→ＳＫ45→ＳＫ46の順となる。

[**規模・形態**] 長軸（北西－南東）：1.07m、短軸：不明、深さ：0.1mの楕円形？。底面はほぼ平らで、壁の立ち上がりは不明である。

[**埋土**] Ⅳｂ層由来土にⅤ層由来土小塊・炭化物を含む。埋土が極めて薄く、堆積成因を判断することはできなかった。

[**出土遺物**] 出土遺物はないが、ＳＫ45とＳＫ46の２つの土坑の精査中に確認した遺構であるため、ＳＫ45土坑またはＳＫ46土坑出土遺物の中に本遺構に伴う遺物が含まれている可能性が高い。

[**所見**] 他遺構との重複により残存部が少なく、不明な点が多い。

ＳＫ120土坑（第45図、図版３）

[**位置**] ＭＣ46

[**検出の経緯**] Ⅴ層精査中に、暗褐色土の不整形な広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[**重複**] ＳＮ32・33焼土遺構、ＳＫＰ365～367・377・381・657・658柱穴様ピットと重複し、ＳＫＰ365～367・377・381・657を切り、ＳＮ32・33、ＳＫＰ658に切られる。新旧関係は、ＳＫＰ365～367・377・381・657→ＳＫ120→ＳＮ32・33、ＳＫＰ658の順となる。

[**規模・形態**] 長軸（北東－南西）：2.2m、短軸（北西－南東）：1.12m、深さ：0.3mの不整形。壁の立ち上がりは西側がほぼ垂直で、他は緩やかである。底面は凹凸が著しい。

[**埋土**] 埋土はⅤ層由来土小塊・炭化物を含むⅣｂ層由来土による埋め戻しと判断する。

[**所見**] 埋土は炭化物粒・材と焼土粒・塊を多量に含有することから、性格は焼成行為に伴うものと考える。平面形が歪であり、底面の凹凸が著しいことから、落ち込みへの流入土の可能性も考えられる。周辺にあるＳＫ121土坑はほぼ同時期の遺構と考える。遺物は出土しなかった。

ＳＫ121土坑（第46図、図版３）

[位置]ＭＣ45・46

[検出の経緯]Ｖ層精査中に暗褐色土の広がりを確認し、後の精査により土坑と判断した。

[重複]ＳＮ34焼土遺構、ＳＤ49・50溝跡、ＳＫＰ362・363・364柱穴様ピットと重複し、ＳＤ49・50、ＳＮ34、ＳＫＰ362・363・364に切られる。新旧関係は、ＳＫ121→ＳＤ49・50→ＳＮ34・ＳＫＰ362・363・364の順となる。

[規模・形態]長軸(西－東)：2.53m、短軸(北－南)：1.72m、深さ：0.24mの不整形。壁の立ち上がりは西側が急で、他はほぼ垂直である。底面は凹凸が著しい。

[埋土]埋土はＶ層由来土小塊・炭化物を含むⅣｂ層由来土による埋め戻しと判断する。

[所見]埋土は炭化物粒・材と焼土粒・塊を多量に含有することから、性格は焼成行為に伴うものと考える。平面形が歪であり、土坑上部が崩れた可能性が考えられる。周辺にあるＳＫ120土坑はほぼ同時期の遺構と考える。遺物は出土しなかった。

ＳＫ128土坑(第28図)

[位置]ＭＣ44・45

[検出の経緯]Ｖ層上面で黒褐色土の広がりを確認し、精査により土坑と判断した。

[重複]ＳＤ28溝跡と重複し、同遺構に切られる。新旧関係は、ＳＫ128→ＳＤ28の順となる。

[規模・形態]長軸(北東－南西)：(0.45)ｍ、短軸(北西－南東)：(0.42)ｍ、深さ：0.09m。ＳＤ28に掘り込まれているため、当初の平面形は不明であるが、楕円形と推測する。

[埋土]ＳＤ28溝跡に切られるため、本遺構に伴う埋土はほとんど残存せず、堆積成因を判断することはできなかった。

[所見]北側に位置するＳＫ36土坑と確認面から底面までの深さや残存プランの形状が似る。遺物は出土しなかった。

9　焼土遺構

ＳＮ10焼土遺構(第44図、図版13)

[位置]ＭＦ45・46

[検出の経緯]トレンチ壁面で焼土を確認し、Ⅲａ層上面の精査で焼土遺構と判断した。

[重複]なし。

[規模・形態]長軸(東－西)：(0.61)ｍ、短軸(北－南)：(0.27)ｍ。北側は、トレンチ掘削により消失した状態である。焼土が微かに確認できる範囲の中に、やや被熱の度合いが高い部分が点在する。

[出土遺物]周辺から土師器の甕破片44.8ｇが出土した。

[所見]Ⅲａ層上面で火を焚いたことにより形成された焼土面である。他の焼土遺構に比べ被熱が弱い小規模な焼土遺構である。Ⅲｃ層の地均し、Ⅲａ層の盛土整地後に形成された遺構である。

ＳＮ12焼土遺構(第44図、図版13)

[位置]ＭＤ・ＭＥ45

[検出の経緯]Ⅲａ層上面の精査で焼土面を確認した。

[重複]なし。

[規模・形態]長軸(東－西)：0.85m、短軸(北－南)：0.75m。焼土範囲は、最も強い被熱を受けたとみられる中央部から放射状に広がる。

[所見] Ⅲａ層上面で火を焚いたことにより形成された焼土面である。Ⅲｃ層の地均し、Ⅲａ層の盛土整地後に形成された遺構である。遺物は出土しなかった。

ＳＮ13焼土遺構（第44図、図版13）

[位置] ＭＥ44

[検出の経緯] Ｖ層上面を精査中に、地割れ痕とともに焼土面を確認した。

[重複] なし。

[規模・形態] 長軸（北西－南東）：0.58m、短軸（北東－南西）：（0.31）m。焼土形成後の地割れの一部により北東側がわずかに損なわれている。弱い被熱範囲の中に、やや強い熱を受けた部分が中央部を中心に10％ほどみられる。

[所見] 他の焼土遺構に比べ被熱が弱い焼土遺構である。Ⅲｃ層の地均しによって上面が削平された可能性がある。遺物は出土しなかった。

ＳＮ14焼土遺構（第44図、図版13）

[位置] ＭＡ・ＭＢ47

[検出の経緯] Ｖ層上面を精査中に焼土面の広がりを確認した。

[重複] ＳＫＰ324柱穴様ピットと重複し、同遺構が切る。新旧関係は、ＳＮ14→ＳＫＰ324の順となる。

[規模・形態] 長軸（北北東－南南西）：0.55m、短軸（西北西－東南東）：0.40m。焼土範囲は、最も強い被熱を受けたとみられる中央部から放射状に広がり、その周囲に炭化物粒・材と焼土粒・塊を多量に含む層が広がる。

[出土遺物] 土師器の坏破片が7.5ｇ出土した。

[所見] 本遺構・ＳＮ15・16が直径1.5m以内にあるため、同じ場所を意識して火が焚かれたことによって形成されたほぼ同時期の焼土群と考える。

ＳＮ15焼土遺構（第45図、図版13）

[位置] ＭＡ47

[検出の経緯] Ｖ層上面を精査中に焼土面の広がりを確認した。

[重複] ＳＮ16焼土遺構、ＳＫＰ235･276柱穴様ピットと重複し、これらの遺構に切られる。新旧関係は、ＳＮ15→ＳＮ16・ＳＫＰ235・276の順となる。

[規模・形態] 長軸（西－東）：0.64m、短軸（北－南）：0.52m。焼土範囲は、最も強い被熱を受けたとみられる中央部から放射状に広がり、その周囲に炭化物粒・材を多量に含む黒褐色土が広がる。

[出土遺物] 土師器の器種不明小片が1.1ｇ出土した。

[所見] 周辺にあるＳＮ16焼土遺構が本遺構より新しいが、近接するＳＮ14・16焼土遺構はほぼ同時期の遺構と考える。

ＳＮ16焼土遺構（第45図、図版13）

[位置] ＭＡ47

[検出の経緯] Ｖ層上面を精査中に焼土面の広がりを確認した。

[重複] ＳＮ15焼土遺構と重複し、同遺構を切る。新旧関係は、ＳＮ15→ＳＮ16の順となる。

[規模・形態] 長軸（西－東）：0.59m、短軸（北－南）：0.46m。焼土範囲は、中央部から放射状に広がり、その周囲に炭化物粒･材と焼土粒･塊を多量に含む層が広がる。上面は、整地等により削平されている。

[所見] 本遺構は、周辺にあるＳＮ15焼土遺構より新しいが、近接するＳＮ14・15焼土遺構はほぼ同時期の遺構と考える。遺物は出土しなかった。

ＳＮ32焼土遺構（第45図、図版13）

[位置] ＭＣ46

[検出の経緯] Ｖ層上面の精査で（トレンチ断面）、焼土面の広がりを確認した。

[重複] ＳＫ120土坑と重複し、同遺構を切る。新旧関係は、ＳＫ120→ＳＮ32の順となる。

[規模・形態] 長軸（北西－南東）：0.79m、短軸（北東－南西）：0.56m。１層は、炭化物粒・材、焼土粒・塊を大量に含む層で、燃焼後の「掻き出し」の影響を受けた部分、２層はその外側の被熱部分である。

[出土遺物] 土師器の坏破片105.2ｇ・内黒坏破片5.0ｇ・甕破片87.4ｇ・器種不明小片6.7ｇが出土した。

[所見] ＳＫ120土坑埋土上に形成された焼土である。周辺にあるＳＮ33・34焼土遺構はほぼ同時期の遺構と考える。

ＳＮ33焼土遺構（第45図、図版13）

[位置] ＭＣ46

[検出の経緯] Ｖ層上面の精査で（トレンチ断面）、焼土面の広がりを確認した。

[重複] ＳＫ120土坑と重複し、同遺構を切る。新旧関係は、ＳＫ120→ＳＮ32の順となる。

[規模・形態] 長軸（西－東）：2.53m、短軸（北－南）：1.72m。焼土範囲は、中央部から放射状に広がり、その周囲に炭化物粒・材と焼土粒・塊を多量に含有する層が広がる。１層は焼成行為で生じた焼土、２層は焼土の掻き出しによるものと推測する。

[出土遺物] 土師器の坏破片34.0ｇ・甕破片71.7ｇが出土した。

[所見] ＳＫ120土坑埋土上に形成された焼土である。周辺にあるＳＮ32焼土遺構はほぼ同時期の遺構と考える。

ＳＮ34焼土遺構（第46図、図版13）

[位置] ＭＣ46

[検出の経緯] Ｖ層上面の精査で（トレンチ断面）、焼土面の広がりを確認した。

[重複] ＳＫ121土坑、ＳＤ49・50溝跡、ＳＫＰ364柱穴様ピットと重複し、ＳＫ121、ＳＤ49・50を切り、ＳＫＰ364に切られる。新旧関係は、ＳＫ121→ＳＤ50→ＳＤ49→ＳＮ34→ＳＫＰ364の順となる。

[規模・形態] 長軸（西－東）：(0.66)ｍ、短軸（北－南）：0.49m。焼土範囲は中央部から放射状に広がり、その周囲に炭化物粒・材と焼土粒・塊を多量に含有する層が広がる。１層は焼成行為で生じた焼土と考える。２層は焼土の掻き出しによるものと推測する。

[出土遺物] 須恵器の壺・甕類胴部破片575.8ｇ、土師器の坏破片649.0ｇ・内黒坏破片73.2ｇ・甕破片698.8ｇ・器種不明小片263.6ｇ、鉄滓65.8ｇが出土した。第55図４～７は確認面付近から出土した土師器である。４は器高が低い坏で口縁直下で外反する。５は高台が剥落した坏である。６・７は甕口縁部で、ともに雑な作りである。

[所見] ＳＫ121、ＳＤ49・50埋土上に形成された焼土である。ＳＮ32・33と同時期と考えられるＳＤ49・50の埋土上に形成されることから、これらの遺構よりも新しいと考える。

ＳＮ40焼土遺構（第46図）

[位置] ＭＡ45

[**検出の経緯**] Ｖ層上面を精査中に焼土面の広がりを確認した。

[**重複**] ＳＤ92構跡と重複し、ＳＤ92埋土上に形成されるため、新旧関係は、ＳＤ92→ＳＮ40の順となる。

[**規模・形態**] 長軸（東－西）：0.51m、短軸（北－南）：0.4m。西側が撹乱によって損なわれている。不整形の焼土遺構で強い被熱を受けたと考えられる。

[**所見**] Ⅲｃ層の地均しによって上面が削平された可能性がある。骨片が出土したＳＫ38・39土坑と近接するが、関係は不明である。遺物は出土しなかった。

ＳＮ52焼土遺構（第46図、図版14）

[**位置**] ＭＤ47

[**検出の経緯**] Ｖ層上面の精査（断ち割り断面）により、焼土面と判断した。

[**重複**] なし。

[**規模・形態**] 長軸（北北東－南南西）：0.41m、短軸（西北西－東南東）：0.21m。焼土範囲は、中央部から放射状に広がる。

[**所見**] 遺物は出土しなかった。

ＳＮ62焼土遺構（第46図、図版14）

[**位置**] ＭＢ45

[**検出の経緯**] Ｖ層上面を精査中に焼土面の広がりを確認した。

[**重複**] なし。

[**規模・形態**] 長軸（北－南）：0.56m、短軸（東－西）：0.38m。不整形の焼土遺構で、中央部に２か所被熱の強い部分がある。

[**所見**] Ⅲｃ層の整地によって上面が削平された可能性がある。遺物は出土しなかった。

ＳＮ112焼土遺構（第34図、図版13）

[**位置**] ＭＡ・ＭＢ46

[**検出の経緯**] Ｖ層上面で検出したＳＫ18土坑埋土上面を精査中に焼土面の広がりを確認した。

[**重複**] ＳＫ18土坑、ＳＫＰ237柱穴様ピットと重複し、ＳＫＰ237に切られる。ＳＫ18埋没後に形成される。新旧関係は、ＳＫ18→ＳＮ112→ＳＫＰ237の順となる。

[**規模・形態**] 長軸（西－東）：0.44m、短軸（北－南）：0.20m。上面が削平される。Ⅳ層とＳＫ18埋土上面の一部に焼土面を形成する。

[**所見**] Ｖ層とＳＫ18土坑直上に形成された遺構である。ＳＮ62、本遺構、ＳＮ15、ＳＮ16は直線上に並ぶが関係は不明である。遺物は出土しなかった。

10　鍛冶炉

ＳＳ09鍛冶炉（第46図、図版14）

[**位置**] ＭＤ45

[**重複**] なし。

[**検出の経緯**] Ｖ層上面を精査中に黒色の硬化部分を確認し、後の精査により鍛冶炉と判断した。

[**規模・形態**] 長軸（東北東－西南西）：0.3m、短軸（北北東－南南西）：0.2m。径20cmほどの硬化部分と周辺の被熱部分からなる。硬化部分の中でも中央部の径10cmの範囲の硬化が著しい。

[**出土遺物**] 17.4ｇの鉄滓が出土した。

[所見] 小規模な鍛冶炉と推測するが、Ⅲｃ層の整地にともない上部が破壊された可能性がある。遺構構築に伴う掘り込みや、粘土を貼った痕跡は確認できなかった。

11　性格不明遺構

ＳＸ89性格不明遺構（第43図、図版12）

[位置] ＭＤ44・45

[検出の経緯] Ｖ層上面で黒褐色土の広がりを確認した。

[重複] ＳＫＰ467・468・619・684・702・703柱穴様ピットと重複するが、新旧関係は不明である。

[規模・形態] 長軸（北東－南西）：1.95m、短軸（北西－南東）：1.55m、深さ：0.13mの不整形。

[埋土] Ｖ層由来土塊を含むⅣｂ層由来と見られる黒褐色土が堆積していた。埋め戻しと推測する。

[出土遺物] 土師器の坏破片229.7ｇ・内黒坏破片13.1ｇ・甕破片158.0ｇ・長胴甕破片18.5ｇ・鍋破片24.7ｇ・器種不明小片117.1ｇ、緑釉陶器破片１点13.4ｇ、支脚破片73.0ｇが出土した。緑釉陶器破片は、手付瓶の胴部小片で、ＳＫ27ＲＰ８他と接合した（第53図３）。

[所見] 性格は不明であるが、土取りの跡の可能性も考えられる。

12　柱穴様ピット（第14～18図、第３～７表）

475基の柱穴様ピットを検出した。この中から、掘立柱建物跡４棟・柵列跡４条計55基を抽出したが、その他の柱穴様ピット群からは、建物の平面形や柵列を明らかにすることができなかった。埋土の特徴から、これらの柱穴様ピット群は、ほとんどが平安時代に属するものと推定される。

柱穴様ピットの大多数の埋土は、黒褐色～暗褐色を基調とする土に黄褐色土小塊・炭化物を含むものである。Ⅳｂ層または、それより上位からＶ層（地山）に至る掘り込みにより、黒褐色～暗褐色・黄褐色土が混じり合い、それらが柱穴様ピットの根固め土や埋め戻しの充填に使用されたと考えられる。出土遺物のほとんどは、これらに混入したと考えられる。

分布は、中央部緩斜面のＳＢ114・115掘立柱建物跡周辺に集中し、これらの中には、ＳＢ114とＳＢ116の隙間を隠すような東西対象の位置関係にある柱穴様ピット群（東：ＳＫＰ550・549・548・547・544・543－西：ＳＫＰ586・587・498・497・496・642）もある。この他にも、検出した遺構に関連があるものや、未検出の建物を構成するものが含まれると考えられる。

13　遺構外出土遺物（第59～75図、第78～86図）

遺構外から出土した遺物の重量は以下のとおりである。土師器坏179,051.1ｇ、土師器内黒坏19,064.5ｇ、土師器両黒坏48.2ｇ、土師器皿232.5ｇ、土師器甕194,795.9ｇ、土師器長胴甕18,601.0ｇ、土師器羽釜517.5ｇ、土師器鍋・鉢類7,093.3ｇ、土師器細片81,187.0ｇ、須恵器坏3,669.1ｇ、須恵器壺・甕類88,809.2ｇ、須恵器蓋146.4ｇ、緑釉陶器785.7ｇ（32点）、灰釉陶器408.2ｇ（20点）、白磁120.2ｇ（５点）、支脚12,824.2ｇ、土錘109.9ｇ（７点）、羽口632.0ｇ（26点）、砥石227.1ｇ（３点）、鉄床石4,380.0ｇ（１点）、被熱礫13,994.1ｇ（69点）、鉄滓4,040.8ｇ、鉄製品591.1ｇ（13点）、縄文土器860.1ｇ、縄文時代石器3,013.2ｇ（45点）、弥生土器282.1ｇ、近世磁器412.9ｇ（27点）、銭貨6.1ｇ（２枚：元豊通寶2.8ｇ、寛永通寶3.3ｇ）などである。この他に木製品1,374点があるが、水分を多く含むため計測は行わなかった。これらのうち、本書に掲載した遺物の大きさ、特徴などを、第８～15表に記載した。遺物は、調査区全体から出土したが、特に多いのは南側斜面である。また、木製遺物のほとんどは、低湿地北側沢部からの出土である。出土遺物は、北側の沢地が古く９世紀代が主体となる。緑釉陶器は、北側沢地からの出土が多い。

①土器・陶磁器（第59～72図）

第59図８～15は、墨書のある須恵器の坏である。14は、逆さに墨書された土器で、「貯」の異体字とみられる。８～12は「貯」の一部、８・12（胴部墨書）が左辺、９～11（底部墨書）が右辺を示す可能性がある。第61図４は、胴部最大径90㎝の須恵器の大甕である。同一個体とみられる胴部（第48図１）が、ＳＤ60溝跡などから出土している。口縁直下に８条一組の波状文が施されている。胴部には、平行叩きが、内面に青海波当て具痕が残る。

第65図３～16、第66図１～８は、墨書のある土師器の坏である。第65図５・６・16、第66図７は、「貯」の異体字とみられる。第65図４・10もその可能性がある。土師器の底部への墨書は、第65図９のみで、その他はすべて胴部への墨書である。

第71図６は沢部から出土した緑釉陶器稜椀である。全体の１／２ほど残存し、銀化している。内外面ともに、入念なミガキの痕跡が確認でき、内面には一条の沈線が巡る。見込み及び底部外面には、三叉トチン痕がある。高台は輪状で貼付手法によるものである。第72図３・４は、緑釉陶器手付瓶の頸部と肩部であり、ＳＫ27出土の緑釉陶器（第53図３）と同一個体とみられる。

第72図10・13は、灰釉陶器の瓶類の胴下半部である。硬質でずっしりとした重量感がある。

第72図20・21は同一個体とみられる玉縁口縁の白磁である。20の断面にはタール状の黒い物質が付着している。第72図23は、白磁の胴下半～底部である。高台周辺は未施釉である。

②土製品（第73～74図10）

第73図１～３は須恵器の転用硯である。いずれも内面が滑らかになっており、墨痕が確認できる。第73図４は二面硯で風字硯の一部と見られる。胎土は赤褐色で、全面的にミガキ痕が確認できる。第73図５～10は土製支脚である。上面中央に穴があるもの（５・８・10）とないもの（６・７）がある。内面に指頭圧痕が残るものがある。８の上面には、砂底土器のように多量の小礫が付着している。

③鉄製品・鍛冶滓（第74図11～14）

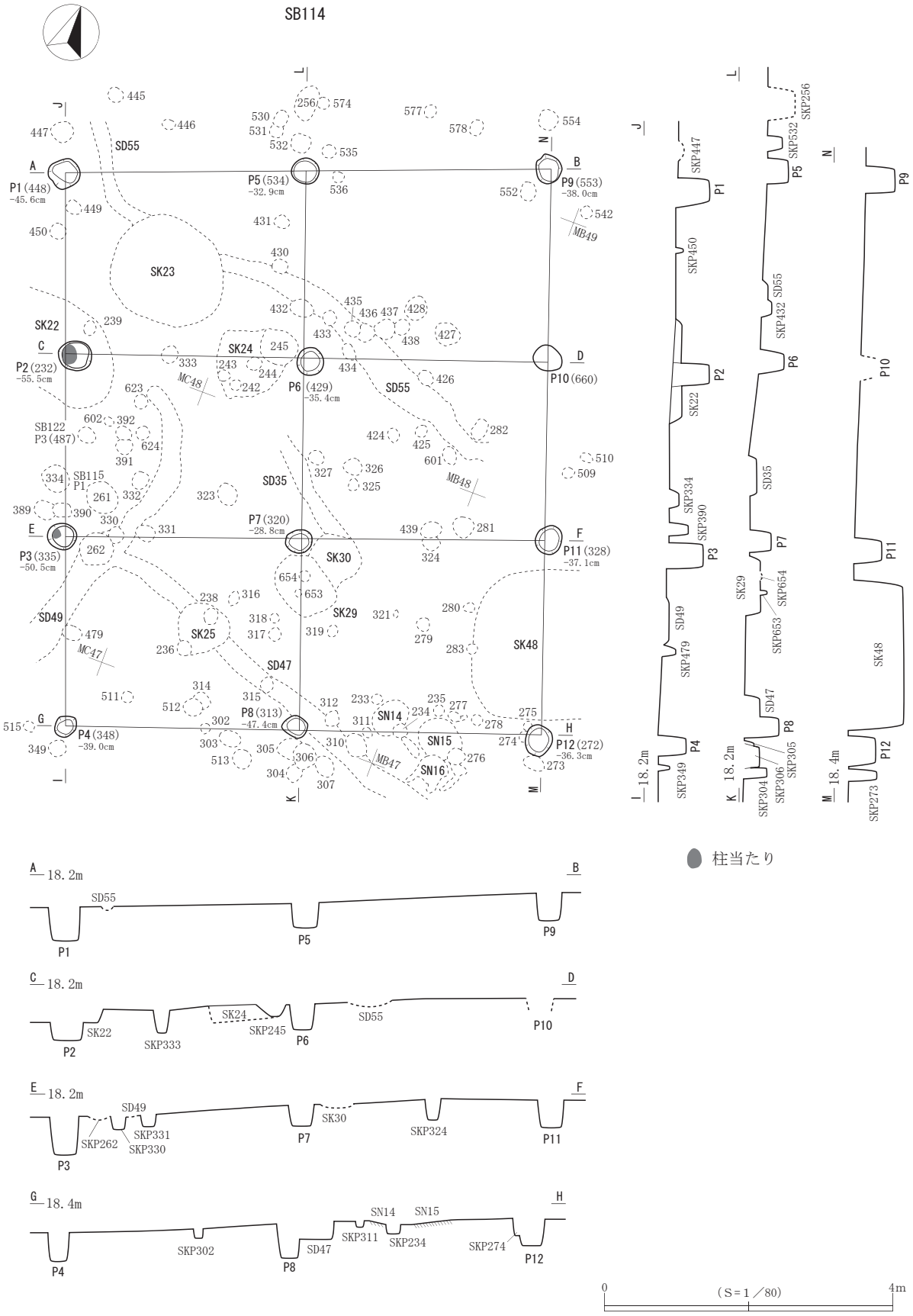
第74図11・12は、同一個体の棒状の鉄製品である。接合面が僅かに欠け接合には至らなかったが、同じ場所から出土している。第74図13・14は、椀形鍛冶滓である。13には、鍛冶炉の掘方に貼ったとみられる粘土が付着している。

④石器（第75図１～３）

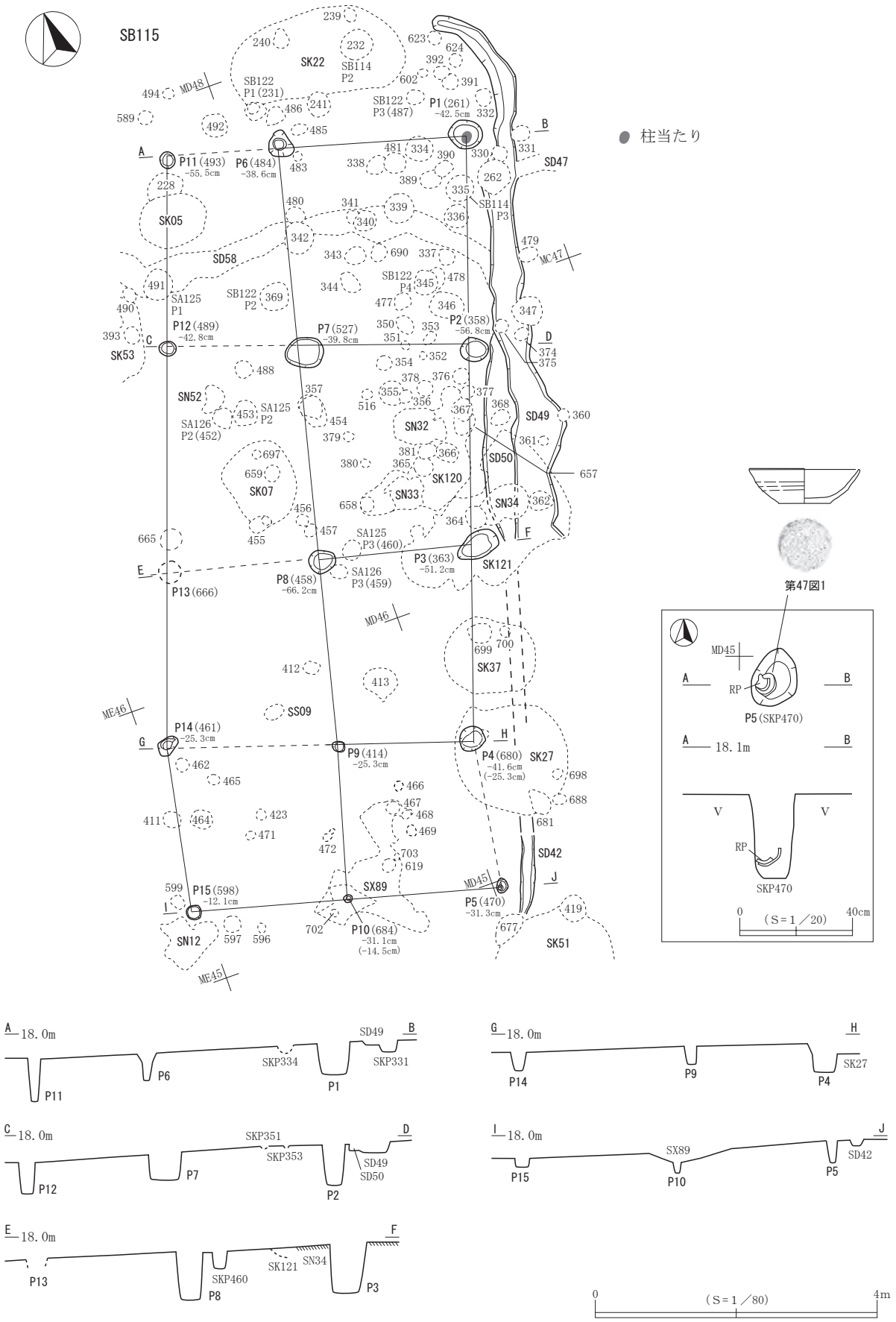
第75図１・２は古代の砥石、第75図３は石匙である。１・２は、砥面に多数の筋状の傷がみられる。

⑤木製品（第78～86図）

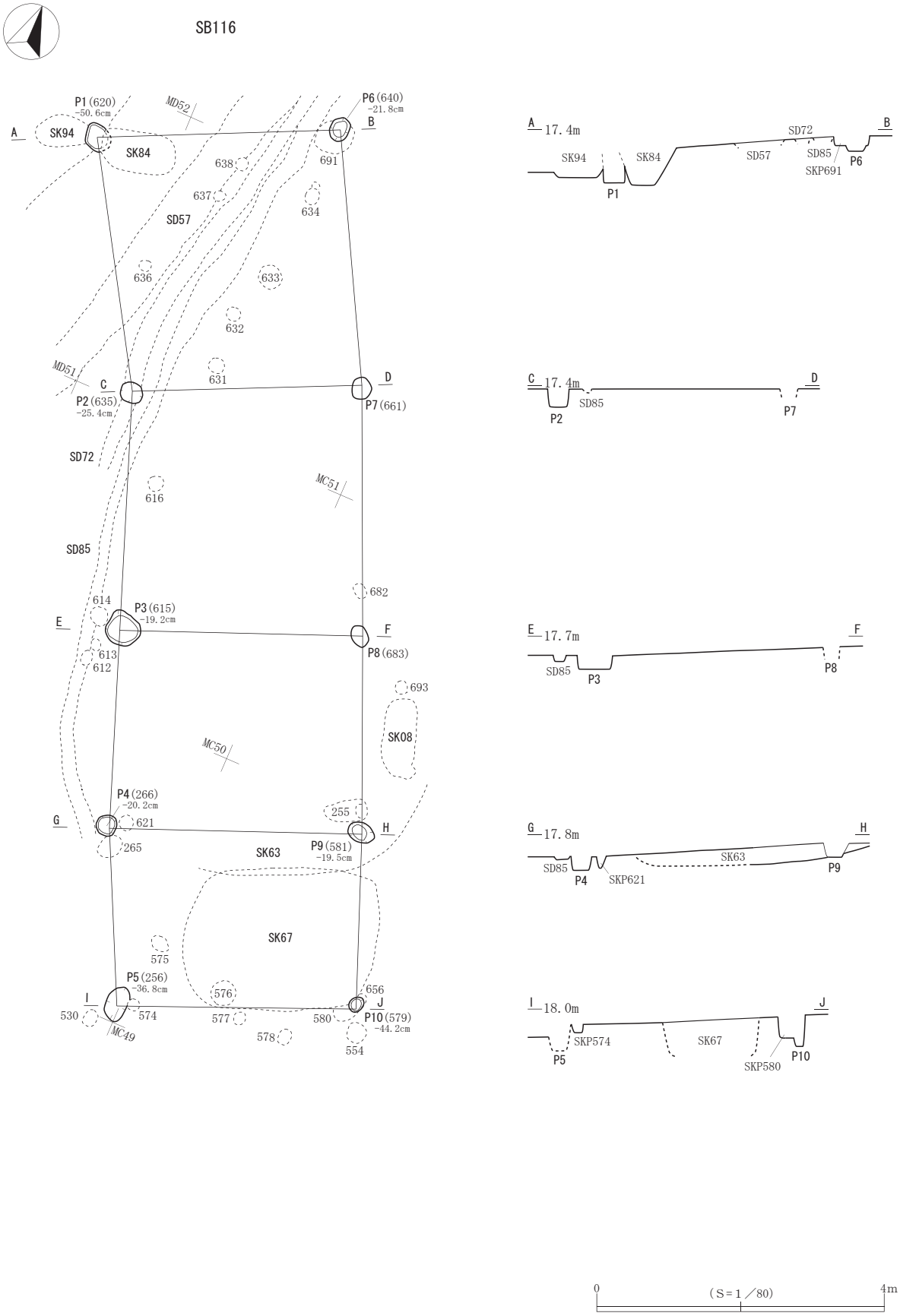
第78図１は、全面黒漆塗りの椀である。底部には台が取れた痕跡が残り、被熱により炭化した箇所も認められる。正位の状態で出土し、真下から木製の皿（第78図３）が正位の状態で出土した。第78図２は蓋状の黒漆塗り木製品である。漆は表裏両面に塗布されている。第81図１は、題箋軸である。片面が裂けて欠損しているが、軸部分の横断面は円形と推定される。墨書は確認できなかった。第81図７は、木簡であるが文字内容は不明である。第81図８は、「守」の字のような傷が残る板状の木製品である。両側縁は丸みを帯びる。第85図１は、仕口で組み合った木製品である。机等の脚の可能性がある。第85図６は、扉を受けた痕跡の残る敷居状の部材（楣）である。扉軸を受ける貫通孔が一つであるため、片扉の建築物に組み込まれていたと考えられる。


SB114
P1 (448)
-45.6cm
P2 (232)
-55.5cm
P3 (335)
-50.5cm
P4 (348)
-39.0cm
P5 (534)
-32.9cm
P6 (429)
-35.4cm
P7 (320)
-28.8cm
P8 (313)
-47.4cm
P9 (553)
-38.0cm
P10 (660)
P11 (328)
-37.1cm
P12 (272)
-36.3cm
SK23
SK22
SK24
SK25
SK29
SK30
SK48
SD35
SD47
SD49
SD55
SN14
SN15
SN16
SB122
P3 (487)
SB115
P1
MC48
MC47
MB48
MB49
MB47
SKP447
SKP450
SKP334
SKP390
SKP479
SKP349
SKP256
SKP532
SKP432
SKP654
SKP653
SKP305
SKP306
SKP304
SKP273
18.2m
18.4m
柱当たり
SKP262
SKP331
SKP330
SKP302
SKP311
SKP234
SKP274
SKP245
SKP333
SKP324
0
(S＝1／80)
4m

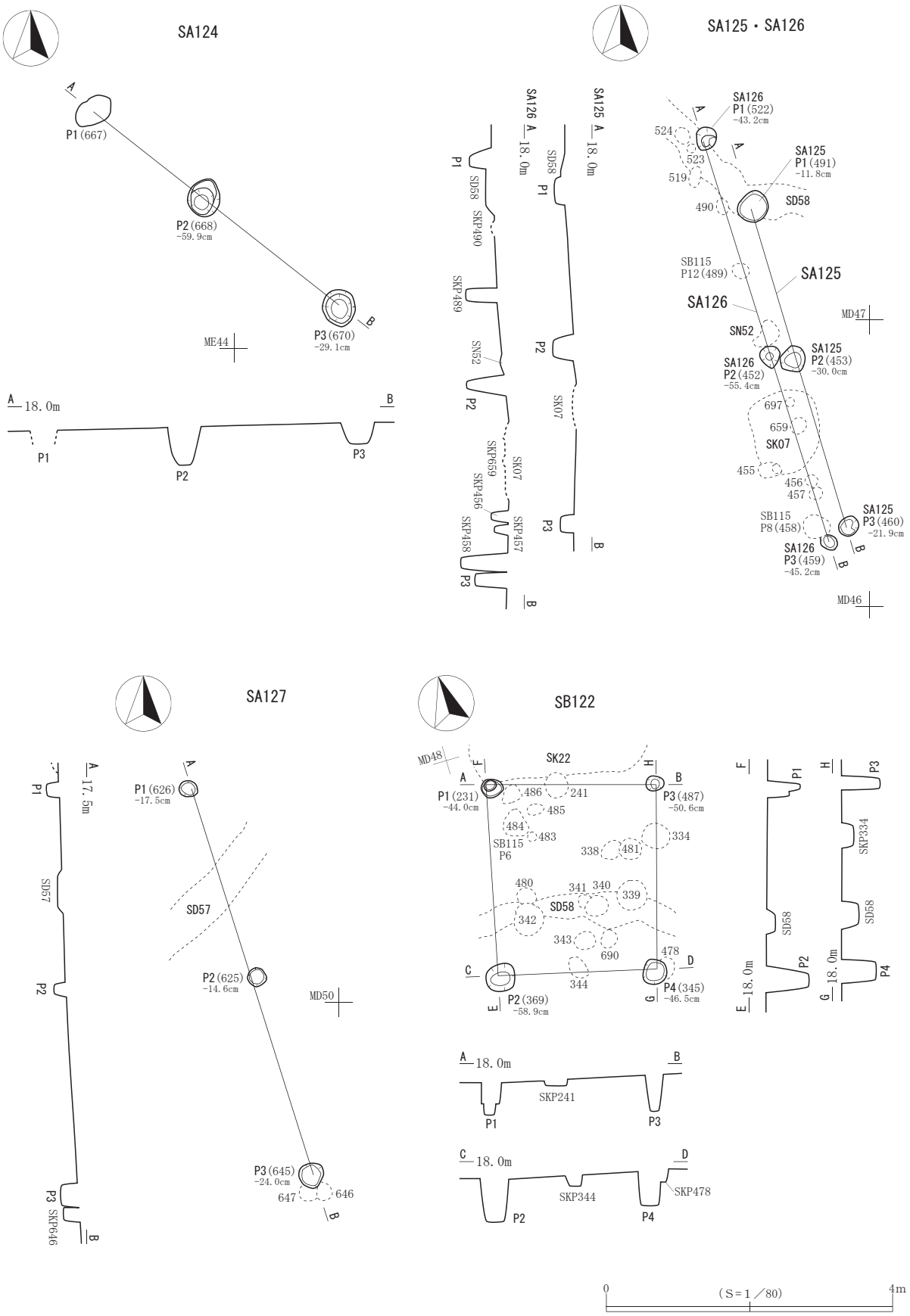
第19図　SB114


SB115
柱当たり
SK22
SB114 P2
SB122 P1(231)
SB122 P3(487)
P1(261) -42.5cm
P11(493) -55.5cm
P6(484) -38.6cm
SD47
SK05
SD58
SB114 P3
SB122 P4
SA125 P1
SB122 P2
P12(489) -42.8cm
P7(527) -39.8cm
P2(358) -56.8cm
SK53
SN52
SA125 P2
SA126 P2(452)
SN32
SD49
SD50
SK07
SK120
SN33
SN34
SA125 P3(460)
P3(363) -51.2cm
SK121
P13(666)
P8(458) -66.2cm
SA126 P3(459)
SK37
SS09
P14(461) -25.3cm
P9(414) -25.3cm
P4(680) -41.6cm (-25.3cm)
SK27
SD42
SX89
P15(598) -12.1cm
P5(470) -31.3cm
SN12
P10(684) -31.1cm (-14.5cm)
SK51
第47図1
MD45
RP
P5(SKP470)
18.1m
SKP470
(S=1／20)
0
40cm
18.0m
SKP334
SKP331
SKP351
SKP353
SKP460
SK121
SN34
(S=1／80)
4m

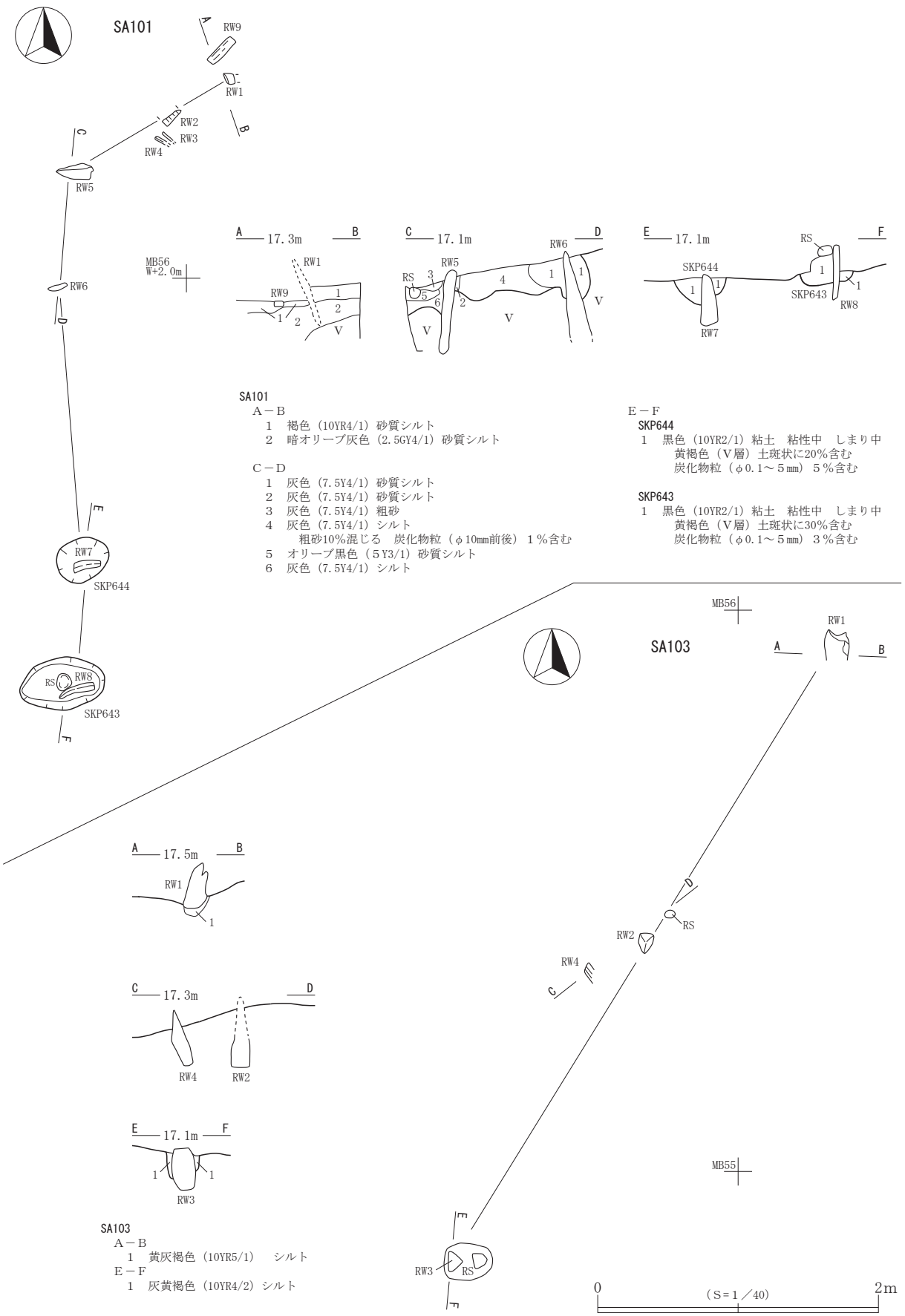
第20図　SB115


SB116
P1(620)
-50.6cm
P6(640)
-21.8cm
A
B
SK94
SK84
MD52
638
691
637
634
SD57
636
633
632
MD51
631
C
D
P2(635)
-25.4cm
P7(661)
SD72
616
MC51
SD85
682
614
P3(615)
-19.2cm
E
F
P8(683)
613
612
693
SK08
MC50
P4(266)
-20.2cm
255
G
621
H
265
SK63
P9(581)
-19.5cm
SK67
575
P5(256)
-36.8cm
656
I
576
J
530
574
577
580
P10(579)
-44.2cm
MC49
578
554
A 17.4m
SD72
B
SK94
SK84
SD57
SD85
P6
SKP691
P1
C 17.4m
D
SD85
P2
P7
E 17.7m
F
SD85
P3
P8
G 17.8m
H
SD85
SK63
P4
SKP621
P9
I 18.0m
J
SKP574
SK67
P5
SKP580
P10
0
(S=1／80)
4m

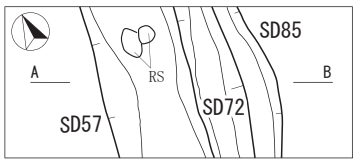
第21図　SB116

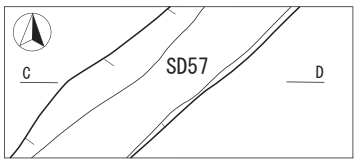


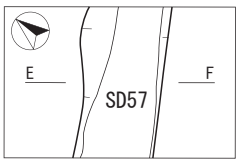
第22図　SA124・125・126・127、SB122

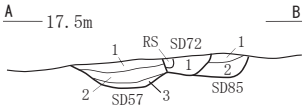


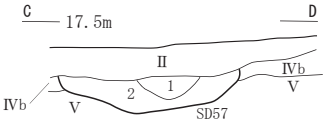
第23図　SA101・103











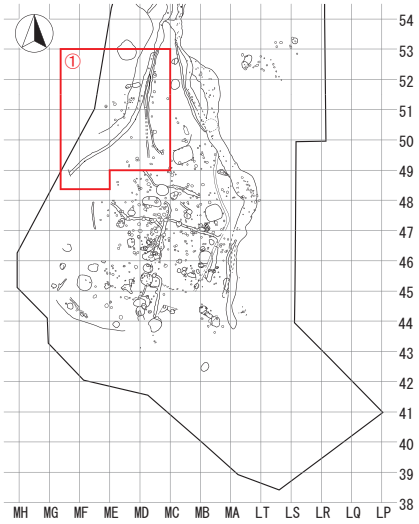
SD72
1　暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性やや弱　しまり中
　にぶい黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～10mm）10%含む
　炭化物粒（φ0.1～10mm）３%含む

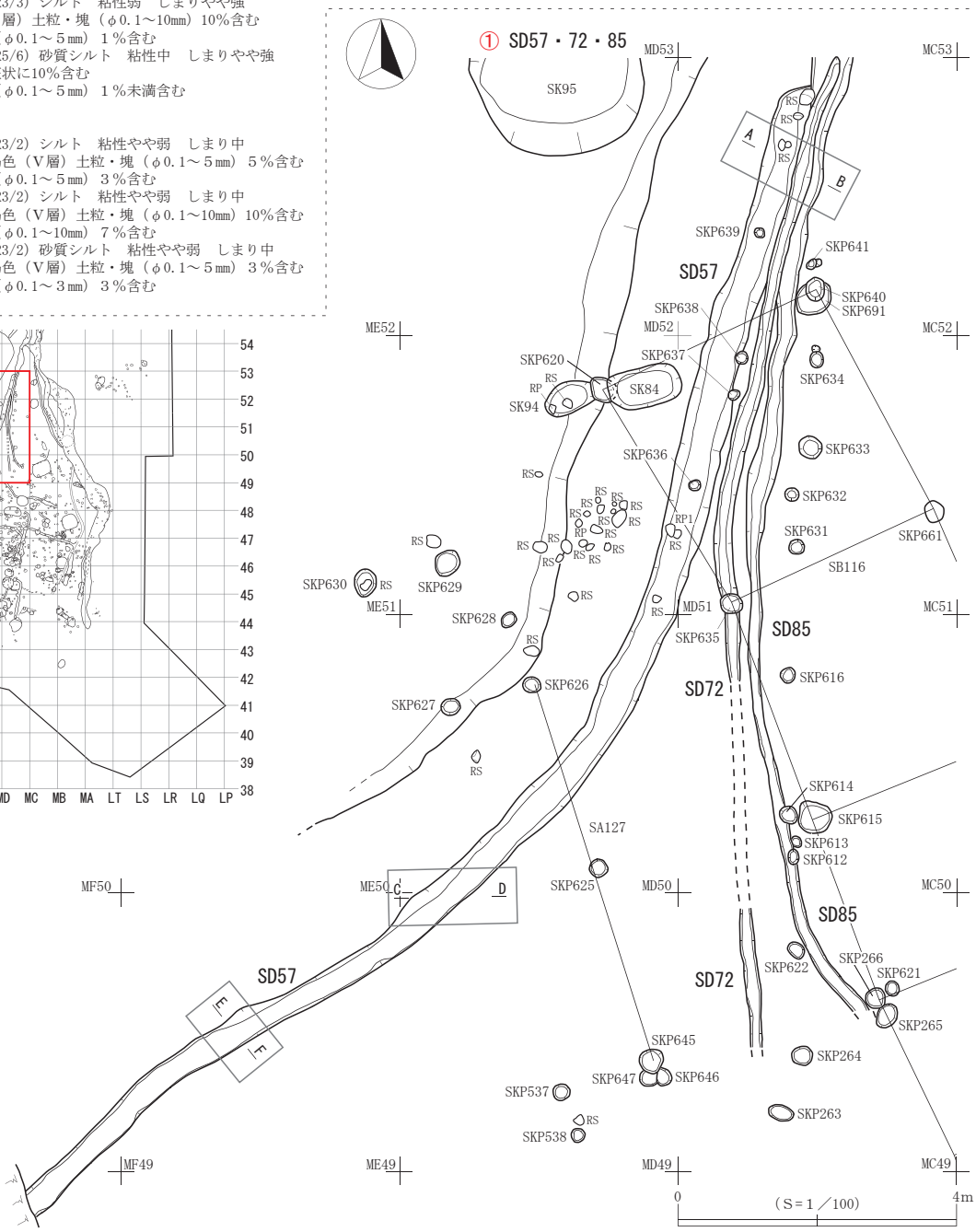
SD85
1　暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性弱　しまりやや強
　黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～10mm）10%含む
　炭化物粒（φ0.1～５mm）１%含む
2　黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　粘性中　しまりやや強
　暗褐色土斑状に10%含む
　炭化物粒（φ0.1～５mm）１%未満含む

SD57
1　黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性やや弱　しまり中
　にぶい黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～５mm）５%含む
　炭化物粒（φ0.1～５mm）３%含む
2　黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性やや弱　しまり中
　にぶい黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～10mm）10%含む
　炭化物粒（φ0.1～10mm）７%含む
3　黒褐色（10YR3/2）砂質シルト　粘性やや弱　しまり中
　にぶい黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～５mm）３%含む
　炭化物粒（φ0.1～３mm）３%含む

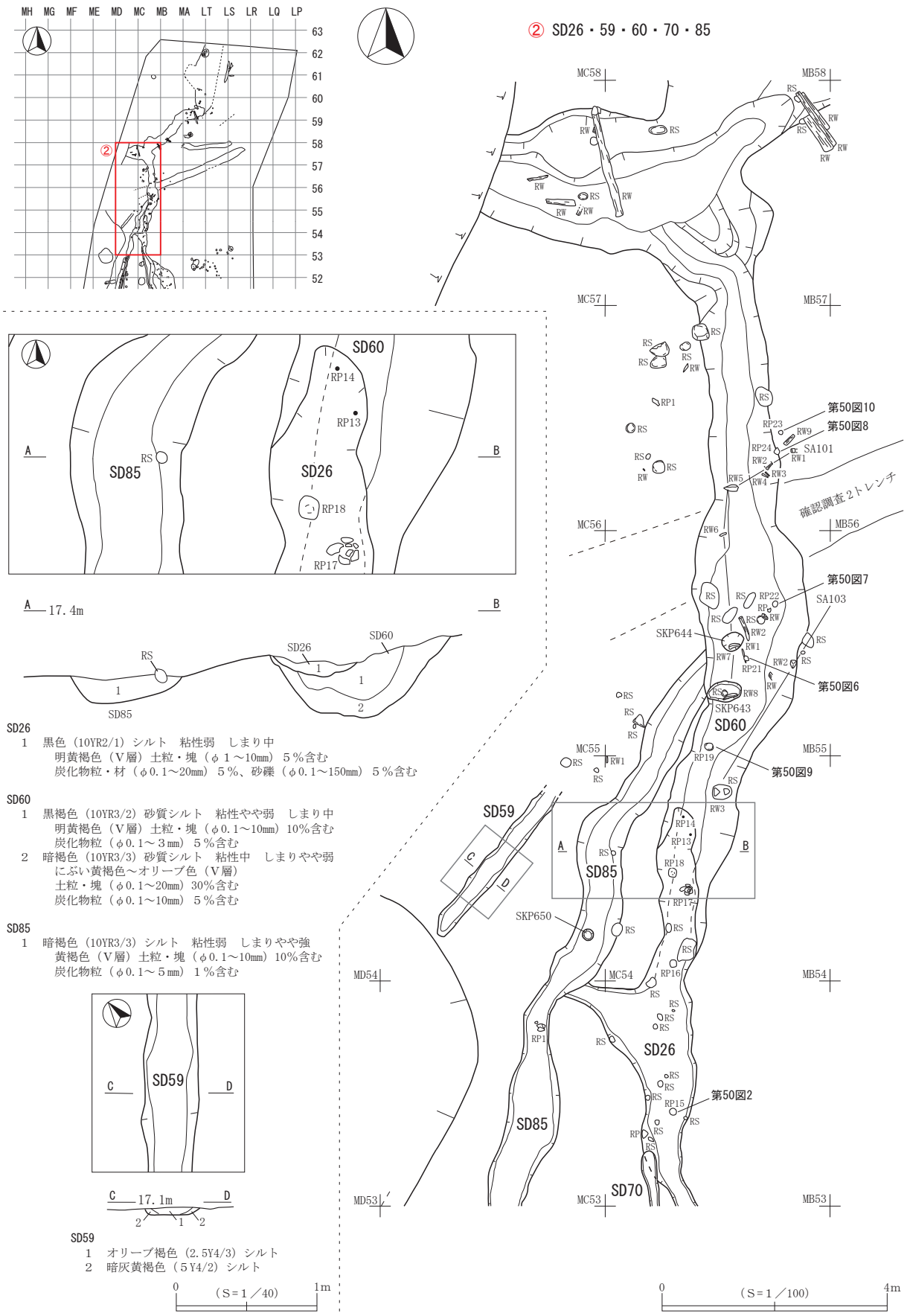
SD57
1　褐灰色（10YR4/1）シルト　地山粒状に微量含む　粘性中　しまり強
2　褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性中　しまり強
　黄褐色（2.5Y5/4）砂質土塊（φ５～30mm）15%、炭化物粒（φ５～10mm）５%含む

0　（S＝1／40）　1m

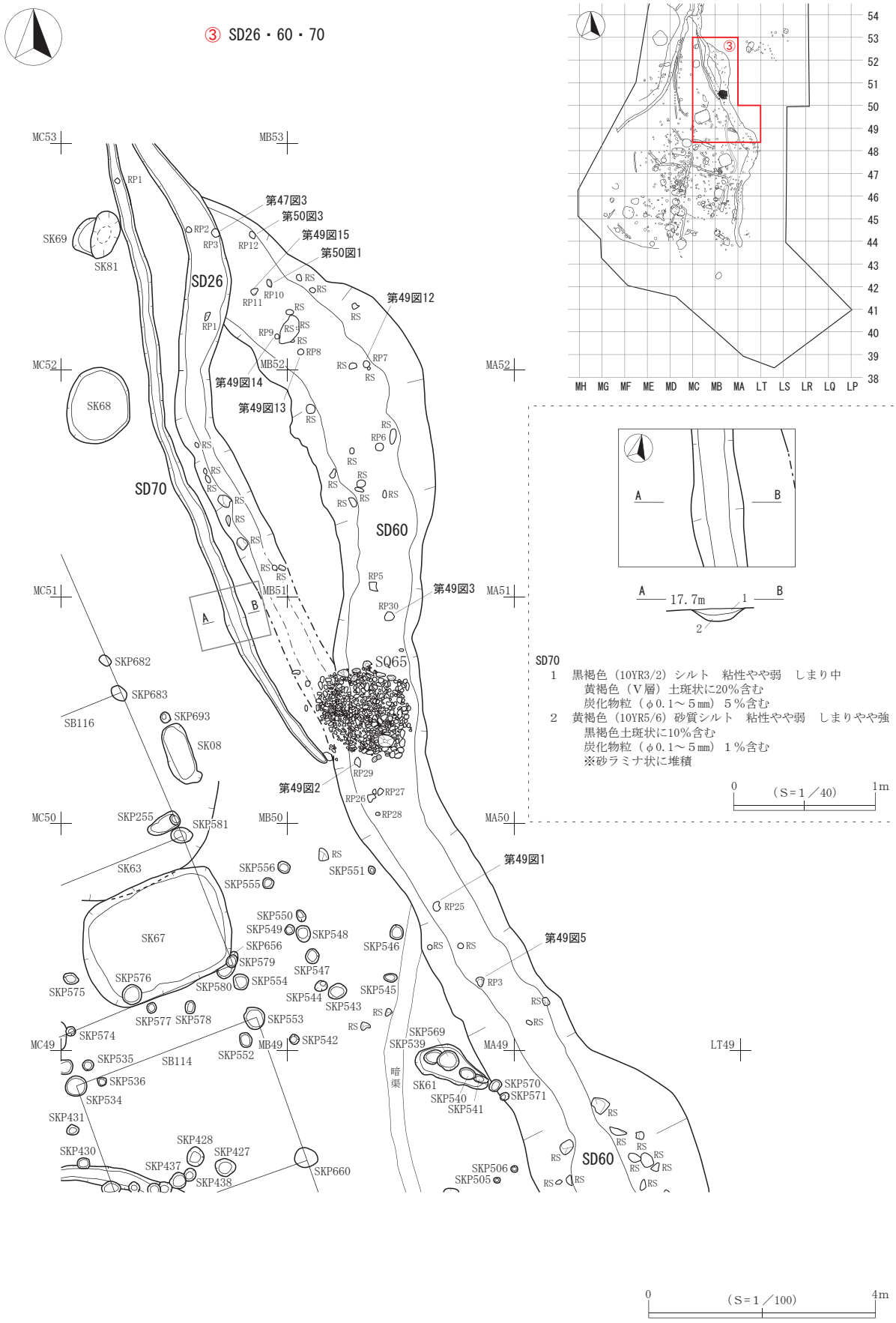




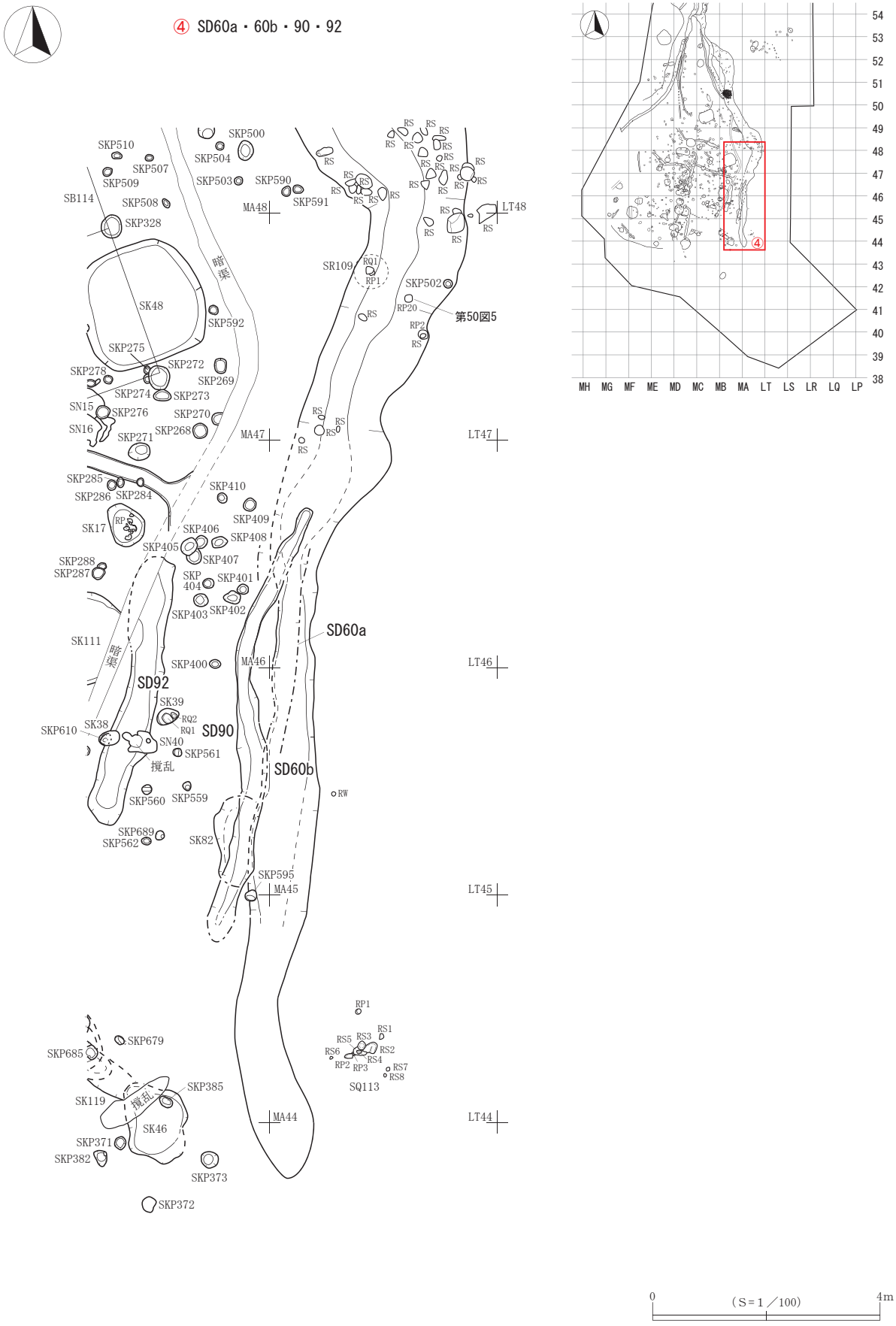
第24図　SD57・72・85



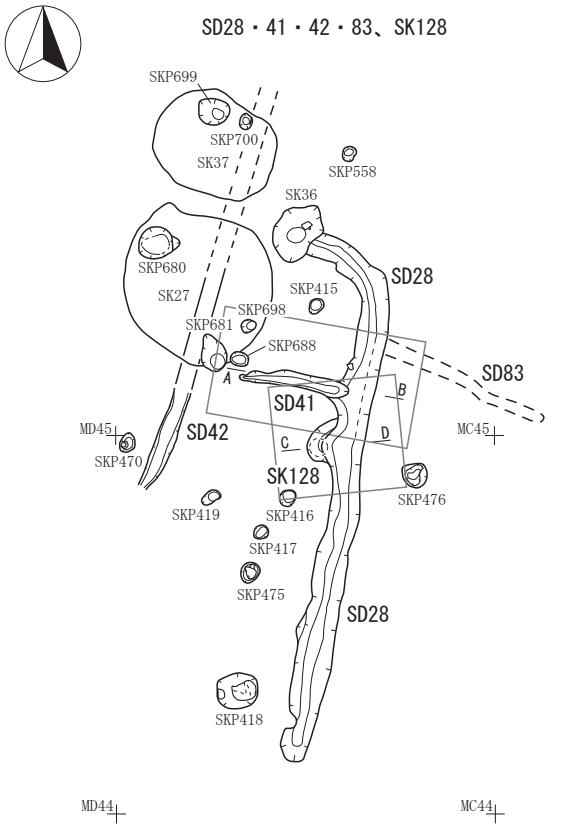
第25図　SD26・59・60・70・85



第26図　SD26・60・70

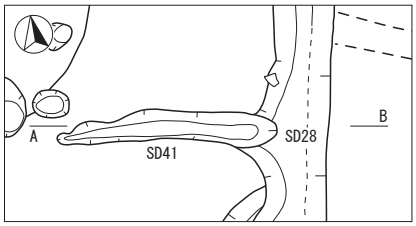


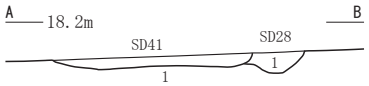
第27図　SD60a・60b・90・92



SD42
1　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強　しまり強
　灰黄色（2.5Y6/2）粘土塊　５％含む
　炭化物粒・材（φ５～30mm）５％含む

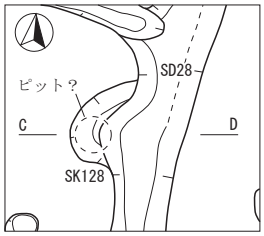
0　（S＝1／80）　4m

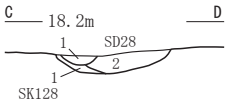




SD41
1　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強　しまり強
　灰黄色（2.5Y6/2）粘土塊（φ５mm前後）10％含む
　炭化物粒（φ５mm前後）５％含む

SD28
1　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強　しまり強
　灰オリーブ色（５Y6/2）粘土塊状５％含む
　炭化物粒・材（φ５～30mm前後）５％含む

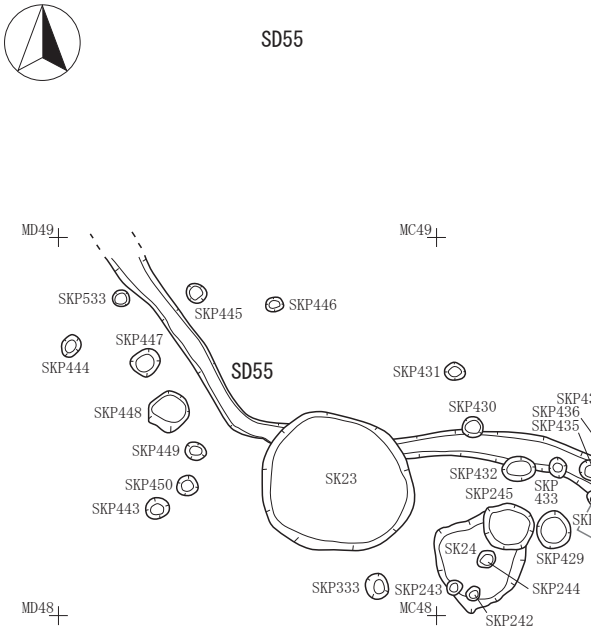


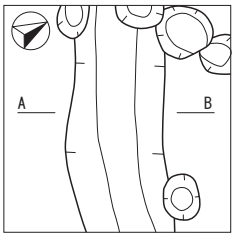


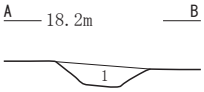
SD28
1　褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強　しまり強
　灰オリーブ色（５Y6/2）粘土塊（φ５mm前後）10％含む
　炭化物粒・材（φ５～15mm）５％含む　※浅いピットか
2　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強　しまり強
　灰オリーブ色（2.5Y6/2）粘土塊（φ５～30mm）10％含む
　炭化物粒・材（φ５～15mm）５％含む

SK128
1　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強　しまり強
　灰オリーブ色（５Y6/2）粘土塊（φ５mm）10％含む

0　（S＝1／40）　1m





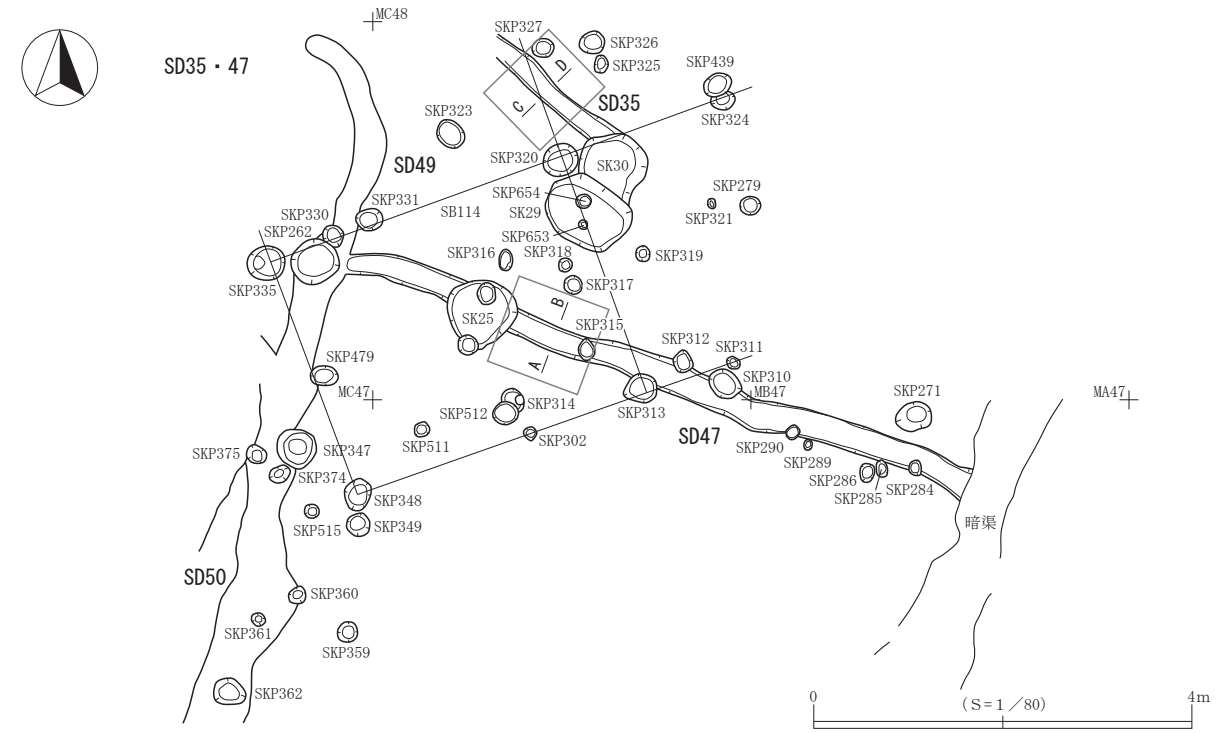


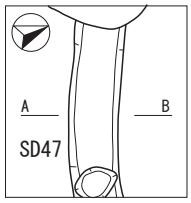
SD55
1　暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性やや強　しまり強
　にぶい黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～10mm）10％含む
　炭化物粒・材（φ0.1～20mm）５％、焼土粒（φ0.1～２mm）１％未満含む

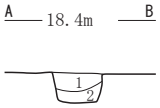
0　（S＝1／40）　1m

0　（S＝1／80）　4m

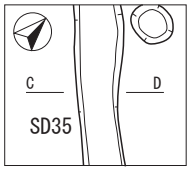
第28図　SD28・41・42・55・83、SK128

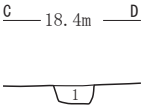






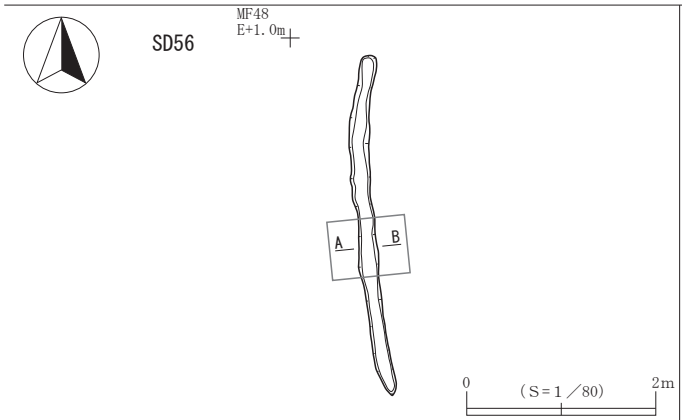
SD47
1　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性やや弱　しまりやや強
　暗褐色土斑状に20%含む
　炭化物粒（φ0.1～３㎜）10%、焼土粒（φ0.1～２㎜）１%未満含む
2　暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性弱　しまり強
　にぶい黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～７㎜）10%含む
　炭化物粒（φ0.1～５㎜）３%含む

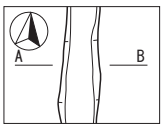


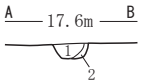


SD35
1　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性やや弱　しまり強
　暗褐色土粒・塊（φ0.1～30㎜）20%、炭化物粒・材（φ0.1～20㎜）５%含む

0　（S＝1／40）　1m

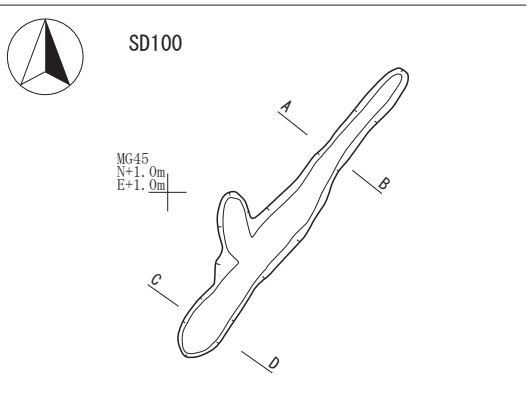






SD56
1　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性中　しまり強
　灰黄色（2.5Y6/2）粘土塊（φ５㎜ほど）１%含む
　炭化物粒（φ５㎜未満）１%以下含む
2　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性中　しまり強
　灰黄色（2.5Y6/2）粘土塊（φ10㎜前後）20%含む
　炭化物粒（φ５㎜ほど）３%以下含む

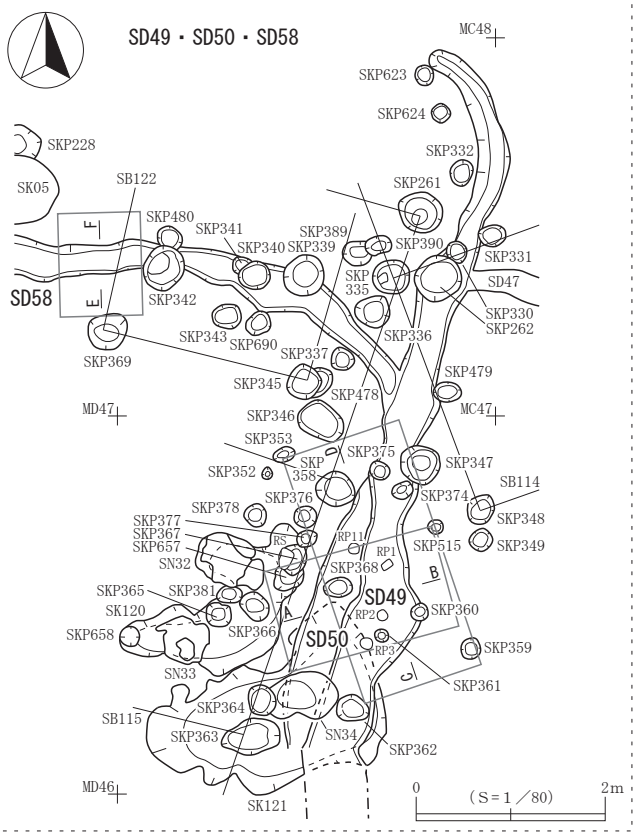
0　（S＝1／40）　1m

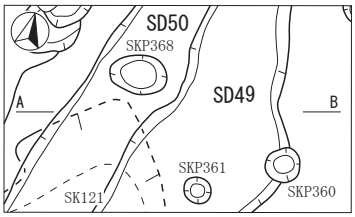


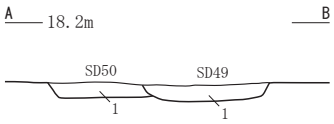
SD100
1　褐灰色（10YR4/1）シルト
　Ｖ層由来土５%含む
　炭化物粒（φ５㎜前後）３%含む

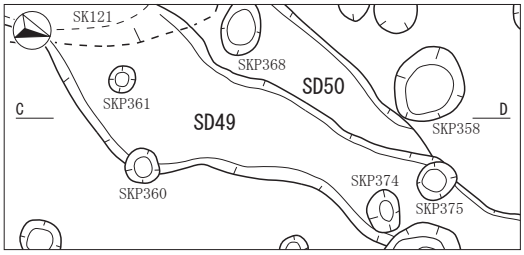
0　（S＝1／40）　1m

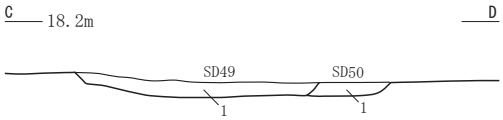
第29図　SD35・47・56・100





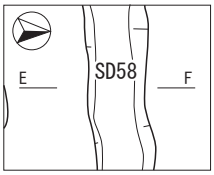


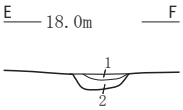




SD49
1　暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性やや弱　しまりやや強
　にぶい黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～20mm）20%含む
　炭化物粒・材（φ0.1～20mm）１%含む

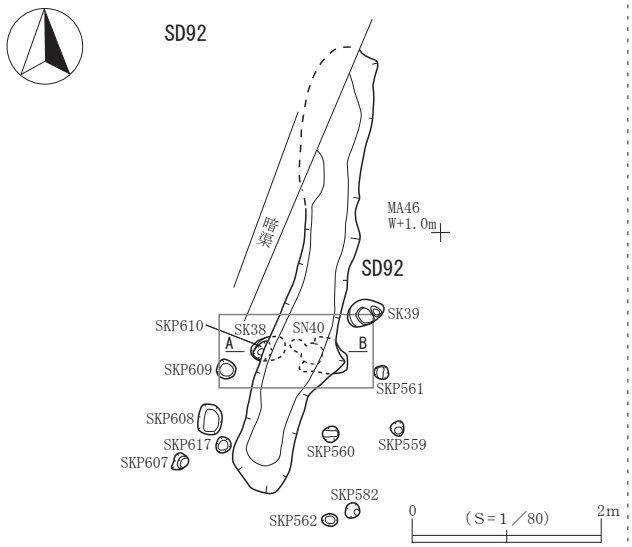
SD50
1　暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性やや弱　しまりやや強
　にぶい黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～10mm）20%含む
　炭化物粒・材（φ0.1～20mm）５%含む

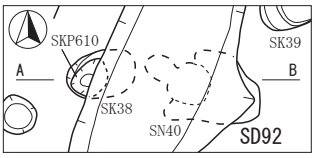


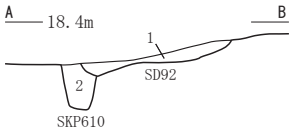


SD58
1　暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性やや弱　しまり中
　にぶい黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～20mm）10%含む
　炭化物粒（φ0.1～５mm）３%含む
2　にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質シルト　粘性弱　しまりやや強
　黒褐色土斑状に10%含む
　炭化物粒（φ0.1～５mm）１%含む

0　(S=1／40)　1m





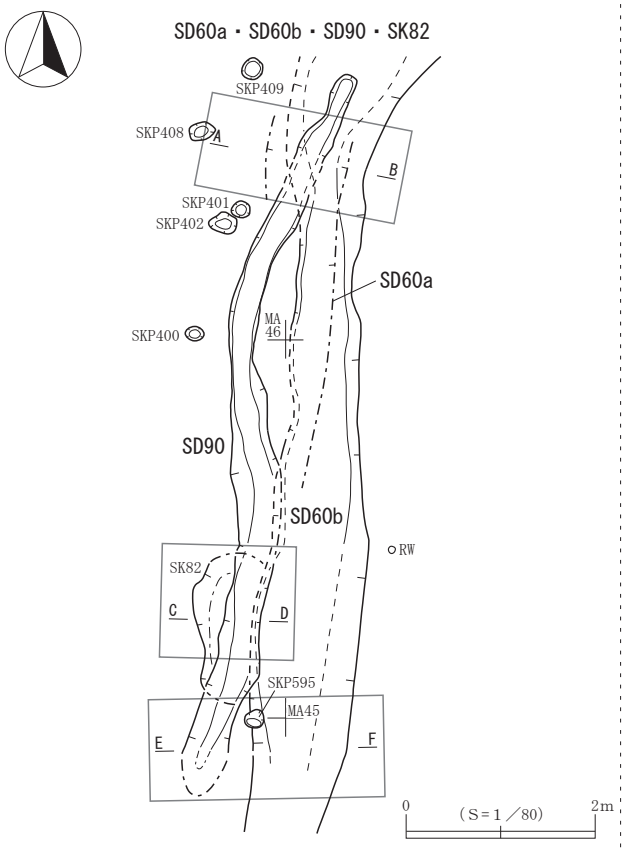


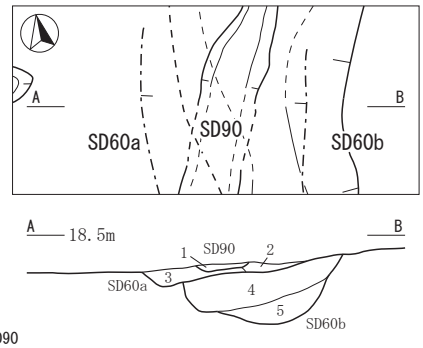
SD92
1　褐灰色（10YR4/1）シルト
　灰黄色（2.5Y6/2）土塊（φ５～30mm）10%含む
　炭化物粒（φ10mm前後）５%含む

SKP610
2　黒褐色（10YR3/1）シルト
　灰黄色（2.5Y6/2）土塊（φ10mm以下）10%含む
　炭化物粒（φ５mm以下）１%含む

0　(S=1／40)　1m

第30図　SD49・50・58・92

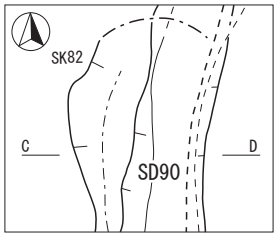


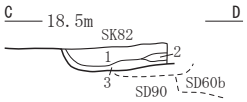


SD90
1　浅黄色（2.5Y7/3）シルト　粘性中　しまり強

SD60a
2　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性中　しまり強
　炭化物（φ５㎜ほど）１％含む
3　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　粘性中　しまり強
　にぶい黄（2.5Y6/4）シルト　塊状　３％含む
　炭化物（φ５㎜ほど）２％含む

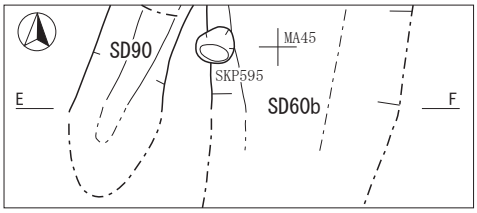
SD60b
4　暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト　粘性中　しまり強
　にぶい黄（2.5Y6/4）シルト　塊（φ２～３㎜）３％含む
5　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　粘性中　しまり強
　黄褐色（2.5Y5/3）シルト　40％混じる
　炭化物（φ５㎜ほど）１％含む

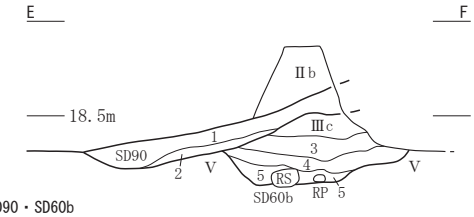




SK82
1　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　粘性中　しまり強
　炭化物粒（φ５㎜前後）２％含む
2　黒色（10YR2/1）シルト　粘性中　しまり強
　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　20％混じる　粘性中　しまり強
　炭化物粒（φ５㎜前後）１％未満　含む
3　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強　しまり強
　炭化物粒（φ５～10㎜前後）２％含む

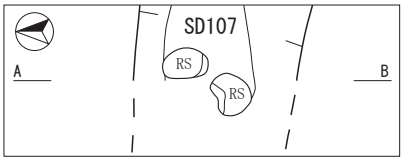
0　（S＝1／40）　1m



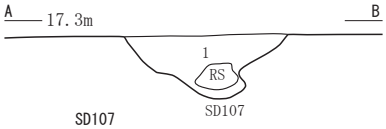


SD90・SD60b
1　浅黄色（2.5Y7/3）シルト　粘性中　しまり強
2　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性中　しまり強
　炭化物粒（φ５㎜ほど）１％含む
3　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　粘性中　しまり強
　にぶい黄（2.5Y6/4）シルト　塊状　３％含む
　炭化物粒（φ５㎜ほど）２％含む
4　暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト　粘性中　しまり強
　にぶい黄（2.5Y6/4）シルト　塊（φ２～３㎜）３％含む
5　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　粘性中　しまり強
　黄褐色（2.5Y5/3）シルト　40％混じる
　炭化物粒（φ５㎜ほど）１％含む

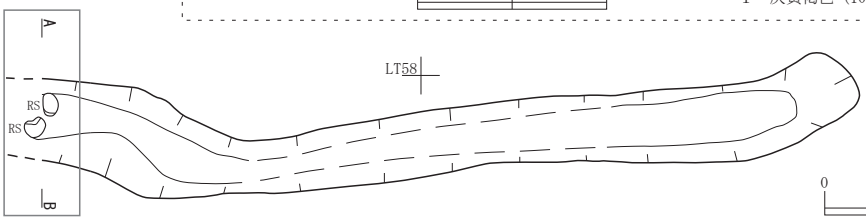
SD107



0　（S＝1／40）　1m

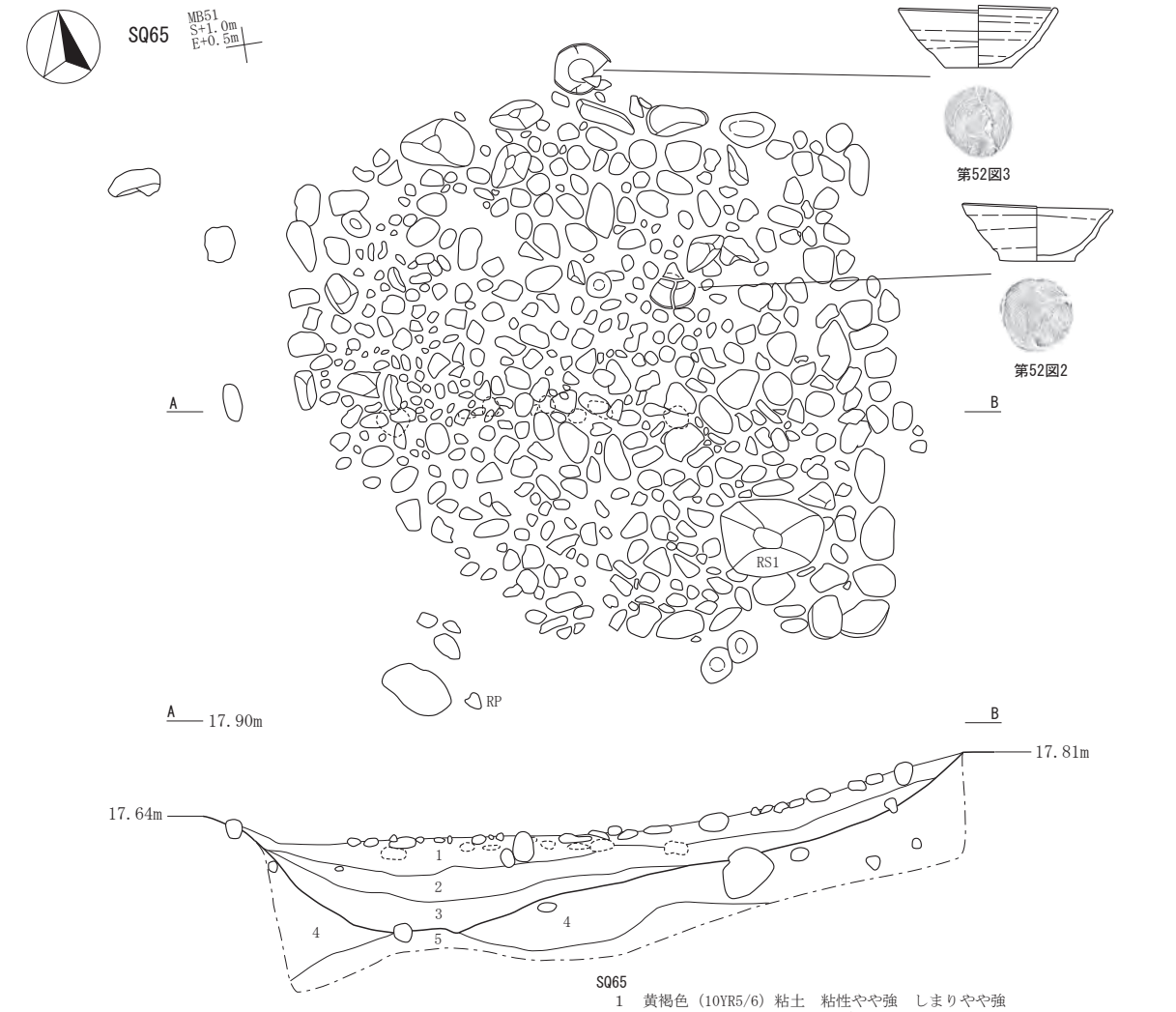


SD107
1　灰黄褐色（10YR4/2）砂質シルト

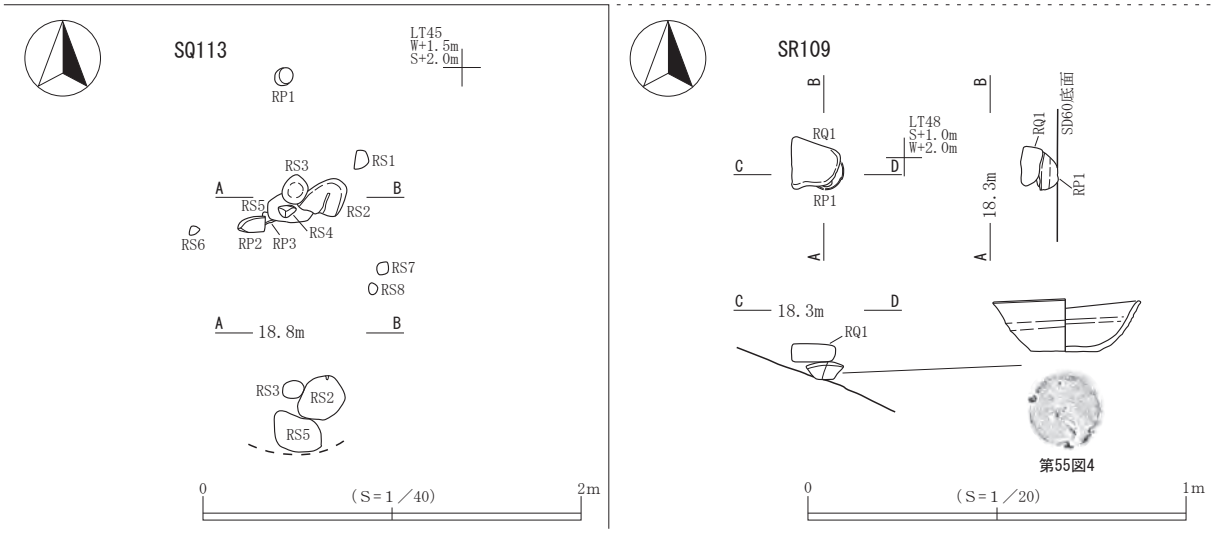


0　（S＝1／80）　2m

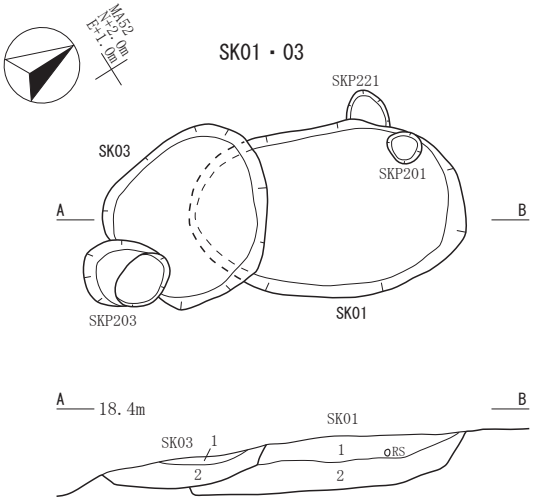
第31図　SD60a・60b・90・107、SK82



SQ65
1　黄褐色（10YR5/6）粘土　粘性やや強　しまりやや強
　砂礫（φ0.1～350mm）30%含む
2　オリーブ色（5Y5/4）粘土　粘性やや強　しまり強
　黒褐色土粒・塊（φ0.1～30mm）10%含む
　炭化物粒（φ0.1～5mm）3%、砂礫（φ0.1～50mm）7%ラミナ状に含む
3　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性弱　しまり中
　黒褐色土粒・塊（φ0.1～50mm）10%含む
　炭化物粒（φ0.1～10mm）3%、砂礫（φ0.1～30mm）5%ラミナ状に含む
4　オリーブ色（5Y5/4）粘土　粘性やや強　しまり中　グライ化　V層相当
　砂礫（φ0.1～40mm）30%含む　崩落土
5　黒色（10YR2/1）泥炭　粘性やや強　しまり強　V層相当

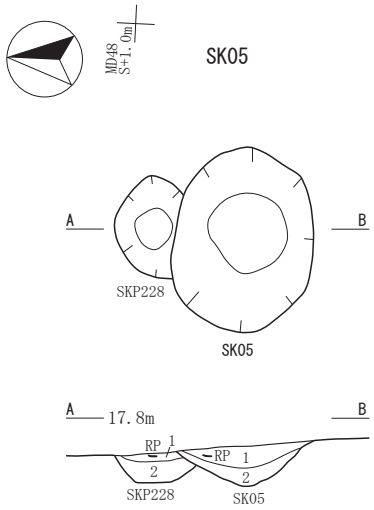


第32図　SQ65・113、SR109



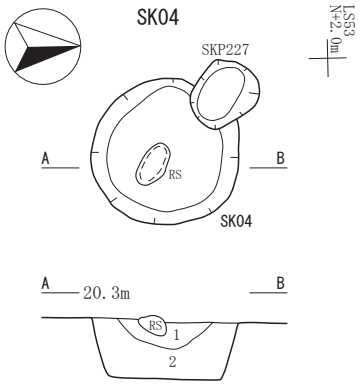
SK01
　1　黒褐色（10YR2/2）シルト　粘性やや弱　しまりやや強
　　にぶい黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～30㎜）30%含む
　　炭化物粒（φ１～10㎜）５%、円礫（φ１～40㎜）５%含む
　2　オリーブ色（５Y5/6）シルト　粘性中　しまり中
　　黒褐色土斑状に30%
　　炭化物粒・材（φ１～20㎜）５%、円礫（φ１～50㎜）３%含む

SK03
　1　黒褐色（10YR2/2）シルト　粘性やや弱　しまりやや強
　　にぶい黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～30㎜）20%含む
　　炭化物粒・材（φ１～20㎜）10%含む
　2　オリーブ色（５Y5/6）シルト　粘性中　しまり中
　　黒褐色土斑状に20%、炭化物粒・材（φ１～20㎜）５%含む

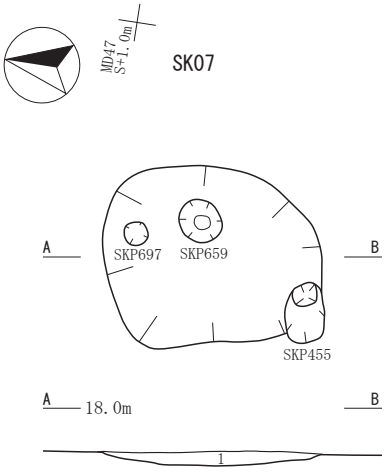


SK05
　1　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性中　しまりやや弱
　　明黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～20㎜）10%含む
　　炭化物粒（φ0.1～10㎜）７%含む　土師器片出土
　2　明黄褐色（2.5Y7/6）シルト　しまり・粘性やや強
　　黒褐色土粒・塊（φ0.1～20㎜）30%、炭化物粒（φ0.1～10㎜）３%含む

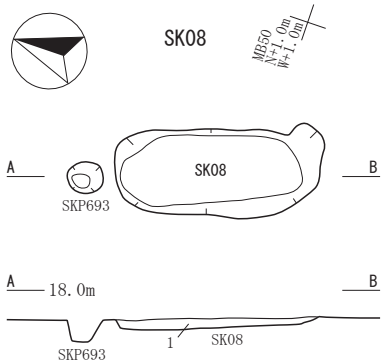
SKP228
　1　褐色（10YR4/4）シルト　粘性中　しまり中
　　にぶい黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～20㎜）５%
　　炭化物粒（φ0.1～10㎜）５%含む
　2　明黄褐色（2.5Y7/6）粘土　粘性やや強　しまりやや強
　　黒褐色（Ⅳｂ層）土粒・塊（φ0.1～10㎜）５%含む
　　炭化物粒（φ0.1～10㎜）３%含む



SK04
　1　黒色（10YR2/1）シルト　粘性やや弱　しまり強
　　にぶい黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～50㎜）30%含む
　　炭化物粒（φ１～10㎜）５%含む　円礫？
　2　褐色（10YR4/4）砂質シルト　粘性弱　しまりやや強
　　黒色土粒・塊（φ0.1～３㎜）５%、Ｖ層土粒・塊（φ0.1～10㎜）10%、
　　炭化物粒（φ１～10㎜）３%含む



SK07
　1　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性中　しまり強
　　にぶい黄（2.5YR6/3）粘土塊（φ10㎜前後）15%含む
　　炭化物粒・材（φ５～30㎜）10%含む

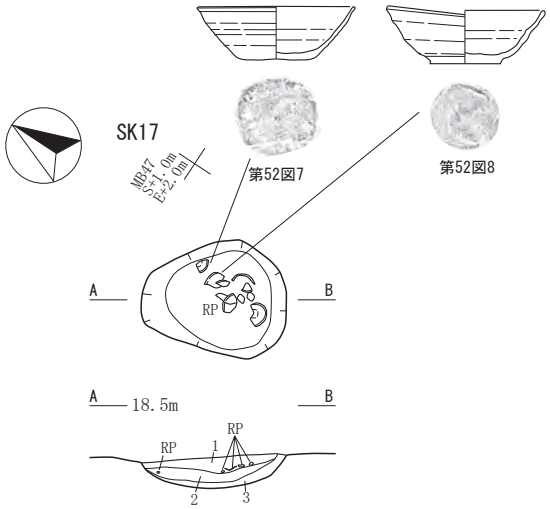


SK08
　1　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性中　しまりやや強
　　黄褐色（2.5Y5/3）シルト塊３%含む
　　炭化物粒（φ10㎜前後）３%含む

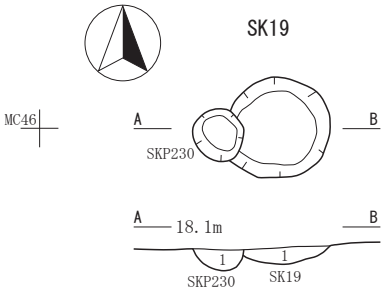
SKP693
　註記なし

0　（S＝1／40）　2m

第33図　SK01・03・04・05・07・08

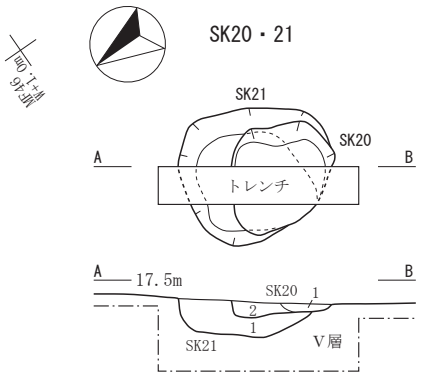


SK17
1　黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性弱　しまり中
　にぶい黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ１～20mm）10%含む
　炭化物粒・材（φ１～20mm）10%、焼土粒（φ0.1～２mm）１%含む
　※鉄滓114.1g、正位の内黒・完形に近い土師器坏多数
2　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性やや弱　しまりやや強
　黒褐色土斑状に10%含む
　炭化物粒（φ0.1～５mm）３%含む
3　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性中　しまりやや強
　黒褐色土斑状に３%、炭化物粒（φ0.1～５mm）１%含む



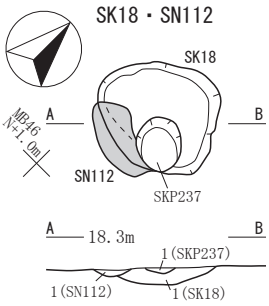
SK19
1　黒褐色（10YR2/3）シルト　粘性やや弱　しまりやや強
　にぶい黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ１～50mm）30%含む
　炭化物粒・材（φ１～20mm）10%、焼土粒（φ0.1～３mm）２%含む

SKP230
1　黄褐色（10YR5/6）シルト　粘性中　しまりやや強
　黒褐色（Ⅳｂ層）土斑状に20%　炭化物粒（φ0.1～３mm）３%



SK20
1　黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性中　しまり強
2　黒褐色（2.5Y3/2）シルト　粘性やや強　しまり強
　灰黄色（2.5Y6/2）粘土　塊状20%含む
　炭化物粒（φ５mm前後）20%含む

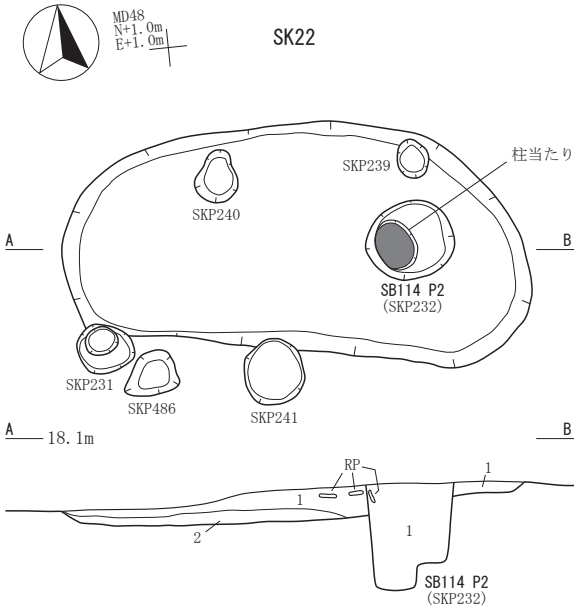
SK21
1　灰黄褐色（2.5Y6/2）粘土　粘性やや強　しまり強
　黒褐色（2.5Y3/2）シルト　30%混じる



SKP237
1　黒褐色（10YR3/2）シルト　しまりやや強　粘性弱
　にぶい黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～20mm）10%含む
　炭化物粒（φ１～10mm）７%、　焼土粒・塊（φ0.1～10mm）３%含む

SN112
1　にぶい赤褐色（５YR4/4）粘性やや弱　しまり強　焼土（被熱層）
　Ⅳ層土粒・塊（φ0.1～10mm）10%含む
　炭化物粒（φ0.1～10mm）５%含む

SK18
1　黒褐色（10YR3/2）シルト　しまりやや強　粘性弱
　にぶい黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～40mm）20%含む
　炭化物粒・材（φ１～20mm）３%、　焼土粒・塊（φ0.1～10mm）３%含む

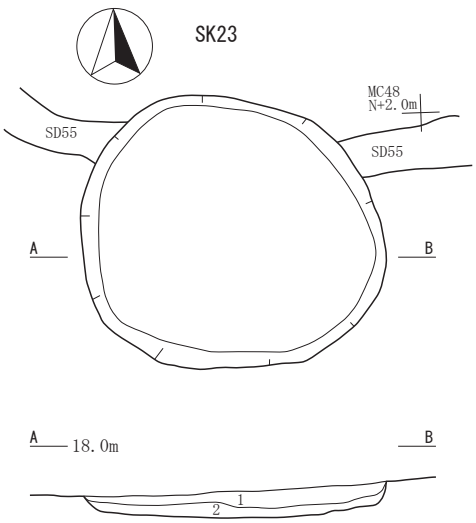


SK22
1　黒色（10YR2/1）シルト　粘性弱　しまりやや強
　にぶい黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～20mm）10%含む
　炭化物粒・材（φ0.1～30mm）20%、焼土粒（φ0.1～３mm）１%含む
2　にぶい黄褐色（10YR5/4）粘土　粘性中　しまり強
　黒色土斑状に10%含む
　炭化物粒（φ0.1～10mm）３%、円礫（φ１～40mm）５%含む

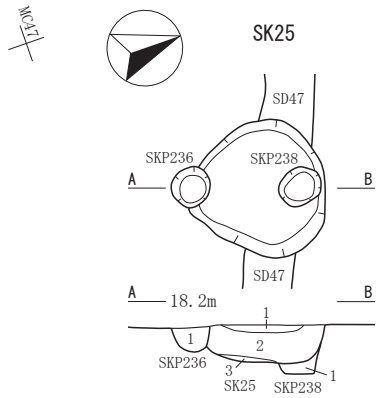
SB114P2(SKP232)
1　にぶい黄褐色（10Y5/4）粘土　しまり強　粘性中
　黒褐色（Ⅳｂ層）土斑状に20%含む
　炭化物粒（φ0.1～10mm）５%含む

0　（S＝1／40）　2m

第34図　SK17・18・19・20・21・22、SN112



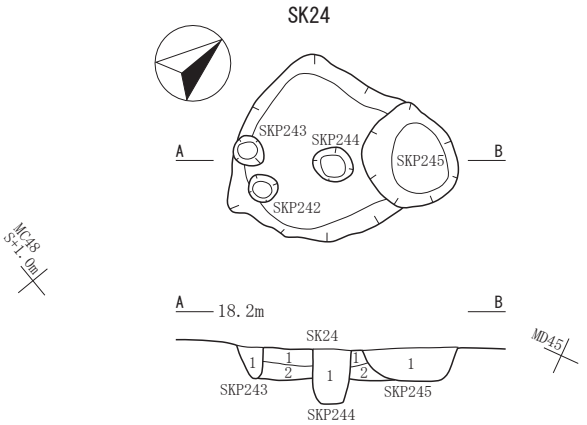
SK23
1　暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱
　黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～20mm）20%含む
　炭化物粒・材（φ0.1～20mm）７%、焼土粒（φ0.1～２mm）１%未満含む
2　黄褐色（10YR5/6）シルト　粘性中　しまり強
　暗褐色土斑状に５%、炭化物粒（φ0.1～５mm）１%含む



SK25
1　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性中　しまり中
　黒褐色土斑状に30%含む
　炭化物粒・材（φ0.1～20mm）10%、焼土粒（φ0.1～１mm）１%未満含む
2　にぶい黄褐色（10YR5/4）粘土　しまり中　粘性やや強
　黒褐色土斑状に20%含む
　炭化物粒・材（φ0.1～30mm）５%含む
3　にぶい黄褐色（10YR5/4）粘土　粘性強　しまり中
　黒褐色土斑状に５%含む

SKP236
1　にぶい黄褐色（10YR5/4）粘土　粘性中　しまり中
　黒褐色（Ⅳｂ層）土斑状に30%混じる　炭化物粒・材（φ0.1～20mm）20%含む

SKP238
1　褐色（10Y4/4）砂質シルト　粘性弱　しまり中
　にぶい黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～10mm）５%
　炭化物粒（φ0.1～10mm）３%含む

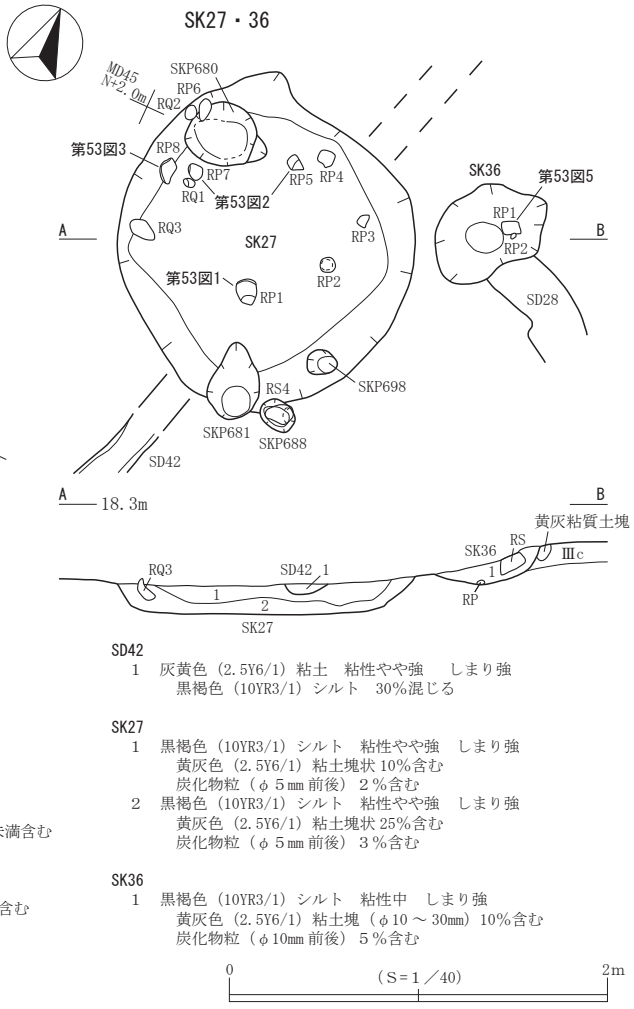


SK24
1　暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性やや弱　しまりやや強
　黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～20mm）10%
　炭化物粒・材（φ0.1～30mm）７%含む
2　黄褐色（10YR5/6）シルト　粘性中　しまり強
　暗褐色土斑状に３%、炭化物粒（φ0.1～３mm）１%含む

SKP243
1　にぶい黄褐色（10Y5/4）粘土　粘性中　しまり強
　暗褐色（Ⅳｂ層）土粒・塊（φ0.1～40mm）30%、
　炭化物粒（φ0.1～10mm）３%　焼土粒φ0.1～５mm）１%

SKP244
1　黒褐色（10YR2/3）シルト　粘性やや弱　しまり中
　にぶい黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～20mm）10%
　炭化物粒・材（φ0.1～20mm）５%、焼土粒（φ0.1～３mm）１%未満含む

SKP245
1　黄褐色（10YR5/6）シルト　粘性中　しまりやや強
　暗褐色（Ⅳｂ層）土斑状に20%　炭化物粒（φ0.1～５mm）５%含む



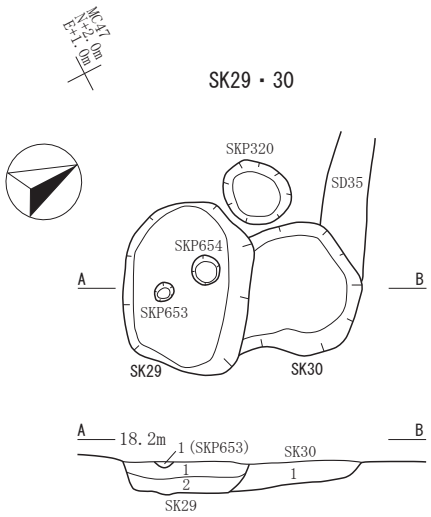
SD42
1　灰黄色（2.5Y6/1）粘土　粘性やや強　しまり強
　黒褐色（10YR3/1）シルト　30%混じる

SK27
1　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強　しまり強
　黄灰色（2.5Y6/1）粘土塊状 10%含む
　炭化物粒（φ５mm 前後）２%含む
2　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強　しまり強
　黄灰色（2.5Y6/1）粘土塊状 25%含む
　炭化物粒（φ５mm 前後）３%含む

SK36
1　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性中　しまり強
　黄灰色（2.5Y6/1）粘土塊（φ10 ～ 30mm）10%含む
　炭化物粒（φ10mm 前後）５%含む

0　（S＝1／40）　2m

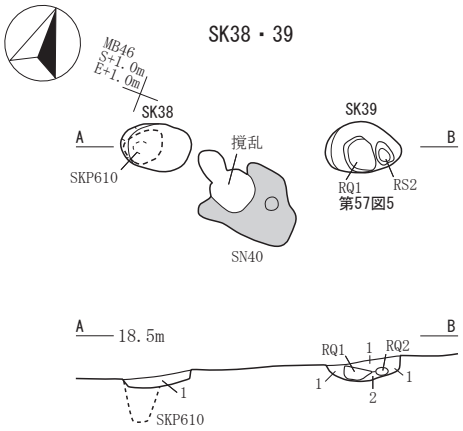
第35図　SK23・24・25・27・36



SK29
1　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性やや弱　しまり強
　暗褐色土斑状に20%含む
　炭化物粒・材（φ0.1～30mm）５%含む
2　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性やや弱　しまり強
　暗褐色（Ⅳb層）土斑状に20%含む
　炭化物粒・材（φ0.1～30mm）７%含む

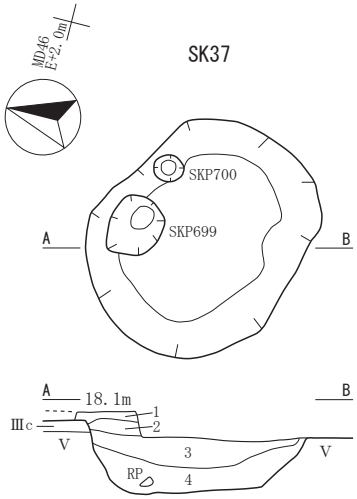
SK30
1　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性やや弱　しまり強
　暗褐色土斑状に20%含む
　炭化物粒・材（φ0.1～20mm）３%含む

SKP653
1　にぶい黄褐色（10YR5/4）粘性シルト　粘性やや弱　しまり強
　暗褐色（Ⅳb層）土粒・塊（φ0.1～20mm）10%、
　炭化物粒・材（φ0.1～30mm）５%含む

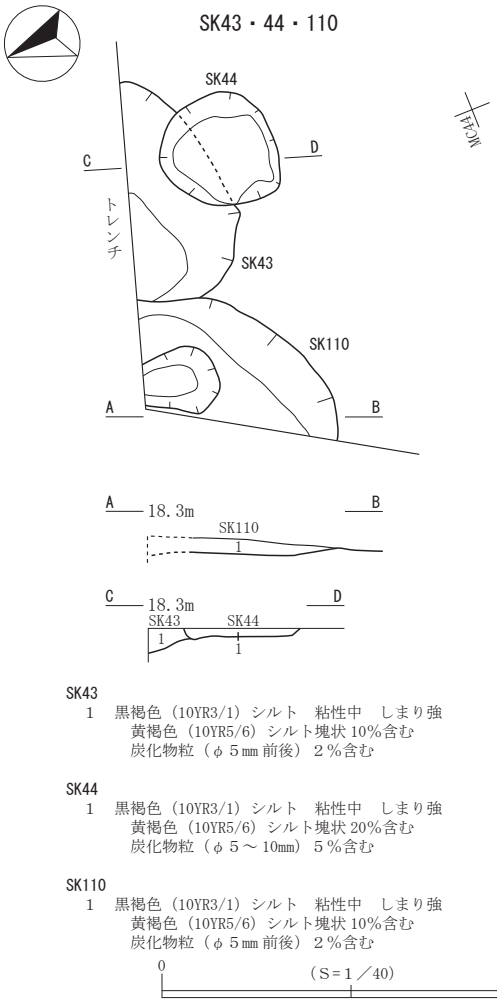


SK38
1　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性中　しまり強
　黒色（10YR2/1）シルト　20%混じる
　骨片＋炭化物５%含む
　焼土塊（φ５mm）１%含む
　壁際に黄灰粘土塊　３%混じる

SK39
1　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性中　しまり強
　黒色（10YR2/1）シルト　20%混じる
　骨片＋炭化物５%含む
　焼土塊（φ５mm）１%含む
2　黒色（10YR2/1）シルト　粘性中　しまり強
　明黄褐色（10YR6/6）シルト　30%混じる



SK37
1　Ⅲa層
2　黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性やや強　しまり強
　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　10%混じる
　炭化物（φ５mm前後）１%含む
3　黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性やや強　しまり強
　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　10%混じる
　灰オリーブ色（５Y6/2）粘土　塊状　10%含む
　炭化物（φ５～20mm）５%含む
4　黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性やや強　しまり強
　灰オリーブ色（５Y6/2）粘土塊状　10%含む
　炭化物（φ５mm以下）１%含む

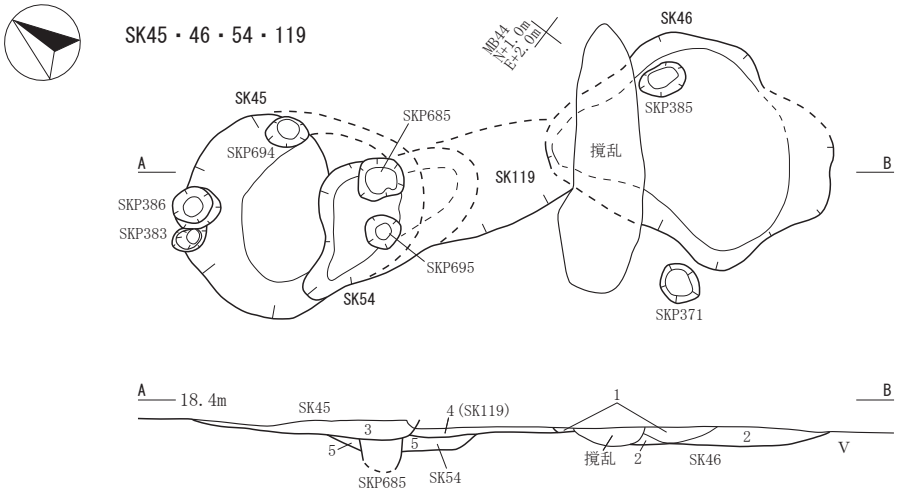


SK43
1　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性中　しまり強
　黄褐色（10YR5/6）シルト塊状 10%含む
　炭化物粒（φ５mm前後）２%含む

SK44
1　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性中　しまり強
　黄褐色（10YR5/6）シルト塊状 20%含む
　炭化物粒（φ５～10mm）５%含む

SK110
1　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性中　しまり強
　黄褐色（10YR5/6）シルト塊状 10%含む
　炭化物粒（φ５mm前後）２%含む

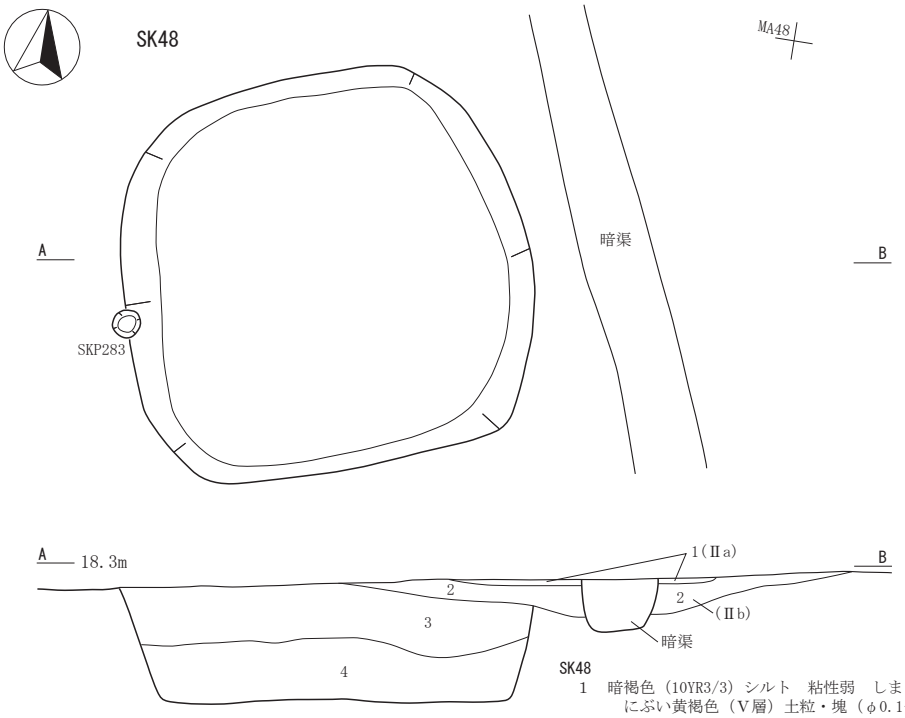
第36図　SK29・30・37・38・39・43・44・110



SK45・46・54・119

1　黒褐色（10YR3/2）　シルト　粘性中　しまり強
　灰オリーブ色（5Y6/2）粘質土塊（φ５㎜）５％含む
　炭化物粒（φ５㎜）１％含む
2　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　粘性中　しまり強
　黒褐色（10YR3/2）シルト　５％混じる
　灰オリーブ色（5Y6/2）粘質土塊２％含む
　炭化物粒・材（φ10～20㎜）２％含む
3　黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性中　しまり強
　灰オリーブ色（5Y6/2）粘質土塊（φ５㎜前後）５％含む
　炭化物粒・材（φ５～20㎜）５％含む
4　黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性中　しまり強
　灰オリーブ色（5Y6/2）粘質土塊５％含む
　炭化物粒（φ10㎜前後）２％含む
5　註記なし

SKP685
　註記なし

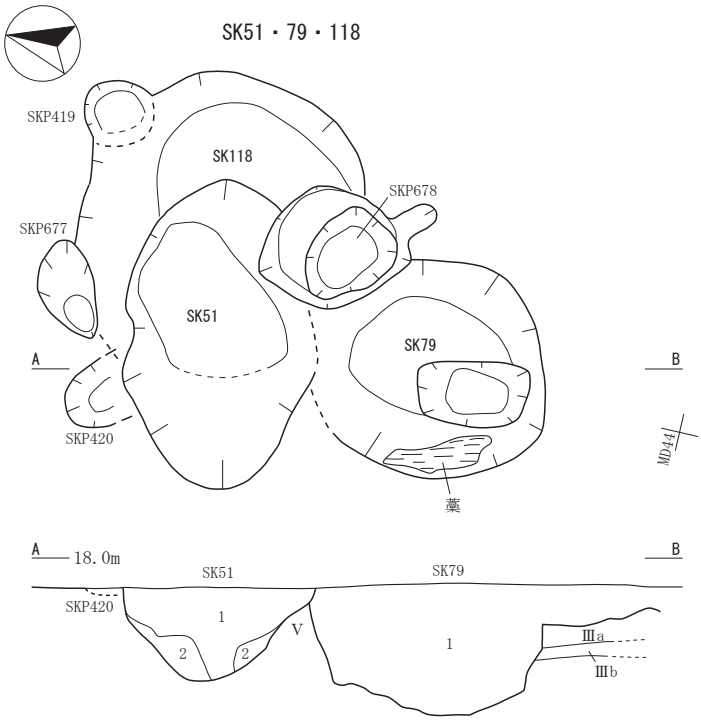


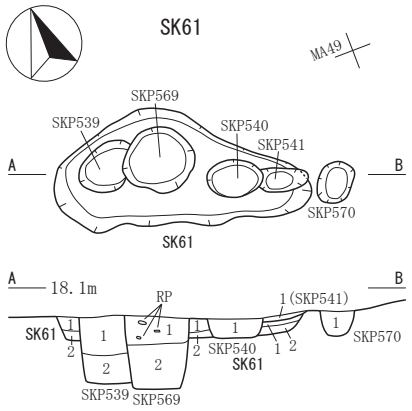
SK48

1　暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性弱　しまり強　※Ⅱa層
　にぶい黄褐色（Ⅴ層）土粒・塊（φ0.1～30㎜）20%含む
　炭化物粒（φ0.1～10㎜）５％ 、砂礫（φ0.1～50㎜）10%含む
2　黒褐色（10YR2/2）シルト　粘性弱　しまりやや強　※Ⅱb層
　にぶい黄褐色（Ⅴ層）土粒・塊φ0.1～５㎜５％含む
　炭化物粒・材（φ0.1～30㎜）７％、砂礫（φ0.1～50㎜）10%含む
3　オリーブ黄色（５Y6/4）粘土　粘性やや強　しまり中
　暗褐色土斑状に20%、炭化物粒（φ0.1～10㎜）３％含む
4　オリーブ黄色（５Y6/4）粘土　粘性やや強　しまり強
　黒褐色土斑状に30%、炭化物粒（φ0.1～10㎜）５％含む
5　オリーブ灰色（10Y5/2）粘土　粘性やや強　しまり強
　黒褐色土斑状に10%、炭化物粒（φ0.1～10㎜）３％含む

0　（S＝1／40）　2m

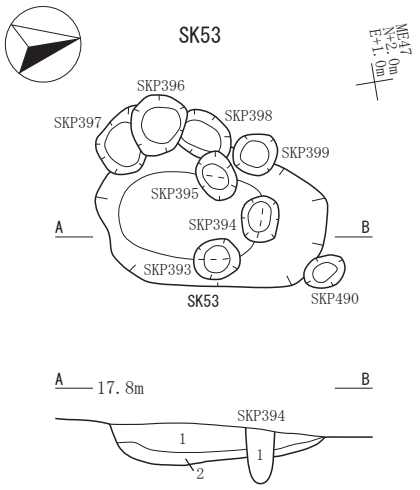
第37図　SK45・46・48・54・119





SK51
1　灰黄褐色（10YR4/2）シルト
　暗灰黄褐色（2.5Y5/2）シルト　塊状 10%混じる
　黒色（10YR2/1）シルト　５%含む
　炭化物粒・材（φ10 ～ 20mm）２%含む
2　緑灰（10G5/1）粘土
　黒色（10YR2/1）シルト　15%混じる
　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　５%混じる

SK79
1　灰黄褐色（10YR4/2）シルト
　暗灰黄褐色（2.5Y5/2）シルト　塊状部分的に３%混じる
　※確認面から 15 cmほど下に酸化鉄集積層あり



SK53
1　にぶい黄褐色（10YR5/4）粘土　粘性強　しまりやや強
　黒褐色土斑状に20%、炭化物粒（φ0.1～10mm）５%含む
2　黒褐色（10YR2/2）シルト　粘性中　しまり強
　にぶい黄褐色（Ⅳ層）土粒・塊（φ１～10mm）10%含む
　炭化物粒・材（φ0.1～20mm）10%含む

SKP394
1　にぶい黄褐色（10YR5/4）粘土　粘性強　しまりやや強
　黒褐色（Ⅳｂ層）土斑状に10%　炭化物粒（φ0.1～10mm）３%

SK61
1　黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性やや弱　しまり中
　明黄褐色（Ⅳ層）土粒・塊（φ0.1～20mm）10%含む
　炭化物粒・材（φ0.1～20mm）５%含む
2　明黄褐色（10YR6/6）粘土　粘性やや強　しまり強
　黒褐色土斑状に５%、炭化物粒・材（φ0.1～20mm）５%含む

SKP539
1　黒褐色（10YR2/3）シルト　粘性やや弱　しまり中
　明黄褐色（Ⅴ層）土粒・塊（φ0.1～20mm）20%、
　炭化物粒・材（φ0.1～20mm）５%含む
2　明黄褐色（10YR6/6）粘性シルト　粘性中　しまり強
　黒褐色（Ⅳｂ層）土斑状に10%、炭化物粒（φ0.1～10mm）３%含む

SKP540
1　黒褐色（10YR2/3）シルト　粘性やや弱　しまり中
　明黄褐色（Ⅴ層）土粒・塊（φ0.1～10mm）10%
　炭化物粒（φ0.1～10mm）１%含む

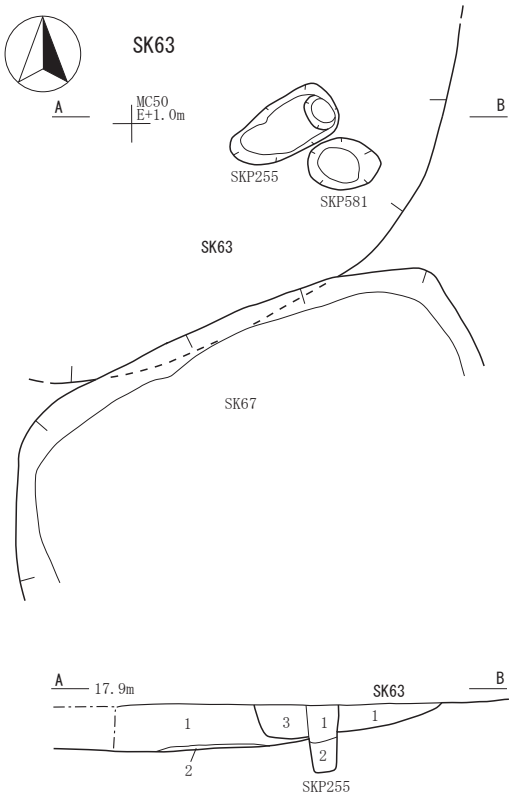
SKP541
1　黒褐色（10YR2/3）シルト　粘性やや弱　しまり中
　明黄褐色（Ⅴ層）土粒・塊（φ0.1～20mm）10%、
　炭化物粒（φ0.1～10mm）３%含む

SKP569
1　黒褐色（10YR2/3）シルト　粘性やや弱　しまり中
　明黄褐色（Ⅴ層）土粒・塊（φ0.1～20mm）20%
　炭化物粒・材（φ0.1～20mm）５%含む
2　明黄褐色（10YR6/6）粘性シルト　粘性３　しまり５
　黒褐色（Ⅳｂ層）土斑状に20%混じる　炭化物粒・材（φ0.1～20mm）５%

SKP570
1　黒褐色（10YR2/3）シルト　粘性やや弱　しまり中
　明黄褐色（Ⅳ層）土粒・塊（φ0.1～20mm）５%、
　炭化物粒（φ0.1～10mm）３%含む

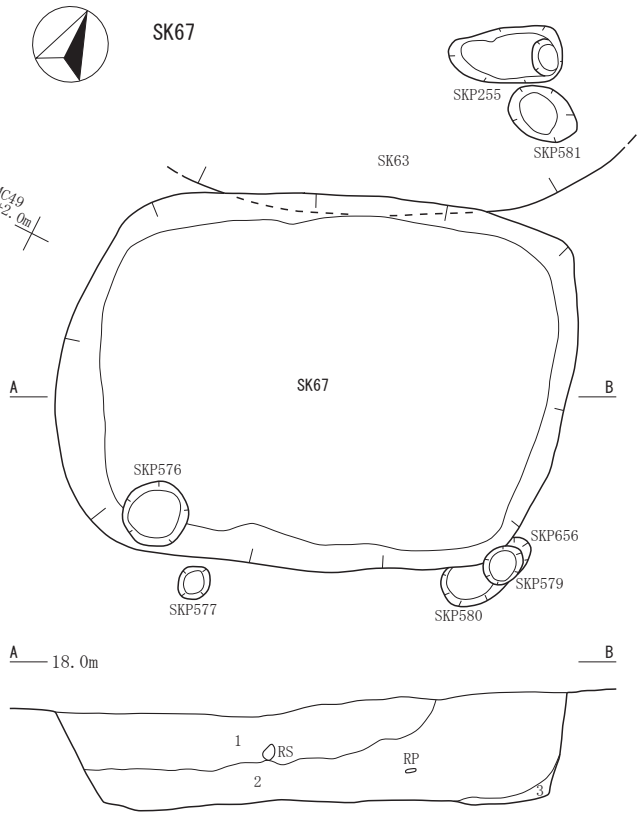
0　（S＝1／40）　2m

第38図　SK51・53・61・79・118

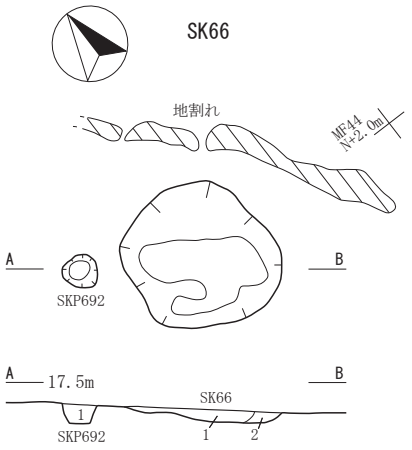


SK63
1　黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性弱　しまりやや強
　黄褐色（Ｖ層）土粒（φ0.1～10mm）10％含む
　炭化物粒（φ0.1～10mm）７％含む
2　黒色（10YR2/1）シルト　粘性やや弱　しまりやや強
　黄褐色（Ｖ層）土粒（φ１～10mm）５％含む
　炭化物粒・材（φ0.1～20mm）20％含む

SKP255
1　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強　しまり強
　灰黄褐色（2.5Y6/2）粘土塊（φ30mm前後）15％含む
2　黒色（10YR2/1）シルト　粘性やや強　しまり強
3　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性やや強　しまり強
　灰黄褐色（2.5Y6/2）粘土塊状に30％含む

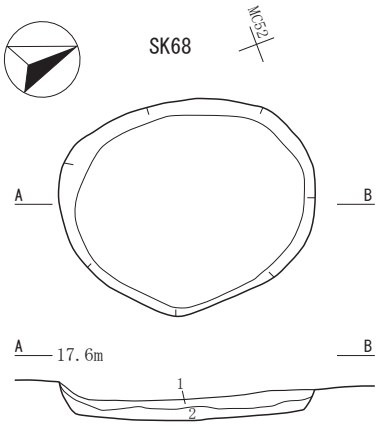


SK67
1　黄褐色（10YR5/6）シルト　粘性やや弱　しまりやや強
　黒褐色土斑状に40％含む
　炭化物粒（φ0.1～10mm）５％含む
2　黄褐色（10YR5/6）～オリーブ色（５Y5/4）粘土　粘性やや強　しまりやや強
　黒褐色土斑状に10％含む
　炭化物粒（φ0.1～10mm）３％含む
3　オリーブ色（５Y5/4）粘土　粘性やや強　しまりやや強
　黒褐色土斑状に40％含む
　炭化物粒（φ0.1～10mm）３％含む　グライ化



SK66
1　褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性中　しまり強
　Ｖ層塊状部分的に15％混じる
　炭化物粒・材（φ５～30mm）10％含む
2　にぶい黄（2.5Y6/3）粘質土　粘性中　しまり強
　Ｖ層塊状部分的に15％混じる
　炭化物粒（φ５mm）１％含む

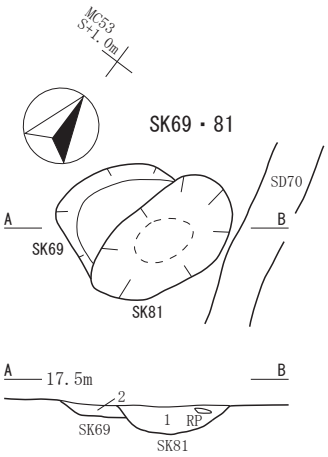
SKP692
1　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性中　しまり強



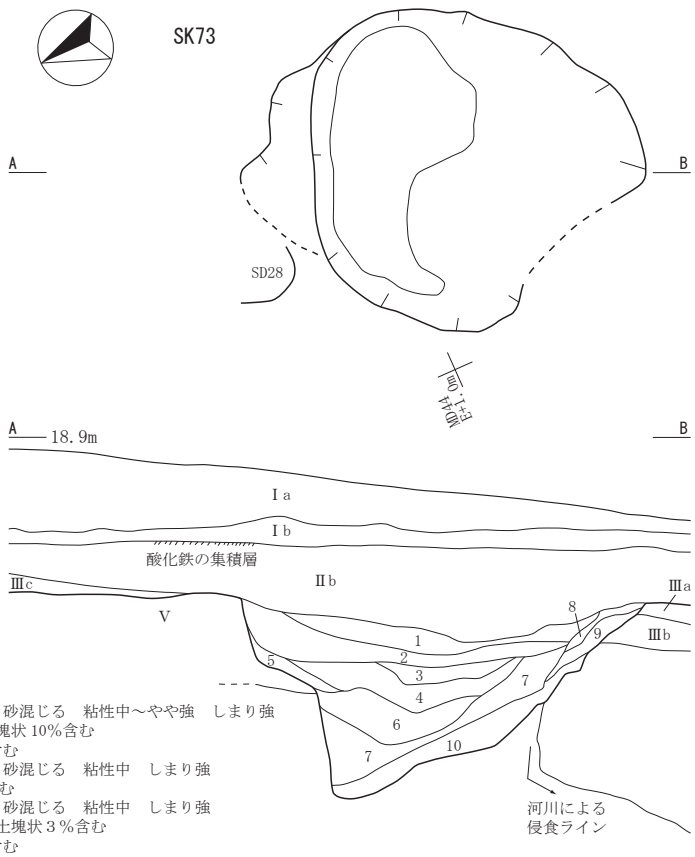
SK68
1　黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性やや弱　しまり中
　黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～40mm）30％、
　炭化物粒・材（φ0.1～20mm）５％含む
2　黄褐色（10YR5/6）シルト　粘性中　しまり強
　黒褐色土斑状に５％、炭化物粒（φ0.1～10mm）１％含む

0　（S＝1／40）　2m

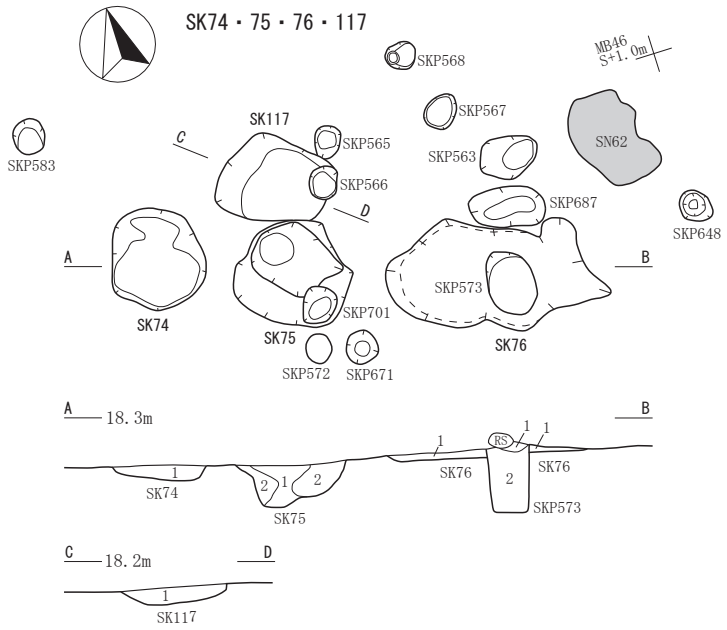
第39図　SK63・66・67・68



SK69・81
1　黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性やや弱　しまり中
　黄褐色（Ⅴ層）土粒・塊（φ0.1～50mm）20%含む
　炭化物粒（φ0.1～10mm）３%含む
2　黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性やや弱　しまり中
　黄褐色（Ⅴ層）土粒・塊（φ0.1～50mm）10%含む
　炭化物粒（φ0.1～10mm）３%含む



SK73
1　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　砂混じる　粘性中～やや強　しまり強
　オリーブ黄（５Y6/3）粘土塊状 10%含む
　黒色（10YR2/1）塊状５%含む
2　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　砂混じる　粘性中　しまり強
　円礫（φ10mm 前後）１%含む
3　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　砂混じる　粘性中　しまり強
　オリーブ黄色（５Y6/3）粘土塊状３%含む
　黒色（10YR2/1）塊状３%含む
4　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性中　しまり強
5　黒色（10YR2/1）シルト　＋　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　粘性中　しまり強
　※Ⅲc層由来か
6　オリーブ黒（7.5Y3/1）シルト　粘性やや強　しまり強
7　暗緑灰（7.5GY4/1）シルト　粘性やや強　しまり強
　黒色シルト僅かに筋状に入る部分あり
8　暗緑灰（10GY4/1）シルト　粘性やや強　しまり強
9　黒色（10YR2/1）シルト　粘性中　しまり強
　にぶい黄色（2.5Y6/3）粘土塊 20%含む
　炭化物粒（φ５mm 前後）３%含む
10　黒色（10YR2/1）シルト　粘性中～やや強　しまり強



SK74
1　褐灰色（10YR4/1）シルト
　灰黄色（2.5Y6/2）シルト塊状 25%含む
　炭化物粒（φ10mm 前後）５%含む

SK75
1　黒褐色（10YR3/1）シルト
2　黒褐色（10YR3/1）シルト塊状 10%含む
　灰黄色（2.5Y6/2）シルト塊状 25%含む
　炭化物粒（φ10mm 前後）５%含む

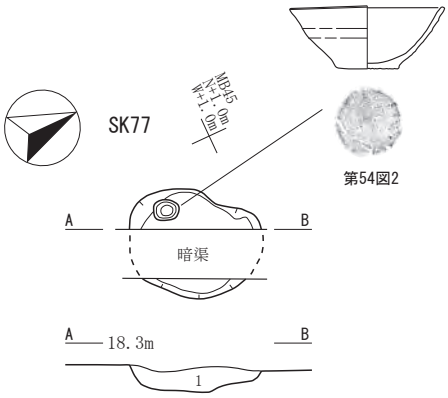
SK76
1　灰黄色（2.5Y6/2）シルト
　褐灰色（10YR4/1）シルト　10%混じる

SKP573
1　褐灰色（10YR4/1）シルト
　灰黄色（2.5Y6/2）シルト塊状 25%含む
　炭化物粒（φ５mm 以下）１%含む
2　褐灰色（10YR4/1）シルト
　灰黄色（2.5Y6/2）シルト塊状 30%含む
　炭化物粒（φ５mm 前後）３%含む

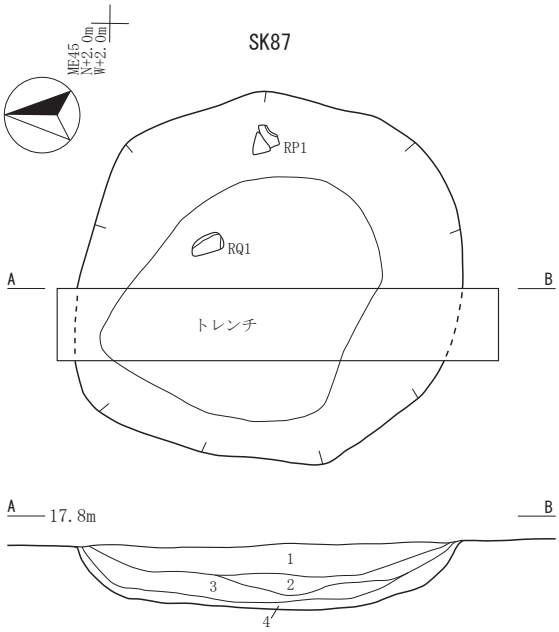
SK117
1　褐灰色（10YR4/1）シルト
　Ⅴ層由来土塊状 25%含む
　炭化物粒（φ５～10mm）５%含む

0　（S＝1／40）　2m

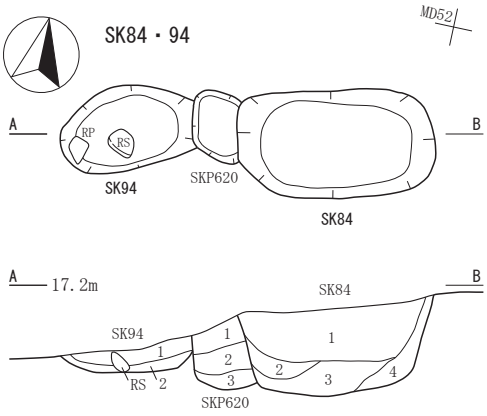
第40図　SK69・73・74・75・76・81・117



SK77
1　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　粘性中　しまり強
　にぶい黄褐色（10YR6/3）塊（φ10㎜前後）10%含む
　炭化物粒（φ５～10㎜）５%含む



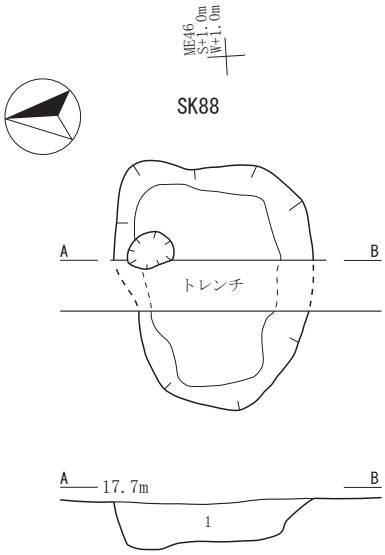
SK87
1　黒褐色（10YR3/1）シルト
　灰オリーブ色（5Y6/2）シルト塊（φ10㎜前後）10%含む
　炭化物粒（φ５㎜前後）５%含む
2　黒褐色（10YR3/1）シルト
　灰オリーブ色（5Y6/2）シルト50%混入
　炭化物粒（φ５㎜前後）１%含む
3　黒褐色（10YR3/1）シルト
　灰オリーブ色（5Y6/2）シルト塊15%含む
　炭化物粒（φ５㎜前後）３%含む
4　青灰色（5B5/1）粘土～シルト
　黒褐色（10YR3/1）シルト　40%混じる



SK84
1　暗褐色（10YR3/3）砂質シルト　粘性やや弱　しまりやや強
　黄褐色（Ⅳ層）土粒・塊（φ0.1～20㎜）７%含む
　炭化物粒・材（φ0.1～20㎜）３%含む
2　暗緑灰色　（10GY4 /1）粘土　粘性強　しまり強
　暗褐色土斑状に10%含む
　炭化物粒（φ0.1～５㎜）１%未満、砂礫（φ0.1～５㎜）５%含む　グライ化
3　黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性やや弱　しまり中
　暗緑灰色（Ⅳ層）土粒・塊（φ0.1～５㎜）５%含む
　炭化物粒（φ0.1～10㎜）５%含む　グライ化
4　黄褐色（10YR5/6）シルト　粘性やや弱　しまりやや強
　黒褐色土斑状に20%含む
　炭化物粒（φ0.1～５㎜）１%、砂礫（φ0.1～10㎜）３%含む

SK94
1　にぶい黄褐色（10YR6/4）粘土　粘性強　しまり強
　暗褐色土斑状に30%含む
　炭化物粒（φ0.1～10㎜）５%含む
2　暗緑灰色（10GY4 /1）粘土　グライ化　粘性強　しまり強
　暗褐色（Ⅲ層）土斑状に５%含む
　炭化物粒（φ0.1～10㎜）１%含む

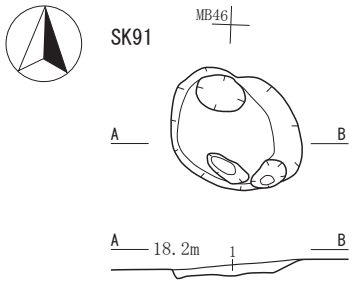
SKP620
1　暗褐色（10YR3/4）砂質シルト　粘性弱　しまり中
　にぶい黄褐色（Ⅴ層）土粒（φ0.1～３㎜）10%、
　炭化物粒（φ１～５㎜）５%含む
2　暗緑灰（10GY4 /1）粘土　グライ化　粘性強　しまり強
　暗褐色（Ⅳｂ層）土斑状に10%　砂礫（φ１～５㎜）５%、
　炭化物粒（φ0.1～５㎜）１%未満含む
3　暗褐色（10YR3/4）砂質シルト　粘性弱　しまりやや強
　暗緑灰（Ⅴ層）土斑状に10%混じる　Ⅴ層土粒（φ0.1～20㎜）10%、
　炭化物粒（φ0.1～５㎜）１%未満含む



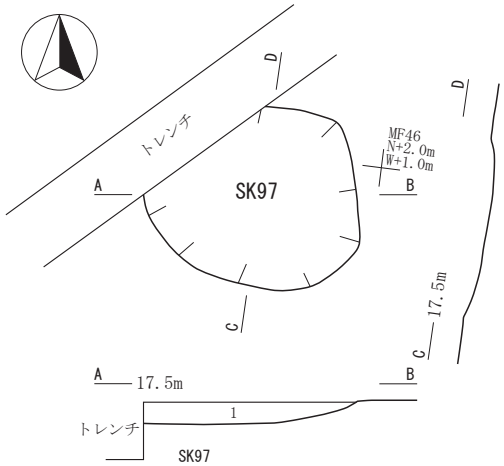
SK88
1　黒褐色（10YR3/1）シルト
　灰オリーブ色（5Y6/2）シルト塊状　40%含む
　炭化物粒（φ５㎜前後）５%含む

0　（S＝1／40）　2m

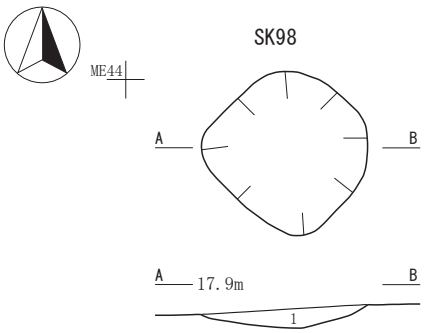
第41図　SK77・84・87・88・94



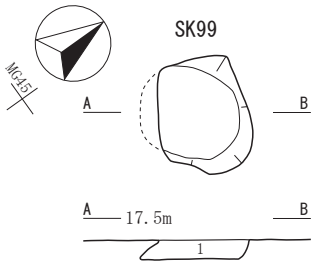
SK91
1　褐灰色（10YR4/1）シルト
　灰黄色（2.5Y6/2）塊（φ５～10mm）10%含む
　炭化物粒（φ10mm 前後）５%含む



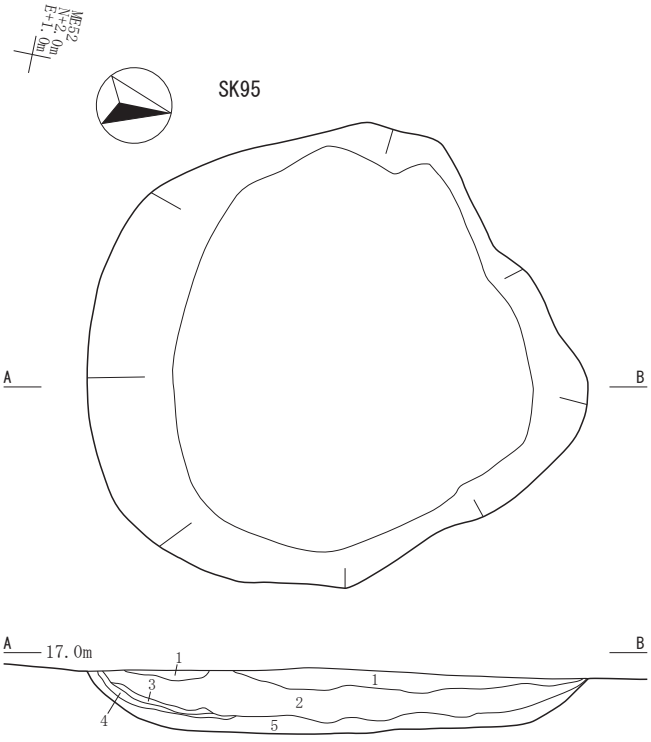
SK97
1　灰オリーブ色（5Y6/2）シルト
　褐灰色（10YR5/1）粘質シルト　45%混入
　炭化物粒（φ10mm 以下）２%含む



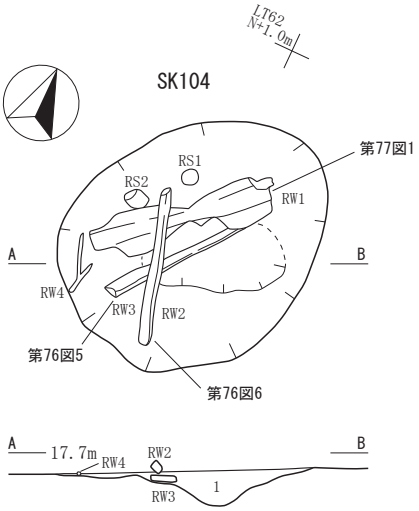
SK98
1　灰黄色（2.5Y6/2）シルト
　褐灰色（10YR4/1）粘質シルト塊（φ10mm 前後）25%含む
　炭化物粒（φ10mm 以下）１%含む



SK99
1　灰黄褐色（10YR4/2）シルト
　褐灰色（10YR5/1）粘質シルト塊状　20%含む
　炭化物粒（φ10～20mm）５%含む



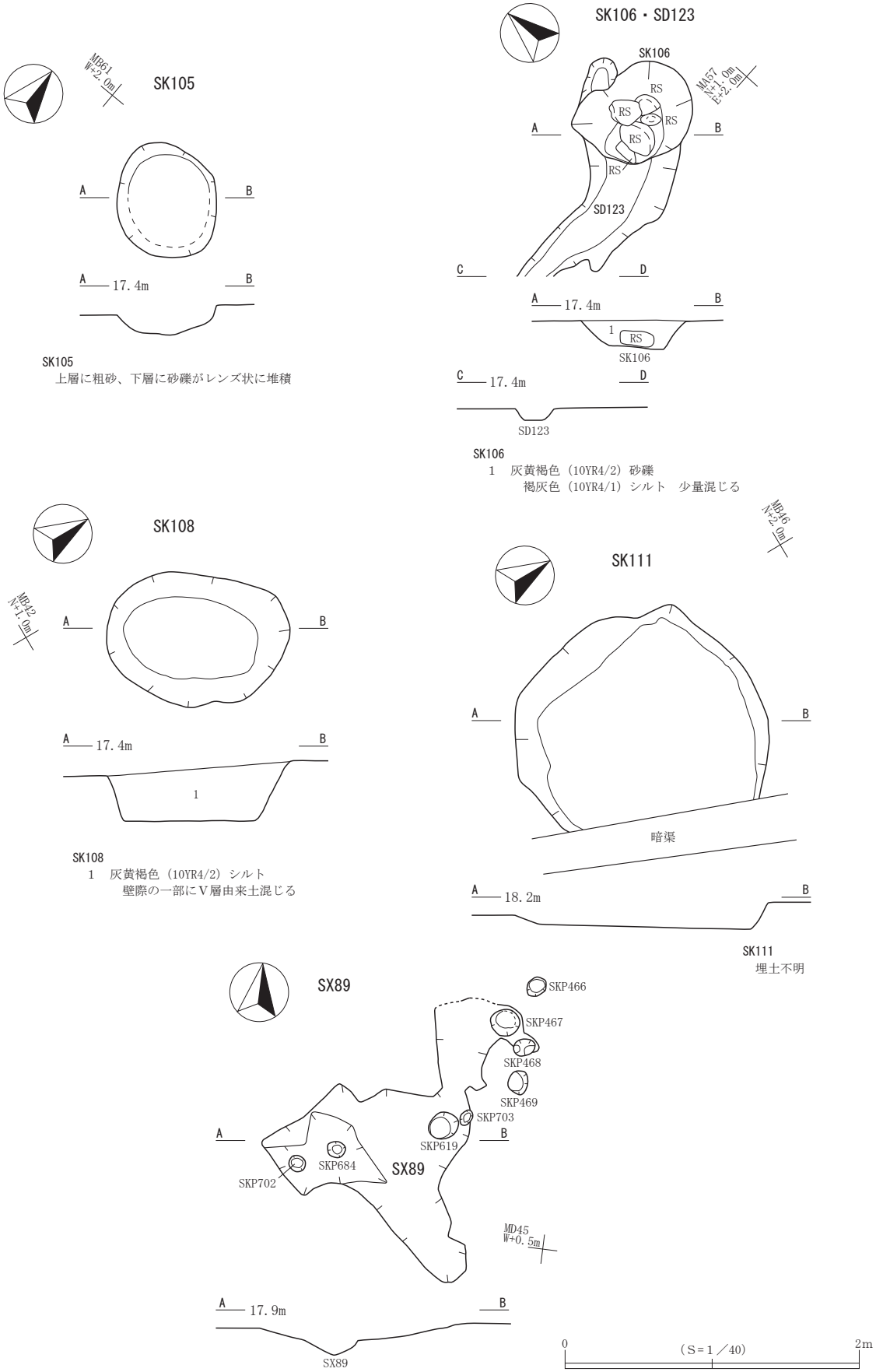
SK95
1　黄褐色（10YR5/6）粘土　粘性やや強　しまりやや強
　黒色土斑状に20%含む
　炭化物粒（φ0.1～５mm）１%、砂礫（φ0.1～10mm）10%含む
2　暗緑灰色（10GY4 /1）粘土　グライ化　粘性強　しまり強
　黒色（Ⅳb層）土斑状に５%含む
　炭化物粒（φ0.1～10mm）１%未満含む
3　黒色（10YR2/1）シルト　粘性やや弱　しまり強
　炭化物粒（φ0.1～５mm）５%含む
4　褐色（10YR4/4）砂質　粘性弱　しまり中
　炭化物粒（φ0.1～10mm）５%含む
5　黒色（10YR2/1）シルト　粘性やや弱　しまり強
　炭化物粒（φ0.1～５mm）５%、砂礫（φ0.1～30mm）５%含む



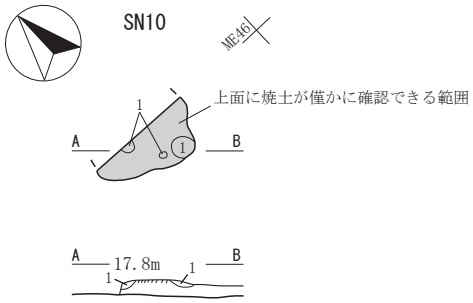
SK104
1　黒色（10YR2/1）シルト

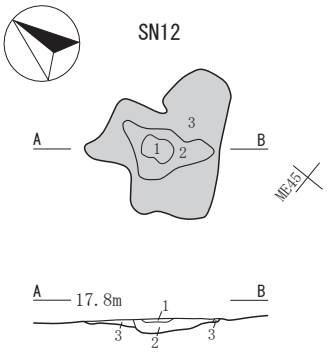
0　（S＝1／40）　2m

第42図　SK91・95・97・98・99・104



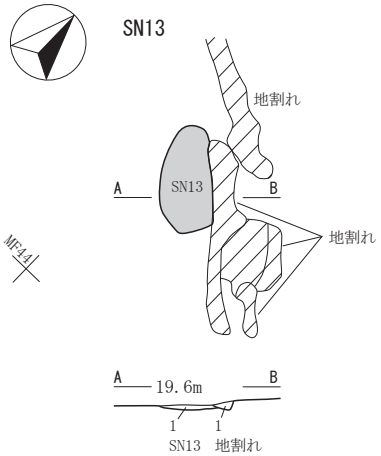
第43図　SK105・106・108・111、SD123、SX89

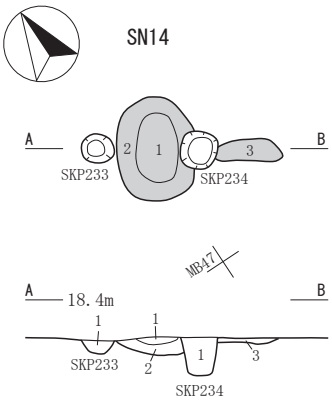




SN10
1　褐色（7.5YR4/6）シルト　粘性中　しまり強

SN12
1　赤褐色（５YR4/6）シルト　粘性中　しまり強
※強い被熱範囲
2　暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性中　しまり強
赤褐色（５YR4/6）　シルト　40%ほど滲むように広がる
※やや強い被熱範囲
3　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性中　しまり強
赤褐色（５YR4/6）シルト　塊状に点在
※弱い被熱範囲





SN13
1　黒褐色（7.5YR3/2）シルト　焼土被熱範囲　粘性中　しまり強
やや強い被熱範囲（褐色　7.5YR4/4　シルト）
全体の 10%ほど中央部、その他に点在

地割れ堆積土
1　黒褐色（10YR3/1）シルト　粘性中　しまり強
黄褐色（10YR5/6）土塊状（φ５㎜前後）10%含む
炭化材（φ20㎜前後）10%含む

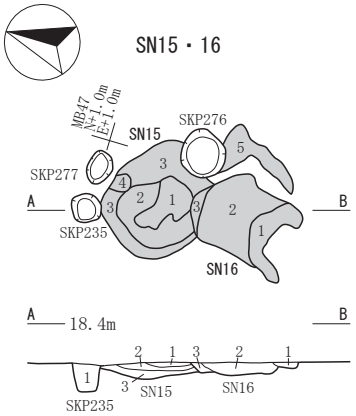
SN14
1　赤褐色（５YR4/6）シルト　粘性弱　しまりやや強
炭化物粒（φ0.1～10㎜）１%含む　焼土（強い被熱層）
2　暗赤褐色（５YR3/4）シルト　粘性やや弱　しまり強　焼土（被熱層）
炭化物粒（φ0.1～10㎜）５%含む
3　黒色（10YR2/1）炭化物粒・塊　シルト　粘性弱　しまりやや弱
黒褐色土粒・塊（φ0.1～30㎜）20%、焼土粒・塊（φ0.1～10㎜）７%含む

SKP233
1　黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性弱　しまりやや強
にぶい黄褐色（Ｖ層）土粒・塊（φ0.1～20㎜）10%、
炭化物粒（φ１～10㎜）７%　焼土粒（φ0.1～１㎜）１%未満含む

SKP234
1　黒褐色（10YR2/3）シルト　粘性やや弱　しまり中
にぶい黄褐色（Ｖ層）粒・塊（φ0.1～20㎜）10%、
炭化物粒（φ0.1～10㎜）５%、焼土粒（φ0.1～３㎜）１%含む

0　（S＝１／40）　2m

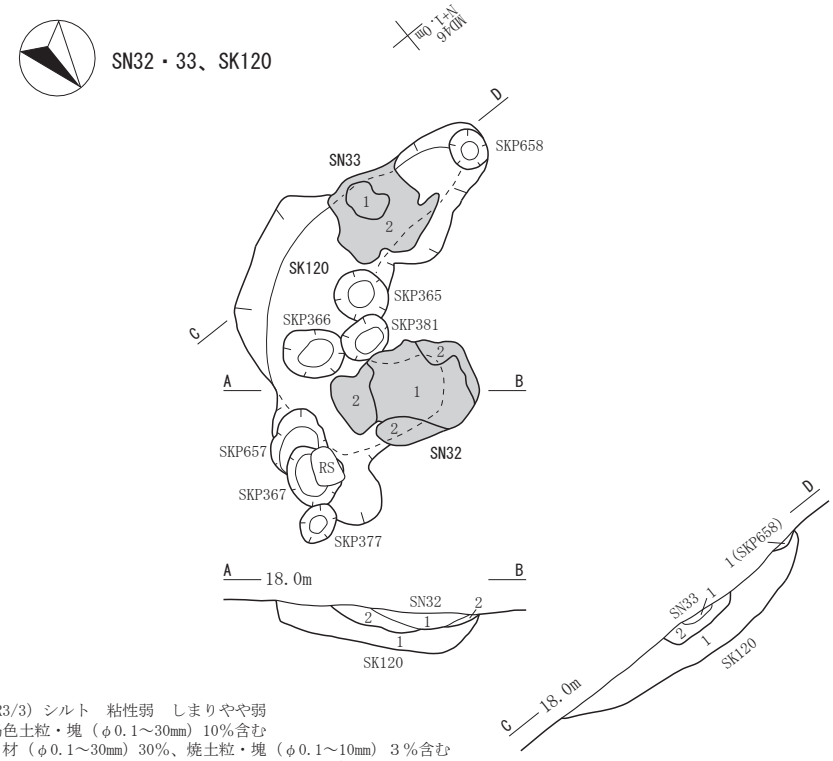
第44図　SN10・12・13・14



SN15
1　明赤褐色（2.5YR5/6）焼土（最も強い被熱層）シルト　粘性弱　しまりやや強
　炭化物粒・材（φ0.1～20mm）３％含む
2　赤褐色（５YR4/6）焼土（強い被熱層）シルト　粘性弱　しまりやや強
　炭化物粒（φ0.1～10mm）１％含む
3　暗赤褐色（５YR3/4）焼土（被熱層）シルト　粘性やや弱　しまり強
　炭化物粒（φ0.1～10mm）５％含む
4　暗赤褐色（５YR3/4）焼土（被熱層）シルト　粘性やや弱　しまり強
　黒褐色土（Ⅳb層土）粒・塊（φ0.1～20mm）10%　炭化物粒・材（φ0.1～20mm）10%含む
5　褐色（10YR4/4）シルト　粘性中　しまりやや弱
　Ⅴ層土粒・塊（φ0.1～20mm）10%　炭化物粒（φ0.1～10mm）７％含む

SN16
1　褐色（10YR4/4）シルト　粘性中　しまりやや弱
　にぶい黄褐色（Ⅴ層）土粒・塊（φ0.1～20mm）10%含む
　炭化物粒・材（φ0.1～20mm）15%、焼土粒・塊（φ0.1～10mm）５％含む
2　赤褐色（５YR4/6）シルト　粘性弱　しまりやや強　焼土（強い被熱層）
　炭化物粒（φ0.1～10mm）１％含む
3　暗赤褐色（５YR3/4）シルト　粘性やや強　しまり強　焼土（被熱層）
　黒褐色土粒・塊（φ0.1～20mm）10%、炭化物粒・材（φ0.1～20mm）15%含む

SKP235
1　黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性弱　しまりやや強
　にぶい黄褐色（Ⅴ層）土粒・塊（φ0.1～20mm）10%、
　焼土粒（φ0.1～10mm）３％、炭化物粒（φ１～10mm）５％含む



SN32
1　暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性弱　しまりやや弱
　にぶい黄褐色土粒・塊（φ0.1～30mm）10%含む
　炭化物粒・材（φ0.1～30mm）30%、焼土粒・塊（φ0.1～10mm）３％含む
2　赤褐色（５YR4/6）シルト　粘性弱　しまりやや強　焼土（被熱層）
　炭化物粒（φ0.1～10mm）３％含む

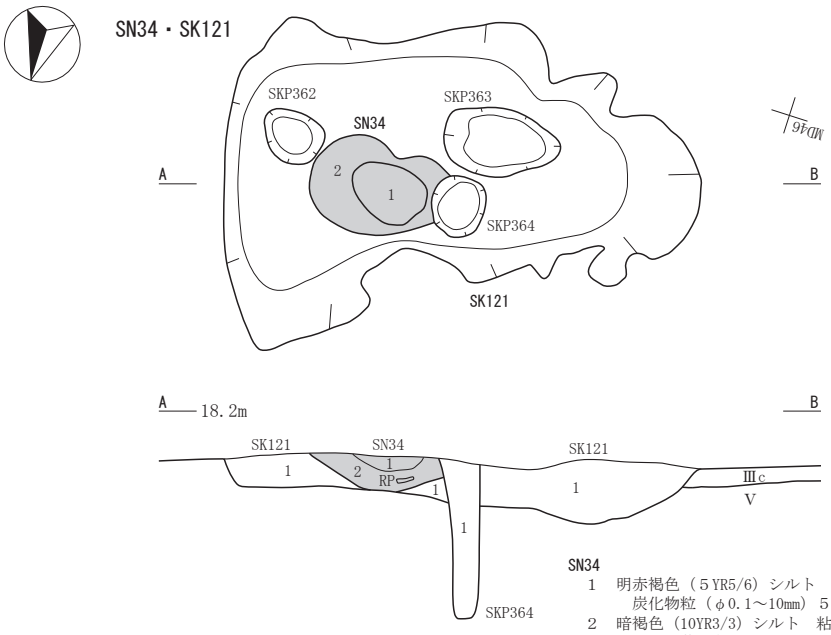
SN33
1　暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性弱　しまりやや弱
　にぶい黄褐色（Ⅴ層）土粒・塊（φ0.1～30mm）10%含む
　炭化物粒・材（φ0.1～30mm）30%、焼土粒・塊（φ0.1～10mm）３％含む
2　赤褐色（５YR4/6）シルト　粘性弱　しまりやや強　焼土（被熱層）
　炭化物粒・材（φ0.1～20mm）３%含む

SK120
1　暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性中　しまりやや弱
　にぶい黄褐色（Ⅴ層）土粒・塊（φ0.1～20mm）30%含む
　炭化物粒（φ0.1～10mm）10%、焼土粒・塊（φ0.1～10mm）３％含む

SKP658
1　黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性弱　しまりやや強
　にぶい黄褐色（Ⅴ層）土粒・塊（φ0.1～20mm）５％
　炭化物粒（φ１～10mm）５％、焼土粒（φ0.1～３mm）１％含む

0　（S＝1／40）　2m

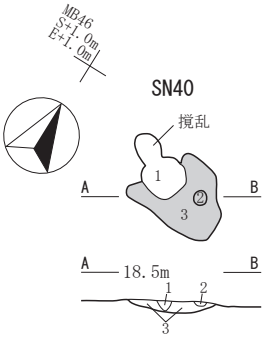
第45図　SN15・16・32・33、SK120



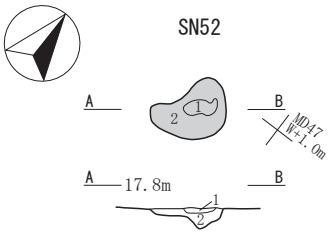
SN34
1　明赤褐色（５YR5/6）シルト　粘性弱　しまりやや強　焼土（被熱層）
　炭化物粒（φ0.1～10mm）５％含む
2　暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性弱　しまりやや弱
　にぶい黄褐色（Ⅴ層）土粒・塊（φ0.1～30mm）10％含む
　炭化物粒・材（φ0.1～30mm）30％、焼土粒・塊（φ0.1～10mm）３％含む

SK121
1　暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性弱　しまりやや弱
　にぶい黄褐色（Ⅴ層）土粒・塊（φ0.1～30mm）10％含む
　炭化物粒・材（φ0.1～30mm）30％含む

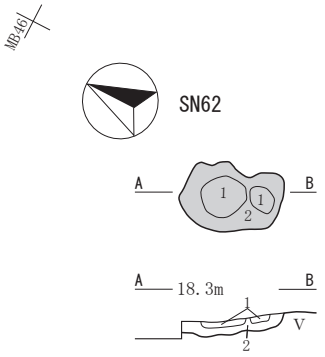
SKP364
1　黒褐色（10YR3/2）シルト　粘性弱　しまりやや強
　にぶい黄褐色（Ⅴ層）土粒・塊（φ0.1～20mm）10％、
　炭化物粒（φ１～10mm）３％、焼土粒・材（φ0.1～10mm）３％含む



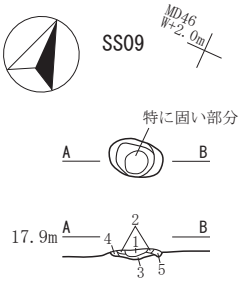
SN40
1　黄褐色（10YR5/6）シルト　粘性弱　しまり強　撹乱
2　橙色（7.5YR6/6）シルト　粘性弱　しまり強　強い被熱部分
3　褐色（7.5YR4/3）粘性弱　しまり強　被熱部分



SN52
1　暗赤褐色（2.5YR3/2）粘性弱　しまり強　焼土（被熱層）
　炭化物粒・材（φ0.1～20mm）10％含む
2　灰赤色（2.5YR4/2）粘性やや弱　しまり中　焼土（弱い被熱層）
　にぶい黄褐色（Ⅴ層）土粒・塊（φ0.1～10mm）10％、Ⅳb層土斑状に10％含む
　炭化物粒（φ１～10mm）５％含む



SN62
1　黄褐色（2.5Y5/3）シルト　粘性弱　しまり強　強い被熱部分
2　明赤褐色（５YR5/6）シルト　粘性弱　しまり強



SS09
1　黒色（10YR2/1）シルト質　強硬化部分
2　黒色（10YR2/1）シルト質　硬化部分
3　暗褐色（10YR3/3）シルト　粘性中　しまり中　被熱部分
4　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　粘性やや強　しまりやや強
5　灰黄褐色（10YR5/2）シルト　暗褐色混じる　粘性やや強　しまり強

0　（S＝１／40）　2m

第46図　SN34・40・52・62、SK121、SS09

第３表　柱穴様ピット一覧表（１）

柱穴番号	所在区	確認面	径または辺長(m)	平面形状	深さ(cm)	底面標高(m)	重　　複	帰属する建物等	備　　考
201	LT52	SK01埋土	0.18 × 0.17	円形	-33.5	19.543	SK01→SKP201		
202	LT52	V	0.43 × 0.28	楕円形	-49.9	19.317			鉄滓１点出土
203	LT52	SK03埋土-V	0.46 × 0.35	楕円形	-36.7	19.390	SK03→SKP203		
204	LT52	V	0.29 × 0.19	楕円形	-19.1	19.727			土師器小片混入
205	LT52	V	0.17 × 0.16	楕円形	-26.1	19.694			
206	LT52	V	(0.21)× 0.20	楕円形	-15.6	19.799	SKP206→207→208		土師器小片混入
207	LT52	V	0.21 × 不明	楕円形	-11.3	19.847	SKP206→207→208		
208	LT52	V	(0.26)× 0.24	楕円形	-18.5	19.788	SKP206→207→208		
209	LT52	V	0.32 × 0.24	楕円形	-26.1	19.719			
210	LS・LT52	V	0.23 × 0.23	円形	-19.0	19.796			
211	LS52	V	0.14 × 0.14	円形	-8.9	19.924			
212	LS52	V	0.21 × 0.18	円形	-21.8	19.801			
213	LS・LT52	V	0.26 × 0.19	円形	-19.5	19.812			
214	LS52	V	0.21 × 0.21	円形	-25.2	19.771			
215	LS52	V	0.23 × 0.17	円形	-13.3	20.005			
216	LS52	V	0.26 × 0.13	楕円形	-11.7	20.012			土師器小片混入
217	LS52	V	0.25 × 0.19	楕円形	-17.2	19.922			土師器小片混入
218	LS52	V	0.21 × 0.15	楕円形	-8.8	20.068			
219	LS53	V	0.28 × 0.22	円形	-22.5	19.827			土師器小片混入
220	LS53	V	0.30 × 0.23	円形	-21.6	19.761			
221	LT52	V	0.22 ×(0.17)	半円	-7.1	19.737	SK01→SKP221		
222	LS53	V	0.40 × 0.30	楕円形	-31.1	19.779			土師器小片混入
223	LR・LS53	V	0.29 × 0.26	円形	-30.4	19.845	SKP224新旧不明		土師器小片混入
224	LS53	V	0.21 ×(0.20)	円形	-18.5	19.934	SKP223新旧不明		土師器小片混入
225	LR52	V	0.21 × 0.20	円形	-15.0	19.899			土師器小片混入
227	LR53	SK04埋土-V	0.38 × 0.33	楕円形	-27.4	19.877	SK04→SKP227		土師器小片混入
228	MD47	V	0.55 ×(0.33)	円形	-20.8	17.442	SKP228→SK05、SB115新旧不明		土師器小片混入
229	MD・ME44	V	0.30 × 0.27	円形	-16.4	17.569			須恵器小片混入
230	MB45・46	SK19埋土-V	0.28 × 0.25	円形	-9.4	17.924	SK19→SKP230		土師器小片混入
231	MC47	SK22埋土-V	0.31 × 0.26	円形	-44.0	17.290	SK22→SKP231	SB122(P1)	土師器・須恵器小片混入
232	MC47・48	SK22埋土	0.47 × 0.41	円形	-55.5	17.300	SK22→SKP232	SB114(P2)	土師器・須恵器小片混入
233	MB47	V	0.16 × 0.14	円形	不明	18.105	SB114新旧不明		
234	MA47	SN14焼土面	0.20 × 0.19	円形	不明	17.990	SN14→SKP234、SB114新旧不明		土師器小片混入
235	MA47	V	0.17 × 0.15	円形	-12.2	18.074	SB114新旧不明		
236	MB47	SK25埋土	0.22 × 0.21	円形	-26.1	17.820	SK25→SKP236、SB114新旧不明		
237	MA46	SK18埋土	0.29 × 0.24	円形	-11.4	18.055	SK18→SKP237		
238	MB47	SK25埋土	0.23 × 0.19	円形	-24.2	17.830	SKP238→SK25、SB114新旧不明		
239	MC48	SK22埋土	0.21 × 0.17	円形	-16.4	17.691	SK22→SKP239、SB114新旧不明		
240	MC48	SK22埋土	0.28 × 0.23	不整形	-25.5	17.497	SK22→SKP240		
241	MC47	SK22埋土-V	0.35 × 0.31	円形	-9.6	17.696	SK22→SKP241、SB122新旧不明		
242	MB48	SK24埋土	0.16 × 0.15	円形	-25.3	17.687	SK24→SKP242、SB114新旧不明		
243	MB48	SK24埋土	0.18 × 0.15	円形	不明	不明	SK24→SKP243、SB114新旧不明		
244	MB48	SK24埋土	0.22 × 0.19	円形	-34.2	17.590	SK24→SKP244、SB114新旧不明		
245	MB48	SK24埋土	0.55 × 0.49	円形	-18.0	17.717	SK24→SKP245、SB114新旧不明		
255	MB49・50	SK63埋土	0.60 × 0.30	楕円形	-27.8	17.392	SK63→SKP255、SB116新旧不明		大型柱穴　断面図あり　Ⅲａ層掘り込む　須恵器・土師器小片混入
256	MB・MC49	V	0.50 × 0.30	楕円形	-36.8	17.420	SKP574新旧不明	SB116(P5)	大型柱穴　須恵器・土師器・支脚小片混入
261	MC47	V	0.49 × 0.40	円形	-42.5	17.445		SB115(P1)	柱痕跡あり　断面図あり　土師器小片混入
262	MC47	V	0.50 × 0.47	円形	-15.9	17.731	SB114・SD49新旧不明		土師器小片混入
263	MC49	V	0.37 × 0.23	楕円形	-11.2	17.404			
264	MC49	V	0.30 × 0.28	円形	-16.3	17.353			
265	MC49	V	0.37 × 0.29	楕円形	-24.0	17.290	SB116新旧不明		
266	MC49	V	0.30 × 0.30	円形	-20.2	17.287		SB116(P4)	
267	MB46	V	0.29 × 0.27	円形	-38.7	17.708			土師器小片混入
268	MA47	V	0.27 × 0.27	円形	-17.9	18.052			
269	MA47	V	0.26 × 0.21	楕円形	-25.3	17.990			
270	MA47	V	0.22 ×(0.16)	円形	-15.2	18.075			
271	MA46	V	0.39 × 0.30	楕円形	-19.6	18.008			須恵器小片混入
272	MA47	V	0.44 × 0.37	円形	-36.3	17.832	SKP274・275新旧不明	SB114(P12)	
273	MA47	V	0.31 × 0.21	楕円形	-40.2	17.810			
274	MA47	V	0.16 ×(0.09)	円形	-21.9	17.976	SB114、SKP272・275新旧不明		
275	MA47	V	0.13 ×(0.10)	円形	-42.5	17.770	SB114、SKP272・274新旧不明		
276	MA47	SN15焼土面	0.25 × 0.23	円形	-5.0	18.147	SN15→SKP276		
277	MA47	V	0.18 × 0.13	楕円形	不明	不明	SB114新旧不明		
278	MA47	V	0.16 × 0.15	円形	-9.7	18.088	SB114新旧不明		
279	MA・MB47	V	0.19 × 0.18	円形	-12.8	18.031	SB114新旧不明		
280	MA47	V	0.16 × 0.14	円形	-5.0	18.105	SB114新旧不明		
281	MA・MB47	V	0.29 × 0.29	円形	-34.2	17.781	SB114新旧不明		土師器小片混入
282	MB48	V	0.30 × 0.20	楕円形	-10.2	17.958	SB114新旧不明		土師器小片混入
283	MA47	SK48埋土	0.15 × 0.14	円形	-22.0	17.970	SK48→SKP283、SB114新旧不明		土師器小片混入
284	MA46	V	0.15 × 0.12	円形	-12.9	18.090	SD47新旧不明		
285	MA46	V	0.18 × 0.13	楕円形	-20.6	18.014	SD47新旧不明		土師器小片混入
286	MA46	V	0.18 × 0.16	円形	-25.4	17.966			土師器小片混入
287	MA46	V	0.23 × 0.21	円形	-28.1	17.905	SKP288新旧不明		土師器小片混入
288	MA46	V	0.12 ×(0.11)	円形	-28.6	17.900	SKP287新旧不明		
289	MA46	V	0.11 × 0.09	円形	-16.7	18.024			
290	MA46	V	0.16 × 0.14	円形	-27.1	17.920	SD47新旧不明		
291	MA46	V	0.26 × 0.24	円形	-8.0	18.094			土師器小片混入
292	MA46	V	0.24 × 0.20	円形	-26.1	17.918			土師器小片混入
293	MA46	V	0.18 × 0.16	円形	-12.2	18.068			土師器小片混入
294	MB46	V	0.25 × 0.17	楕円形	-32.0	17.750			土師器小片混入
295	MB46	V	0.18 × 0.12	楕円形	-22.7	17.790			
296	MB46	V	0.25 × 0.22	円形	-13.8	17.904			
297	MB46	V	0.27 × 0.17	楕円形	-14.9	17.895			土師器小片混入
298	MB46	V	0.27 × 0.24	円形	-13.9	17.901			土師器小片混入
299	MB46	V	0.20 × 0.15	楕円形	-26.7	17.803			土師器小片混入
300	MB46	V	0.18 × 0.16	円形	-18.2	17.965			土師器小片混入
301	MB46	V	0.16 × 0.10	楕円形	-30.5	17.813			須恵器・土師器小片混入
302	MB46	V	0.15 × 0.14	円形	-12.2	17.933	SB114新旧不明		土師器小片混入
303	MB46	V	0.31 × 0.21	楕円形	-39.0	17.720			須恵器・土師器小片混入
304	MB46	V	0.22 ×(0.22)	円形	-36.8	17.782	SKP305・306・307新旧不明		
305	MB46	V	0.30 ×(0.24)	円形	-13.8	18.000	SKP304・306・307新旧不明		
306	MB46	V	0.37 × 0.31	楕円形	-20.3	18.133	SKP304・305・307新旧不明		
307	MB46	V	(0.31)× 0.25	楕円形	-8.1	18.042	SKP304・305・306新旧不明		土師器小片混入
308	MB46	V	0.18 × 0.17	円形	-38.8	17.730			土師器小片混入
309	MB46	V	0.20 × 0.19	円形	-43.3	17.685			
311	MB47	V	0.16 × 0.12	楕円形	-8.6	18.094	SB114新旧不明		
312	MB47	V	0.24 × 0.21	円形	-7.0	18.070	SD47新旧不明、SB114新旧不明		

第４表　柱穴様ピット一覧表（２）

柱穴番号	所在区	確認面	径または辺長(m)	平面形状	深さ(cm)	底面標高(m)	重　　複	帰属する建物等	備　　考
313	MB46・47	V	0.36 × 0.32	円形	−47.4	17.662	SD47新旧不明	SB114(P8)	土師器小片混入
314	MB46・47	V	0.25 ×(0.13)	円形	−38.9	17.690	SB114・SKP512新旧不明		土師器小片混入
315	MB47	SD47底面	0.23 × 0.18	円形	−27.3	17.846	SB114・SD47新旧不明		土師器小片混入
316	MB47	V	0.22 × 0.14	楕円形	−6.5	18.007	SB114新旧不明		
317	MB47	V	0.20 × 0.18	円形	−25.0	17.845	SB114新旧不明		
318	MB47	V	0.13 × 0.13	円形	−17.6	17.921	SB114新旧不明		
319	MB47	V	0.17 × 0.14	円形	−4.6	18.090	SB114新旧不明		
320	MB47	V	0.37 × 0.32	円形	−28.8	17.764		SB114(P7)	須恵器・土師器小片混入
321	MB47	V	0.11 × 0.07	楕円形	−5.5	18.098	SB114新旧不明		
323	MB47	V	0.32 × 0.26	円形	−24.9	17.766	SB114新旧不明		
324	MB47	V	0.25 ×(0.18)	円形	−26.0	17.840	SB114、SKP439新旧不明		
325	MB47	V	0.17 × 0.15	円形	−18.1	17.875	SB114新旧不明		土師器小片混入
326	MB47	V	0.27 × 0.23	円形	−9.1	17.922	SB114新旧不明		
327	MB47	V	0.22 × 0.19	円形	−8.1	17.955	SB114新旧不明		
328	MA47	V	0.41 × 0.36	円形	−37.1	17.737		SB114(P11)	土師器小片混入
330	MC47	SD49内	0.24 ×(0.21)	円形	−17.1	17.719	SB114・SD49新旧不明		
331	MB・MC47	V	0.27 × 0.22	円形	−16.3	17.757	SB114・SD49新旧不明		
332	MC47	V	0.26 × 0.22	円形	−10.5	17.766	SB114新旧不明		
333	MC48	V	0.25 × 0.23	円形	−30.3	17.533	SB114新旧不明		土師器小片混入
334	MC47	V	0.40 × 0.36	円形	−12.1	17.717	SB114・115・122新旧不明		
335	MC47	V	0.40 × 0.36	円形	−50.5	17.385		SB114(P3)	須恵器・土師器小片混入
336	MC47	V	0.34 × 0.33	円形	−46.5	17.445	SB115新旧不明		
337	MC47	V	0.26 × 0.23	円形	−23.5	17.663	SB115新旧不明		土師器小片混入
338	MC47	V	(0.31)× 0.24	楕円形	−19.9	17.675	SB115・122、SKP481新旧不明		
339	MC47	V	0.43 × 0.42	円形	−9.4	17.780	SB115・122・SD58新旧不明		
340	MC47	SD58内	0.33 × 0.29	円形	−10.3	17.759	SB115・122・SD58新旧不明		
341	MC47	SD58内	0.20 ×(0.14)	円形	−14.9	17.713	SB115・122・SD58新旧不明		土師器小片混入
342	MC47	V	0.46 × 0.42	円形	−46.3	17.320	SB115・122・SD58新旧不明		土師器小片混入
343	MC47	V	0.30 × 0.25	円形	−44.7	17.746	SB115・122新旧不明		
344	MC47	V	0.34 × 0.23	楕円形	−14.8	17.704	SB115・122新旧不明		
345	MC47	V	0.36 × 0.34	円形	−46.5	17.399	SB115、SKP478新旧不明	SB122(P4)	土師器小片混入
346	MC46・47	V	0.49 × 0.35	楕円形	−19.7	17.672	SB115・122新旧不明		
347	MC46	V	0.44 × 0.40	円形	−55.1	17.397	SD49新旧不明		須恵器・土師器小片混入
348	MC46	V	0.34 × 0.28	円形	−39.0	17.620		SB114(P4)	
349	MC46	V	0.25 × 0.24	円形	−21.0	17.790			土師器小片混入
350	MC46	V	0.30 × 0.22	楕円形	−32.9	17.548	SB115新旧不明		
351	MC46	V	0.14 × 0.12	円形	−11.9	17.734	SB115新旧不明		土師器小片混入
352	MC46	V	0.11 × 0.10	円形	−11.2	17.742	SB115新旧不明		
353	MC46	V	0.23 × 0.14	楕円形	−26.5	17.588	SB115新旧不明		
354	MC46	V	0.23 × 0.21	円形	−9.5	17.752	SB115新旧不明		
355	MC46	V	0.34 ×(0.29)	円形	−15.8	17.682	SB115、SKP356新旧不明		
356	MC46	V	0.20 × 0.18	円形	−42.0	17.790	SB115、SKP355新旧不明		
357	MD46	V	0.35 × 0.32	円形	−39.1	17.400	SB115、SKP454新旧不明		須恵器・土師器小片混入
358	MC46	V	0.40 × 0.34	円形	−56.8	17.308		SB115(P2)	須恵器・土師器小片混入
359	MC46	V	0.21 × 0.20	円形	−7.8	17.931			
360	MC46	V	0.18 × 0.17	円形	−29.1	17.646	SD49新旧不明		土師器小片混入
361	MC46	SD49内	0.15 × 0.14	円形	−10.4	17.752	SD49新旧不明		
362	MC46	SK121埋土	0.34 × 0.27	円形	−27.8	17.657	SK121→SD49→SKP362		土師器小片混入
363	MC46	SK121埋土	0.62 × 0.37	楕円形	−51.2	17.230	SK121→SKP363	SB115(P3)	土師器小片混入
364	MC46	SK121埋土	0.32 × 0.28	円形	−83.2	17.066	SK121→SKP364、SB115新旧不明		土師器小片混入
365	MC46	SK120底面	(0.30)× 0.26	円形	−66.7	17.173	SKP365→SK120、SB115新旧不明		土師器小片混入
366	MC46	SK120底面	0.32 × 0.26	円形	−50.4	17.336	SKP366→SK120、SB115新旧不明		土師器小片混入
367	MC46	SK120底面	0.34 × 0.30	楕円形	−27.3	17.590	SKP367→SK120、SB115新旧不明		須恵器・土師器小片混入
368	MC46	SD50内	0.29 × 0.20	楕円形	−29.1	17.572	SD50新旧不明		
369	MC・MD47	V	0.43 × 0.41	円形	−58.9	17.172	SB115新旧不明	SB122(P2)	土師器小片・鉄滓片1点混入
370	MA44	V	0.18 ×(0.16)	円形	−31.4	17.936	SKP387新旧不明		土師器小片混入
371	MA43	V	0.24 × 0.19	円形	−34.0	17.880			土師器小片混入
372	MA43	V	0.28 × 0.25	不整形	−42.0	17.766			土師器小片混入
373	MA43	V	0.32 × 0.29	円形	−33.5	17.925			土師器小片混入
374	MC46	SD49内	0.21 × 0.17	円形	−23.2	17.690	SD49新旧不明		
375	MC46	SD49内	0.19 × 0.18	円形	−16.2	17.726	SD49新旧不明		
376	MC46	V	0.23 × 0.22	円形	−33.9	17.524	SB115新旧不明		土師器小片混入
377	MC46	SK120底面	0.23 × 0.19	楕円形	−28.6	17.577	SKP377→SK120、SB115新旧不明		
378	MC46	V	0.23 × 0.23	円形	−17.0	17.662	SB115新旧不明		
379	MC46	V	0.16 × 0.14	円形	−14.7	17.660	SB115新旧不明		
380	MC46	V	0.14 × 0.11	円形	−15.2	17.656	SB115新旧不明		
381	MC46	SK120底面	0.27 × 0.21	楕円形	−26.0	17.580	SKP381→SK120、SB115新旧不明		
382	MA43	V	0.30 × 0.21	不整形	−27.0	17.950			土師器小片混入
383	MA・MB44	SK45埋土	0.14 × 0.11	楕円形	−21.5	18.055	SK45→SKP383、SKP386新旧不明		土師器小片混入
384	MA44	V	0.19 × 0.16	円形	−25.0	18.040			土師器小片混入
385	MA44	SK46底面	0.25 × 0.17	楕円形	−19.0	18.070	SK46新旧不明		
386	MA44	SK45底面	0.36 × 0.22	楕円形	−31.3	17.957	SKP383新旧不明		
387	MA44	V	0.22 × 0.15	楕円形	−8.5	18.165	SKP370新旧不明		土師器小片混入
389	MC47	V	(0.29)× 0.24	円形	−15.2	17.700	SB115・122、SKP390新旧不明		土師器小片混入
390	MC47	V	0.27 × 0.19	楕円形	−26.7	17.585	SB114・115、SKP389新旧不明		
391	MC47	V	0.23 ×(0.20)	円形	−29.2	17.574	SB114、SKP392新旧不明		
392	MC47	V	0.23 × 0.18	円形	−34.0	17.526	SB114、SKP391新旧不明		土師器小片混入
393	MD47	SK53埋土	0.24 × 0.21	円形	不明	不明	SK53→SKP393		
394	MD47	SK53埋土	0.24 × 0.20	円形	−37.1	17.173	SK53→SKP394		
395	MD47	SK53埋土	0.26 × 0.19	円形	不明	不明	SK53→SKP395 SKP396・397・398・399新旧不明		
396	MD47	SK53埋土	0.32 × 0.29	円形	−10.0	17.462	SK53→SKP396 SKP395・397・398・399新旧不明		
397	MD47	SK53埋土	(0.31)× 0.28	円形	−10.6	17.522	SK53→SKP397 SKP395・396・398・399新旧不明		
398	MD47	SK53埋土	(0.27)× 0.23	楕円形	−6.9	17.493	SK53→SKP398 SKP395・396・397・399新旧不明		
399	MD47	SK53埋土	0.25 × 0.23	円形	−25.2	17.310	SK53→SKP399 SKP395・396・397・398新旧不明		羽口片1点、鉄製品片1点出土
400	MA46	V	0.20 × 0.15	円形	−16.0	18.220			
401	MA46	V	0.20 × 0.18	円形	−37.8	18.000			
402	MA46	V	0.30 × 0.22	楕円形	−19.8	18.180			
403	MA46	V	0.26 × 0.22	円形	−39.2	17.953			
404	MA46	V	0.20 × 0.17	円形	−24.9	18.070			
405	MA46	V	0.32 × 0.27	円形	−24.2	18.066	SKP406・407新旧不明		
406	MA46	V	0.20 ×(0.20)	円形	−37.8	17.930	SKP405・407新旧不明		
407	MA46	V	0.26 ×(0.20)	円形	−22.4	18.084	SKP405・406新旧不明		
408	MA46	V	0.28 × 0.19	楕円形	−17.4	18.134			
409	MA46	V	0.23 × 0.21	円形	−30.5	17.977			

第５表　柱穴様ピット一覧表（３）

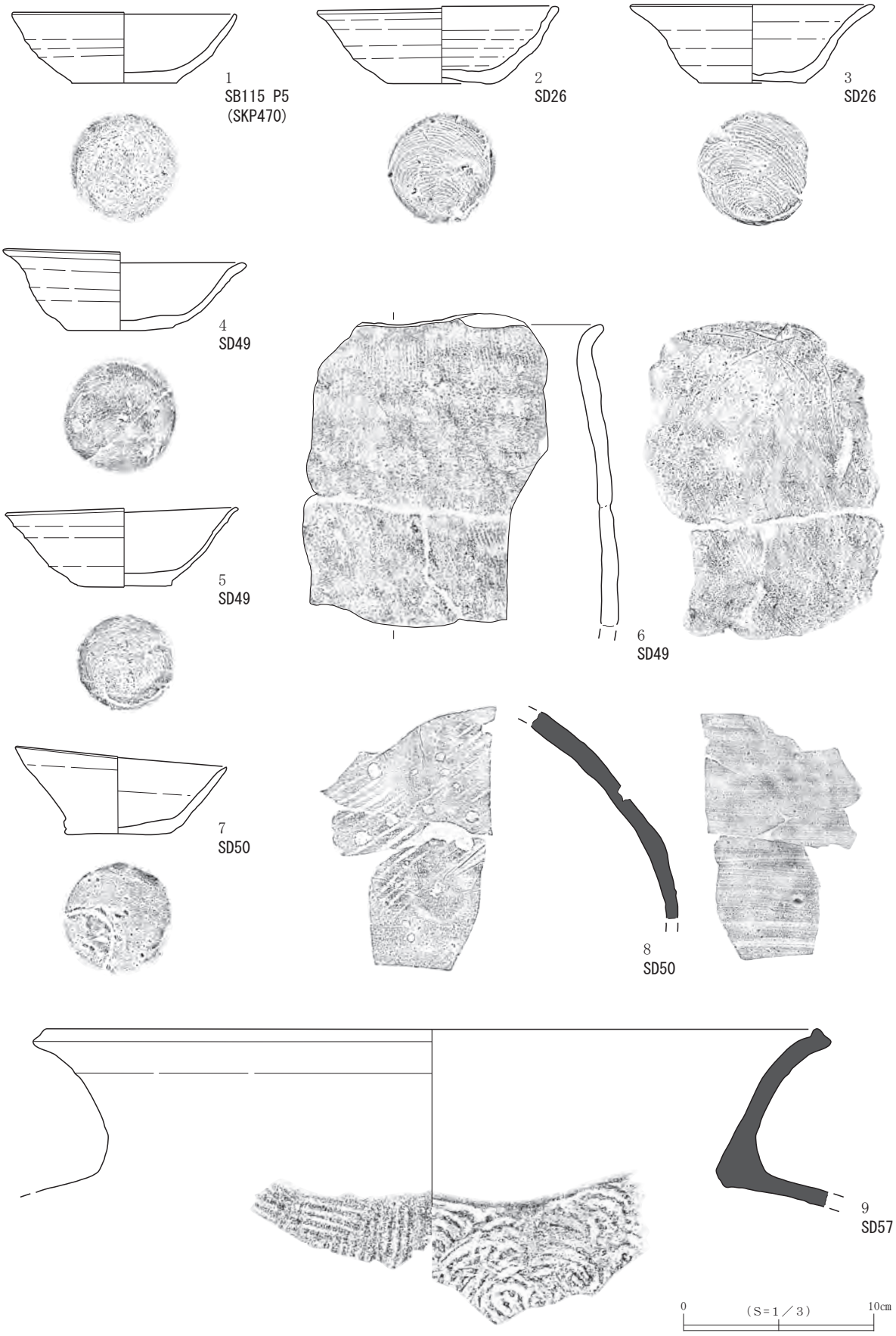
柱穴番号	所在区	確認面	径または辺長(m)	平面形状	深さ(cm)	底面標高(m)	重　　複	帰属する建物等	備　　考
410	MA46	V	0.18 × 0.16	円形	-16.1	18.099			
411	MD・ME45	V	0.27 × 0.23	円形	-20.2	17.423	SB115新旧不明		土師器小片混入
412	MD45	V	0.23 × 0.18	楕円形	-44.9	17.361	SB115新旧不明		土師器小片混入
413	MD45	V	0.48 × 0.48	円形	-19.0	17.690	SB115新旧不明		土師器小片混入
414	MD45	V	0.19 × 0.15	円形	-25.3	17.568		SB115(P9)	土師器小片混入
415	MC45	V	0.18 × 0.14	円形	不明	不明			
416	MC44	V	0.18 × 0.16	円形	-18.7	17.817			土師器小片混入
417	MC44	V	0.16 × 0.15	円形	-5.5	17.920			
418	MC44	V	0.43 × 0.38	円形	不明	17.765			土師器小片・礫混入
419	MC44	SK118埋土	0.37 ×(0.20)	円形	-9.9	17.870	SK118→SKP419		土師器小片混入
420	MD44	V	0.35 ×(0.25)	半円	-3.1	17.796	SKP420→SK51		土師器小片混入
421	MD44	V	0.18 × 0.17	円形	-26.8	17.532			土師器小片混入
422	MD44	V	0.53 × 0.35	楕円形	-3.4	17.746			土師器小片混入
423	MD45	V	0.16 × 0.14	円形	-26.8	17.493	SB115新旧不明		
424	MB48	V	0.20 × 0.16	円形	-45.8	17.598	SB114新旧不明		
425	MB48	V	0.18 × 0.16	円形	-20.1	17.855	SB114新旧不明		
426	MB48	V	0.22 × 0.19	円形	-11.5	17.855	SB114・SD55新旧不明		
427	MB48	V	0.36 × 0.31	円形	-35.9	17.580	SB114新旧不明		土師器小片混入
428	MB48	V	0.35 × 0.30	円形	-22.0	17.719	SB114新旧不明		土師器小片混入
429	MB48	V	0.50 × 0.37	円形	-35.4	17.578		SB114(P6)	土師器小片混入
430	MB48	V	0.23 × 0.22	円形	-6.0	17.740	SB114・SD55新旧不明		
431	MB48	V	0.22 × 0.19	円形	-13.1	17.714	SB114新旧不明		
432	MB48	V	0.34 × 0.24	楕円形	-15.6	17.749	SB114・SD55新旧不明		
433	MB48	V	0.21 × 0.19	円形	-21.8	17.688	SB114・SD55新旧不明		
434	MB48	V	0.26 × 0.16	楕円形	-24.0	17.740	SB114・SD55新旧不明		
435	MB48	SD55内	0.23 × 0.21	円形	-16.6	17.740	SB114・SD55新旧不明		
436	MB48	V	0.26 ×(0.21)	円形	-18.8	17.752	SB114・SD55新旧不明		
437	MB48	V	0.28 ×(0.28)	円形	-19.0	17.750	SB114・SD55新旧不明		
438	MB48	V	(0.22)× 0.21	円形	-32.5	17.615	SB114新旧不明		
439	MB47	V	0.30 × 0.22	楕円形	-19.0	17.910	SB114、SKP324新旧不明		
440	ME47	V	0.23 × 0.19	円形	-21.0	17.295			
442	ME47	V	0.18 × 0.18	円形	-38.3	17.053			
443	MC48	V	0.24 × 0.22	円形	-9.4	17.636			
444	MC48	V	0.24 × 0.19	円形	-20.4	17.415			土師器小片混入
445	MC48	V	0.22 × 0.21	円形	-13.5	17.540			
446	MC48	V	0.19 × 0.14	楕円形	-13.6	17.588			土師器小片混入
447	MC48	V	0.32 × 0.29	円形	-29.6	17.420			
448	MC48	V	0.44 × 0.43	円形	-45.6	17.297		SB114(P1)	土師器小片混入
449	MC48	V	0.22 × 0.19	楕円形	-32.2	17.438	SB114新旧不明		土師器小片混入
450	MC48	V	0.22 × 0.22	円形	-15.5	17.605	SB114新旧不明		土師器小片混入
452	MD46	V	0.31 × 0.29	円形	-55.4	17.201	SB115新旧不明	SA126(P2)	土師器小片混入
453	MD46	V	0.38 × 0.34	円形	-30.0	17.455	SB115新旧不明	SA125(P2)	
454	MD46	V	0.52 × 0.32	楕円形	-38.0	17.406	SB115、SKP357新旧不明		
455	MD46	SK07埋土～V	0.33 × 0.22	楕円形	-40.6	17.288	SB115・SK07新旧不明		
456	MD46	V	0.19 × 0.18	円形	-24.4	17.540	SB115新旧不明		
457	MD46	V	0.20 × 0.17	円形	-19.4	17.590	SB115新旧不明		
458	MD46	V	0.38 × 0.34	円形	-66.2	17.122		SB115(P8)	須恵器・土師器小片混入
459	MD46	V	(0.24)× 0.20	円形	-45.2	17.332	SB115新旧不明	SA126(P3)	
460	MD46	V	0.29 × 0.25	円形	-21.9	17.565	SB115新旧不明	SA125(P3)	
461	MD45	V	0.32 × 0.22	不整形	-25.3	17.488		SB115(P14)	土師器小片混入
462	MD45	V	0.20 × 0.18	円形	-22.2	17.515	SB115新旧不明		土師器小片混入
463	ME45	V	0.35 × 0.18	不整形	-37.0	17.301			
464	MD45	V	0.31 × 0.25	円形	-15.7	17.539	SB115新旧不明		
465	MD45	V	0.18 × 0.15	円形	-20.2	17.543	SB115新旧不明		
466	MD45	V	0.15 × 0.12	円形	-31.0	17.572	SB115新旧不明		
467	MD45	SX89底面	0.20 × 0.18	円形	-12.4	17.738	SB115・SX89新旧不明		土師器小片混入
468	MD45	SX89底面	0.15 × 0.12	楕円形	-8.9	17.790	SB115・SX89新旧不明		
469	MD45	V	0.16 × 0.14	円形	-11.3	17.748	SB115新旧不明		土師器小片混入
470	MC44	V	0.19 × 0.16	楕円形	-31.3	17.626		SB115(P5)	土師器坏埋納
471	MD45	V	0.14 × 0.12	円形	-27.6	17.468	SB115新旧不明		
472	MD45	V	0.21 × 0.11	不整形	-4.9	17.743	SB115新旧不明		
473	MD44	V	0.20 × 0.18	円形	-19.0	17.577			土師器小片混入
474	MD44	V	0.21 × 0.17	円形	-30.6	17.521			土師器小片混入
475	MC44	V	0.23 × 0.19	円形	不明	17.982			土師器小片・礫混入
476	MC44	V	0.28 × 0.27	円形	-19.0	17.856			土師器小片混入
477	MC47	V	0.27 × 0.24	円形	-38.3	17.494	SB115新旧不明		
478	MC47	V	0.21 ×(0.13)	楕円形？	-14.4	17.720	SB115・122、SKP345新旧不明		
479	MC47	V	0.28 × 0.20	楕円形	-18.8	17.750	SB114・SD49新旧不明		
480	MC47	V	0.28 ×(0.20)	円形	-34.3	17.440	SB115・122、SD58、SKP342新旧不明		
481	MC47	V	0.31 × 0.29	円形	-43.4	17.440	SB115・122、SKP338新旧不明		
483	MC47	V	0.14 × 0.13	円形	-8.3	17.655	SB115・122新旧不明		
484	MC47	V	0.38 × 0.35	略三角	-38.6	17.352	SB122新旧不明	SB115(P6)	
485	MC47	V	0.24 × 0.15	楕円形	-23.2	17.498	SB122新旧不明		
486	MC47	V	0.30 × 0.22	略三角	-14.4	17.586	SB122新旧不明		
487	MC47	V	0.25 × 0.21	円形	-50.6	17.350	SB114新旧不明	SB122(P3)	
488	MD46・47	V	0.25 × 0.25	円形	-11.5	17.560	SB115新旧不明		
489	MD47	V	0.24 × 0.21	円形	-42.8	17.188		SB115(P12)	
490	MD47	V	0.23 × 0.17	楕円形	-10.4	17.440	SK53→SKP490、SD58新旧不明		
491	MD47	V	0.44 × 0.39	円形	-11.8	17.498	SB115・SD58新旧不明	SA125(P1)	
492	MC・MD47	V	0.38 × 0.34	円形	-8.6	17.564			
493	MD47	V	0.24 × 0.21	円形	-55.5	17.095		SB115(P11)	
494	MD48	V	0.16 × 0.16	円形	-16.9	17.461			
495	MD48	V	0.18 × 0.17	円形	-25.5	17.405			
496	MC・MD48	V	0.34 × 0.30	円形	-13.3	17.527	SKP497・642新旧不明		
497	MC・MD48	V	0.32 ×(0.20)	円形	-8.2	17.542	SKP496・642新旧不明		
498	MD48	V	0.27 × 0.22	楕円形	-20.6	17.418			
499	MD48	V	0.19 × 0.14	円形	-12.3	17.427			
500	MA48	V	0.35 × 0.27	楕円形	-35.4	17.736			土師器・支脚小片混入
501	MA48	V	0.30 × 0.29	円形	-41.4	17.630			土師器小片混入
502	LT47	SD60内	0.16 × 0.15	円形	-7.7	18.186	SD60新旧不明		
503	MA48	V	0.15 × 0.14	円形	-14.1	17.956			
504	MA48	V	0.15 × 0.15	円形	-11.0	17.980			
505	MA48	V	0.11 × 0.10	円形	-11.7	18.000			
506	LT・MA48	V	0.12 × 0.12	円形	-10.3	18.014			
507	MA48	V	0.14 × 0.11	円形	-3.6	17.940			
508	MA48	V	0.18 × 0.11	楕円形	-6.0	17.915			
509	MA48	V	0.18 × 0.15	円形	-4.3	17.917			

第６表　柱穴様ピット一覧表（４）

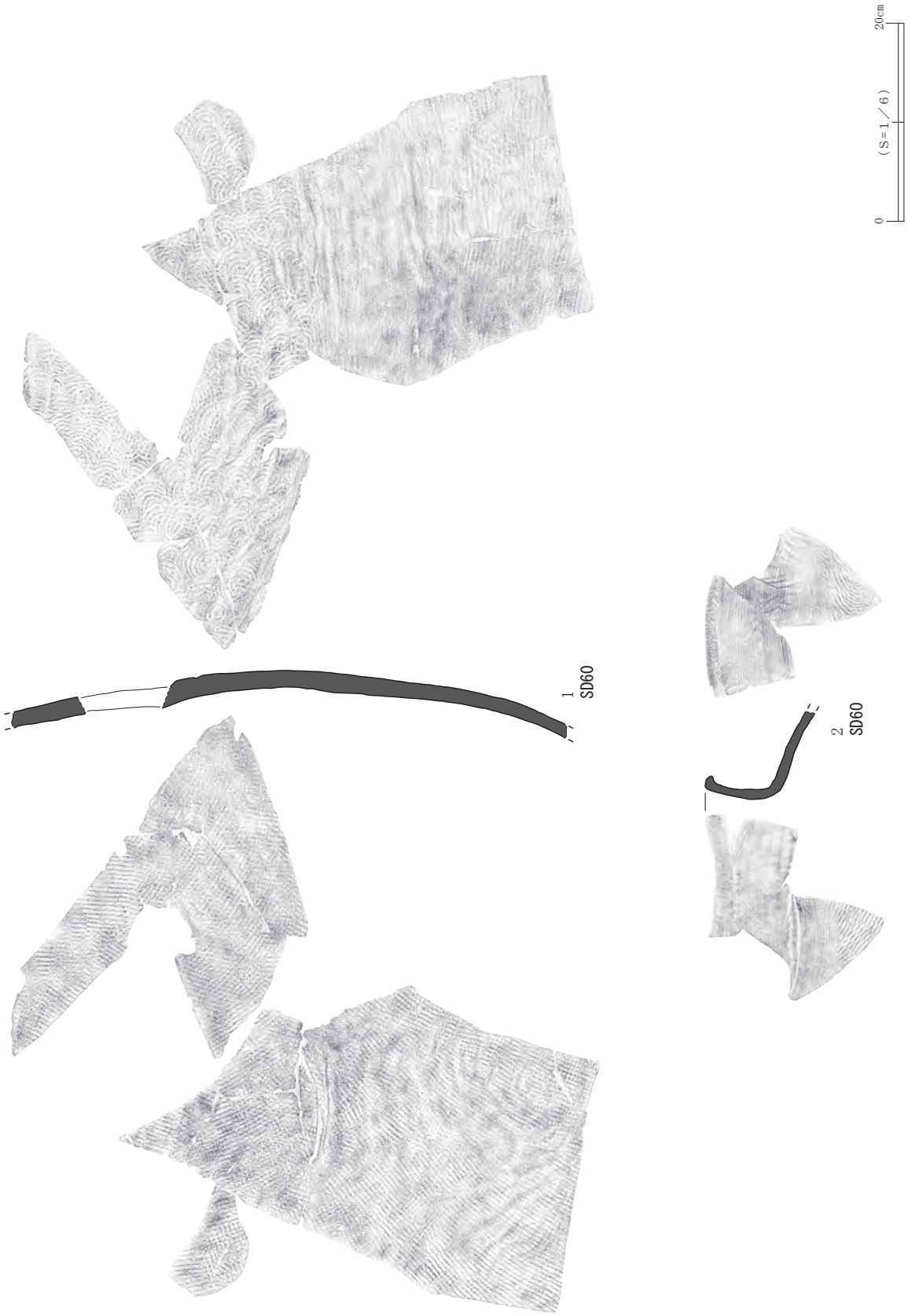
柱穴番号	所在区	確認面	径または辺長(m)	平面形状	深さ(cm)	底面標高(m)	重　　複	帰属する建物等	備　　考
510	MA48	V	0.18 × 0.12	楕円形	−15.4	17.806			
511	MB46	V	0.16 × 0.15	円形	−5.7	17.943	SB114新旧不明		
512	MB46	V	0.27 × 0.25	円形	−34.7	17.710	SB114・SKP314新旧不明		
513	MB46	V	0.28 × 0.26	円形	−18.8	17.922			
514	MB46	V	0.24 × 0.20	円形	−51.1	17.607			土師器小片混入
515	MC46	V	0.15 × 0.14	円形	−30.5	17.705			
516	MC46	V	0.15 × 0.15	円形	不明	17.835	SB115新旧不明		
517	MD47	V	0.19 × 0.19	円形	−29.3	17.246			
518	MD47	V	0.24 × 0.20	円形	−13.0	17.318			
519	MD47	V	0.30 × 0.16	楕円形	−29.4	17.242	SD58新旧不明		
520	MD47	V	0.26 × 0.24	円形	−9.0	17.446			
521	MD47	V	0.19 × 0.19	円形	−13.1	17.405			
522	MD47	V	0.33 × 0.28	円形	−43.2	17.104	SD58新旧不明	SA126(P1)	
523	MD47	SD58内	0.13 × 0.12	円形	−16.8	17.368	SD58新旧不明		
524	MD47	SD58内	0.24 × 0.20	円形	−25.5	17.281	SD58新旧不明		
525	MD47・48	V	0.17 × 0.14	円形	−20.3	17.248			
526	MD47・48	V	0.15 × 0.14	円形	−18.1	17.253			
527	MD46・47、MC46・47	V	0.55 × 0.42	楕円形	−39.8	17.248		SB115(P7)	土師器小片混入
528	ME47	V	0.28 × 0.24	円形	−25.7	17.260			
529	ME47	V	0.19 × 0.14	円形	−32.4	17.172			
530	MC48・49	V	0.24 × 0.18	円形	−23.0	17.770	SKP531新旧不明		
531	MC48	V	0.19 ×(0.16)	円形	−18.0	17.605	SKP530新旧不明		
532	MB・MC48	V	0.29 × 0.29	円形	−20.1	17.605			
533	MC48	V	0.19 × 0.19	円形	−19.5	17.496			
534	MB48	V	0.39 × 0.36	円形	−32.9	17.482		SB114(P5)	須恵器・土師器小片混入
535	MB48	V	0.20 × 0.18	円形	−11.9	17.687			
536	MB48	V	0.17 × 0.16	円形	−13.6	17.685	SB114新旧不明		
537	MD49	V	0.25 × 0.24	円形	−10.7	17.071			
538	MD49	V	0.20 × 0.20	円形	−14.3	17.070			
539	MA48	SK61埋土	(0.28)× 0.24	楕円形	−17.4	17.600	SK61→SKP539、SKP569新旧不明		
540	MA48	SK61埋土	0.30 × 0.20	楕円形	−16.0	17.840	SK61→SKP540、SKP541新旧不明		土師器小片混入
541	MA48	SK61埋土	(0.24)× 0.12	楕円形	−15.0	17.850	SK61→SKP541、SKP540新旧不明		
542	MA49	V	0.18 × 0.17	円形	−10.3	17.875			
543	MA49	V	0.33 × 0.25	円形	−27.5	17.697			土師器・支脚小片混入
544	MA49	V	0.23 × 0.18	円形	−29.0	17.643			土師器小片混入
545	MA49	V	0.24 × 0.15	楕円形	−21.9	17.822			
546	MA49	V	0.26 × 0.24	円形	−39.9	17.631			
547	MA49	V	0.26 × 0.24	円形	−18.5	17.778			
548	MA49	V	0.30 × 0.25	円形	−43.7	17.530			土師器小片混入
549	MA・MB49	V	0.18 × 0.17	円形	−19.2	17.775			
550	MA49	V	0.22 × 0.15	楕円形	−23.2	17.735			
551	MA49	V	0.16 × 0.12	円形	−19.2	17.750			土師器小片混入
552	MB49	V	0.27 × 0.22	円形	−16.5	17.768	SB114新旧不明		
553	MB49	V	0.41 × 0.35	円形	−38.0	17.565		SB114(P9)	
554	MB49	V	0.29 × 0.28	円形	−23.3	17.577			土師器小片混入
555	MB49	V	0.20 × 0.20	円形	−9.6	17.780			
556	MA・MB49	V	0.24 × 0.19	円形	−16.7	17.709			
557	MC45	V	0.18 × 0.17	円形	−21.4	17.758			土師器小片混入
558	MC45	V	0.16 × 0.14	円形	−24.3	17.735			土師器小片混入
559	MA45	V	0.16 × 0.14	円形	−12.0	18.204			
560	MA45	V	0.17 × 0.17	円形	−7.6	18.224			
561	MA45	V	0.16 × 0.14	円形	−23.8	18.145			
562	MA45	V	0.17 × 0.13	円形	−27.9	17.991			土師器小片混入
563	MB45	V	0.33 × 0.24	楕円形	−21.8	17.910			土師器小片混入
564	MB45	V	0.22 × 0.15	円形	−7.9	18.046			
565	MB45	V	0.18 × 0.13	円形	−5.7	18.028			
566	MB45	V	0.18 × 0.14	円形	−7.1	18.016	SK117新旧不明		
567	MB45	V	0.20 × 0.16	楕円形	−26.5	17.830			
568	MB45	V	0.16 × 0.15	円形	−16.7	17.925			土師器小片混入
569	MA48	SK61埋土	0.39 × 0.35	円形	−43.6	17.564	SK61→SKP569、SKP539新旧不明		
570	MA48	V	0.23 × 0.18	楕円形	−15.4	17.894	SD60新旧不明		
571	MA48	V	0.16 × 0.13	円形	−18.2	17.866	SD60新旧不明		
572	MB45	V	0.17 × 0.16	円形	不明	不明			
573	MB45	SK76埋土	0.46 × 0.26	楕円頸	−37.0	17.800	SK76→SKP573		土師器小片混入
574	MB49	V	0.17 × 0.16	円形	−11.2	17.676	SB116、SKP256新旧不明		
575	MB49	V	0.28 × 0.20	楕円形	−7.8	17.667	SB116新旧不明		
576	MB49	SK67埋土	0.36 × 0.34	円形	−30.0	17.545	SK67→SKP576 SB116新旧不明		
577	MB49	V	0.20 × 0.17	円形	−21.0	17.635			
578	MB49	V	0.23 × 0.18	楕円形	−9.0	17.697			
579	MB49	SK67埋土	0.23 × 0.19	円形	−44.2	17.488	SK67→SKP579、SKP580・656新旧不明	SB116(P10)	
580	MB49	V	(0.28)×(0.26)	楕円形	−33.0	17.600	SKP580→SK67、SKP580→SB116、SKP579・650新旧不明		
581	MB49	SK63埋土	0.39 × 0.38	円形	−19.5	17.475	SK63→SKP581	SB116(P9)	
582	MC45	V	0.46 ×(0.29)	円形	−21.1	17.794			土師器小片混入
583	MB45	V	0.18 × 0.16	円形	−25.7	17.780			
584	MD48	V	0.26 × 0.23	円形	−25.8	17.172			
585	MD48	V	0.16 × 0.14	円形	−12.6	17.304			
586	MD48	V	0.28 × 0.24	円形	−32.6	17.298			
587	MD48	V	0.20 × 0.19	円形	−11.8	17.506			
588	MD48	V	0.19 × 0.17	円形	−8.8	17.502			
589	MD47	V	0.21 × 0.20	円形	−9.1	17.448			
590	LT48	V	0.18 × 0.15	略三角形	−8.2	18.066			
591	LT48	V	0.18 × 0.15	略三角形	−10.0	18.048			
592	MA47	V	0.18 × 0.16	円形	−40.5	17.825			
595	MA44・45	V	0.20 × 0.19	円形	−11.8	18.172	SD60b新旧不明		
596	MD45	V	0.14 × 0.11	円形	−7.9	17.666			土師器小片混入
597	MD45	V	0.23 × 0.23	円形	−29.0	17.428			柱痕跡あり
598	ME45	V	0.21 × 0.21	円形	−12.1	17.558		SB115(P15)	
599	ME45	V	0.21 × 0.17	楕円形	−27.2	17.407			土師器小片混入
600	ME45	V	0.25 × 0.20	楕円形	−27.8	17.381			
601	MB48	V	0.26 × 0.18	楕円形	−19.2	17.864	SB114新旧不明		
602	MC47	V	0.15 × 0.12	円形	−23.2	17.634	SB114新旧不明		
603	ME45	V	0.18 × 0.17	円形	−31.7	17.363			
604	ME45	V	0.21 ×(0.09)	円形	−11.5	17.570			
607	MA45	V	0.20 × 0.16	不整形	−32.1	17.879			
608	MA45	V	0.32 × 0.25	楕円形	−8.0	18.135			土師器小片混入

第７表　柱穴様ピット一覧表（５）

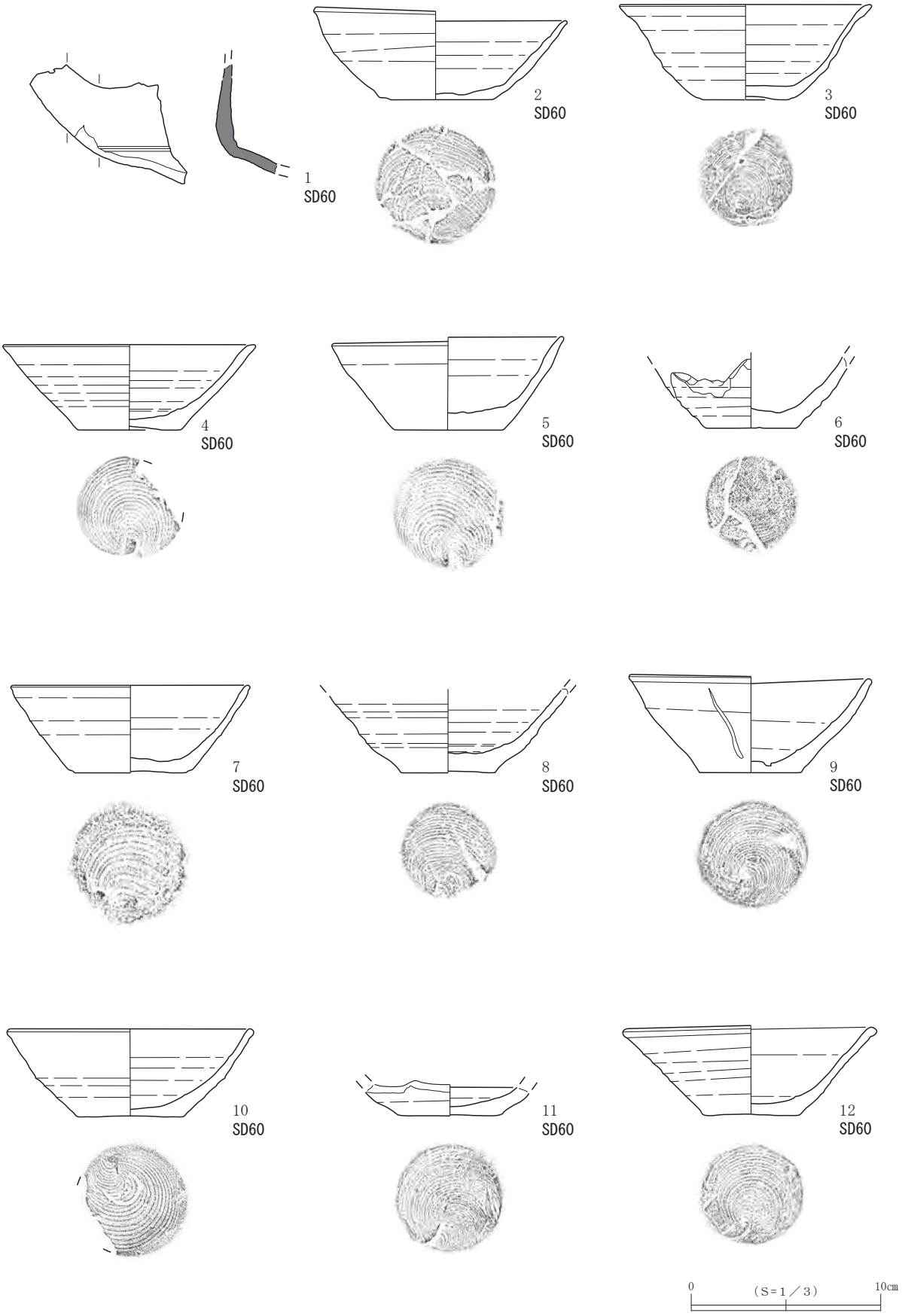
柱穴番号	所在区	確認面	径または辺長(m)	平面形状	深さ(cm)	底面標高(m)	重　　複	帰属する建物等	備　　考
609	MA45	V	0.21 × 0.21	円形	-6.1	18.110			底面付近土師器坏1個体分
610	MA45	SK38、SD92底面	0.21 ×(0.06)	円形	-10.1	18.210	SKP610→SD92→SK38		
611	MA45	V	0.19 × 0.15	円形	-15.6	18.003			
612	MC50	V	0.22 × 0.16	楕円形	-15.3	17.277	SD85新旧不明		
613	MC50	V	0.18 ×(0.13)	円形	-24.8	17.182	SD85新旧不明		
614	MC50	V	0.28 × 0.24	円形	-31.2	17.118	SD85新旧不明		
615	MC50	V	0.52 × 0.49	円形	-19.2	17.238		SB116(P3)	
616	MC50	V	0.23 × 0.22	円形	-25.4	17.138	SB116新旧不明		
617	MA45	V	0.17 × 0.16	円形	-8.6	18.129			
619	MD45	SX89底面	0.21 × 0.17	円形	-49.2	17.348	SB115、SX89新旧不明		土師器小片混入
620	MD51	V	0.33 ×(0.27)	円形？	-50.6	16.650	SK94→SKP620→SK84	SB116(P1)	
621	MC49	V	0.22 × 0.20	円形	-15.8	17.331	SB116新旧不明		
622	MC49	V	0.27 × 0.21	楕円形	-19.4	17.225			
623	MC47	V	0.20 × 0.19	円形	-20.0	17.655	SB114新旧不明		
624	MC47	V	0.20 × 0.19	円形	-18.0	17.686	SB114新旧不明		
625	MD50	V	0.27 × 0.27	円形	-14.6	17.060		SA127(P2)	
626	MD50	V	0.27 × 0.23	円形	-17.5	16.955		SA127(P1)	
627	MD50	V	0.28 × 0.24	円形	-14.6	16.970			
628	MD50・51	V	0.24 × 0.20	円形	-4.7	17.065			
629	MD51	V	0.41 × 0.35	円形	不明	17.080			
630	ME51	V	0.40 × 0.32	円形	-19.4	16.605			
631	MC51	V	0.21 × 0.21	円形	-25.2	17.101	SB116新旧不明		
632	MC51	V	0.21 × 0.20	円形	-15.6	17.178	SB116新旧不明		
633	MC51	V	0.34 × 0.33	円形	-20.0	17.125	SB116新旧不明		柱痕　土師器小片混入
634	MC51	V	0.23 × 0.19	円形	-20.9	17.116	SB116新旧不明		
635	MC51	V	0.33 × 0.29	円形	-25.4	17.099	SD72新旧不明	SB116(P2)	
636	MC51	SD57内	0.17 × 0.16	円形	-31.3	17.040	SB116・SD57新旧不明		
637	MC51	V	0.18 × 0.14	円形	-21.8	17.107	SB116・SD57新旧不明		
638	MC51	V	0.19 × 0.18	円形	-19.6	17.129	SB116・SD57新旧不明		
639	MC52	SD57内	0.17 × 0.15	円形	-27.5	17.043	SD57新旧不明		
640	MC52	V	0.34 × 0.26	円形	-21.8	17.100	SKP691新旧不明	SB116(P6)	
641	MC52	V	0.17 × 0.12	略三角形	-12.5	17.193			
642	MC・MD48	V	0.29 ×(0.25)	円形	-16.4	17.461	SKP496・497新旧不明		
643	MB55	SD60埋土	0.63 × 0.38	楕円形	不明	16.540		SA101	
644	MB55	SD60埋土	0.39 × 0.31	円形	不明	16.460		SA101	
645	MD49	V	0.36 × 0.35	円形	-24.0	17.165	SKP646・647新旧不明	SA127(P3)	
646	MD49	V	(0.25)× 0.23	円形	-22.0	17.185	SKP645・647新旧不明		
647	MD49	V	0.27 ×(0.21)	円形	-25.5	17.150	SKP645・646新旧不明		
648	MA・MB45	V	0.19 × 0.11	円形	-40.6	17.763			土師器小片混入
649	MB46	V	0.33 ×(0.29)	円形？	-34.6	17.673			土師器小片混入
650	MC54	SD85内	0.20 × 0.20	円形	-20.5	16.765	SD85新旧不明		Ⅴ層上面からの深さ39.1cm
653	MB47	SK29埋土	0.11 × 0.09	円形	不明	17.815	SK30→SKP653、SB114新旧不明		
654	MB47	SK29埋土	0.51 × 0.15	円形	不明	17.735	SK30→SKP654、SB114新旧不明		黒褐色10YR3/1シルトに黄灰土、炭化物含む
656	MB49	V	(0.14)×(0.07)	円形？	不明	不明	SKP656→SK67、SKP579・580新旧不明		
657	MC46	SK120底面	0.30 ×(0.20)	楕円形	-10.0	17.763	SKP657→SK120、SB115新旧不明		
658	MC46	SK120底面	0.22 × 0.19	円形	不明	不明	SKP658→SK120、SB115新旧不明		
659	MD46	SK07埋土	0.23 × 0.21	円形	-22.1	17.517	SB115、SK07新旧不明		
660	MA48	V	0.41 × 0.35	円形	不明	不明		SB114(P10)	写真で復元
661	MC51	V	0.30 × 0.28	円形	不明	不明		SB116(P7)	
662	LS52	V	0.10 × 0.10	円形	-10.4	19.959			
663	LS52	V	0.14 × 0.11	円形	-20.0	19.988			
664	LS51・52	V	0.15 × 0.12	円形	-13.1	20.089			
665	MD46	V	(0.30)×(0.30)	円形？	不明	不明	SB115新旧不明		写真で復元
666	MD46	V	(0.32)×(0.32)	円形？	不明	不明		SB115(P13)	写真で復元
667	ME44	V	0.57 × 0.37	楕円形？	不明	不明		SA124(P1)	
668	ME44	V	0.53 × 0.45	円形	-59.9	17.181		SA124(P2)	
669	MD44	V	0.31 × 0.26	円形	-22.0	17.515			
670	MD44	V	0.52 × 0.45	円形	-29.1	17.490		SA124(P3)	
671	MB45	V	0.18 × 0.17	円形	-23.0	17.857			
672	MB45	V	0.13 × 0.12	円形	-9.2	18.011			
673	MB45	V	0.19 × 0.14	楕円形	-22.4	17.926			
674	MB45	V	0.23 × 0.18	円形	-35.5	17.815			
675	MB45	V	0.16 × 0.13	円形	-9.4	18.022			
676	MB44	V	0.21 × 0.19	円形	-21.4	17.911			
677	MC・MD44	SK118	0.54 × 0.30	楕円形？	-12.5	17.767	SK118→SKP677		
678	MC44	SK51・79・118埋土	0.52 × 0.41	円形	-58.0	17.305	SK118→SK79→SK51→SKP678		
679	MA44	V	0.18 × 0.13	楕円形	-41.1	17.825			
680	MC45	SK27埋土	0.36 × 0.35	円形	-41.6	不明	SK27→SKP680	SB115(P4)	
681	MC45	SK27埋土	0.41 × 0.27	楕円形	不明	不明	SK27→SKP681		
682	MB50	V	0.22 × 0.16	円形？	不明	不明	SB116新旧不明		
683	MB50	V	0.32 × 0.22	円形？	不明	不明		SB116(P8)	
684	MD45	SX89底面	0.12 × 0.11	円形	-31.1	17.476	SX89新旧不明	SB115(P10)	
685	MA44	SK54埋土	0.26 × 0.22	円形	-17.8	18.097	SK54→SKP685		
687	MB45	V	0.41 × 0.21	楕円形	不明	不明			
688	MC45	SK27埋土	0.19 × 0.15	円形	-22.6	不明	SK27新旧不明		
689	MA45	V	0.17 × 0.15	円形	-16.5	18.105			
690	MC47	V	0.26 × 0.22	円形	-13.8	17.758	SB115・122新旧不明		
691	MC52	V	0.58 × 0.47	円形	-13.6	17.182	SB116、SKP640新旧不明		
692	MF44	V	0.18 × 0.18	円形	-11.0	17.280			
693	MB50	Ⅲa	0.19 × 0.17	円形	-12.0	17.720			
694	MA44	SK45底面	0.25 × 0.15	楕円形	-12.6	18.110	SK45新旧不明		
695	MA44	SK54底面	0.18 × 0.17	円形	-20.5	18.070	SK54新旧不明		
697	MD46	SK07底面	0.15 × 0.13	円形	不明	不明	SB115、SK07新旧不明		
698	MC45	SK27底面	0.19 × 0.16	円形	-23.0	17.715	SK27新旧不明		
699	MC45	SK37底面	0.34 × 0.29	円形	-52.9	17.087	SB115、SK37新旧不明		
700	MC45	SK37底面	0.16 × 0.14	円形	-34.2	17.590	SK37新旧不明		
701	MB45	SK75底面	0.21 × 0.20	円形	-21.7	17.882	SK75新旧不明		
702	MD45	SX89底面	0.12 × 0.10	円形	-15.8	17.463	SX89新旧不明		
703	MD45	SX89底面	0.13 × 0.10	楕円形	-9.0	17.750	SB115、SX89新旧不明		
704	MA45	SK91底面	0.24 × 0.11	楕円形	-13.9	17.986	SK91新旧不明		
705	MA46	SK91底面	0.20 × 0.14	楕円形	-15.6	17.969	SK91新旧不明		



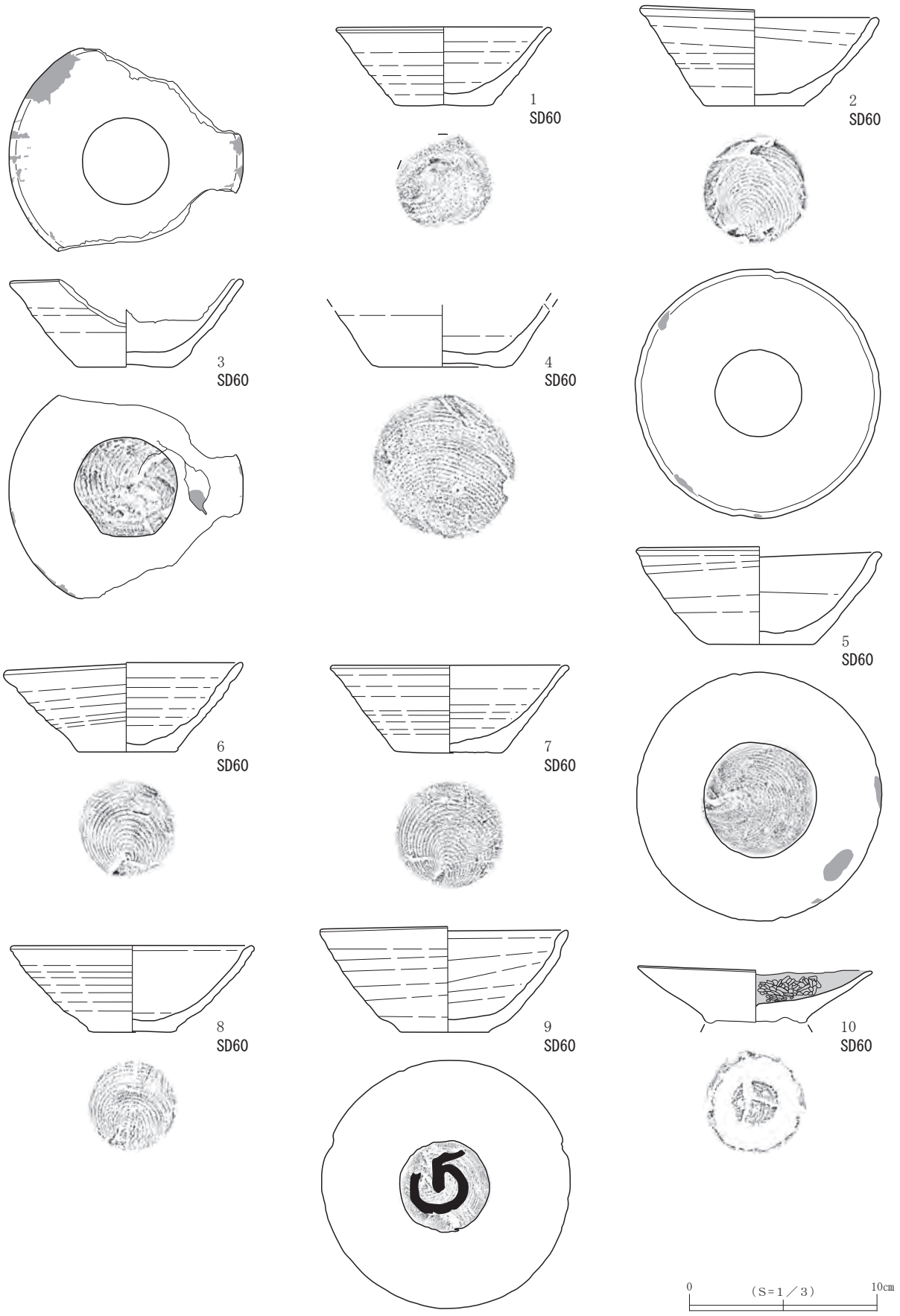
第47図　遺構出土土器類(SB115、SD26・49・50・57)



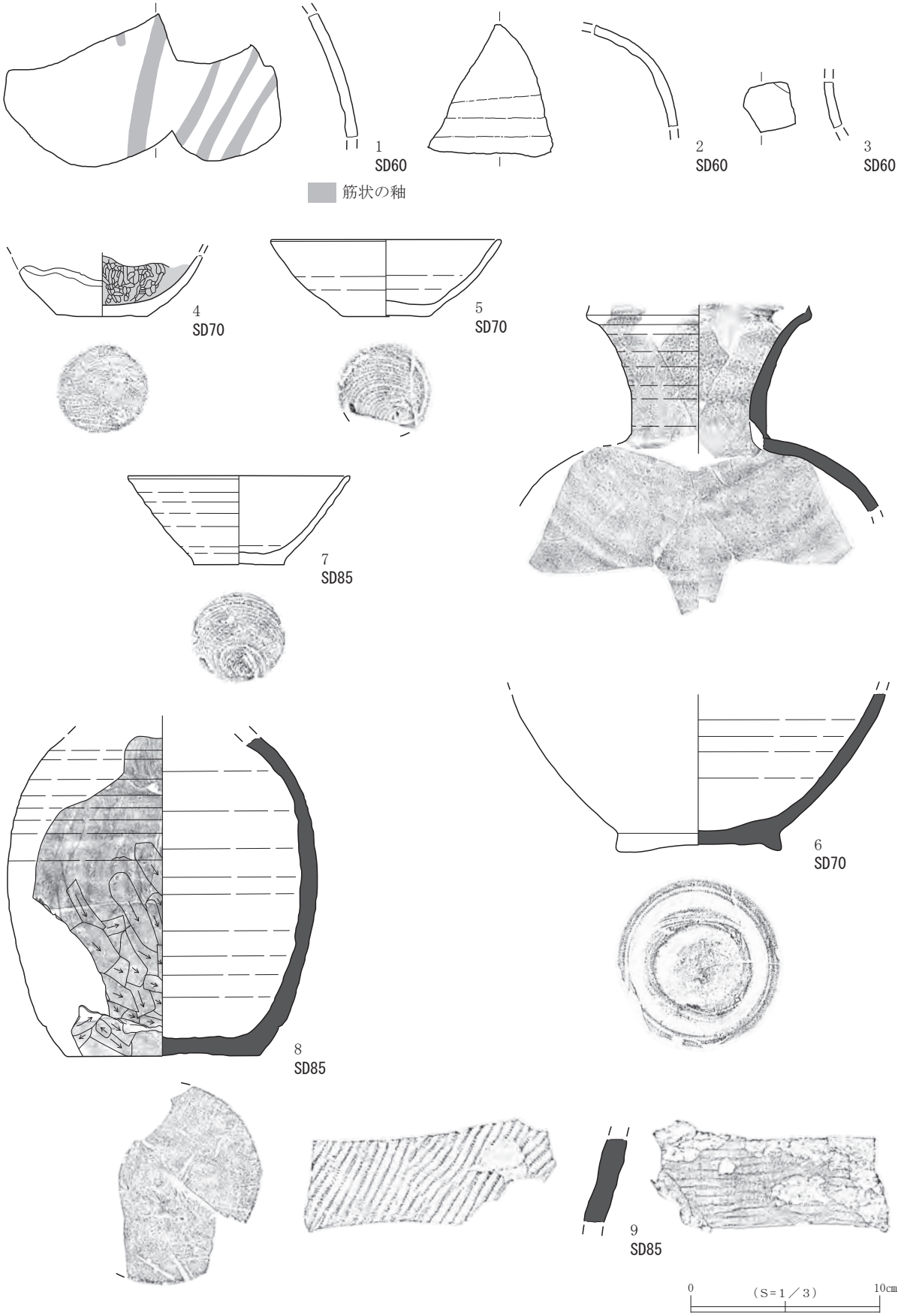
第48図　遺構出土土器類（SD60）



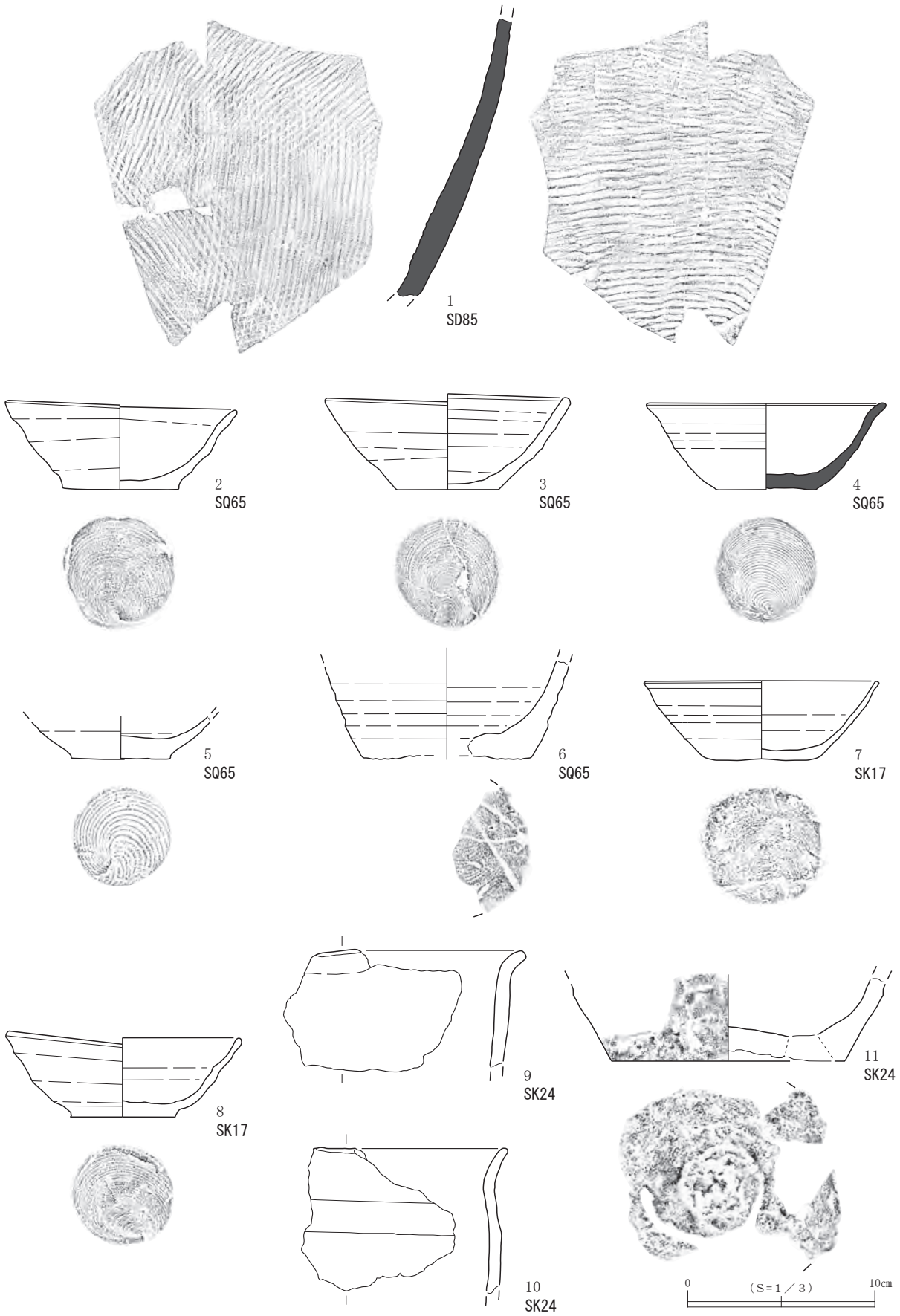
第49図　遺構出土土器類（SD60）



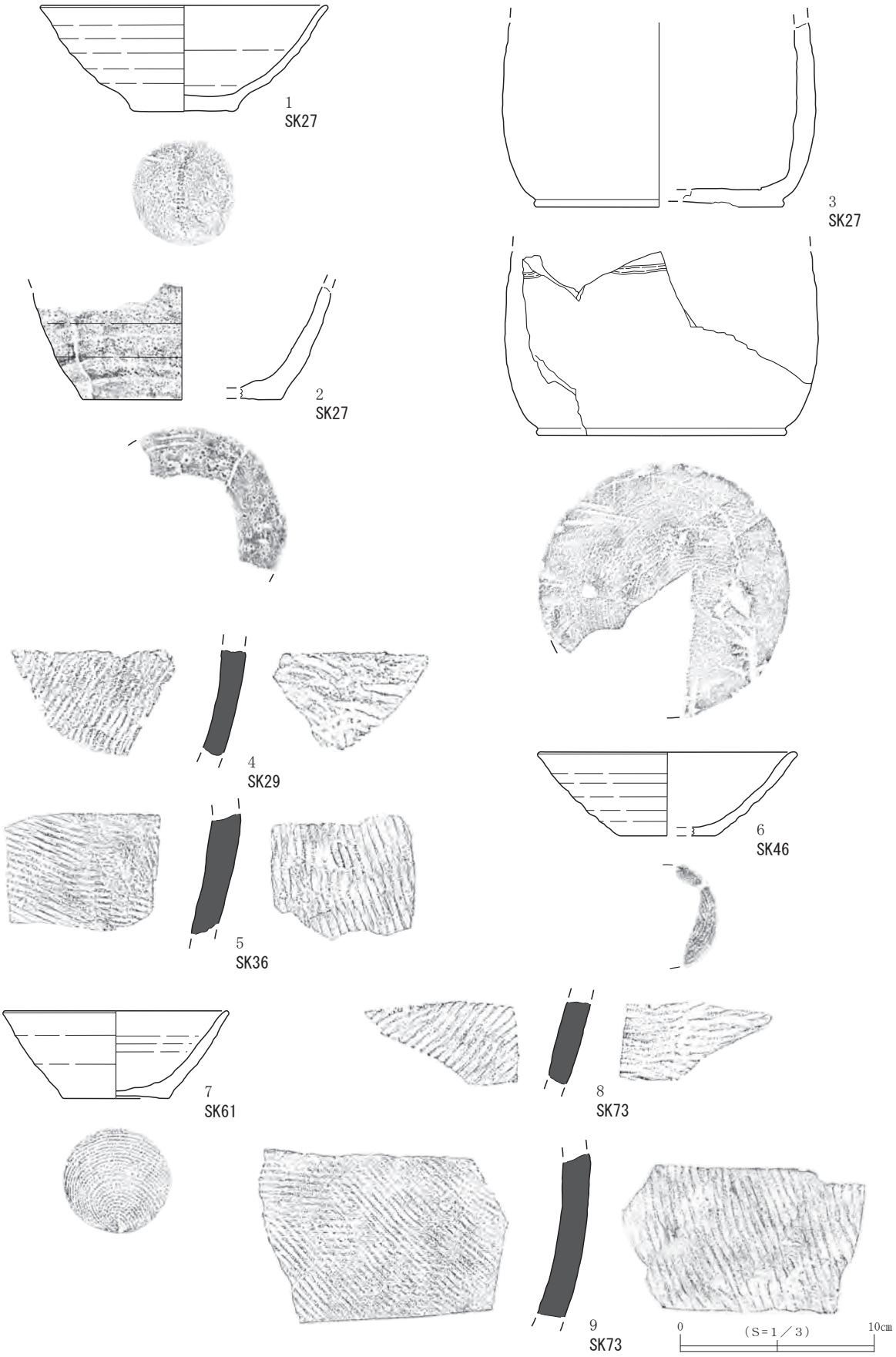
第50図　遺構出土土器類（SD60）



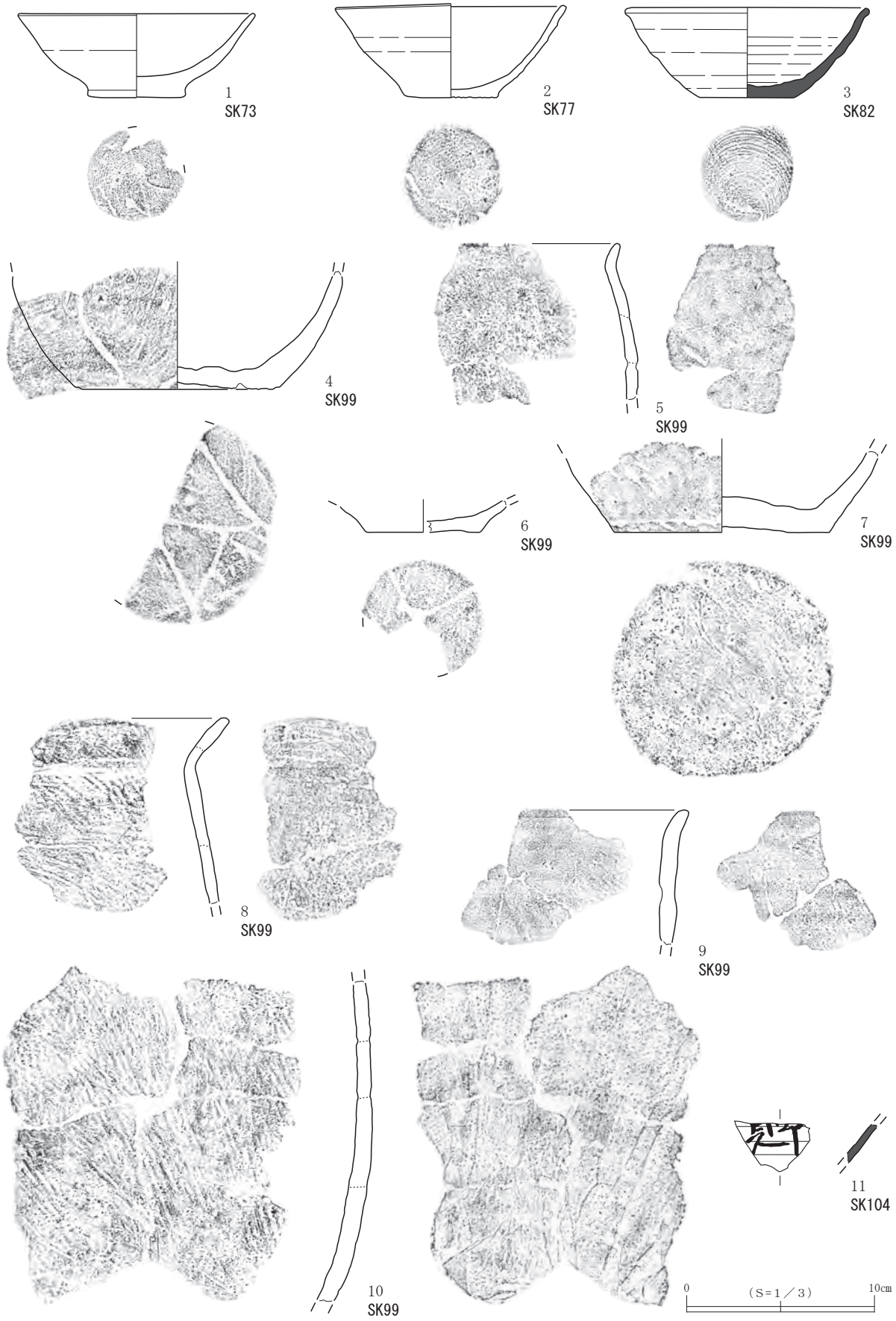
第51図　遺構出土土器類(SD60・70・85)



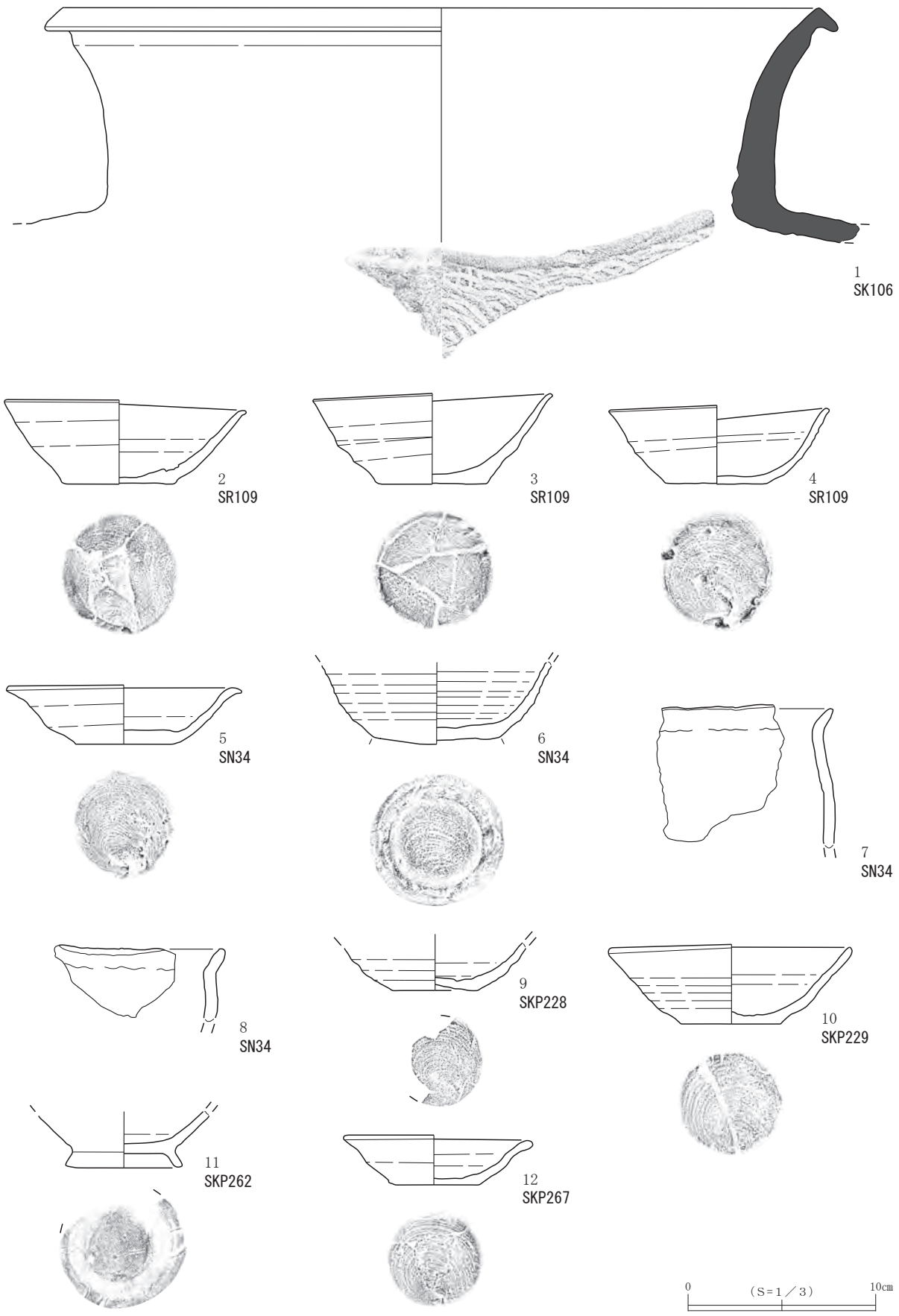
第52図　遺構出土土器類(SD85、SQ65、SK17・24)



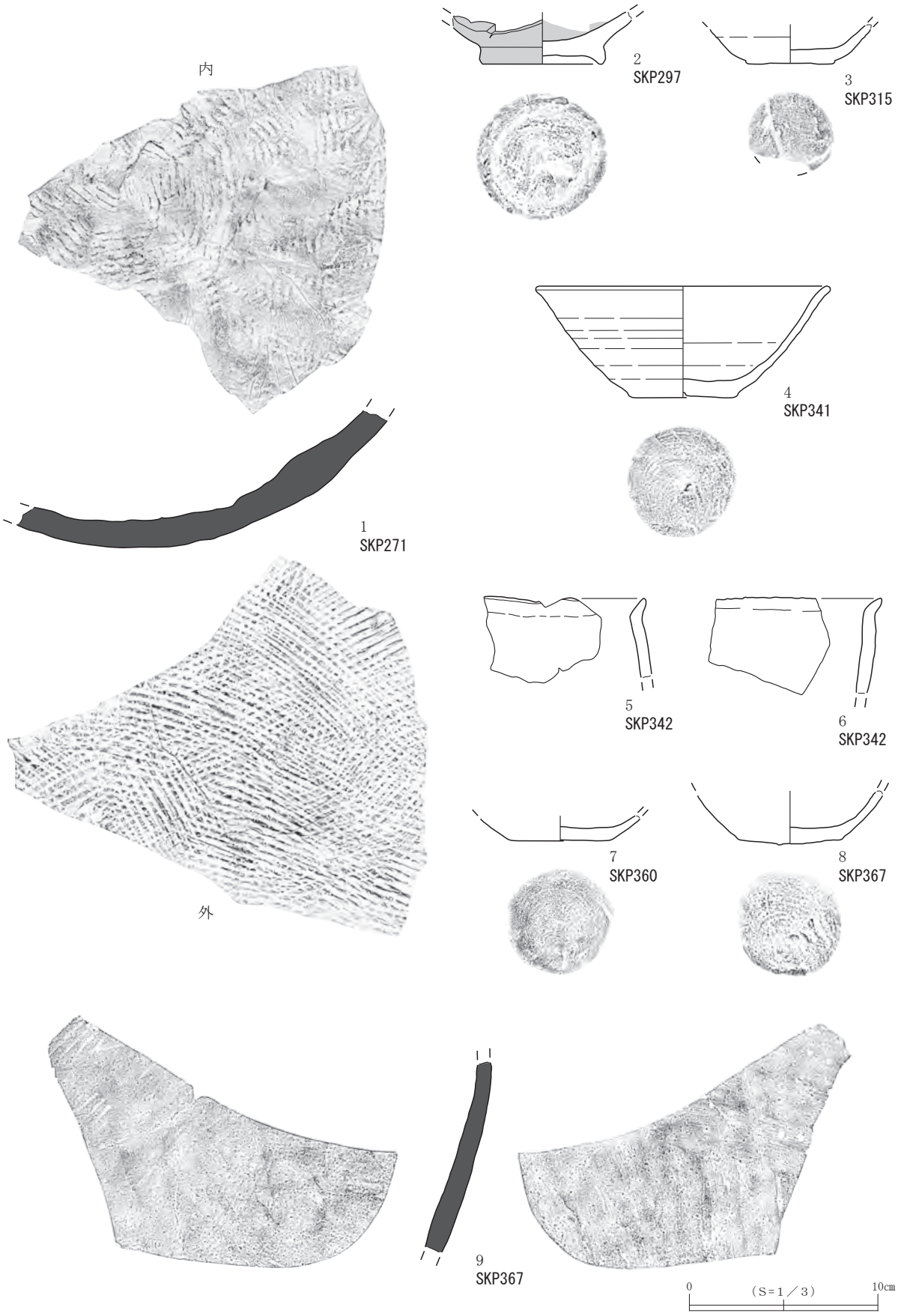
第53図　遺構出土土器類(SK27・29・36・46・61・73)



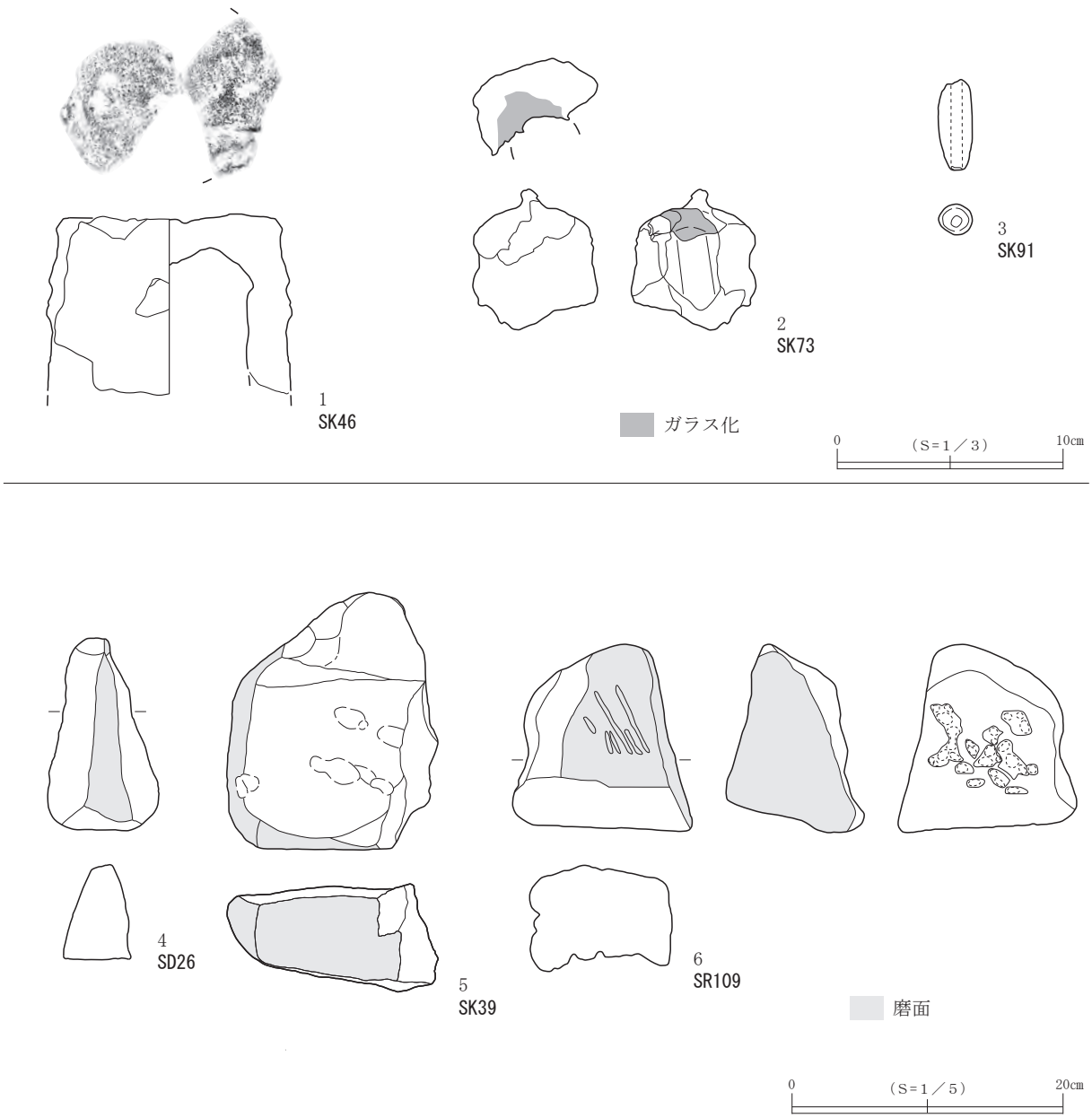
第54図　遺構出土土器類(SK73・77・82・99・104)



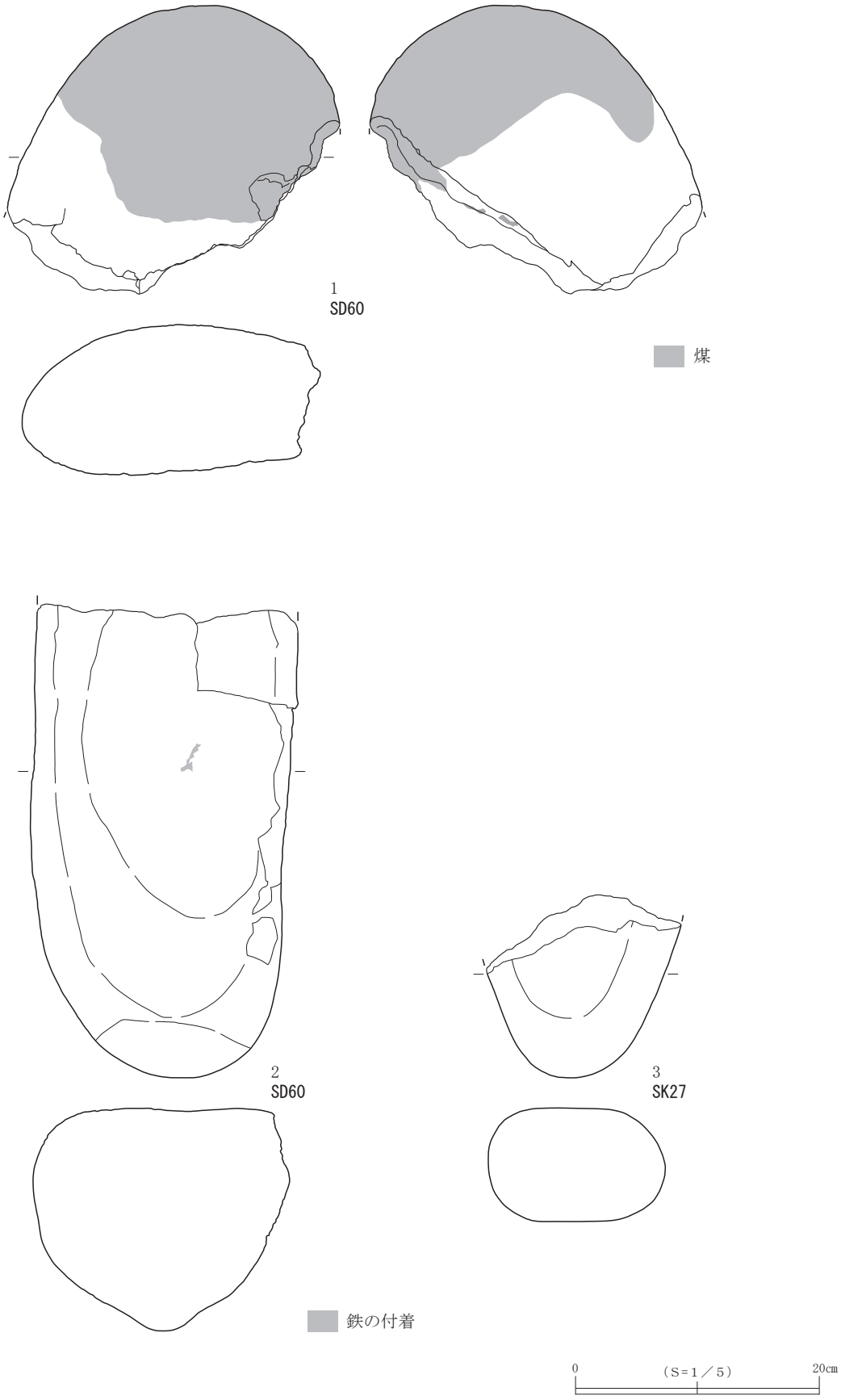
第55図　遺構出土土器類(SK106、SR109、SN34、SKP)



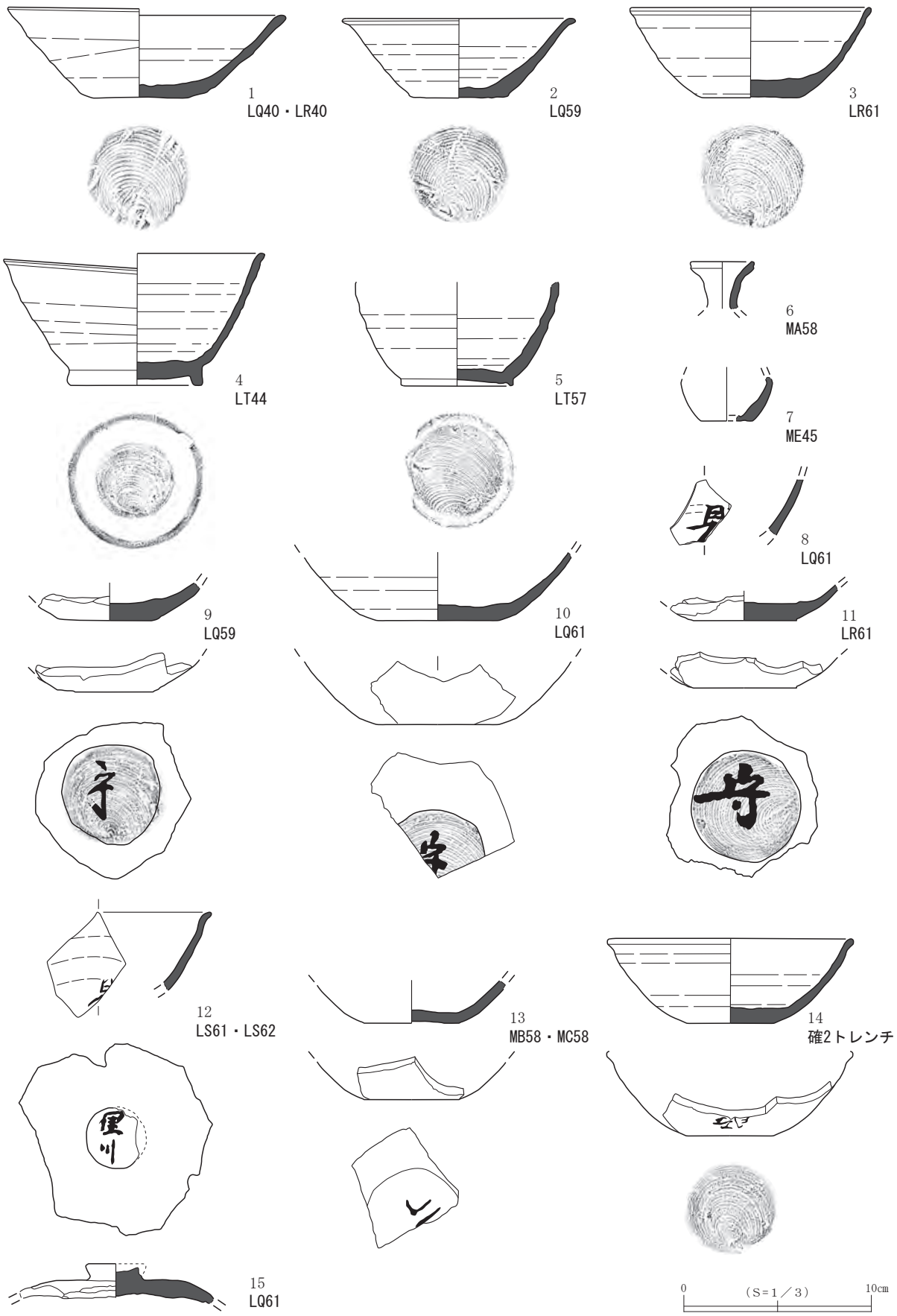
第56図　遺構出土土器類(SKP)



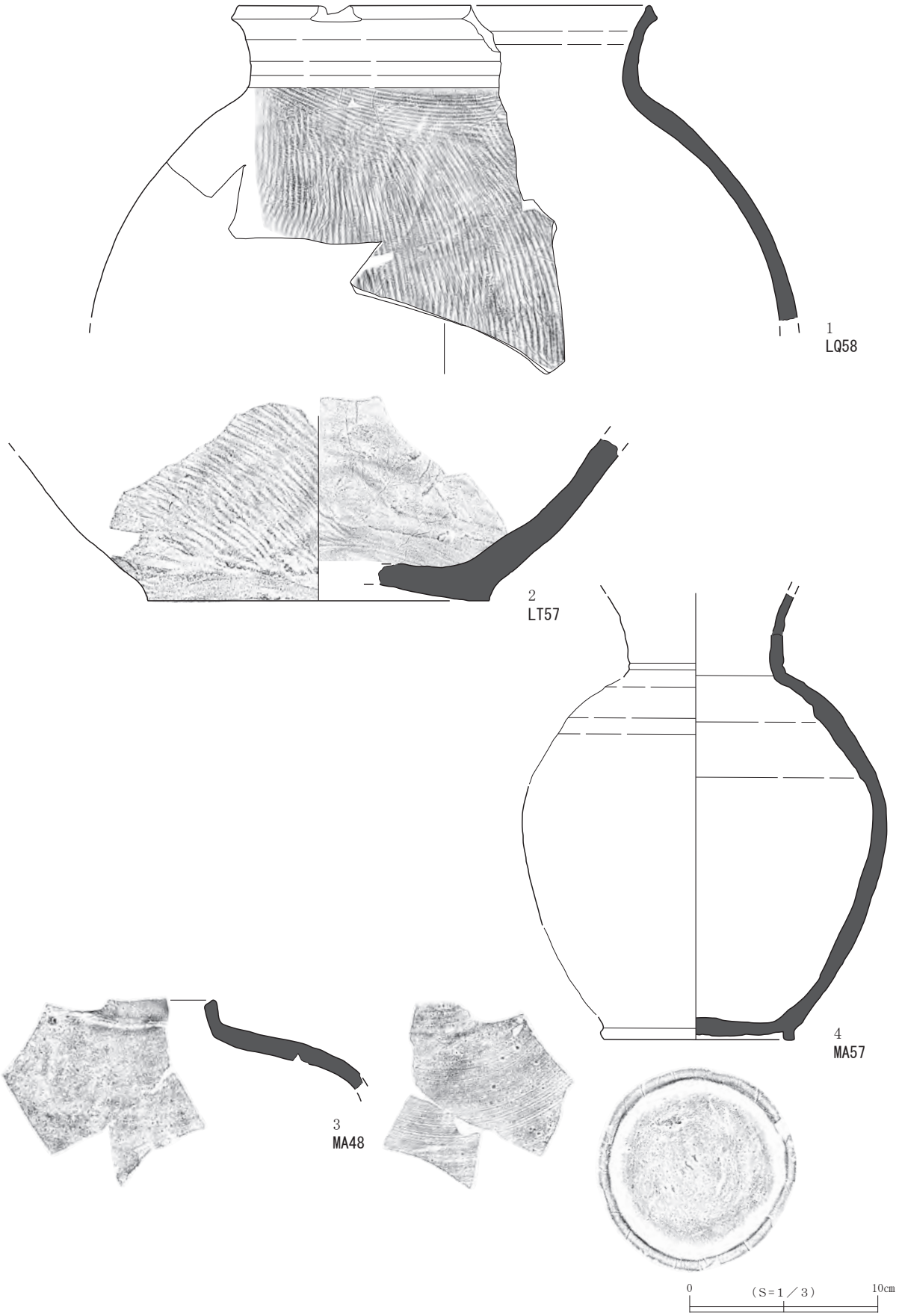
第57図　遺構出土土製品・鉄製品・石器



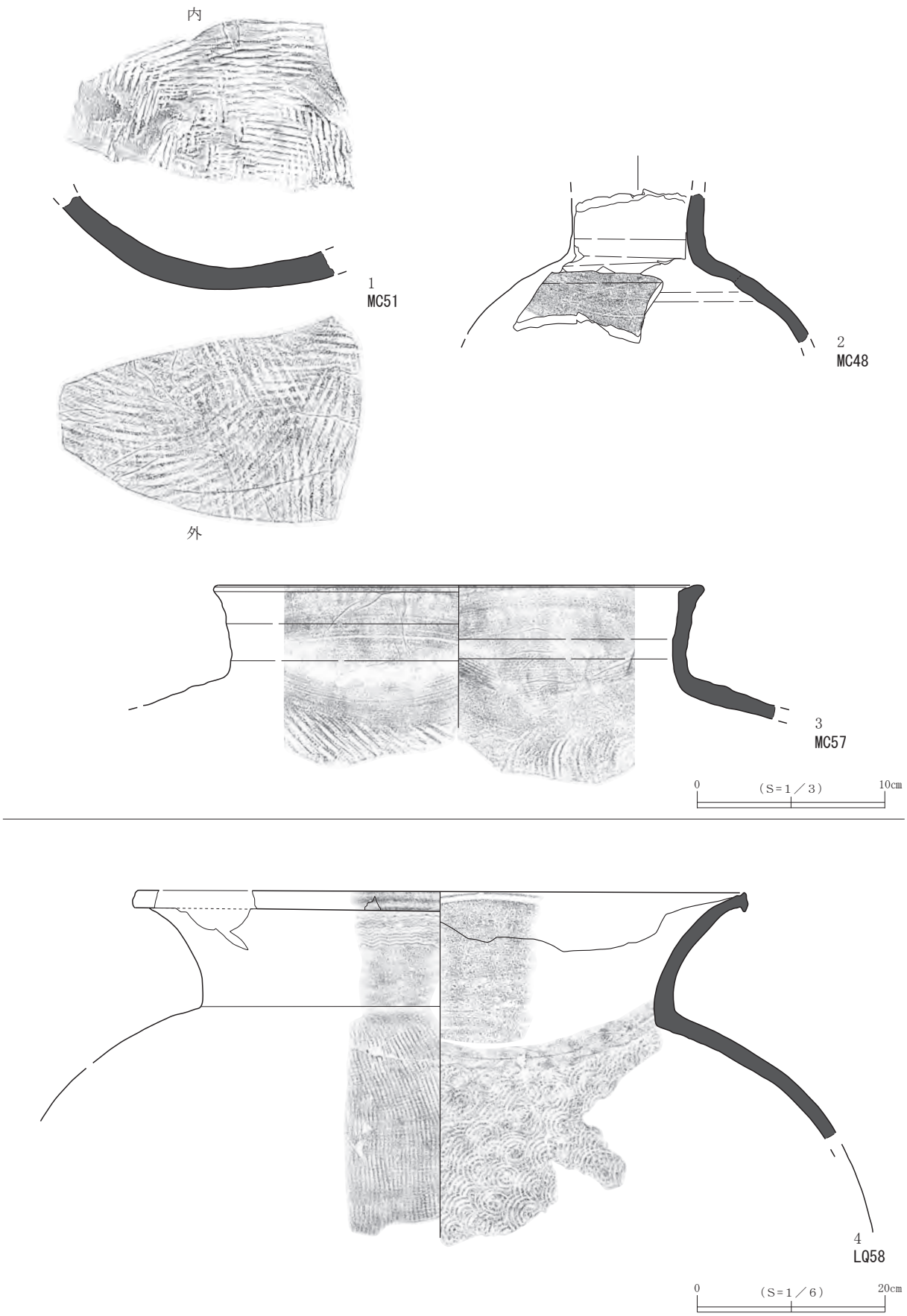
第58図　遺構出土鉄床石



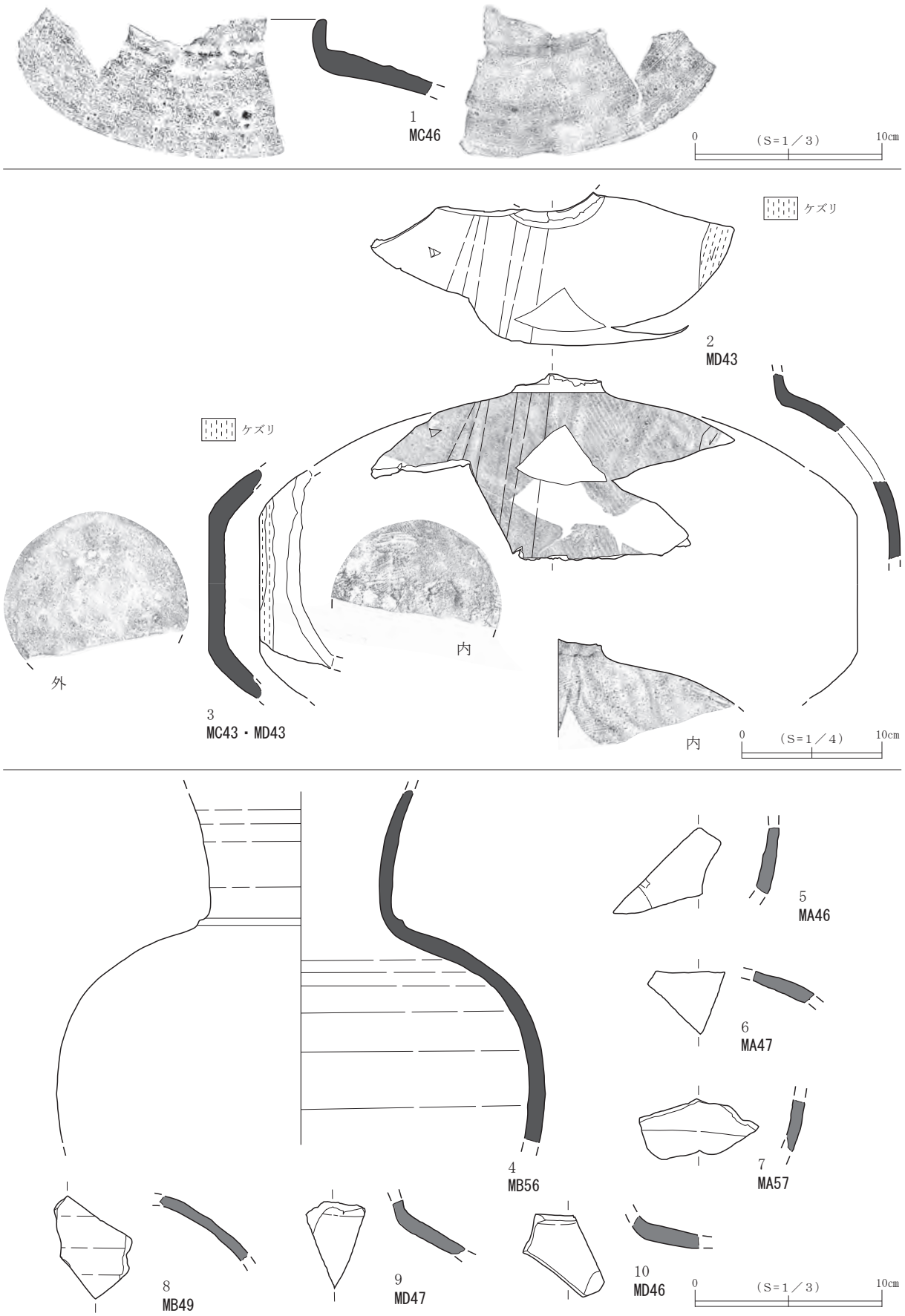
第59図　遺構外出土土器類１（須恵器）



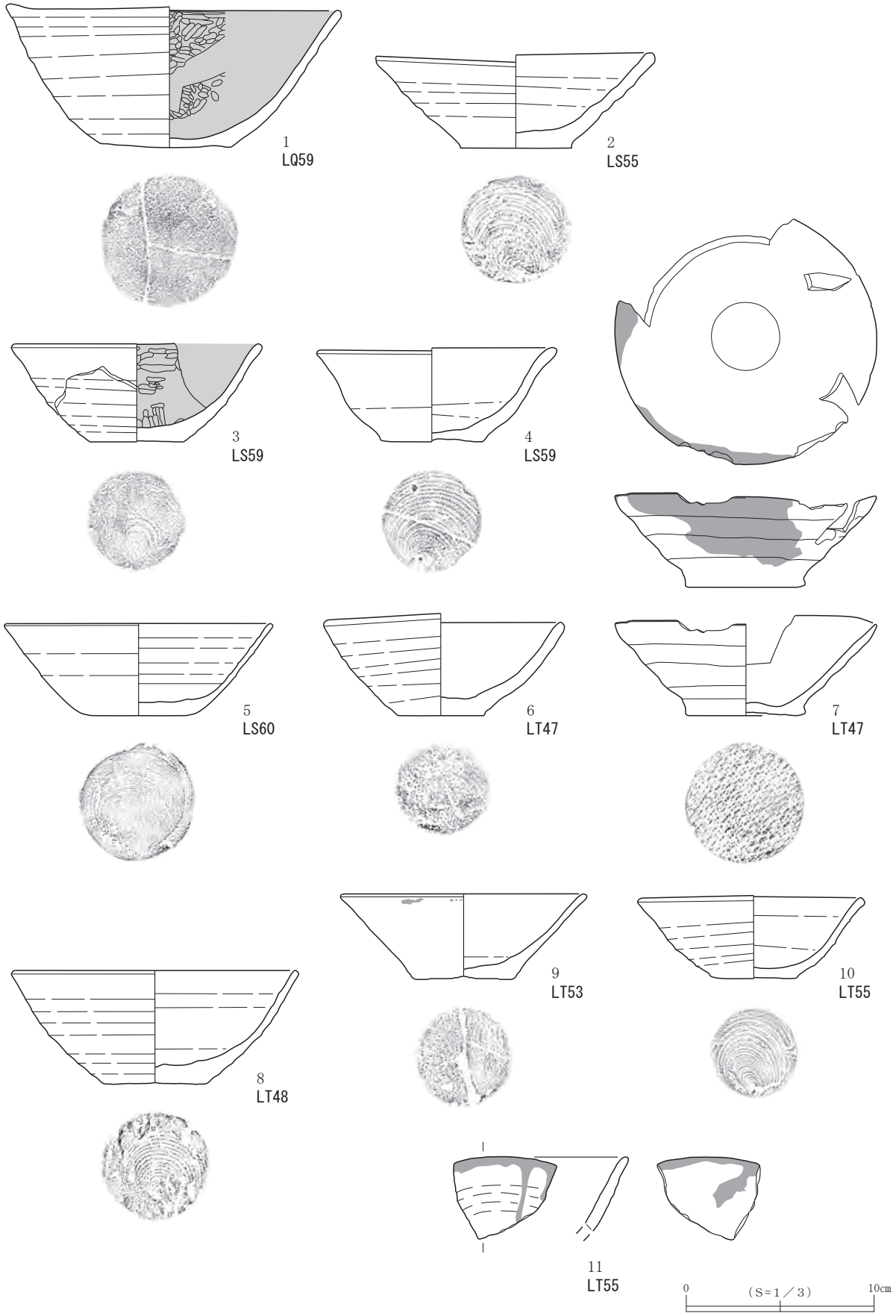
第60図　遺構外出土土器類２（須恵器）



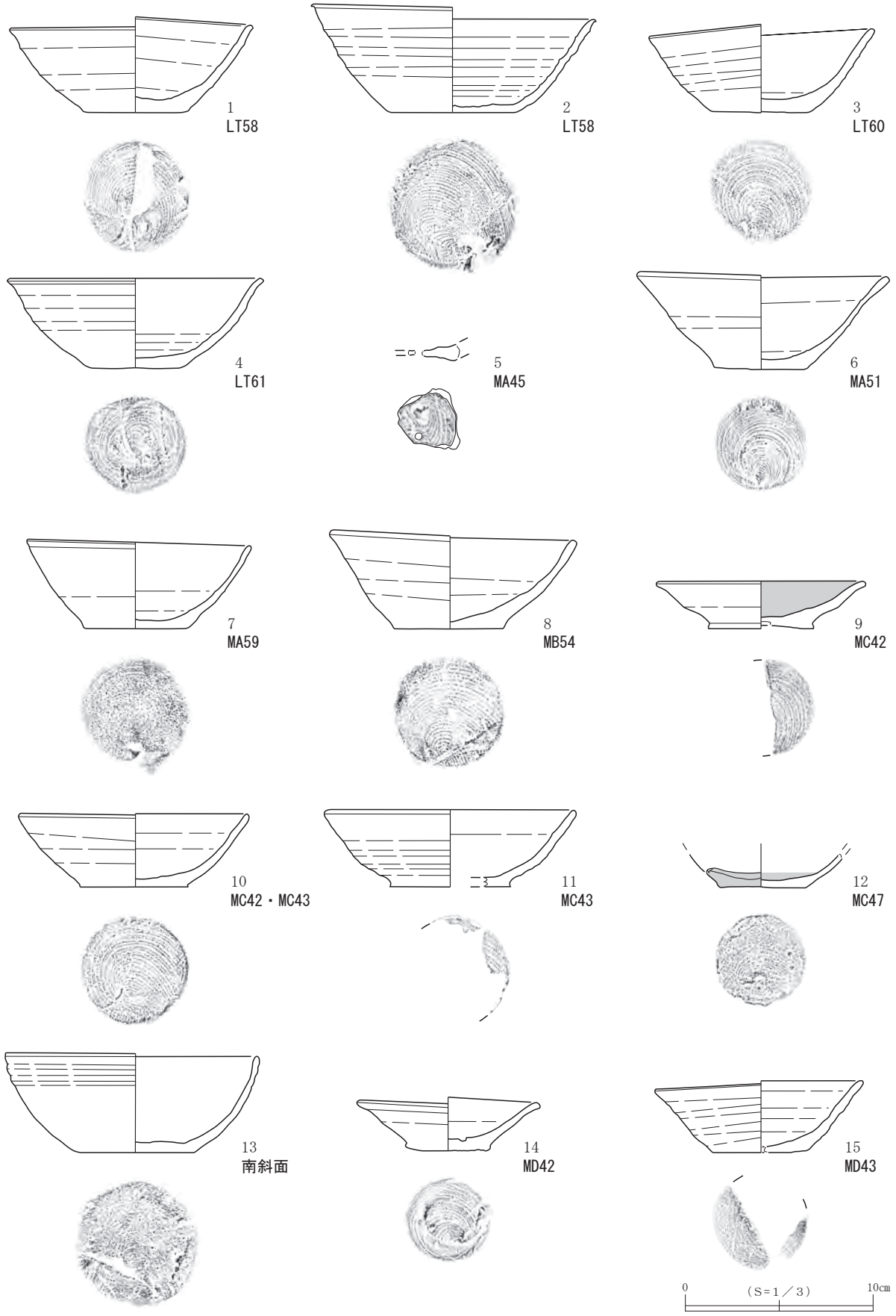
第61図　遺構外出土土器類３（須恵器）



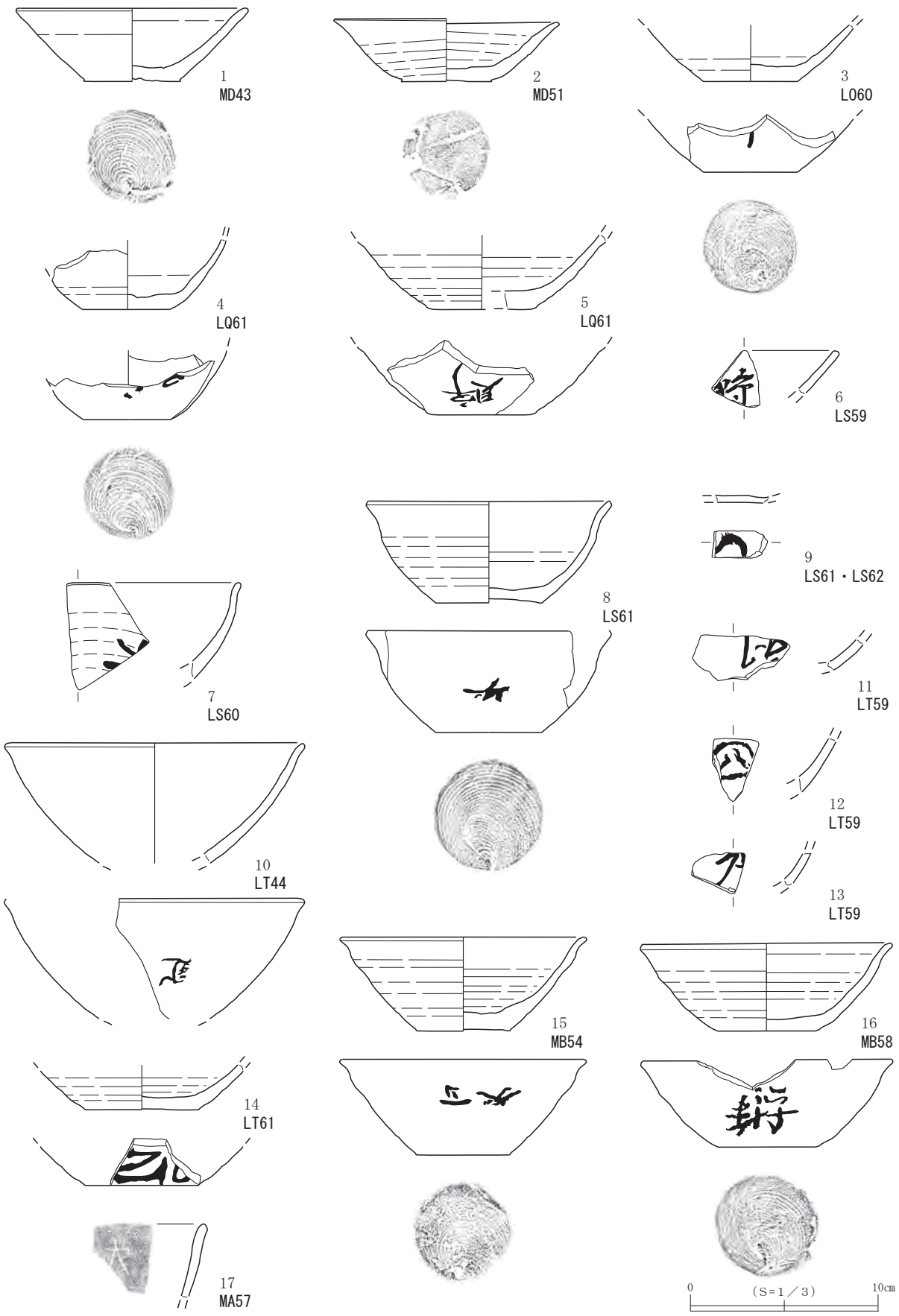
第62図　遺構外出土土器類４（須恵器）



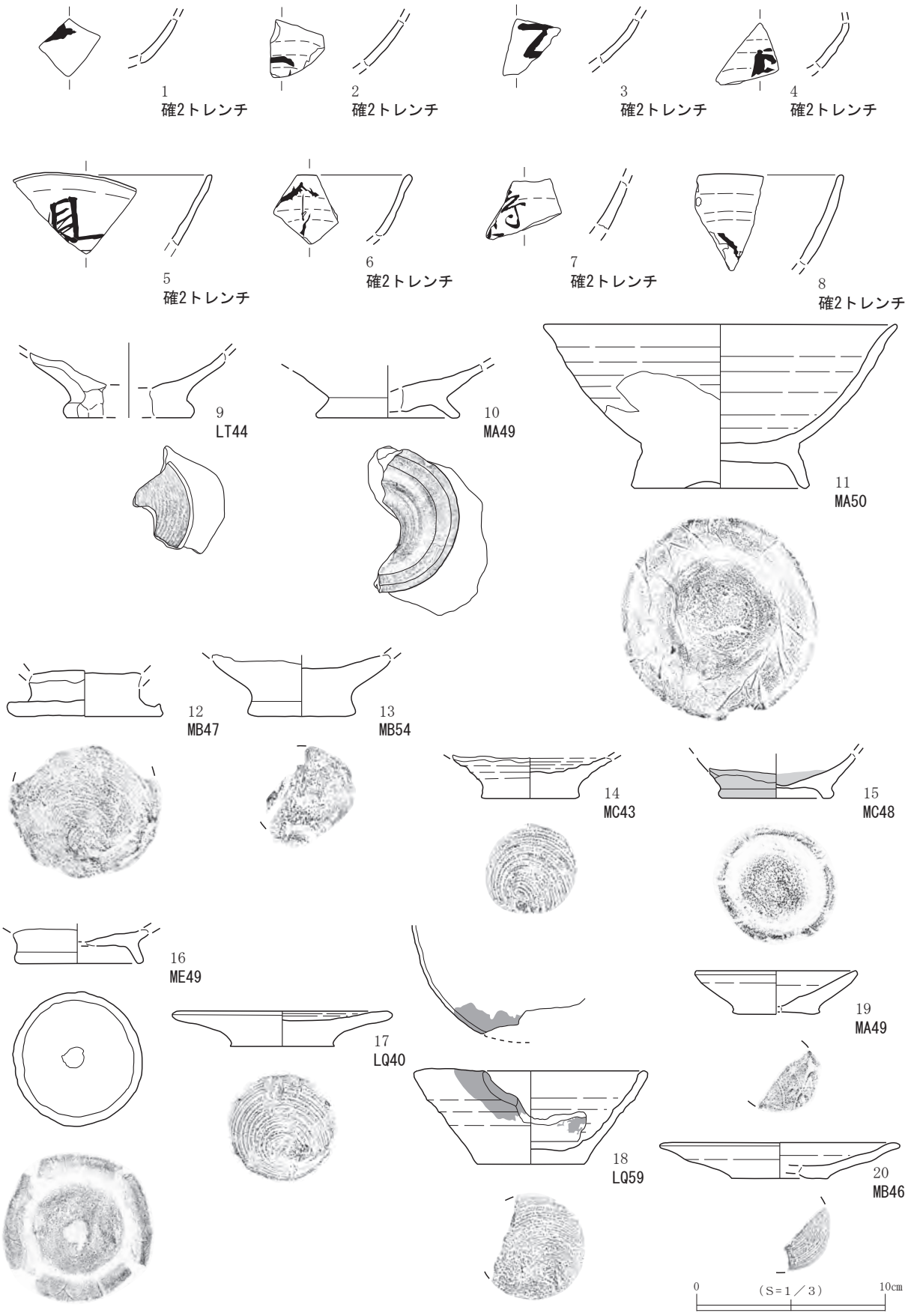
第63図　遺構外出土土器類５（土師器）



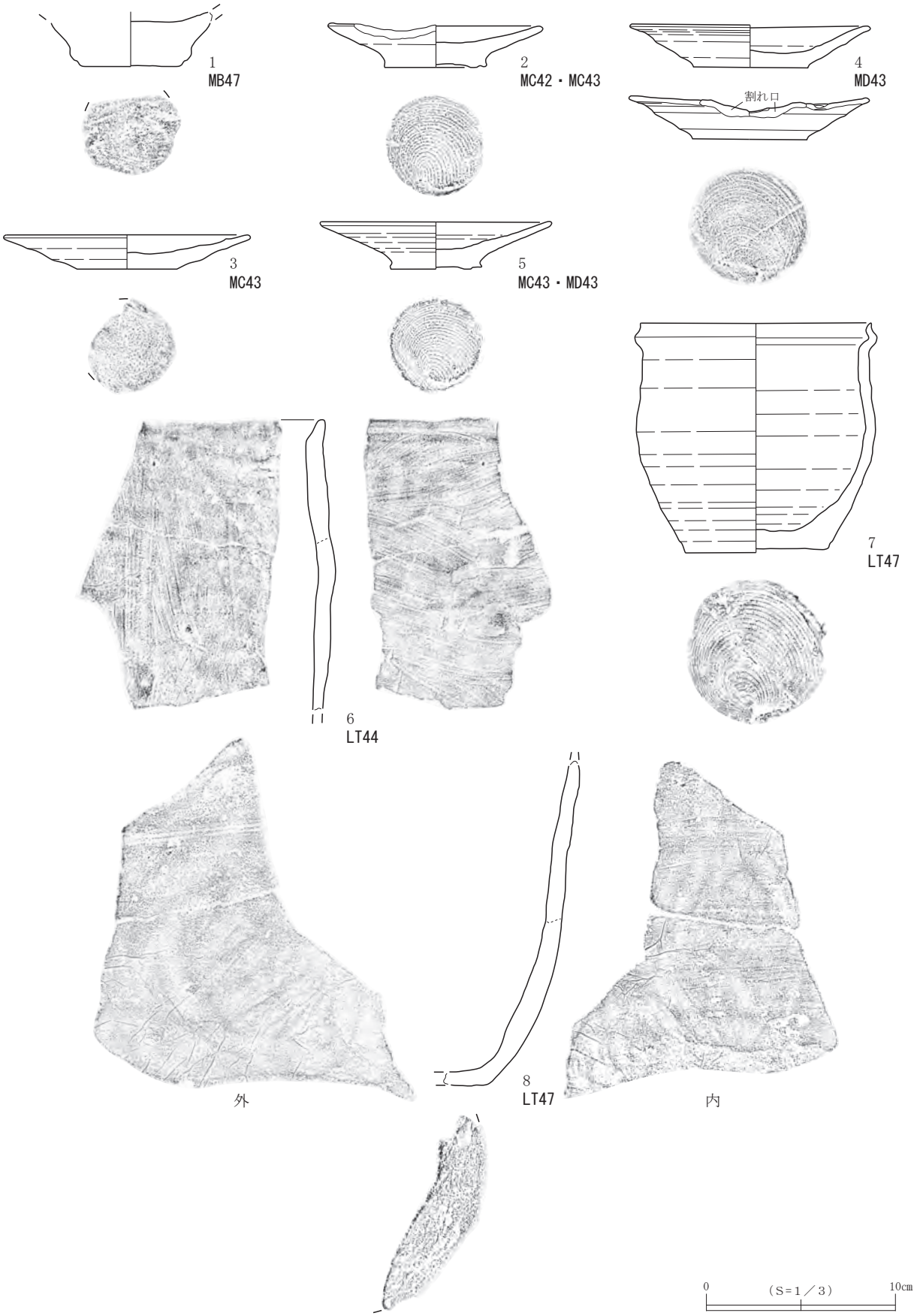
第64図　遺構外出土土器類６（土師器）



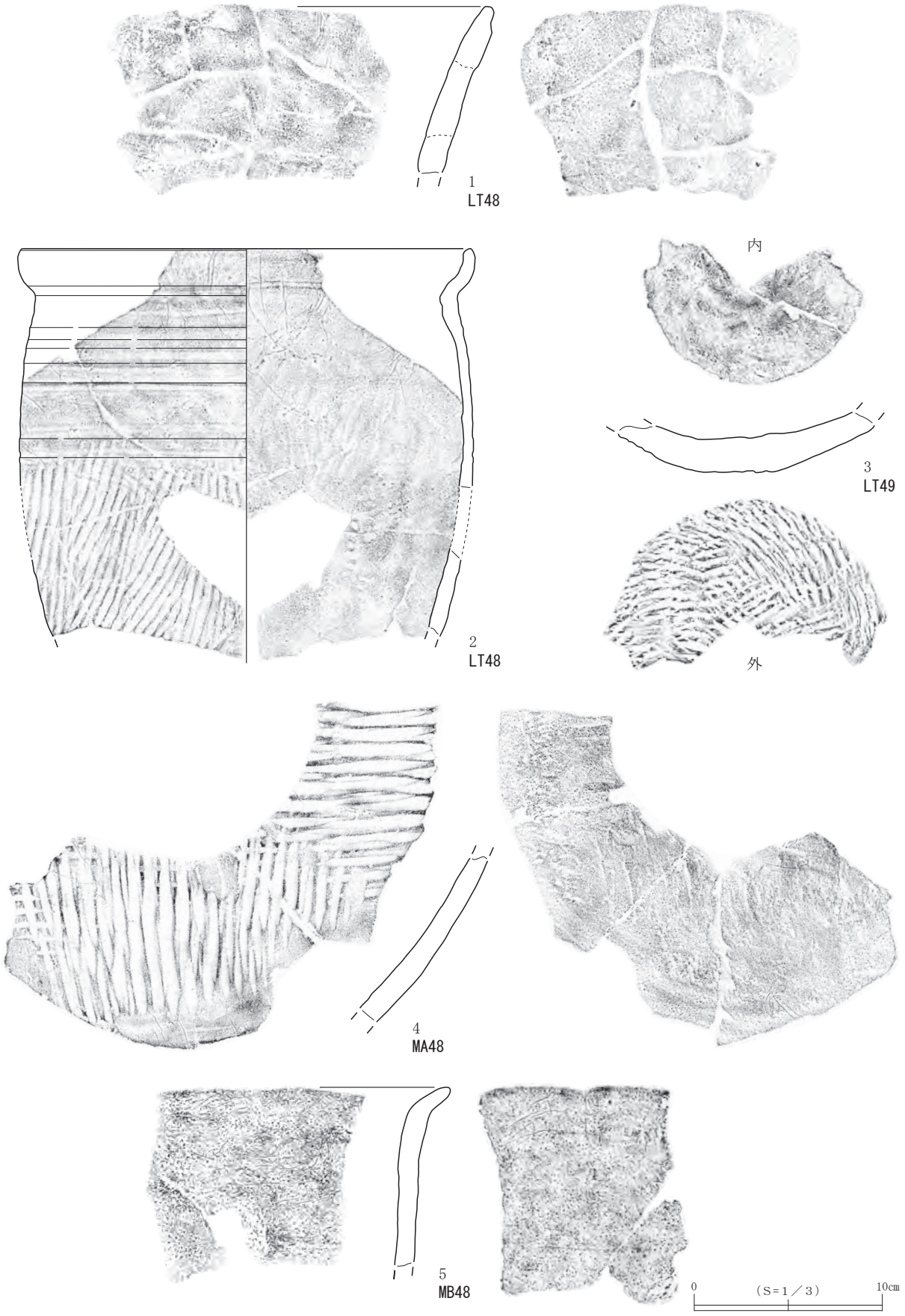
第65図　遺構外出土土器類７（土師器）



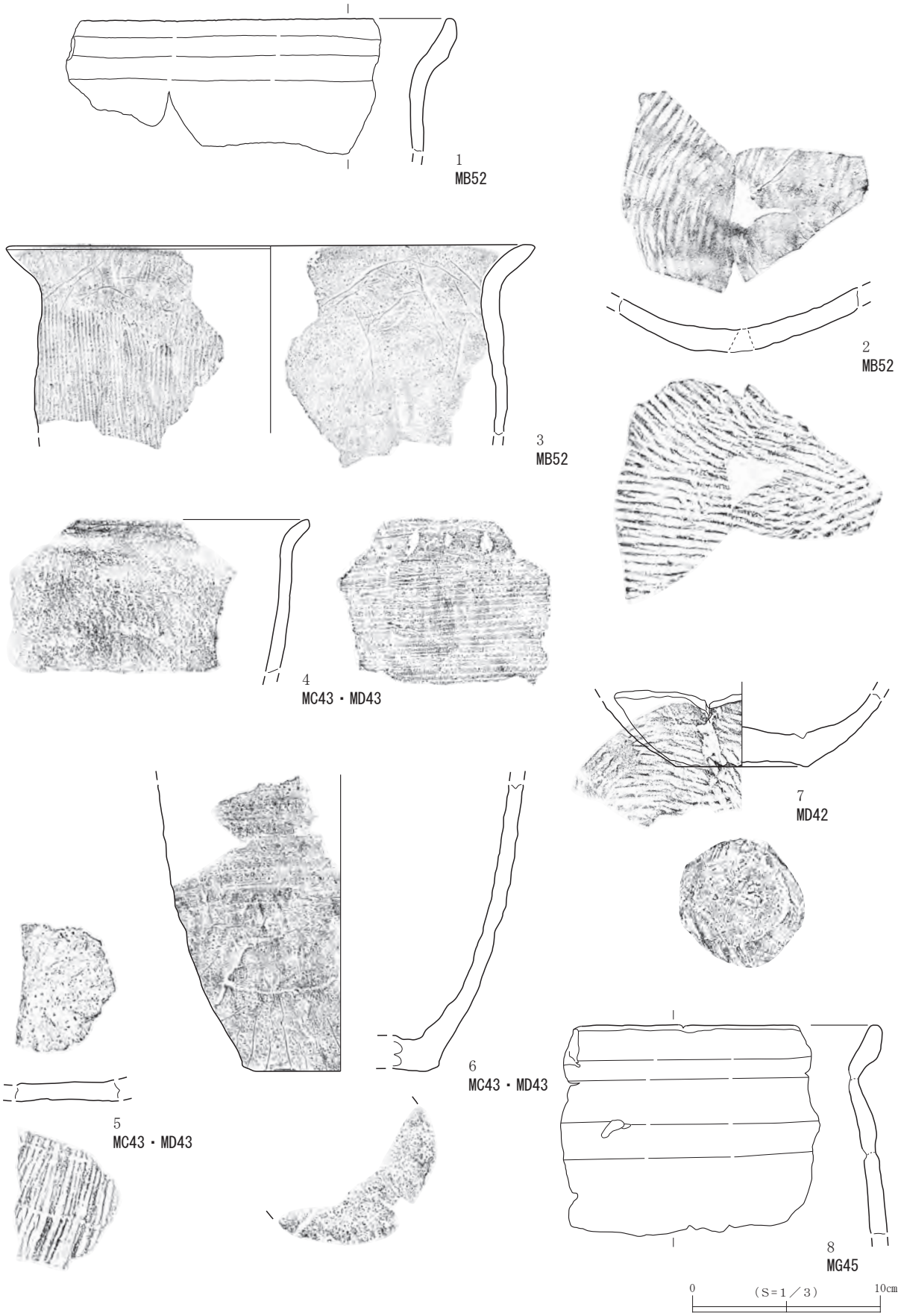
第66図　遺構外出土土器類８（土師器）



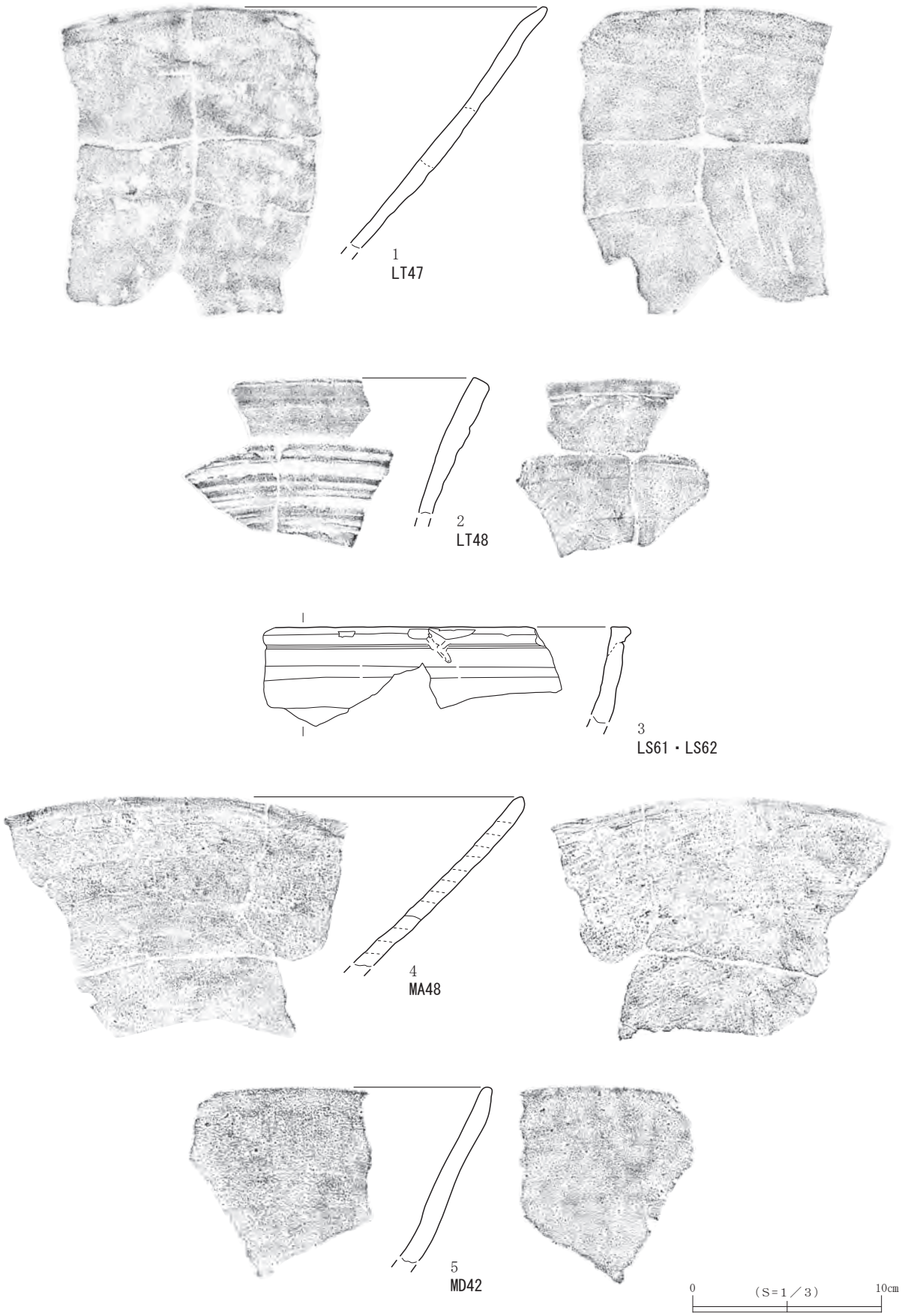
第67図　遺構外出土土器類９（土師器）



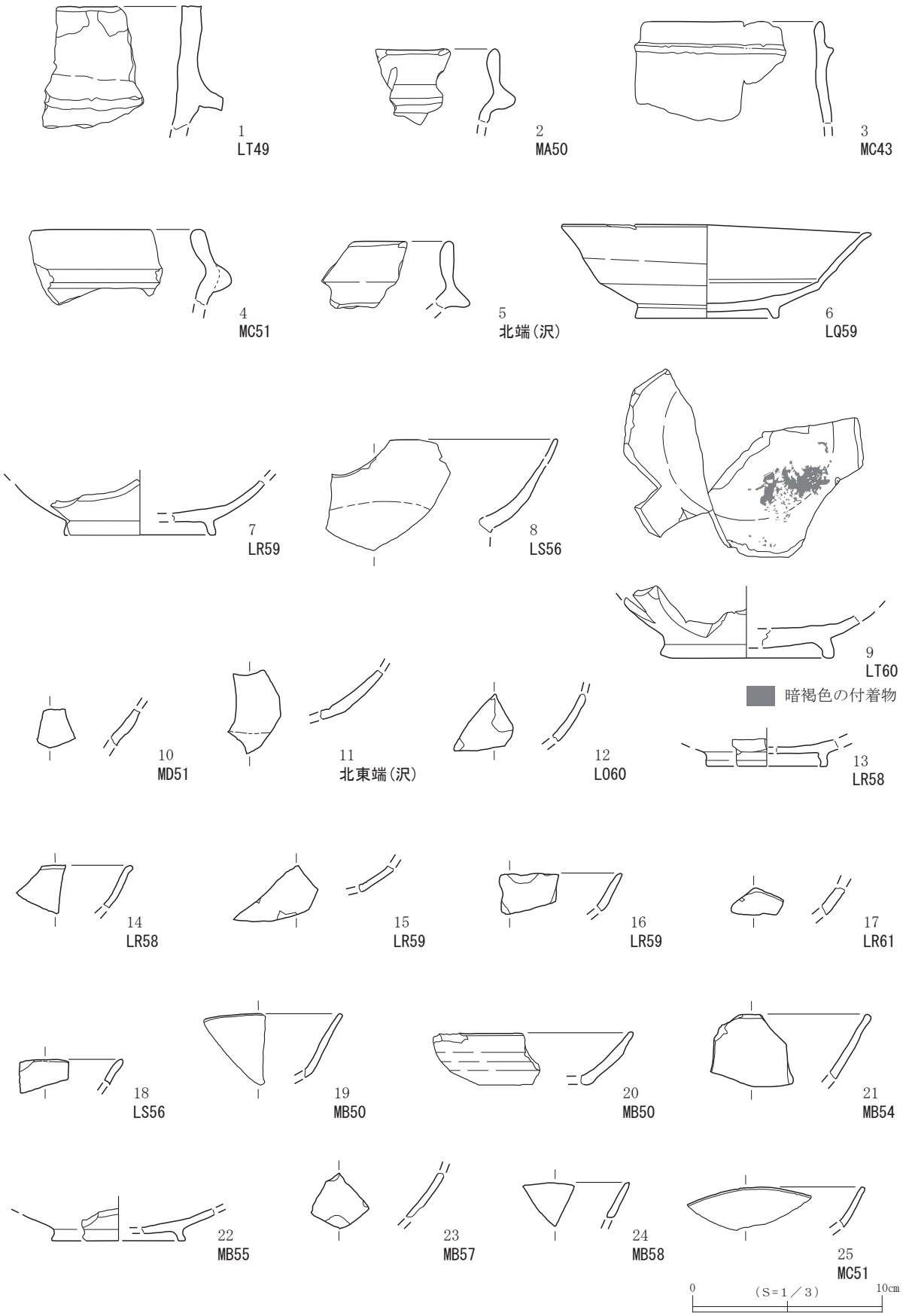
第68図　遺構外出土土器類10（土師器）



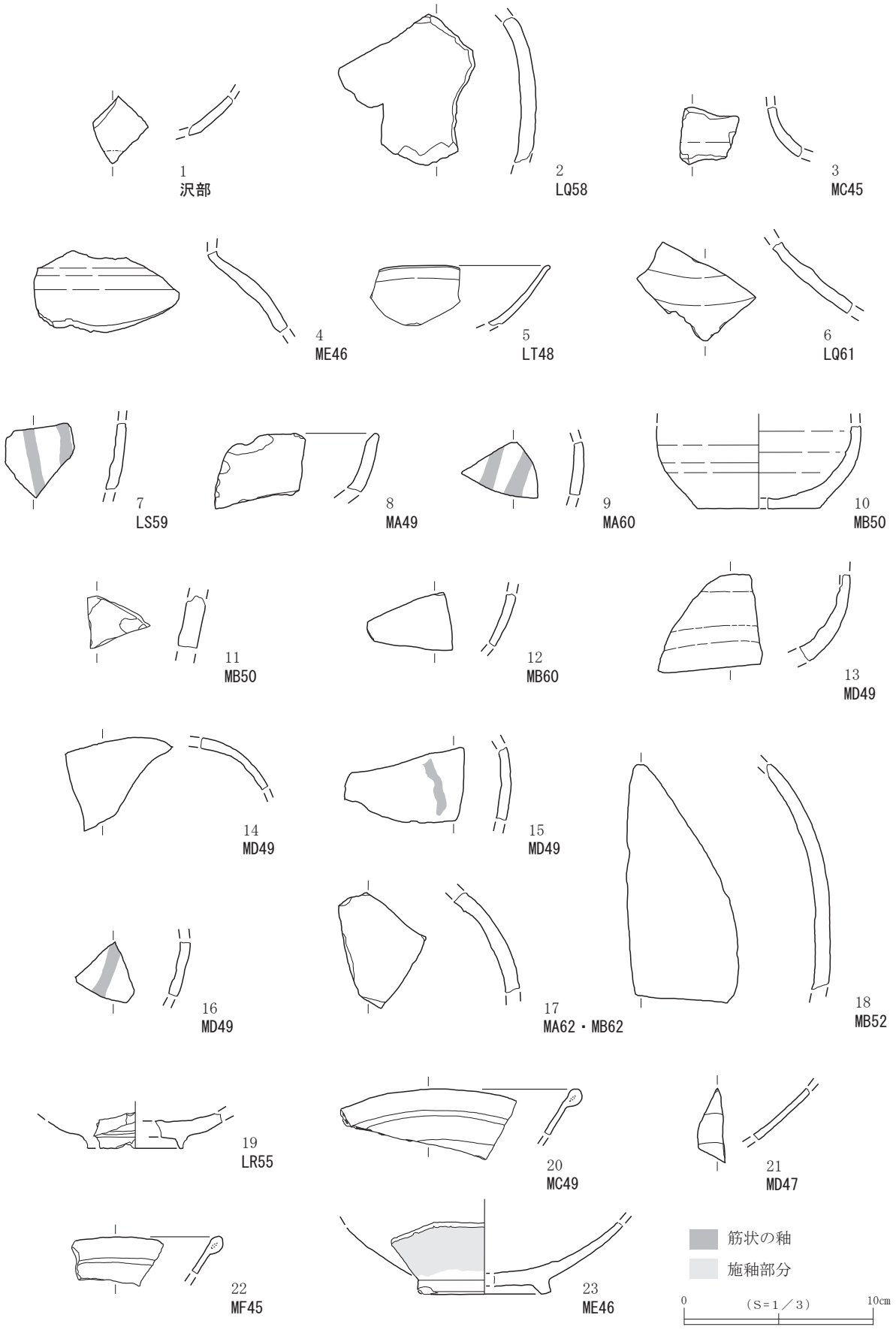
第69図　遺構外出土土器類11(土師器)



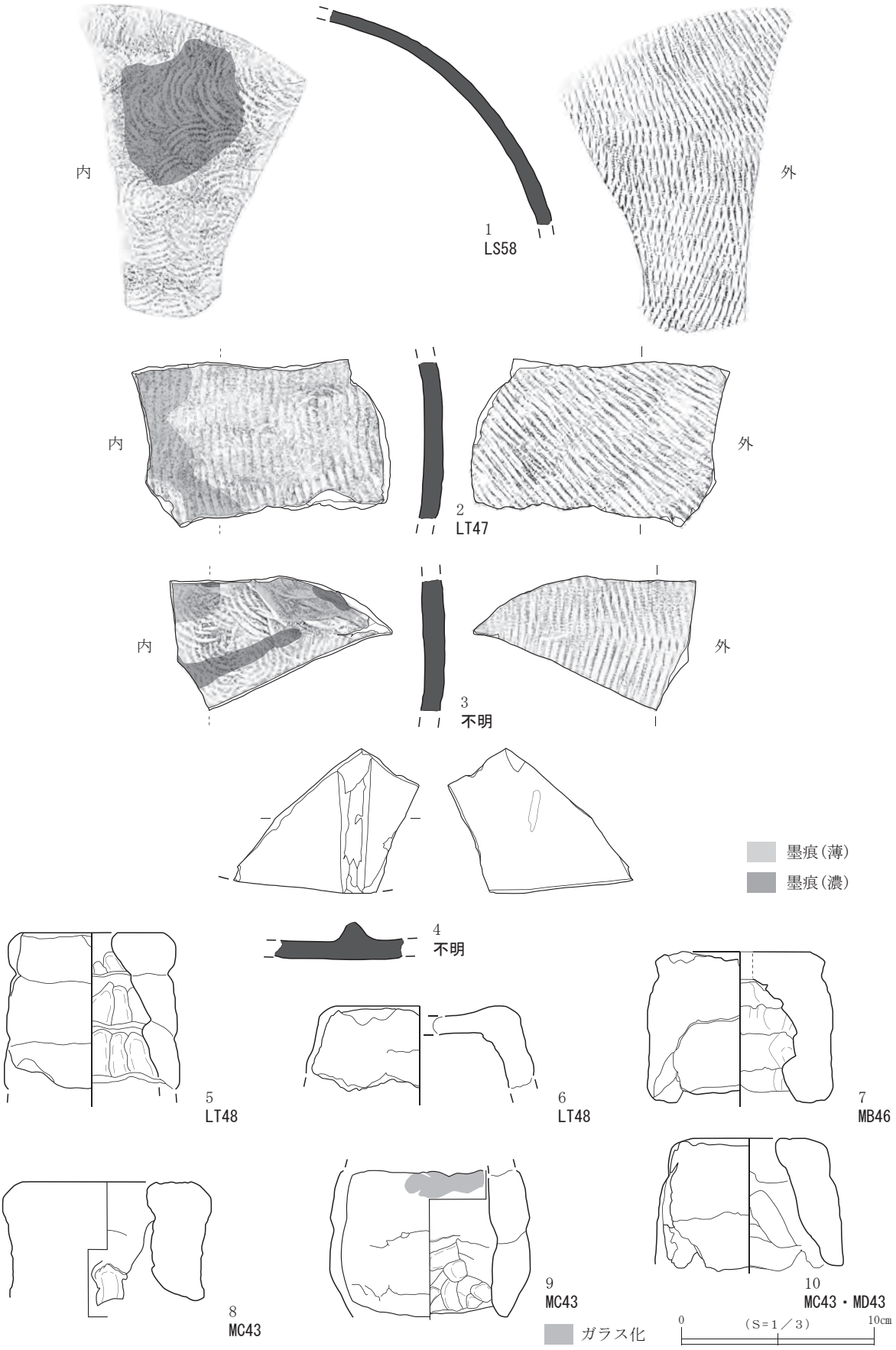
第70図　遺構外出土土器類12(土師器)



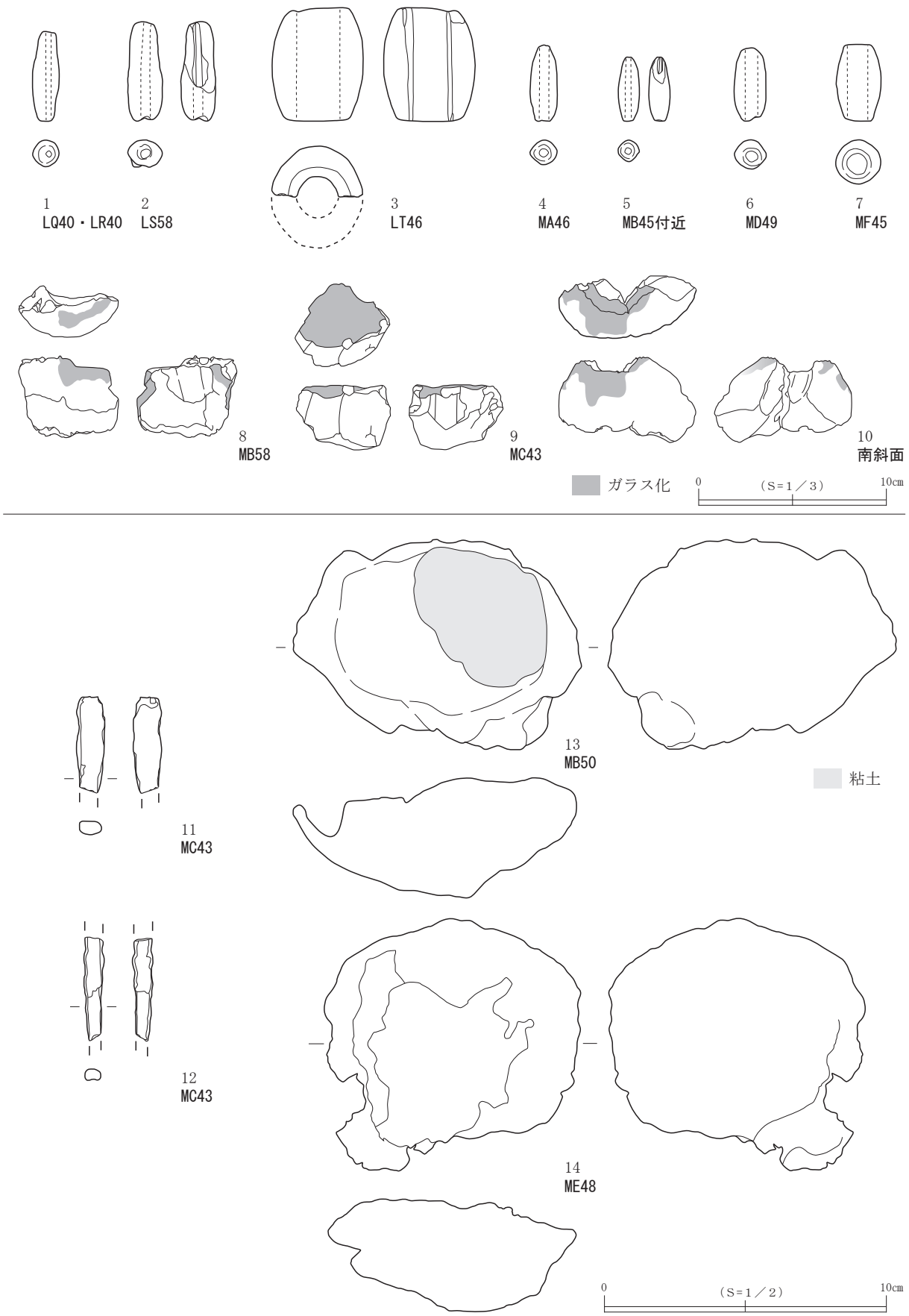
第71図　遺構外出土土器類13(土師器・陶磁器)



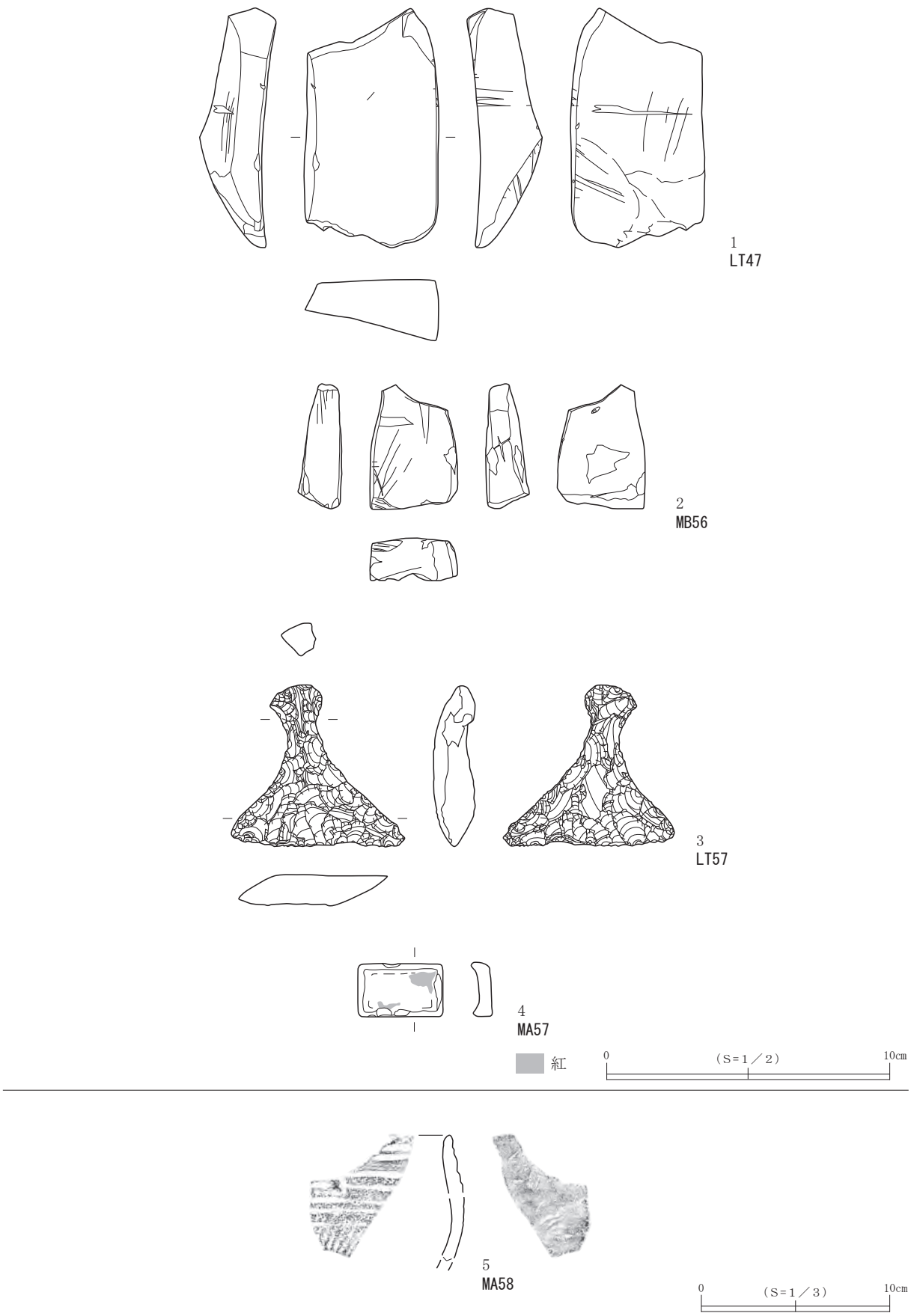
第72図　遺構外出土土器類14（陶磁器）



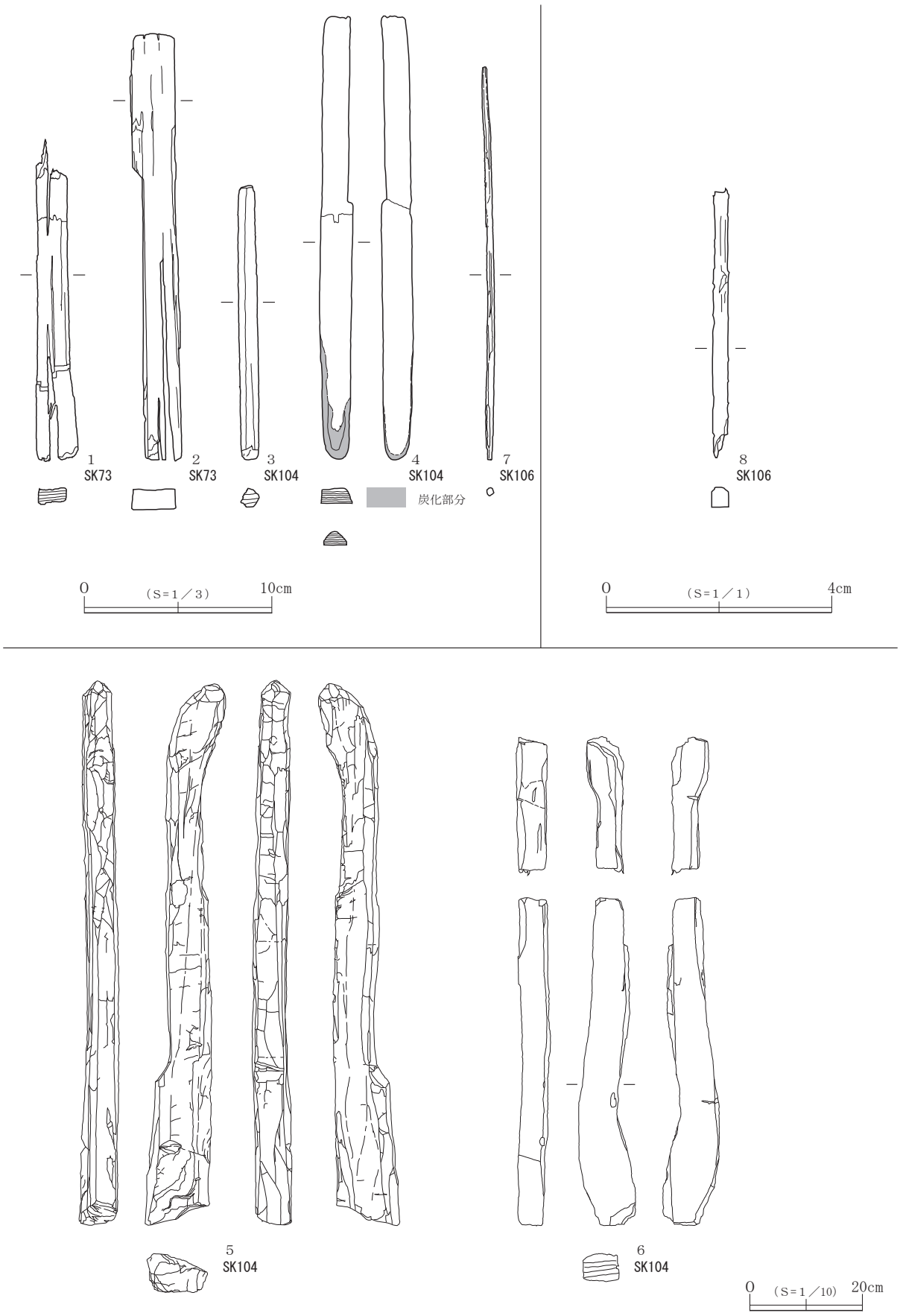
第73図　遺構外出土土製品（硯・支脚）



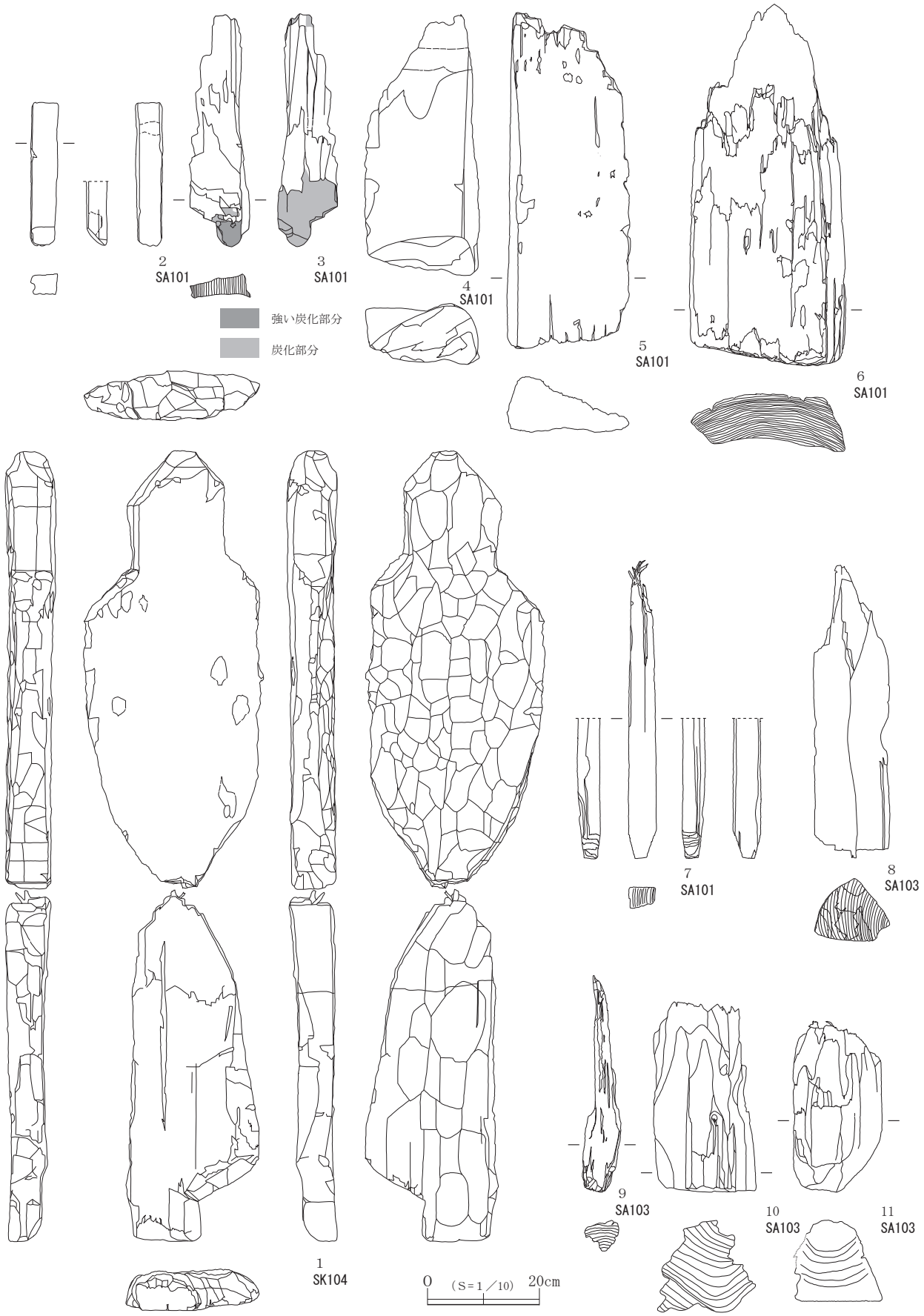
第74図　遺構外出土土製品・鉄製品・鉄滓



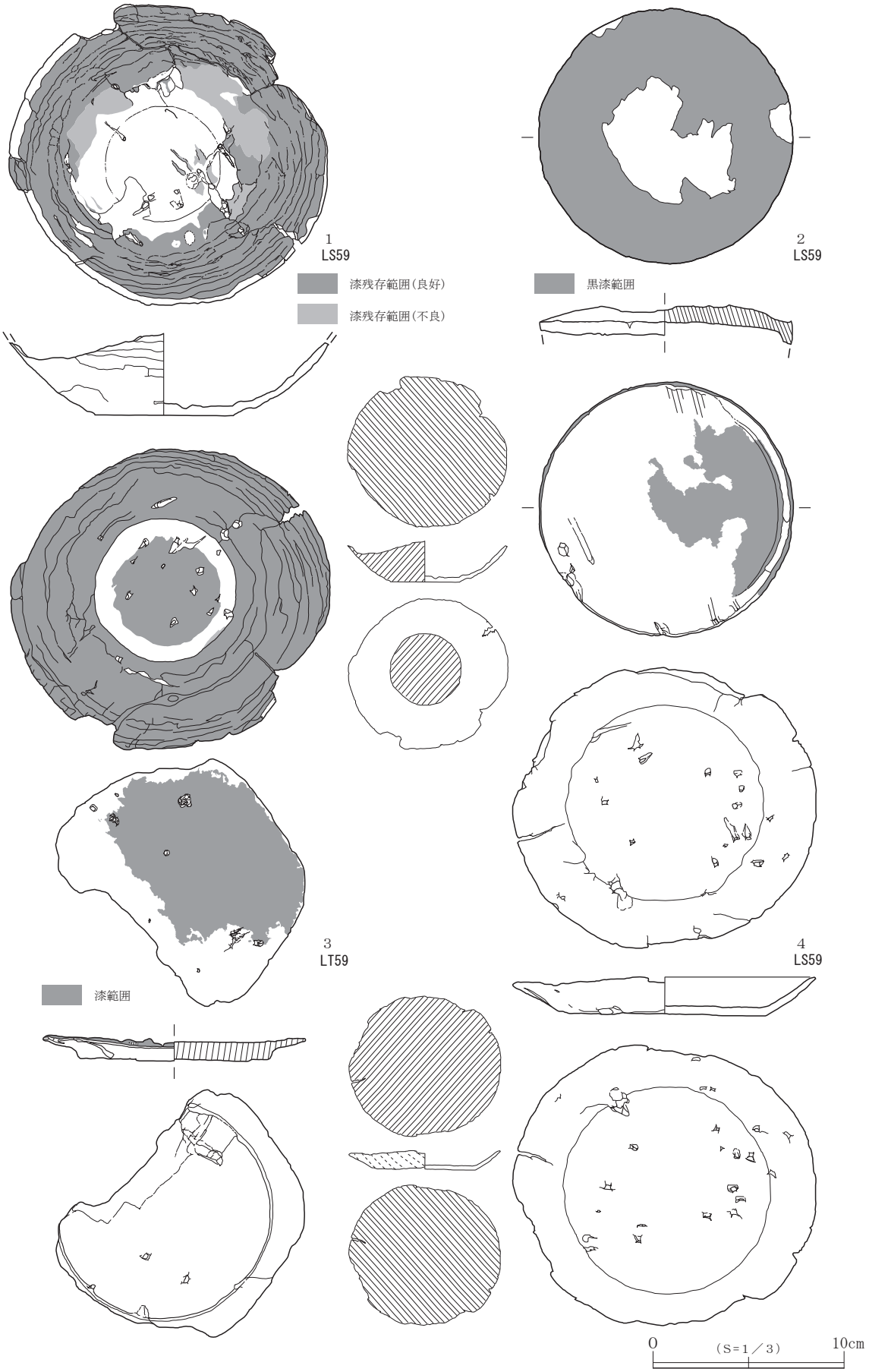
第75図　遺構外出土遺物（砥石・石器・陶磁器・弥生土器）



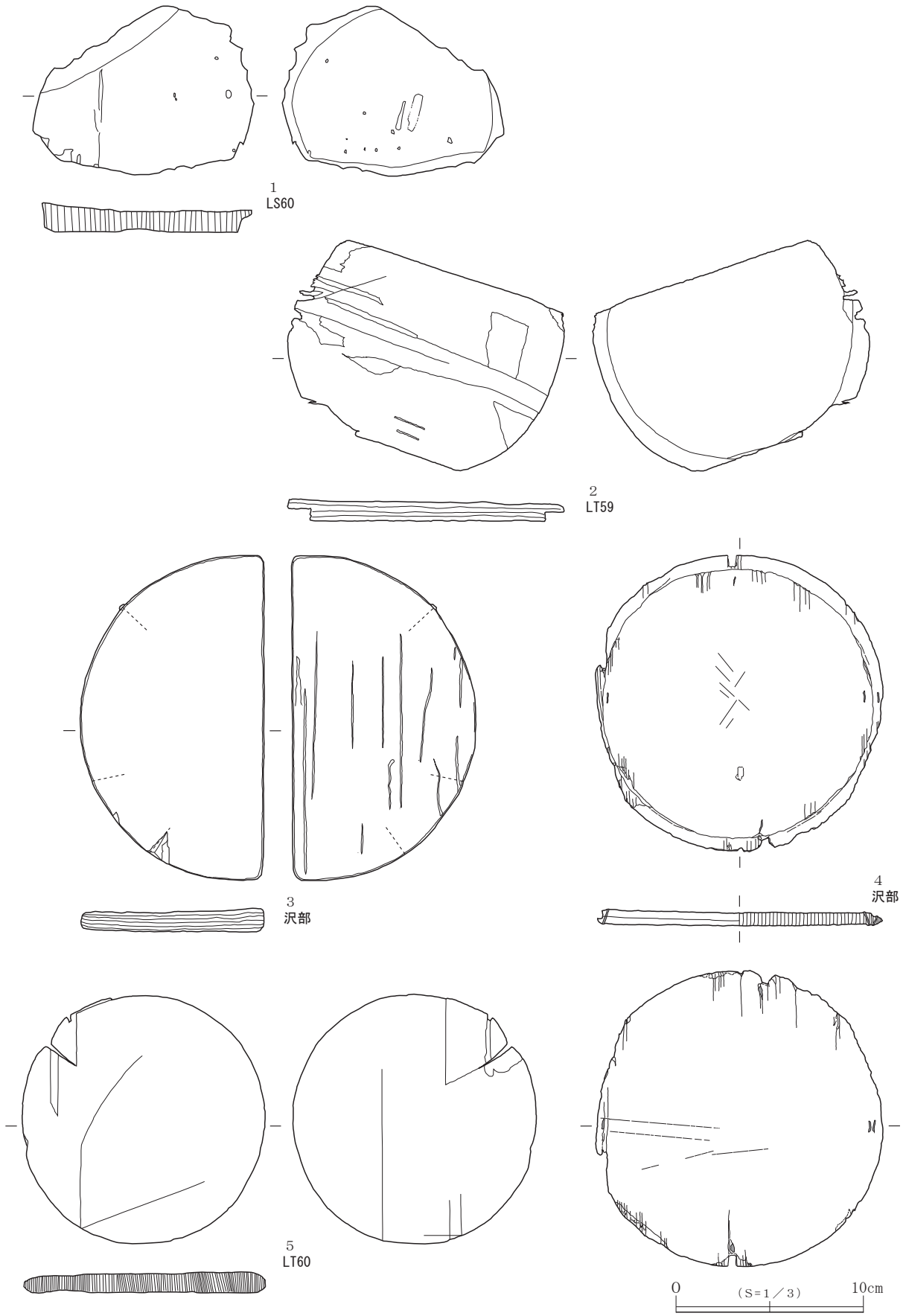
第76図　遺構出土木製品１（ＳＫ73・104・106）



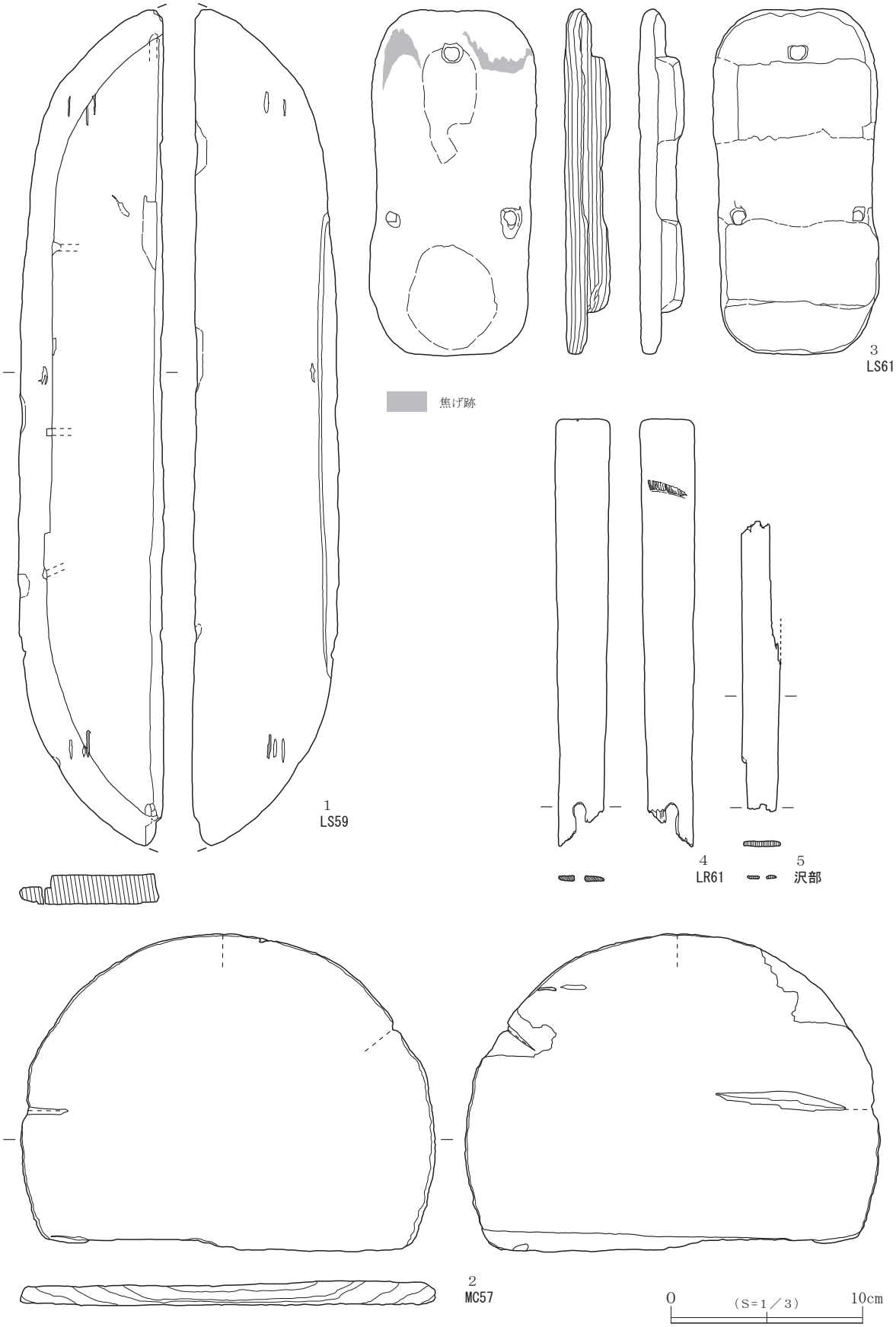
第77図　遺構出土木製品２（ＳＫ104、ＳＡ101・103）



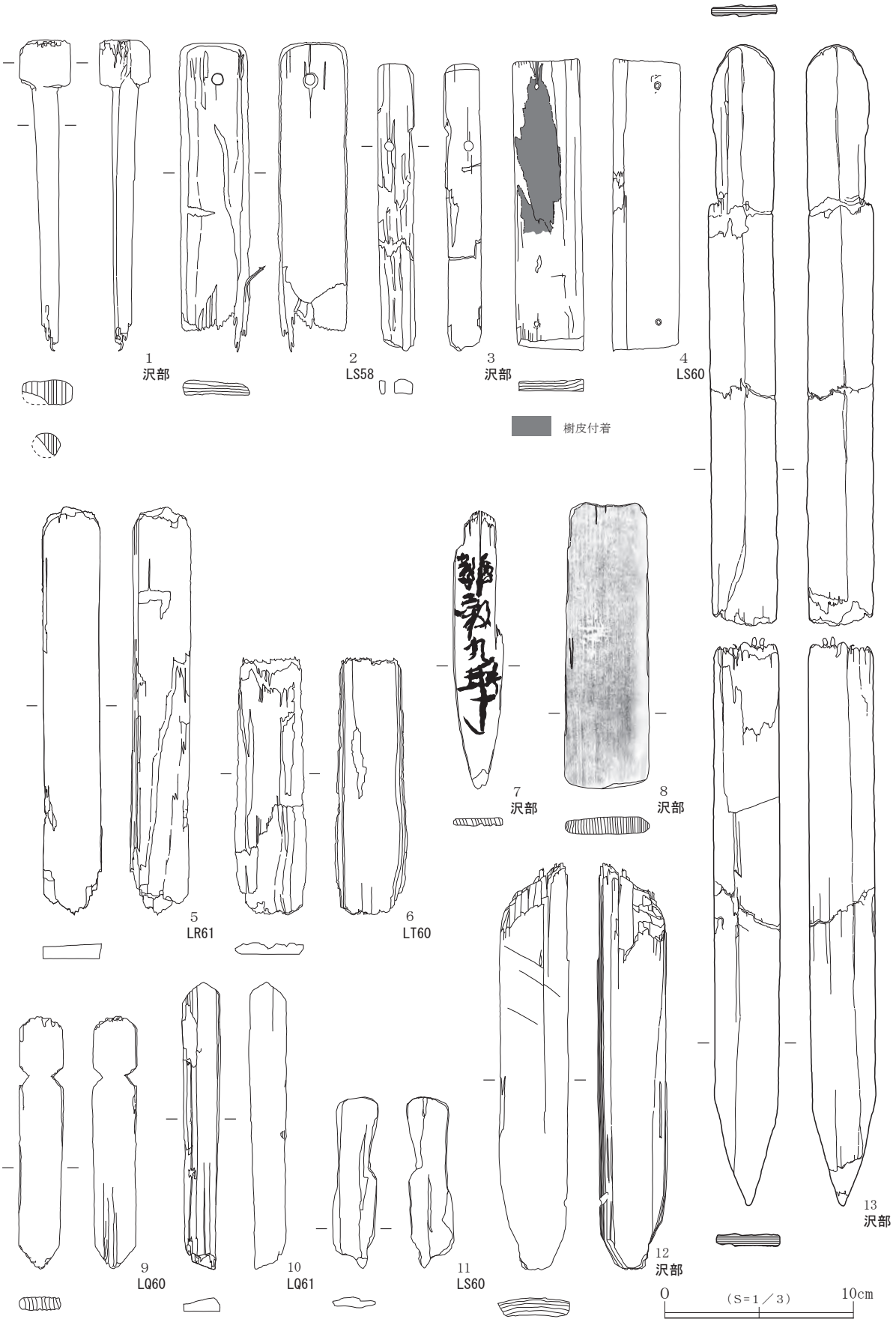
第78図　遺構外出土木製品１（椀・皿）



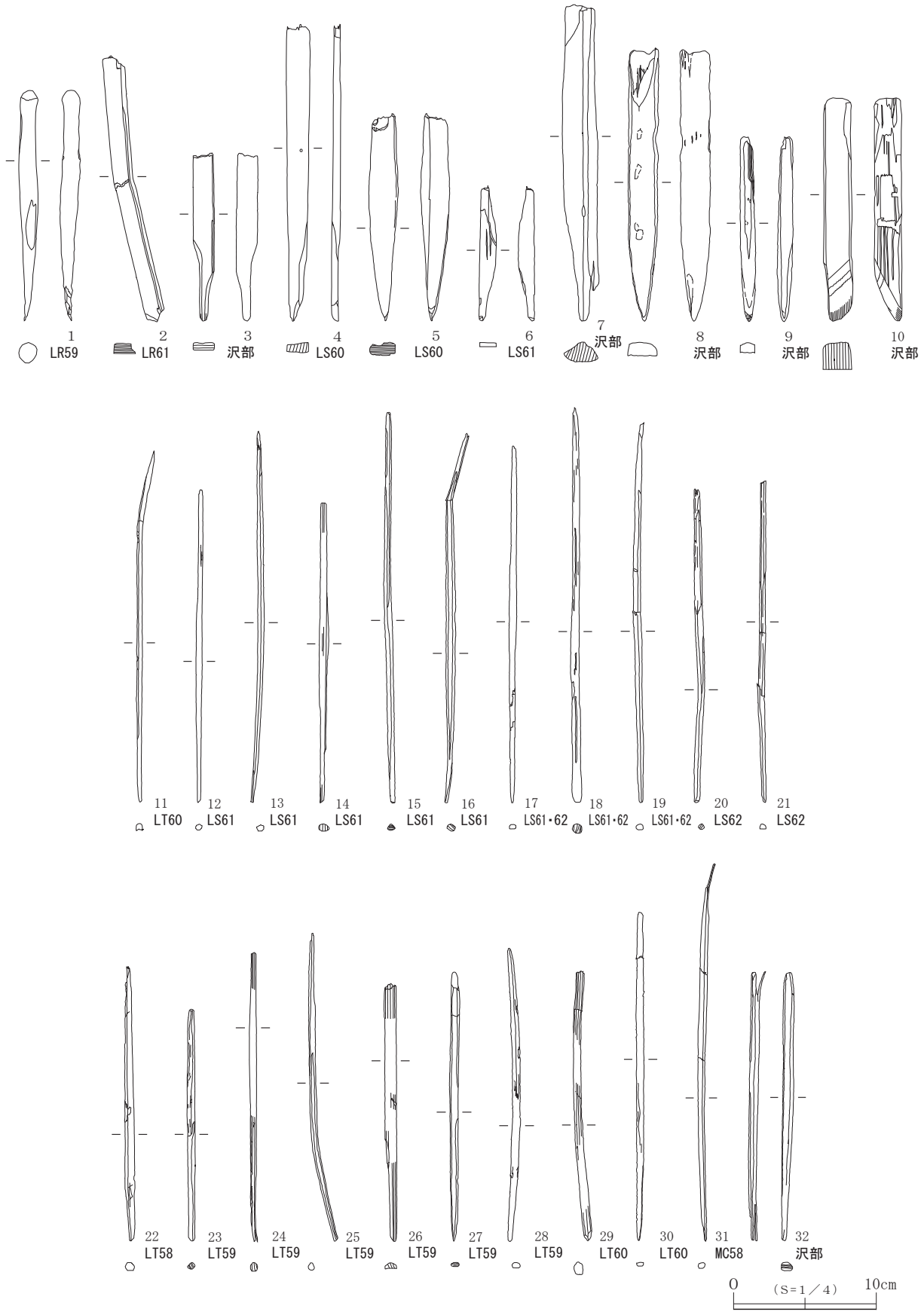
第79図　遺構外出土木製品２（椀・曲物）



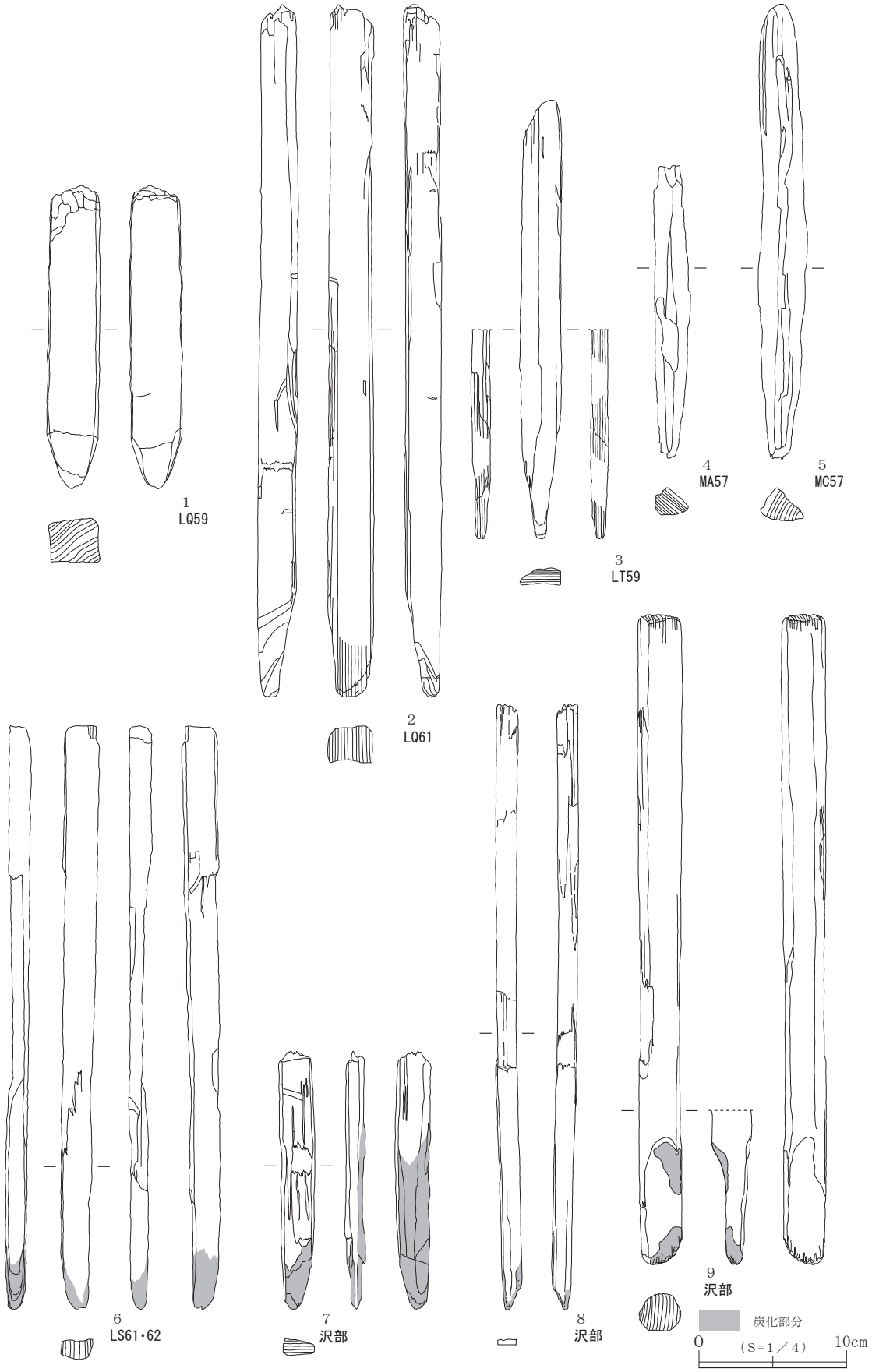
第80図　遺構外出土木製品３（曲物・下駄・桧扇）



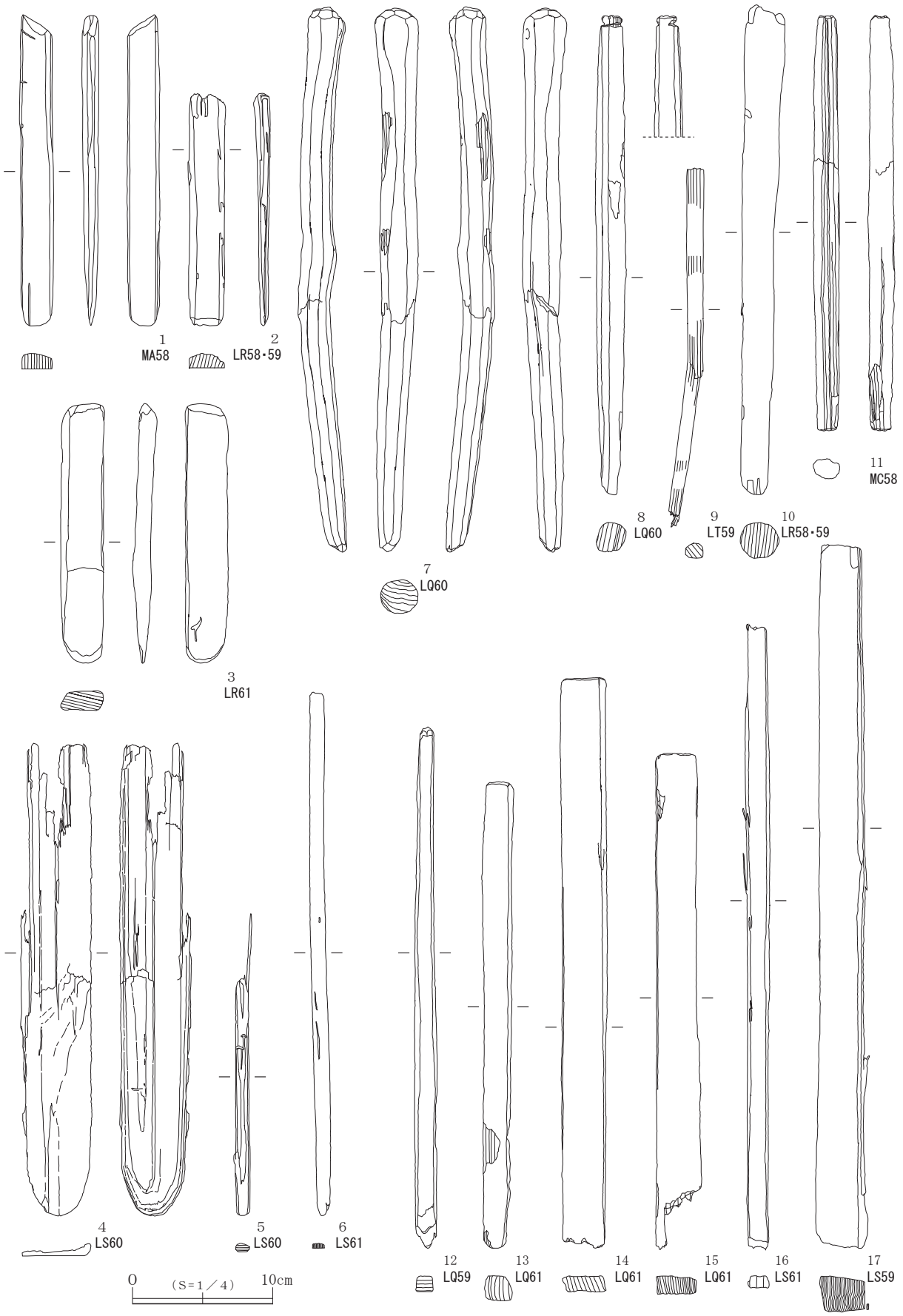
第81図　遺構外出土木製品４（題戔軸・木簡・形代・斎串等）



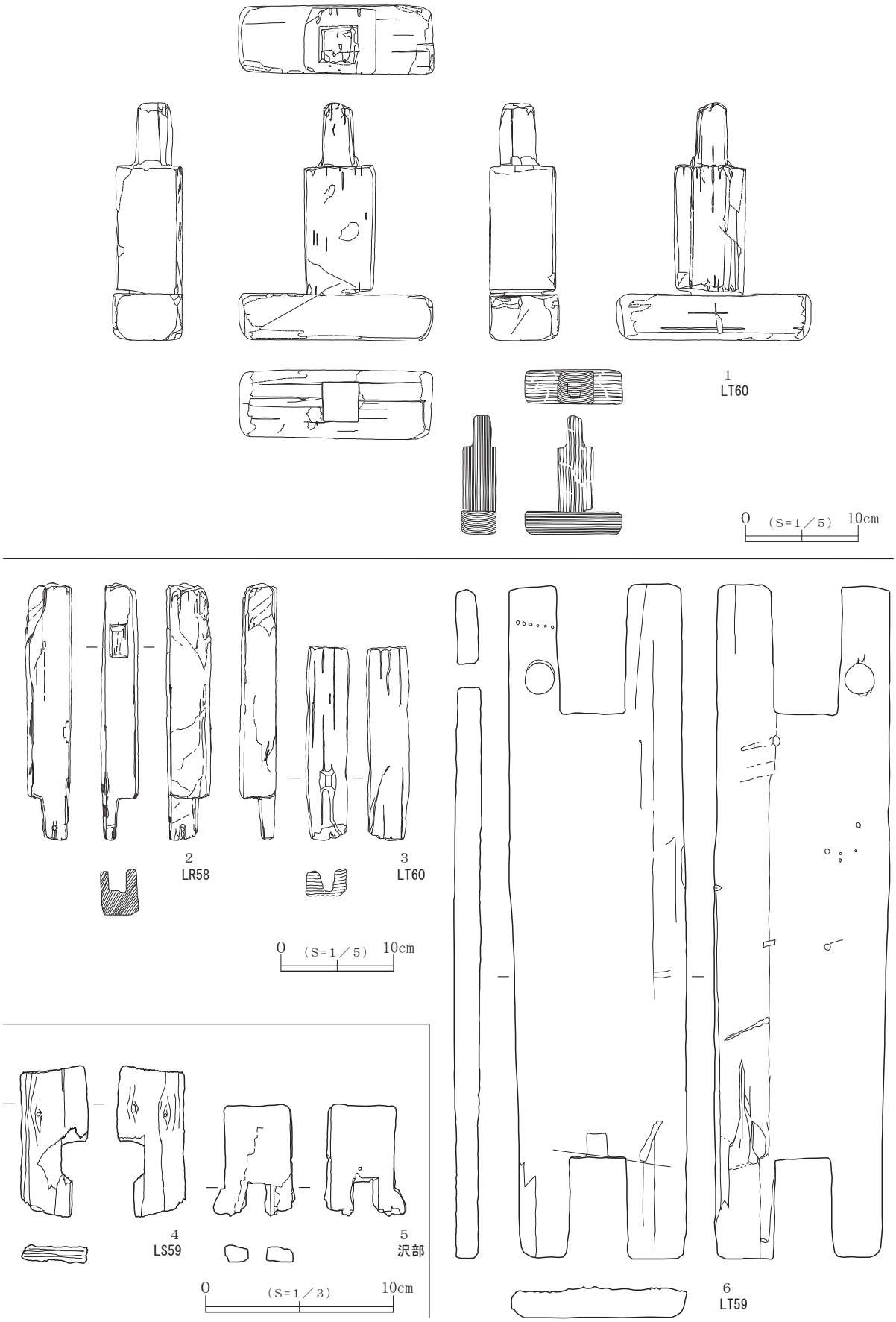
第82図　遺構外出土木製品５（串状・ヘラ状・箸状）



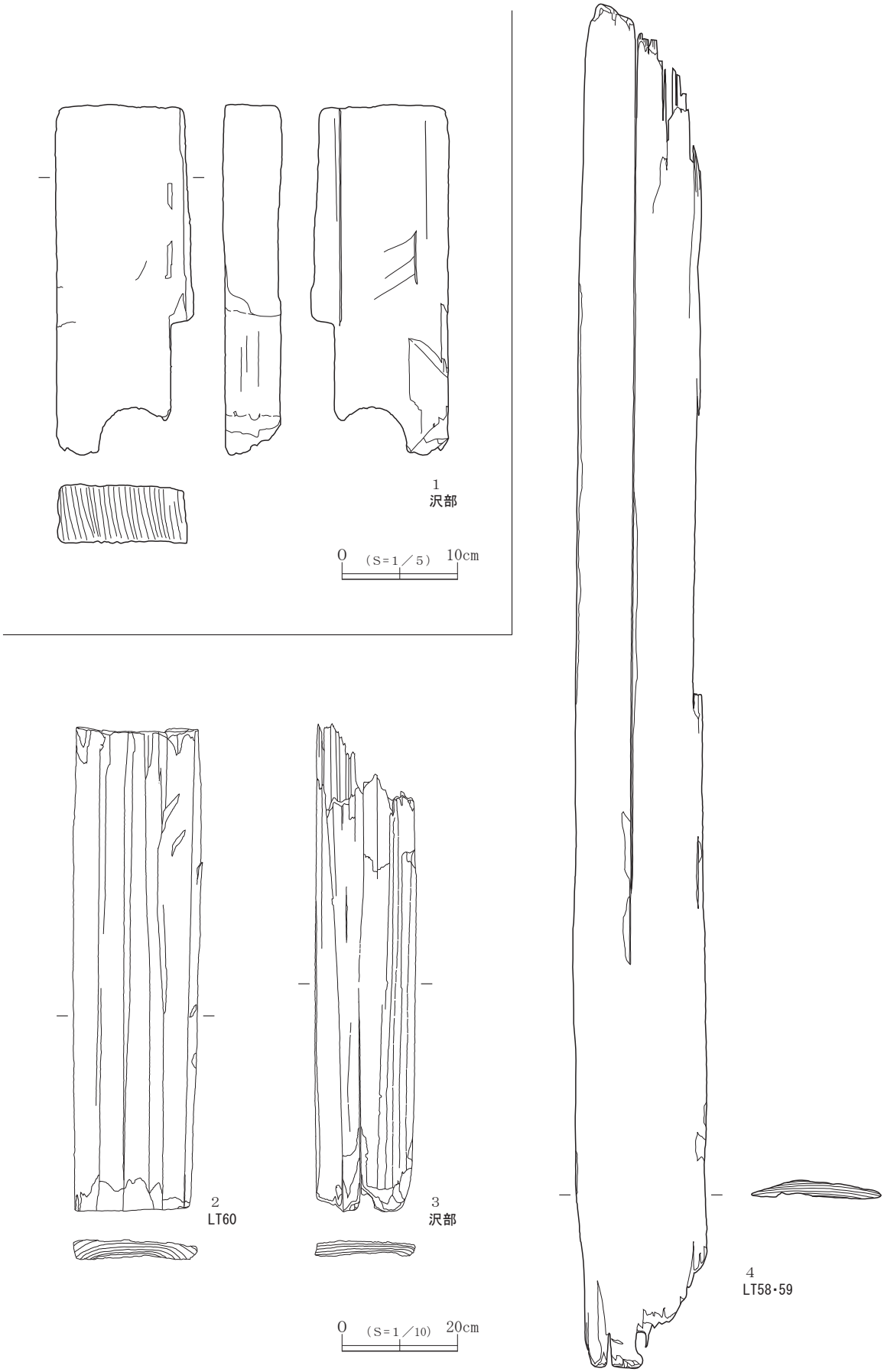
第83図　遺構外出土木製品６（小杭状・先端炭化）



第84図　遺構外出土木製品７（ヘラ状・棒状）



第85図　遺構外出土木製品８（部材）



第86図　遺構外出土木製品９（部材・板材）

第８表　出土遺物一覧表（１）

挿図番号	図版番号	種　別	部　位	出土位置	出土層位	調整・特徴	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底径指数	高径指数	外傾度
47-1	16	土師器　坏	口縁～底部	SB115 (SKP470)	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り　摩耗気味・口縁を打ち欠いたような痕跡	12.8	5.2	5.3	0.41	41.4	－
47-2	16	土師器　坏	口縁～底部	SD26	底面	ロクロナデ、底：回転糸切り	12.7	5.6	4.05	0.44	31.9	36°
47-3	16	土師器　坏	口縁～底部	SD26	底面	ロクロナデ、底：回転糸切り	(12.8)	(5.6)	4.1	－	－	－
47-4	16	土師器　坏	口縁～底部	SD49	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	12.7	5.4	4.3	0.43	33.9	30°
47-5	16	土師器　坏	口縁～底部	SD49	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	12.2	4.9	4.2	0.4	34.4	38°
47-6	25	土師器　甕	口縁～底部	SD49	埋土	外面：ハケメ→指ナデ？、内面：ナデ　胎土に砂礫多く含む	－	－	(15.8)	－	－	－
47-7	16	土師器　坏	口縁～底部	SD50	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り？　外面に籾痕様の圧痕　粗雑な胎土・作り	11.1	5.6	4.65	0.5	41.9	35°
47-8	－	須恵器　甕	肩部	SD50	埋土	外面：平行叩き→ロクロナデ、内面：ロクロナデ　胎土に黒粒含む　焼き膨れあり	－	－	(13.0)	－	－	－
47-9	16	須恵器　壺	口縁～肩部	SD57	埋土	口縁部：ロクロナデ、外面：平行叩、内面：青海波当て具	(41.9)	－	(9.3)	－	－	－
48-1	－	須恵器　甕	胴部	SD60	埋土	外面：平行叩、内面：当て具(上：青海波、下：平行叩)	－	－	(56.0)	－	－	－
48-2	16	須恵器　甕	口縁～肩部	SD60	埋土	口頸部：ロクロナデ、肩部：平行叩(外面)、青海波当て具(内面)	－	－	(8.8)	－	－	－
49-1	16	須恵器　壺	頸～肩部	SD60	埋土	頸部：ロクロナデ　頸部・肩部の境目に一条の突線　胎土：緻密・良好・重量感、内外面自然釉	－	－	(6.3)	－	－	－
49-2	16	土師器　坏	口縁～底部	SD60	底面	ロクロナデ、底：回転糸切り	13.4	6.0	4.9	0.45	36.6	28°
49-3	16	土師器　坏	口縁～底部	SD60	底面	ロクロナデ、底：回転糸切り	(13.3)	(5.2)	(5.0)	－	－	－
49-4	16	土師器　坏	口縁～底部	SD60	底面	ロクロナデ、底：回転糸切り	(13.3)	(5.4)	(4.5)	－	－	－
49-5	16	土師器　坏	口縁～底部	SD60	底面	ロクロナデ、底：回転糸切り	12.5	5.9	4.9	0.47	39.2	33°
49-6	16	土師器　坏	口縁～底部	SD60	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	(10.1)	4.8	(3.8)	－	－	－
49-7	16	土師器　坏	口縁～底部	SD60	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	(12.6)	(5.9)	4.6	－	－	－
49-8	17	土師器　坏	口縁～底部	SD60	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	(12.5)	(5.0)	(4.1)	－	－	－
49-9	17	土師器　坏	口縁～底部	SD60	底面	ロクロナデ、底：回転糸切り　胴部に縦位の一条の傷	12.8	5.4	5.2	0.42	40.6	33°
49-10	17	土師器　坏	口縁～底部	SD60	底面	ロクロナデ、底：回転糸切り	(13.0)	5.7	(4.7)	－	－	－
49-11	17	土師器　坏	底部付近	SD60	底面	ロクロナデ、底：回転糸切り	(8.6)	5.6	(1.9)	－	－	－
49-12	17	土師器　坏	口縁～底部	SD60	底面	ロクロナデ、底：回転糸切り　口縁を打ち欠いた痕跡　口唇肥厚	13.4	5.2	4.8	0.39	35.8	41°
50-1	17	土師器　坏	口縁～底部	SD60	底面	ロクロナデ、底：回転糸切り　胎土：砂粒多く含む　にぶい橙	(11.4)	5.2	4.2	－	－	－
50-2	17	土師器　坏	口縁～底部	SD60	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	(12.8)	5.2	5.3	－	－	－
50-3	17	土師器　坏	口縁～底部	SD60	底面	ロクロナデ、底：回転糸切り　口縁部内面に黒色付着物　灯明皿	12.5	5.5	4.7	0.44	37.6	34°
50-4	17	土師器　坏	口縁～底部	SD60	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	(11.4)	(7.4)	(3.0)	－	－	－
50-5	17	土師器　坏	口縁～底部	SD60	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り　外面に黒色付着物あり　灯明皿か	13.1	6.0	5.2	0.46	39.7	27°
50-6	17	土師器　坏	口縁～底部	SD60	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	12.8	5.2	4.8	0.41	37.5	40°
50-7	17	土師器　坏	口縁～底部	SD60	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	(12.7)	5.8	(4.7)	－	－	－
50-8	17	土師器　坏	口縁～底部	SD60	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り　胎土・焼成良好　橙色	(13.0)	4.7	(4.6)	－	－	－
50-9	17	土師器　坏	口縁～底部	SD60	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り　胎土良好・橙がかる灰白色　底面に墨書	13.3	4.8	5.7	0.36	42.9	31°
50-10	17	土師器　高台付坏	口縁～底部	SD60	埋土	ロクロナデ→ミガキ・黒色処理(内面)、底：回転糸切り　台部欠損	12.5	(5.4)	(3.1)	－	－	－
51-1	25	灰釉　瓶類	肩部	SD60	最下層	ロクロナデ　釉：薄い釉膜にオリーブ色筋状の釉　胎土：灰白色・黒粒含む　72-14～16と同一個体か　K90窯式	－	－	(6.8)	－	－	－
51-2	25	灰釉　瓶類	肩部	SD60	埋土	ロクロナデ　釉：外面に薄い釉膜・筋状のオリーブ色の釉　胎土：灰白色・黒粒含む	－	－	(6.8)	－	－	－
51-3	25	灰釉　瓶類	頸部	SD60	埋土	ロクロナデ　胎土：灰白色・黒粒含む　※51-1･2と同一個体か	－	－	(2.5)	－	－	－
51-4	17	土師器　坏	胴～底部	SD70	埋土	ロクロナデ→ミガキ・黒色処理(内面)、底：回転糸切り	(9.7)	4.8	(3.2)	－	－	－
51-5	17	土師器　坏	口縁～底部	SD70	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	(12.2)	(4.9)	(4.1)	－	－	－
51-6	17･18	須恵器　壺	口縁～肩部、胴～底部	SD70	埋土	口頸部：ロクロナデ、胴下半部：平行叩→ロクロナデ　底部の処理雑	(11.6)	8.8	(10.8) (8.3)	－	－	－
51-7	18	土師器　坏	口縁～底部	SD85	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	(11.7)	(4.8)	4.7	－	－	－
51-8	18	須恵器　壺	肩～底部	SD85	埋土	ロクロナデ→ケズリ(外面胴下半部)　内面全体に黒色付着物	(16.4)	(10.4)	(16.8)	－	－	－
51-9	25	須恵器　甕	胴部	SD85	埋土	内外面：平行叩	－	－	(4.8)	－	－	－
52-1	25	須恵器　甕	胴部	SD85	埋土	内外面：平行叩	－	－	(15.8)	－	－	－
52-2	16	土師器　坏	口縁～底部	SQ65	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り　胎土：赤み強い(橙色)	12.4	6.2	4.8	0.5	38.7	32°
52-3	16	土師器　坏	口縁～底部	SQ65	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り　口唇肥厚	13.3	5.4	4.9	0.41	36.8	33°
52-4	18	須恵器　坏	口縁～底部	SQ65	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	(12.8)	(5.3)	4.6	－	－	－
52-5	18	土師器　坏	胴～底部	SQ65	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り　厚底	(9.5)	5.3	(2.3)	－	－	－
52-6	18	土師器　甕	胴～底部	SQ65	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	(13.0)	(9.0)	(5.3)	－	－	－
52-7	18	土師器　坏	口縁～底部	SK17	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り　摩耗気味	(12.5)	6.0	(4.3)	－	－	－
52-8	18	土師器　坏	口縁～底部	SK17	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	12.6	5.6	4.7	0.44	37.3	28°
52-9	25	土師器　甕	口縁部	SK24	埋土	内面：ナデ　粗雑な作り	－	－	(6.5)	－	－	－
52-10	25	土師器　甕	口縁～胴部	SK24	埋土	ロクロナデ　胎土に小礫多く含む	－	－	(7.8)	－	－	－
52-11	18	土師器　甕	胴～底部	SK24	埋土	上げ底　底面に渦巻き状の圧痕	(16.8)	(12.4)	(4.1)	－	－	－
53-1	18	土師器　坏	口縁～底部	SK27	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	(14.8)	5.6	(5.5)	－	－	－
53-2	18	土師器　甕	胴～底部	SK27	埋土	ロクロナデ　胎土に粗砂多く含む	(15.4)	(10.4)	(5.8)	－	－	－

第９表　出土遺物一覧表（２）

挿図番号	図版番号	種　別	部　位	出土位置	出土層位	調整・特徴	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底径指数	高径指数	外傾度
53-3	18	緑釉　手付瓶	胴～底部	SK27	埋土	ロクロナデ→陰刻文、底面：回転糸切り　薄黄緑の釉　胎土灰白色　SX89他と接合　K90窯式	(15.4)	(12.9)	(9.5)	－	－	－
53-4	25	須恵器　甕	胴部	SK29	埋土	外面：平行叩、内面：青海波当て具	－	－	(5.5)	－	－	－
53-5	25	須恵器　甕	胴部	SK36	埋土	内外面：平行叩	－	－	(6.6)	－	－	－
53-6	18	土師器　坏	口縁～底部	SK46	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	(13.4)	(5.3)	4.3	－	－	－
53-7	18	土師器　坏	口縁～底部	SK61	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	(11.6)	(5.5)	4.5	－	－	－
53-8	25	須恵器　甕	胴部	SK64	埋土	内外面：平行叩	－	－	(4.3)	－	－	－
53-9	25	須恵器　甕	胴部	SK64	埋土	内外面：平行叩	－	－	(8.5)	－	－	－
54-1	18	土師器　坏	口縁～底部	SK73	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り　柱状高台気味	(12.6)	(5.2)	(4.5)	－	－	－
54-2	18	土師器　坏	口縁～底部	SK77	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	12.2	4.8	5.0	0.39	41	36°
54-3	18	須恵器　坏	口縁～底部	SK82	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	(13.0)	5.0	4.8	－	－	－
54-4	19	土師器　甕	胴～底部	SK99	埋土	底：回転糸切り？　底部周辺内外面に煤付着　被熱により器面剥落気味	(17.6)	(11.0)	(6.3)	－	－	－
54-5	25	土師器　甕	口縁～胴部	SK99	埋土	内面：ナデ　粘土紐接合痕明瞭　粗雑なつくり	－	－	(8.3)	－	－	－
54-6	19	土師器　坏	胴～底部	SK99	埋土	全体的に摩滅気味	(8.8)	(6.2)	(1.7)	－	－	－
54-7	19	土師器　甕	胴～底部	SK99	埋土	外面：ケズリ　内面：ナデ　底面：砂底	(16.6)	11.4	(4.0)	－	－	－
54-8	25	土師器　甕	口縁～胴部	SK99	埋土	外面：ハケメ→指ナデ　内面：ナデ　胎土に小礫多く含む	－	－	(9.6)	－	－	－
54-9	25	土師器　甕	口縁部	SK99	埋土	ロクロナデ	－	－	(7.2)	－	－	－
54-10	25	土師器　甕	胴部	SK99	埋土	外面：ハケメ→指ナデ？、内面：ナデ	－	－	(17.2)	－	－	－
54-11	25	須恵器　坏	胴部	SK104	埋土	ロクロナデ　貯とみられる墨書	－	－	(2.7)	－	－	－
55-1	19	須恵器　甕	口縁～肩部	SK106	埋土	口縁～頸部：ロクロナデ、肩部：平行叩(外面)・青海波当て具(内面)	(42.2)	－	(12.5)	－	－	－
55-2	19	土師器　坏	口縁～底部	SR109	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り　下の土器	12.9	6.1	4.5	0.47	34.9	31°
55-3	19	土師器　坏	口縁～底部	SR109	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り　上の土器	12.8	6.0	4.8	0.47	37.5	33°
55-4	16	土師器　坏	口縁～底部	SR109	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り　上の土器	11.7	5.4	4.3	0.46	36.8	32°
55-5	19	土師器　坏	口縁～底部	SN34	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	12.6	5.2	3.2	0.41	25.4	43°
55-6	19	土師器　高台付坏	口縁～底部	SN34	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り　台部欠損　被熱顕著	(12.2)	6.8	(4.4)	－	－	－
55-7	25	土師器　甕	口縁～胴部	SN34	埋土	外面：ナデ？　内面：ナデ　粗雑なつくり	－	－	(8.5)	－	－	－
55-8	25	土師器　甕	口縁部	SN34	埋土	内外面摩滅気味　粗雑な作り	－	－	(3.9)	－	－	－
55-9	19	土師器　坏	胴～底部	SKP228	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	(9.7)	(4.6)	(2.6)	－	－	－
55-10	19	土師器　坏	口縁～底部	SKP229	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り　摩滅気味	12.9	5.3	4.3	0.41	33.3	35°
55-11	19	土師器　高台付坏	口縁～底部	SKP262	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	(9.1)	6.2	(3.0)	－	－	－
55-12	19	土師器　坏	口縁～底部	SKP267	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り　内外面の一部に煤状付着物	11.5	4.8	2.7	0.42	23.5	41°
56-1	25	須恵器　甕	底部付近	SKP271	埋土	内外面：平行叩　丸底	－	－	(15.8)	－	－	－
56-2	19	土師器　高台付坏	胴～底部	SKP297	埋土	両黒(両面黒色処理)　摩滅気味	(9.5)	6.4	(2.8)	－	－	－
56-3	19	土師器　坏	胴～底部	SKP315	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り	(8.6)	4.7	(2.1)	－	－	－
56-4	19	土師器　坏	口縁～底部	SKP341	埋土	ロクロナデ、底：回転糸切り　へこみ(胎土中の軟質礫が落下したものか)	(15.6)	5.8	(5.9)	－	－	－
56-5	26	土師器　甕	口縁部	SKP342	埋土	内面：ナデ	－		(4.2)	－	－	－
56-6	26	土師器　甕	口縁部	SKP342	埋土	摩滅気味　胎土に小礫多く含む			(5.2)	－	－	－
56-7	19	土師器　坏	胴～底部	SKP360	埋土	内面：ナデ　粗雑な作り	(8.4)	5.2	(1.3)	－	－	－
56-8	19	土師器　坏	胴～底部	SKP367	埋土	内面：ナデ　粗雑な作り	(9.8)	5.6	(2.9)	－	－	－
56-9	26	須恵器　甕	胴部	SKP367	埋土	外面：平行叩→ナデ、内面：ナデ	－	－	(10.4)	－	－	－
57-1	19	土製支脚	－	SK46	埋土	胎土に小礫・黒粒含む	上面径9.4、底面径10.7、高さ8.0(cm)※上・下面径は推定値　重量：270.0g					
57-2	26	羽口	先端部	SK73	埋土	先端ガラス化	長さ：6.3、幅：5.5(cm)重量：63.0g					
57-3	26	土錘	－	SK91	埋土	長さ：4.0、幅：1.5、厚さ：1.4(cm)重量：8.0g						
57-4	29	砥石	－	SD26	埋土	断面三角形　稜部に磨面	長さ：14.1、幅：8.2(cm)重量：1,038g					
57-5	29	鉄床石？	－	SK39	埋土	板状で片側面・端部に磨面を残す　表面がやや黒ずみ敲打痕、割れ口周辺には被熱痕	長さ：18.9、幅：15.6(cm)重量：2,810g					
57-6	29	砥石	－	SR109	埋土	表面：長短の溝、裏面：蜂の巣状の敲打痕　平滑な磨面あり	長さ：13.9、幅：13.2(cm)重量：1,076.9g					
57-7	26	鉄製品	－	SKP540	埋土	環状の鉄製品	長さ：1.9、幅：2.7(cm)重量：4.5g					
57-8	26	砥石	－	SD60	埋土	平滑な砥面(４)あり	長さ：4.3、幅：2.0(cm)重量：20.4g					
58-1	29	鉄床石？	－	SD60	埋土	鏡餅状の形態　多量の煤付着　全体的に赤く被熱	長さ：23.6、幅：27.2(cm)重量：9,200g					
58-2	29	鉄床石	－	SD60	埋土	中央部に鉄錆び部分　全体的に赤く被熱　長さ38.8、幅：21.9、厚さ：18.6(cm)重量：23,000g						
58-3	29	鉄床石？	－	SK27	埋土	全体的に被熱　長さ：15.0、幅：16.0、厚さ：9.3(cm)重量：2,770g						
59-1	20	須恵器　坏	口縁～底部	LQ・LR40	Ⅲ層	ロクロナデ、底：回転糸切り　大口径　焼成不良	14.8	5.8	4.9	0.39	33.1	39°
59-2	20	須恵器　坏	口縁～底部	LQ59	－	ロクロナデ、底：回転糸切り　焼成不良	(12.4)	5.3	(4.2)	－	－	－
59-3	20	須恵器　坏	口縁～底部	LR61	－	ロクロナデ、底：回転糸切り　内外面柿渋？塗布	(12.9)	(5.3)	4.8	－	－	－
59-4	20	須恵器　高台付坏	口縁～底部	LT44	Ⅲ層	ロクロナデ、底：回転糸切り	13.9	7.3	7.0	0.53	50.4	28°
59-5	20	須恵器　壺	胴～底部	LT57	－	ロクロナデ、底：回転糸切り　高台雑な作り	(10.8)	6.0	(5.5)	－	－	－
59-6	20	須恵器　壺	口縁～頸部	MA58	Ⅲ層	ミニチュア土器	(3.4)	－	(2.5)	－	－	－
59-7	20	須恵器　壺	胴～底部	ME45	－	ミニチュア土器	(4.9)	(2.8)	(2.3)	－	－	－
59-8	26	須恵器　坏	胴部	LQ61	－	ロクロナデ　外面に墨書	－	－	(3.5)	－	－	－
59-9	20	須恵器　坏	胴～底部	LQ59	－	底：回転糸切り　内外面焼け飛びあり　底面に墨書	(8.6)	5.0	(2.0)	－	－	－

第10表　出土遺物一覧表（３）

挿図番号	図版番号	種　別	部　位	出土位置	出土層位	調整・特徴	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底径指数	高径指数	外傾度
59-10	20	須恵器　坏	胴～底部	LQ61	－	ロクロナデ、底：回転糸切り　底面に墨書	(14.2)	(6.4)	(3.6)	－	－	－
59-11	20	須恵器　坏	胴～底部	LR61	－	底：回転糸切り　底面に墨書「守」？	8.9	5.5	(1.9)	－	－	－
59-12	26	須恵器　坏	口縁～胴部	LS61・62	－	ロクロナデ　外面に墨書	－	－	(5.6)	－	－	－
59-13	20	須恵器　坏	胴～底部	MB・MC58	－	ロクロナデ、底：回転糸切り　底面に墨書	(10.0)	5.0	(2.3)	－	－	－
59-14	20	須恵器　坏	口縁～底部	確2トレ	－	ロクロナデ、底：回転糸切り　外面に墨書　内外面：柿渋？塗布	(13.1)	4.5	4.5	－	－	－
59-15	20	須恵器　蓋		LQ61	－	ロクロナデ　つまみ部上面に墨書「俚川」？	(10.3)	－	(2.1)	－	－	－
60-1	20	須恵器　壺	口縁～胴部	LQ58	６層	口縁～頸部：ロクロナデ　胴部：平行叩(内外面)	(22.4)	－	(19.6)	－	－	－
60-2	20	須恵器　壺・甕	胴～底部	LT57	Ⅲ層	外面：平行叩、内面：ナデ	－	(18.1)	7.7	－	－	－
60-3	20	須恵器　壺	頸～肩部	MA48	Ⅲｃ層	ロクロナデ	－	－	(9.3)	－	－	－
60-4	20	須恵器　壺	頸～底部	MA57	Ⅲ層	頸～肩部：ロクロナデ、胴下半部：平行叩き→ナデ(外面)、ナデ(内面)　頸部・肩部の境目にリング状突帯	(8.4)	10.3	(21.5)	－	－	－
61-1	27	須恵器　壺	底部付近	MC51	Ⅲｃ層	内外面：平行叩	－	－	(14.8)	－	－	－
61-2	20	須恵器　壺	頸～胴部	MC48	Ⅲｃ層	ロクロナデ　外面に「夫」？の刻線、内面に黒色付着物	－	－	(8.2)	－	－	－
61-3	21	須恵器　壺	口縁～肩部	MC57	－	口縁～頸部：ロクロナデ、肩部：平行叩(外面)・青海波当て具(内面)	(26.0)	－	(7.1)	－	－	－
61-4	21	須恵器　大甕	口縁～胴部	LQ58	６層他	口縁～頸部：ロクロナデ→９～10条の波状文　胴部：平行叩(外面)・青海波当て具(内面)	(65.6)	－	(26.4)	－	－	－
62-1	21	須恵器　短頸壺	口縁～肩部	MC46	Ⅲｃ層	ロクロナデ　胎土に黒粒含む　焼き膨れあり	－	－	(7.0)	－	－	－
62-2	21	須恵器　横瓶	胴～底部	MD43	Ⅳａ層	外面：平行叩き→ロクロナデ、内面：ナデ	－	－	(13.7)	－	－	－
62-3	21	須恵器　横瓶	頸～胴部	MC・MD43	Ⅳａ層	外面：平行叩き→ケズリ(側底部付近)、内面：ナデ	－	－		－	－	－
62-4	21	須恵器　長頸壺	頸～胴部	MB46	Ⅳａ層	ロクロナデ　頸部・肩部の境目にリング状突帯　外面全体的に自然釉付着	－	－	(18.9)	－	－	－
62-5	27	須恵器　壺	胴部	MA46	Ⅲｃ層	ロクロナデ　胎土：良好、灰白色　大戸窯産？	－	－	(3.6)	－	－	－
62-6	27	須恵器　壺	肩部	MA47	Ⅲｃ層	ロクロナデ　胎土：良好、灰白色　大戸窯産？	－	－	(3.3)	－	－	－
62-7	27	須恵器　壺	胴部	MA57	Ⅲ層	ロクロナデ　胎土：良好、灰白色　外面にオリーブ色の自然釉　大戸窯産？	－	－	(2.8)	－	－	－
62-8	27	須恵器　壺	肩部	MB49	Ⅱ層	ロクロナデ　胎土：良好、灰白色　外面にオリーブ色の自然釉　大戸窯産？	－	－	(5.5)	－	－	－
62-9	27	須恵器　壺	頸～肩部	MB49	Ⅲｃ層	ロクロナデ　胎土：良好、灰白色　外面にオリーブ色の自然釉　大戸窯産？	－	－	(4.5)	－	－	－
62-10	27	須恵器　壺	頸～肩部	MD46	Ⅲｃ層	ロクロナデ　胎土：良好、灰白色　外面にオリーブ色の自然釉　大戸窯産？	－	－	(4.4)	－	－	－
63-1	21	土師器　坏	口縁～底部	LQ59	６層	ロクロナデ→ミガキ・黒色処理(内面)、底：ナデ	17.8	7.1	7.6	0.4	42.7	26°
63-2	21	土師器　坏	口縁～底部	LS55	－	ロクロナデ、底：回転糸切り	14.8	5.9	5.1	0.4	34.5	40°
63-3	21	土師器　坏	口縁～底部	LS59	６層	ロクロナデ→ミガキ・黒色処理(内面)、底：回転糸切り	13.4	5.2	5.2	0.39	38.8	31°
63-4	21	土師器　坏	口縁～底部	LS59	６層	ロクロナデ、底：回転糸切り	12.8	5.4	5.0	0.42	39.1	27°
63-5	21	土師器　坏	口縁～底部	LS60	－	ロクロナデ、底：回転糸切り　焼成不良須恵器？　底面に煤付着	(14.2)	5.4	(4.9)	－	－	－
63-6	21	土師器　坏	口縁～底部	LT47	Ⅱ層	ロクロナデ、底：回転糸切り　摩滅気味	12.9	4.6	5.5	0.36	42.6	32°
63-7	21	土師器　坏	口縁～底部	LT47	Ⅲｃ層	外面：粘土紐接合痕、内面：ハケメ→ナデ　底部：ムシロ痕あり　口縁～外面にかけて黒色付着物　灯明皿	(13.9)	6.3	(5.3)	－	－	－
63-8	21	土師器　坏	口縁～底部	LT48	Ⅲｃ層	ロクロナデ、底：回転糸切り	(15.2)	5.6	(6.1)	－	－	－
63-9	21	土師器　坏	口縁～底部	LT53	－	ロクロナデ、底：回転糸切り　口縁に黒色付着物　灯明皿か	(13.1)	5.0	(4.6)	－	－	－
63-10	21	土師器　坏	口縁～底部	LT55	－	ロクロナデ、底：回転糸切り	12.1	4.6	4.4	0.38	36.4	36°
63-11	27	土師器　坏	口縁～胴部	LT55	－	ロクロナデ　口縁に黒色付着物　灯明皿か	－		(4.3)	－	－	－
64-1	22	土師器　坏	口縁～底部	LT58	５層	ロクロナデ、底：回転糸切り	12.9	5.6	5.1	0.43	39.5	33°
64-2	22	土師器　坏	口縁～底部	LT58	５層	ロクロナデ、底：回転糸切り　器厚薄く軽量	15.2	6.6	5.8	0.43	38.2	29°
64-3	22	土師器　坏	口縁～底部	LT60	６層	ロクロナデ、底：回転糸切り	12.0	5.4	4.7	0.45	39.2	33°
64-4	22	土師器　坏	口縁～底部	LT61	－	ロクロナデ、底：回転糸切り	(13.6)	5.3	(4.8)	－	－	－
64-5	27	土師器　坏	底部	MA45	－	底：回転糸切り　穿孔あり	－	(3.2)	(0.9)	－	－	－
64-6	22	土師器　坏	口縁～底部	MA51	－	ロクロナデ、底：回転糸切り	13.4	5.0	5.2	0.37	38.8	35°
64-7	22	土師器　坏	口縁～底部	MA59	６層上部	ロクロナデ、底：回転糸切り　内面にひも状の煤？付着	11.9	5.5	4.8	0.46	40.3	28°
64-8	22	土師器　坏	口縁～底部	MB54	－	ロクロナデ、底：回転糸切り	13.2	5.8	5.3	0.44	40.2	28°
64-9	22	土師器　坏	口縁～底部	MC42	Ⅲ層下	ロクロナデ→ミガキ・黒色処理(内面)　底：回転糸切り	(11.2)	5.6	(2.6)	－	－	－
64-10	22	土師器　坏	口縁～底部	MC42・43	Ⅳａ層	ロクロナデ、底：回転糸切り	12.3	5.8	4.0	0.47	32.5	35°
64-11	22	土師器　坏	口縁～底部	MC43	－	ロクロナデ、底：回転糸切り　器厚薄く軽量	(13.4)	(6.4)	4.1	－	－	－
64-12	22	土師器　坏	胴～底部	MC47	Ⅲｃ層	底：回転糸切り　両黒	(7.1)	4.7	(1.8)	－	－	－
64-13	22	土師器　坏	口縁～底部	南斜面	Ⅳａ層	ロクロナデ、底：回転糸切り　摩滅気味	13.6	6.1	5.3	0.45	39	25°
64-14	22	土師器　坏	口縁～底部	MD42	Ⅲｂ層	ロクロナデ、底：回転糸切り　底部内面に籾痕あり	9.8	4.5	2.9	0.46	29.6	49°
64-15	22	土師器　坏	口縁～底部	MD43	Ⅳａ層	ロクロナデ、底：回転糸切り	(11.1)	(5.1)	3.8	－	－	－
65-1	22	土師器　坏	口縁～底部	MD43	Ⅳａ層	ロクロナデ、底：回転糸切り	(12.4)	5.2	3.9	－	－	－
65-2	22	土師器　坏	口縁～底部	MD51	－	ロクロナデ、底：回転糸切り	12.1	4.8	3.4	－	－	42°
65-3	22	土師器　坏	胴～底部	LO60	－	ロクロナデ、底：回転糸切り　外面に墨書	(11.0)	5.0	(3.0)	－	－	－
65-4	22	土師器　坏	胴～底部	LQ61	－	ロクロナデ、底：回転糸切り　内面に柿渋？付着　外面に墨書	(9.3)	4.8	(3.7)	－	－	－
65-5	23、巻2-2	土師器　坏	胴～底部	LQ61	－	ロクロナデ、底：回転糸切り　外面に墨書「貯」の異体字か	(13.2)	(5.9)	(4.0)	－	－	－
65-6	26	土師器　坏	口縁～胴部	LS59	－	ロクロナデ、底：回転糸切り　外面に墨書「貯」の異体字か	－	－	(3.0)	－	－	－

出土層位のアラビア数字は、北側沢地での層位を示す。

第11表　出土遺物一覧表（４）

挿図番号	図版番号	種　別	部　位	出土位置	出土層位	調整・特徴	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底径指数	高径指数	外傾度
65-7	26	土師器　坏	口縁～胴部	LS60	－	ロクロナデ、底：回転糸切り　外面に墨書	－	－	(5.7)	－	－	－
65-8	23	土師器　坏	口縁～底部	LS61	６層	ロクロナデ、底：回転糸切り　外面に墨書	(13.0)	5.6	5.4	－	－	－
65-9	26	土師器　坏	底部	LS61・62	－	底：回転糸切り　底面に墨書	－	－	－	－	－	－
65-10	26	土師器　坏	口縁～胴部	LT44	－	外面に墨書	(16.0)	－	(6.4)	－	－	－
65-11	26	土師器　坏	胴下部	LT59	Ⅱ層	外面に墨書	－	－	(2.4)	－	－	－
65-12	26	土師器　坏	胴下部	LT59	５層	外面に墨書	－	－	(3.4)	－	－	－
65-13	26	土師器　坏	胴下部	LT59	５層	外面に墨書	－	－	(2.2)	－	－	－
65-14	23	土師器　坏	胴部～底部	LT61	６・15層	ロクロナデ、底：回転糸切り　外面に墨書「貯」の異体字か	(10.8)	(6.1)	(2.4)	－	－	－
65-15	23	土師器　坏	口縁～底部	MB54	－	ロクロナデ、底：回転糸切り　外面に墨書	13.2	5.0	5.0	0.38	37.9	34°
65-16	23、巻2-2	土師器　坏	口縁～底部	MB58	－	ロクロナデ、底：回転糸切り　内面柿渋状塗布　外面に墨書「貯」の異体字か	13.4	5.2	4.7	0.39	35.1	33°
65-17	27	土師器　坏	口縁～胴部	MA57	Ⅲ層	外面に「大」？の刻線	－	－	(4.0)	－	－	－
66-1	26	土師器　坏	胴下部	確2トレ	－	ロクロナデ　外面に墨書	－	－	(3.0)	－	－	－
66-2	26	土師器　坏	胴部	確2トレ	－	ロクロ調整　外面に墨書	－	－	(3.1)	－	－	－
66-3	26	土師器　坏	胴部	確2トレ	－	ロクロナデ　外面に墨書	－	－	(2.9)	－	－	－
66-4	26	土師器　坏	胴部	確2トレ	－	ロクロナデ　外面に墨書	－	－	(3.3)	－	－	－
66-5	26	土師器　坏	口縁～胴部	確2トレ	－	ロクロナデ　外面に墨書	－	－	(4.2)	－	－	－
66-6	26	土師器　坏	口縁～胴部	確2トレ	－	ロクロナデ　外面に墨書	－	－	(3.7)	－	－	－
66-7	26	土師器　坏	胴部	確2トレ	－	ロクロナデ　外面に墨書　「貯」の異体字か	－	－	(3.3)	－	－	－
66-8	26	土師器　坏	口縁～胴部	確2トレ	－	ロクロナデ　外面に墨書	－	－	(5.2)	－	－	－
66-9	23	土師器　柱状高台付坏	胴～底部	LT44	Ⅲｃ層	底：柱状高台・回転糸切り　底部中央付近に穿孔	(10.3)	(6.6)	(3.5)	－	－	－
66-10	23	土師器　高台付坏	胴～底部	MA49	Ⅲｃ層	底：回転糸切り	(10.0)	(7.6)	(2.8)	－	－	－
66-11	23	土師器　高台付坏	口縁～台部	MA50	Ⅲｃ層	ロクロナデ、底部：回転糸切り→ナデ　摩滅気味	18.8	9.4	8.7	0.5	46.3	36°
66-12	23	土師器　柱状高台付坏	底～台部	MB47	Ⅲｃ層	底：柱状高台・回転糸切り	－	(8.3)	(2.3)	－	－	－
66-13	23	土師器　柱状高台付坏	胴～台部	MB54	Ⅱ層	底：柱状高台・回転糸切り　摩滅	(9.4)	5.4	(3.0)	－	－	－
66-14	23	土師器　柱状高台付坏	胴～台部	MC43	Ⅳａ層	ロクロナデ、底：回転糸切り	(8.5)	5.2	(2.2)	－	－	－
66-15	23	土師器　高台付坏	胴～台部	MC48	Ⅲｃ層	両面黒色処理、底：回転糸切り？→ナデ　摩滅気味	(8.4)	56.0	(2.4)	－	－	－
66-16	23	土師器　高台付坏	底～台部	ME49	Ⅲｃ層	底部中央に穿孔　摩滅気味	－	6.8	(1.8)	－	－	－
66-17	23	土師器　皿	口縁～底部	LQ40	－	ロクロナデ、底：回転糸切り　薄橙色のきれいな色調	11.7	5.5	(1.9)	－	－	－
66-18	23	土師器　坏	口縁～底部	LQ59	－	ロクロナデ、底：回転糸切り　口縁部内外面中心に黒色付着物　灯明皿	(12.4)	(5.7)	5.0	－	－	－
66-19		土師器　皿	口縁～底部	MA49	Ⅱ～Ⅲ層	ロクロナデ、底：回転糸切り	(8.6)	(4.6)	(2.3)	－	－	－
66-20		土師器　皿	口縁～底部	MB46	－	ロクロナデ、底：回転糸切り	(12.7)	(5.2)	1.9	－	－	－
67-1		土師器　柱状高台付皿	底部	MB47	Ⅲｃ層	底：回転糸切り	(8.6)	5.1	(2.3)	－	－	－
67-2	23	土師器　皿	口縁～底部	MC42・43	Ⅳａ層	ロクロナデ、底：回転糸切り　薄橙色のきれいな色調	11.4	5.4	2.4	0.47	21.1	58°
67-3	23	土師器　皿	口縁～底部	MC43	－	ロクロナデ、底：回転糸切り　胎土：砂がち	(13.0)	(5.4)	1.8	－	-13.8	－
67-4	23	土師器　皿	口縁～底部	MD43	－	ロクロナデ、底：回転糸切り　薄橙色のきれいな色調　口縁打ち欠きか(近くに焼成前のへこみあり)	12.7	6.1	2.4	0.48	18.9	57°
67-5	24	土師器　皿	口縁～底部	MC・MD43	Ⅲ層以下	ロクロナデ、底：回転糸切り	12.2	4.8	2.5	0.39	20.5	63°
67-6	27	土師器　甕	口縁～胴部	LT44	－	内外面：ナデ　焼成良好	－	－	(15.4)	－	－	－
67-7	24	土師器　甕	口縁～底部	LT47	Ⅲｃ層	ロクロナデ、底：回転糸切り	(12.1)	(7.5)	12.1	－	－	－
67-8	24	土師器　甕	胴～底部	LT47	－	外面：ナデ(底部付近ケズリ→ナデ)、内面：ナデ　内面黒褐色	－	－	(17.5)	－	－	－
68-1	27	土師器　甕	口縁～胴部	LT48	－	内外面：調整不明　胎土：粉状で軟質礫含む　強い被熱痕あり　製塩土器か	－	－	(9.5)	－	－	－
68-2	24	土師器　甕	口縁～胴部	LT48	Ⅲｃ層	口縁～胴上半：ロクロナデ、胴下半：平行叩(外面)・ナデ(内面)	(24.0)	－	(20.6)	－	－	－
68-3	27	土師器　長胴甕	底部	LT49	Ⅲｃ層	外面：平行叩、内面：ナデ	－	－	(3.1)	－	－	－
68-4	27	土師器　長胴甕	底部	MA48	Ⅲｃ層	外面：平行叩、内面：ナデ	－	－	(10.5)	－	－	－
68-5	27	土師器　甕	口縁～胴部	MB48	Ⅲｃ層他	内外面：ナデ　胎土：小礫・粗砂多量に含む	－	－	(9.9)	－	－	－
69-1	27	土師器　甕	口縁～胴部	MB52	Ⅲｃ層	ロクロナデ	－	－	(7.2)	－	－	－
69-2	27	土師器　長胴甕	底部	MB52	Ⅲｃ層	内外面：平行叩　内面に煤状付着	－	－	(3.3)	－	－	－
69-3	24	土師器　甕	口縁～胴部	MB52	Ⅲｃ層	外面：ハケメ、内面：ナデ	(28.2)	－	(10.0)	－	－	－
69-4	27	土師器　甕	口縁～胴部	MC・MD43	Ⅳａ層	内外面：ナデ　粗雑な作り	－	－	(8.4)	－	－	－
69-5		土師器　甕	底部	MC・MD43	Ⅳａ層	外面：簾状圧痕、内面：菊花状	－	－	(1.1)	－	－	－
69-6	24	土師器　甕	胴～底部	MC・MD43	Ⅲ層以下	内外面：ナデ	(19.6)	(10.0)	(15.3)	－	－	－
69-7		土師器　甕	胴～底部	MD42	Ⅳａ層	外面：平行叩き、内面：ナデ、底面：ナデ	(14.9)	7.0	(3.9)	－	－	－
69-8	27	土師器　甕	口縁～胴部	MG45	－	ロクロナデ	－	－	(11.1)	－	－	－
70-1	27	土師器　鉢	口縁～胴部	LT47	Ⅲｃ層	内外面：ナデ？口縁内面が鋭角状に調整　内面は丁寧な仕上げ、外面は粘土紐接合痕を残す粗雑な作り	－	－	(16.1)	－	－	－

出土層位のアラビア数字は、北側沢地での層位を示す。

第12表　出土遺物一覧表（５）

挿図番号	図版番号	種　別	部　位	出土位置	出土層位	調整・特徴	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底径指数	高径指数	外傾度
70-2	27	土師器　鉢	口縁～胴部	LT48	Ⅱ層	ロクロナデ	－	－	(7.8)	－	－	－
70-3	28	土師器　鍋	口縁～胴部	LS61･62	６層	ロクロナデ	－	－	(5.3)	－	－	－
70-4	28	土師器　鍋	口縁～胴部	MA48	Ⅲ層	内外面：ナデ　内面は丁寧な仕上げ、外面は粘土紐接合痕を幾重にも残す粗雑な作り　胴部には強い被熱痕を残す	－	－	(12.4)	－	－	－
70-5	28	土師器　鍋	口縁～胴部	MD42	Ⅳａ層	内外面：ナデ　口縁は丸みを帯び丁寧なつくり　口縁直下やや肥厚　内面は平滑	－	－	(10.3)	－	－	－
71-1	28	土師器　羽釜	口縁部	LT49	Ⅲｃ層	内面：ナデ	－	－	(6.7)	－	－	－
71-2	28	土師器　羽釜	口縁部	MA50	Ⅲｃ層	内外面：ナデ	－	－	(3.9)	－	－	－
71-3	28	土師器　羽釜	口縁～胴部	MC43	Ⅲｃ層	内外面：ナデ	－	－	(5.4)	－	－	－
71-4	28	土師器　羽釜	口縁部	MC51	Ⅲｃ層	内外面：ナデ	－	－	(4.0)	－	－	－
71-5	28	土師器　羽釜	口縁部	北端	－	内外面：ナデ　橙色のきれいな色調	－	－	(3.6)	－	－	－
71-6	24	緑釉　稜碗	口縁～台部	LQ59	６層	ロクロナデ→ミガキ　内面に沈線・内外面に三叉トチン痕・貼付高台　釉：深緑色　銀化(胎土も黒ずむ)　K90窯式	16.3	7.6	4.9	0.47	30.1	35°
71-7	24	緑釉　碗	胴～台部	LR59	６層	ロクロナデ　底面に三叉トチン痕　貼付高台　釉：青磁色　胎土：灰白色　K90窯式	(13.1)	(7.8)	(3.0)	－	－	－
71-8	巻2-1	緑釉　稜碗	口縁～胴部	LS56	－	ロクロナデ　釉：くすんだ若草色　胎土：灰白色　K90窯式	－	－	(5.7)	－	－	－
71-9	24	緑釉　碗	胴～台部	LT60	６層	貼付高台？　内面に黒褐色の付着物　釉：くすんだ若草色　胎土：灰白色　一部銀化　Ｋ90窯式	(12.4)	(9.1)	(3.3)	－	－	－
71-10	巻2-1	緑釉　碗	胴部	MD51	Ⅲ～Ⅳ層	釉：くすんだ抹茶色　胎土：ねずみ色　未施釉部分あり　洛西産	－	－	(2.1)	－	－	－
71-11	巻2-1	緑釉　稜碗	胴部	北東端	－	内面に１条の沈線　釉：くすんだ青磁色　胎土：灰白　K90窯式	－	－	(4.0)	－	－	－
71-12	巻2-1	緑釉　碗	胴部	LO60	－	ロクロナデ　釉：オリーブ黄　胎土：灰白色(やや橙ががる)　大原２号	－	－	(2.8)	－	－	－
71-13	24	緑釉　碗･Ⅲ	低～台部	LR58	６層	高台の作り丁寧　釉：青磁色　胎土：灰白色　一部銀化　K90窯式	(7.5)	(6.3)	(1.5)	－	－	－
71-14	巻2-1	緑釉　碗	口縁～胴部	LR58	６層	ロクロナデ　釉：青磁色　胎土：灰白色　K90窯式	－	－	(2.5)	－	－	－
71-15	巻2-1	緑釉　碗･Ⅲ	胴部	LR59	６層	内面に２条の沈線　釉：青磁色　胎土：灰白　K90窯式	－	－	(2.1)	－	－	－
71-16	巻2-1	緑釉　碗	口縁～胴部	LR59	６層	ロクロナデ　釉：オリーブ黄　胎土：灰白色(やや橙ががる)　大原２号	－	－	(2.2)	－	－	－
71-17	巻2-1	緑釉　碗･Ⅲ	胴部	LR61	－	ロクロナデ　釉：オリーブ黄　胎土：灰白色(やや橙ががる)　大原２号	－	－	(1.6)	－	－	－
71-18	巻2-1	緑釉　碗･Ⅲ	口縁部	LS56	－	釉：くすんだ抹茶色　胎土：灰色　K90窯式	－	－	(1.4)	－	－	－
71-19	巻2-1	緑釉　碗	口縁～胴部	MB50	テフラ混	ロクロナデ　釉：くすんだ抹茶色　胎土：灰色　71-25と同一個体か　K90窯式	－	－	(3.9)	－	－	－
71-20	巻2-1	緑釉　碗	口縁～胴部	MB50	Ⅲｃ層	ロクロナデ　釉：青磁色　胎土：灰色　　洛西産か	－	－	(3.8)	－	－	－
71-21	巻2-1	緑釉　碗	口縁～胴部	MB54	Ⅲｃ層	ロクロナデ　釉：くすんだ萌葱色　胎土：灰白色　K90窯式	－	－	(3.8)	－	－	－
71-22	24	緑釉　碗･Ⅲ	胴～台部	MB55	－	貼付高台？　釉：青磁～深緑(一部銀化)　胎土：灰白～灰色　K90窯式	(10.0)	(6.9)	(1.7)	－	－	－
71-23	巻2-1	緑釉　碗･Ⅲ	胴部	MB57	Ⅲ層	釉：萌葱色　胎土：灰白色　京都産か	－	－	(3.0)	－	－	－
71-24	巻2-1	緑釉　碗	口縁部	MB58	－	ロクロナデ　釉：くすんだ青磁色　胎土：灰白色　K90窯式	－	－	(2.2)	－	－	－
71-25	巻2-1	緑釉　碗	口縁部	MC51	Ⅲｃ層	ロクロナデ　釉：くすんだ抹茶色　胎土：灰色　Ｋ90窯式	－	－	(2.4)	－	－	－
72-1	巻2-1	緑釉　碗･Ⅲ	胴部	沢部	砂層	ロクロナデ　釉：若草色　胎土：灰白色　Ｋ90窯式	－	－	(3.0)	－	－	－
72-2	26	緑釉　瓶	胴部	LQ58	６層	クロナデ　釉：くすんだ萌葱色　胎土：黒灰色(銀化？)　K90窯式	－	－	(7.4)	－	－	－
72-3	26	緑釉　手付瓶	頸～肩部	MC45	Ⅲｃ層	ロクロナデ　釉：内面に若草色の釉付着、外面は露体？　胎土：灰白色(やや橙ががる)　K90窯式	－	－	(3.0)	－	－	－
72-4	26	緑釉　手付瓶	肩部	ME46	カクラン	ロクロナデ　釉：くすんだ若草色　胎土：灰白色(やや橙ががる)　K90窯式	－	－	(5.7)	－	－	－
72-5	26	灰釉　椀	口縁～胴部	LT48	－	ロクロナデ　釉：薄い釉膜　胎土：灰白色　東濃産　両面ハケ塗り	－	－	(4.3)	－	－	－
72-6	26	灰釉　瓶	肩部	LQ61	－	ロクロナデ　硬質重量感あり　胎土：２層化、灰白色(内側黄色がかる)　東濃産	－	－	(5.2)	－	－	－
72-7	26	灰釉　瓶	胴部	LS59	砂層	ロクロナデ　硬質重量感あり　釉：青磁色筋状　胎土：２層化、灰白色(内側黄色がかる)　東濃産　72-9と同一個体か	－	－	(3.6)	－	－	－
72-8	26	灰釉　瓶	胴部	MA49	Ⅲｃ層	軟質　胎土：灰白色　黒粒微量含む　東濃産	－	－	(3.2)	－	－	－
72-9	26	灰釉　瓶	胴部	MA60	Ⅱ～Ⅲｃ層	ロクロナデ　硬質重量感あり　釉：青磁色筋状　胎土：２層化、灰白色(内側黄色がかる)　東濃産　　72-7と同一個体か	－	－	(2.8)	－	－	－
72-10	24	灰釉　瓶	胴～底部	MB50	Ⅲｃ層	ロクロナデ　底：回転糸切り　内面の一部に青磁色の釉付着　胎土：灰白色、非常に硬質で重量感溢れる　13と同一個体か	－	(6.6)	(4.4)	－	－	－
72-11	26	灰釉　瓶	胴部	MB50	－	ロクロナデ　胎土：灰白色　東濃産	－	－	(2.8)	－	－	－
72-12	26	灰釉　瓶	胴部	MB60	Ⅱ層	ロクロナデ　釉：外面のみ薄い釉膜　胎土：２層化(内側黄色がかる)　東濃産	－	－	(2.9)	－	－	－
72-13	26	灰釉　瓶	胴下部	MD49	Ⅲｃ層	ロクロナデ　胎土：灰白色、非常に硬質で重量感溢れる　東濃産　10と同一個体か	－	－	(5.0)	－	－	－
72-14	26	灰釉　瓶	肩部	MD49	－	ロクロナデ　釉：オリーブ色　胎土：灰白色、黒粒含む　51-1、72-15･16と同一個体か	－	－	(3.9)	－	－	－
72-15	26	灰釉　瓶	胴部	MD49	－	ロクロナデ　釉：明青灰色筋状　胎土：灰白色、黒粒含む　51-1、72-14･16と同一個体か	－	－	(3.8)	－	－	－
72-16	26	灰釉　瓶	胴部	MD49	－	ロクロナデ　釉：オリーブ色　胎土：灰白色、黒粒含む　51-1、72-14･16と同一個体か	－	－	(2.9)	－	－	－
72-17	27	灰釉　瓶	肩～胴部	MA62･MB62	Ⅱ～Ⅲ層	ロクロナデ　硬質重量感あり　釉：青磁色　胎土：灰白色、黒粒含む　東濃産？	－	－	(5.8)	－	－	－
72-18	27	灰釉　瓶	肩～胴部	MB52	Ⅲ層	ロクロナデ　硬質重量感あり　釉：厚い釉膜　胎土：２層化灰色(内側黄がかる)　東濃産？	－	－	(12.0)	－	－	－

出土層位のアラビア数字は、北側沢地での層位を示す。

第13表　出土遺物一覧表（６）

挿図番号	図版番号	種　別	部　位	出土位置	出土層位	調整・特徴	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底径指数	高径指数	外傾度
72-19	24	白磁　碗	胴下～台部	LR55	－	内外面施釉　胎土：灰白色、混入物なし	－	－	(1.9)	－	－	－
72-20	27	白磁　碗	口縁部	MC49	Ⅲｃ層	内外面施釉　胎土：混入物なし　割口にタール状のもの付着　玉縁口縁　白磁Ⅳ類　72-22と同一個体か	－	－	(2.9)	－	－	－
72-21	27	白磁　碗	胴部	MD47	Ⅲｃ層	内外面施釉　胎土：混入物なし　白磁Ⅱ類	－	－	(3.7)	－	－	－
72-22	27	白磁　碗	口縁部	MF45	－	内外面施釉　胎土：混入物なし　玉縁口縁　白磁Ⅳ類　72-20と同一個体か	－	－	(2.3)	－	－	－
72-23	24	白磁　高台付碗	胴～台部	ME46	－	内面に沈線あり　胴下～台部露体　胎土：灰白色混入物なし　白磁Ⅱ類	(14.5)	(7.0)	(3.8)	－	－	－
73-1	28	須恵器　壺	肩部	LS58	－	外面：平行叩、内面：青海波アテ具　内面摩滅　黒色のシミあり　転用硯	－	－	(15.8)	－	－	－
73-2	28	須恵器　壺・甕類	胴部	LT47	－	内外面：平行叩　内面摩滅　黒色のシミあり　転用硯	－	－	(8.1)	－	－	－
73-3	28	須恵器　壺・甕類	胴部	不明	－	外面：平行叩、内面青海波アテ具　内面摩滅黒色のシミあり　転用硯	－	－	(6.8)	－	－	－
73-4	28	須恵器　二面硯（風字硯）	－	不明	－	内外面ミガキ　胎土：赤褐色	長さ：7.5、幅：9.6、厚さ：1.9、重量：81.4ｇ					
73-5	24	土製支脚	－	LT48	Ⅲｃ層以下	上面中央穿孔ドーナツ状　輪積痕・内面の指頭圧痕明瞭	上面径8.0、底面径9.0、高さ8.2（上・下面径は推定値）重量：307.8ｇ					
73-6		土製支脚	－	LT48	Ⅲｃ層	上面中央部やや窪み、器厚薄手	上面径9.5、底面径11.9、高さ4.5（上・下面径は推定値）　重量：201.0ｇ					
73-7	24	土製支脚	－	MB46	Ⅲｃ層	内面に指頭圧痕	上面径8.8、底面径9.6、高さ7.8（上・下面径は推定値）　重量：287.6ｇ					
73-8		土製支脚	－	MC43	Ⅳａ層	上面中央穿孔ドーナツ状・小礫多量に付着　内面に指頭圧痕あり	上面径10.8、底面径10.0、高さ6.4（上・下面径は推定値）　重量：228.6ｇ（樹脂含む）					
73-9	24	土製支脚	－	MC43	－	上部が一部ガラス化　内面に指頭圧痕	上面径9.4、底面径10.4、高さ7.6（上・下面径は推定値）　重量：208.7ｇ					
73-10	24	土製支脚	－	MC43・MD43	Ⅲ層以下他	上面中央穿孔ドーナツ状・平滑	上面径7.9、底面径9.8、高さ6.8（上・下面径は推定値）　重量：225.4ｇ（樹脂含む）					
74-1	28	土錘	－	LQ40・LR40	Ⅳ層	長さ：4.8、幅：1.4、厚さ：1.4、重量：8.9ｇ						
74-2	28	土錘	－	LS58	－	長さ：5.3、幅：1.9、厚さ：1.5、重量：10.9ｇ						
74-3	28	土錘	－	LT46	－	長さ：6.0、幅：4.9、厚さ：2.7、重量：53.2ｇ						
74-4	28	土錘	－	MA46	－	全面黒色　長さ：4.1、幅：1.5、厚さ：1.3、重量：6.6ｇ						
74-5	28	土錘	－	MB45付近	－	長さ：3.4、幅：1.2、厚さ：1.2、重量：4.0ｇ						
74-6	28	土錘	－	MD49	Ⅲｃ層	長さ：3.9、幅：1.7、厚さ：1.6、重量：7.9ｇ						
74-7	28	土錘	－	MF45	－	長さ：4.1、幅：2.4、厚さ：2.4、重量：18.4ｇ						
74-8	28	羽口	－	MB58	Ⅳａ層	先端部黒色ガラス化	長さ：4.4、幅：5.3、重量：40.2g					
74-9	28	羽口	－	MC43	Ⅳａ層	先端部平らで黒色ガラス化	長さ：3.5、幅：5.0、重量：37.9g					
74-10	28	羽口	－	南斜面	－	先端部黒色ガラス化	長さ：4.6、幅7.3、重量：62.7g					
74-11	28	鉄製品	－	MC43	－	種不明　棒状の鉄製品74-12と同一個体　長さ：3.4、幅：1.0、厚さ：0.6、重量：2.8g						
74-12	28	鉄製品	－	MC43	－	種不明　棒状の鉄製品74-11と同一個体　錆膨れあり　長さ：3.7、幅：0.7、厚さ：0.6、重量：2.4g						
74-13	28	椀形鍛冶滓	－	MB50	Ⅲｃ層	木炭圧痕あり	長さ：7.4、幅：10.3、重量：345.2g					
74-14	28	椀形鍛冶滓	－	ME48	Ⅲｃ層	灰白色粘土付着	長さ：8.9、幅：9.1、重量：353.2g					
75-1	29	砥石	－	LT47	Ⅲｃ層	上端部の砥面のみ欠損　それ以外の砥面に多数の筋状の傷多数あり　凝灰岩か	長さ：8.4、幅：4.8、重量：94.9g					
75-2	29	砥石	－	MB56	Ⅲｃ層	表面、両側面以外は欠損　砥面に筋状の傷多数あり　凝灰岩か	長さ：4.4、幅：3.1、重量：22.4g					
75-3	29	石匙	－	LT57	－	両面調整　素材周縁に細部調整　頁岩製	長さ：5.7、幅：6.1、重量：25.6g					
75-4	29	紅皿	－	MA57	Ⅱ層	紅痕あり	長さ：1.9、幅：3.0、重量：6.5g					
75-5	29	弥生土器	口縁～胴部	MA58	沢底	外面：口縁部に７条の平行沈線、沈線上に粘土瘤　胴部にLR斜め回転？　内面：ミガキ　外面は摩滅	－	－	(6.6)	－	－	－

出土層位のアラビア数字は、北側沢地での層位を示す。

第14表　出土遺物一覧表（７）

挿図番号	図版番号	種　別	出土位置	出土層位	備　　考	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)
76-1	30	平たい棒材	SK73	埋土	一端が裂ける	17.1	2.1	0.9
76-2	30	平たい棒材	SK73	埋土	一端が裂ける	22.8	2.7	1.1
76-3	30	棒材(断面円)	SK104	底面	棒状	14.6	1.0	9.3
76-4	30	ヘラ状材	SK104	底面	先端ヘラ状の棒材　先端が炭化　つけ木(燃えさし)か	23.6	1.7	0.8
76-5	30	棒状材	SK104	底面	加工痕あり　曲面を作出　RW３	96.9	10.8	6.2
76-6	30	棒状材	SK104	底面	加工痕あり　曲面を作出　※取り上げ時に分断　RW２	68.2	10.0	5.1
76-7	30	箸状	SK106	埋土	長さ20.9cm、径0.4cm			
76-8	30	棒材(断面角)	SK106	埋土	マッチ棒様	4.8	0.3	0.4
77-1	30	不明	SK104	底面	全面に細かい加工痕あり　※抉り部分は当初つながっていたものが破損　RW１	105.6	24.0	6.6
77-2	30	棒材(断面角)	SA101	－	先端がヘラ状　RW９	25.6	5.0	3.6
77-3	30	板材	SA101	－	一端が炭化　RW７	41.5	10.9	4.7
77-4	30	杭材	SA101	－	ミカン割材　RW８	46.7	20.5	9.8
77-5	30	杭材	SA101	－	ミカン割材　RW５	60.0	22.2	9.9
77-6	34	杭材	SA101	－	ミカン割材　RW６	64.7	27.9	10.3
77-7	30	杭材	SA101	－	ミカン割材　RW１	53.2	5.1	3.9
77-8	30	杭材	SA103	－	ミカン割材　RW２	52.3	13.7	11.0
77-9	30	杭材	SA103	－	ミカン割材　RW４	38.8	6.9	5.5
77-10	30	杭材	SA103	－	ミカン割材　RW１	34.0	18.4	15.4
77-11	30	杭材	SA103	－	ミカン割材　RW３	30.6	16.0	14.8
78-1	31	椀	LS59	６層	全体に黒漆塗布、一部被熱により炭化、78-3の真上から出土　口径16.6cm、低径7.3cm、高さ3.9cm(台部欠損)　ニレ科ケヤキ属ケヤキ			
78-2	31	蓋？	LS59	－	両面に黒漆塗布(剥落部分あり)　径13.4cm、高さ2.1cm(残存値)			
78-3	31	Ⅲ	LT59	６層	口径13.7cm(残存値)、低径10.0cm、高さ1.2cm			
78-4	31	Ⅲ	LS59	６層	口径15.8cm、低径10.8cm、高さ2.0cm　植物等による破損あり　78-1の真下から出土　ニレ科ケヤキ属ケヤキ			
79-1	31	Ⅲ	LS60	６層	長さ11.8cm×幅9.1cm×高さ1.3cm(残存値)　台径約10.5cm			
79-2	31	Ⅲ	LT59	－	長さ14.7cm×幅12.3cm×高さ1.1cm(残存値)　台径約13cm			
79-3	31	曲物(底板)	沢部	－	釘・木釘穴各１か所　長さ17.4cm×幅9.8cm×厚さ1.2cm(残存値)　直径推定約20cm			
79-4	31	曲物(底板)	沢部	－	径15.2cm、厚さ0.8cm　樺皮紐２か所(１対)残存　底面に細い直線的な傷あり			
79-5	31	曲物(底板)	LT60	６層	径約13.4cm×厚さ1.2cm			
80-1	31	曲物(底板)	LS59	泥炭上	４か所に釘穴、うち２か所に木釘残存、樺皮紐は両端付近に残存、その他樺皮用の溝が中央側縁に残存	43.5	7.6	1.7
80-2	31	曲物(底板)	MC57	６層	推定径27cm、厚さ1.3cm　木釘穴３か所あり			
80-3	31	下駄	LS61	６層	表面上部に炭化部部あり　前緒穴周辺・後緒穴下方に僅かな窪みあり	17.8	8.7	2.5
80-4	31	桧扇	LR61	６層	径0.7cmの穴、製作時の刃痕あり	22.5	2.9	0.2
80-5	31	桧扇	沢部	－	推定３mmの穴あり	15.1	2.1	0.2
81-1	31	題箋軸	沢部	－	棒状部分断面円形径0.9mm	16.5	2.8	1.3
81-2	31	板材(穴あき)	LS58	６層	径６mmの穴あり	16.4	3.8	0.8
81-3	31	板材(穴あき)	沢部	－	径５mmの穴あり	15.2	2.0	0.8
81-4	31	板材(穴あき)	LS60	６層	径２mmの穴２つあり	15.4	3.6	0.6
81-5	32	板材	LR61	６層		21.6	3.1	0.8
81-6	32	板材	LT60	６層		13.7	3.9	0.6
81-7	32	木簡	沢部	－	文字不明(片面のみ墨書)、尖端加工　スギ科スギ属スギ	14.7	2.7	0.4
81-8	32	板材	沢部	－	片面に「守」状の刻み？	15.1	4.5	1.0
81-9	32	形代	LQ60	－	両側縁に切り込み	13.4	2.5	0.7
81-10	32	斎串	LQ61	６層	一端が山形に加工	15.3	1.9	0.7
81-11	32	斎串	LS60	－	上端が弧状	9.1	2.5	0.6
81-12	32	板材(杭状)	沢部	－		21.6	3.8	0.9
81-13	32	板材(杭状)	沢部	－	木簡様(文字なし)、尖端加工、同じような間隔で折り目	60.1	3.5	0.7
82-1	32	串状材	LR59	６層	一端が尖端(錐状)加工　長さ16.2cm、径1.5cm			
82-2	32	串状材	LR61	６層	両端が山形加工　真ん中付近に折れ	18.3	1.6	0.6
82-3	32	串状材	沢部	－	一端が尖端加工	11.8	1.6	0.5
82-4	32	串状材	LS60	６層	一端が尖端加工	20.9	1.9	0.7
82-5	32	串状材	LS60	６層	一端が尖端加工	14.5	2.0	0.9
82-6	32	串状材	LS61	－	一端が尖端加工	9.4	1.3	0.3
82-7	32	串状材	沢部	－	一端が尖端加工	22.2	2.6	1.4
82-8	32	ヘラ状材	沢部	－	先端がヘラ状	15.6	2.2	1.9
82-9	32	串状材	沢部	－	一端が尖端加工	19.1	2.2	0.9
82-10	32	串状材	沢部	－	一端が尖端加工	13.0	1.1	0.7
82-11	33	箸状材	LT60	６層	長さ24.6cm、径0.6cm			
82-12	33	箸状材	LS61	６層	長さ22.0cm、径0.5cm			
82-13	33	箸状材	LS61	６層	長さ26.5cm、径0.6cm			

出土層位のアラビア数字は、北側沢地での層位を示す。

第15表　出土遺物一覧表（８）

挿図番号	図版番号	種　別	出土位置	出土層位	備　　考	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)
82-14	33	箸状材	LS61	６層		21.0	0.7	0.5
82-15	33	箸状材	LS61	６層		27.4	0.7	0.4
82-16	33	箸状材	LS61	６層	長さ26.0cm、径0.8cm	26.0	0.8	
82-17	33	箸状材	LS61・62	６層		25.1	0.6	0.4
82-18	33	箸状材	LS61・62	６層	長さ27.7cm、径0.8cm	27.7	0.8	
82-19	33	箸状材	LS61・62	６層	長さ26.7cm、径0.5cm	26.7	0.5	
82-20	33	箸状材	LS62	－		22	0.8	0.4
82-21	33	箸状材	LS62	－	長さ22.6cm、径0.5cm			
82-22	33	箸状材	LT58	５層	長さ19.3cm、径0.7cm			
82-23	33	箸状材	LT59	－	長さ16.3cm、径0.6cm			
82-24	33	箸状材	LT59	－	長さ20.3cm、径0.6cm			
82-25	33	箸状材	LT59	－	長さ21.6cm、径0.5cm			
82-26	33	箸状材	LT59	６層		18.1	0.9	0.4
82-27	33	箸状材	LT59	６層		18.9	0.8	0.5
82-28	33	箸状材	LT59	－		20.6	0.6	0.5
82-29	33	箸状材	LT60	６層		18.9	0.6	0.9
82-30	33	箸状材	LT60	６層		23.1	0.5	0.3
82-31	33	箸状材	MC58	６層	長さ26.5cm、径0.6cm			
82-32	33	箸状材	沢部	－		18.8	0.8	0.5
83-1	33	小杭状材	LQ59	－	角材使用	20.6	3.6	3.0
83-2	33	小杭状材	LQ61	６層		47.1	3.2	2.5
83-3	33	小杭状材	LT59	６層	板材使用	29.7	2.9	1.2
83-4	33	小杭状材	MA57	－	ミカン割材	19.9	2.5	1.9
83-5	33	小杭状材	MC57	６層	ミカン割材　両端杭状	30.8	3.3	2.2
83-6	33	先端炭化材	LS61・62	６層	つけ木(燃えさし)か	31.7	2.1	1.1
83-7	33	先端炭化材	沢部	－	つけ木(燃えさし)か	14.1	2.1	0.9
83-8	33	先端炭化材	沢部	－	つけ木(燃えさし)か	32.9	1.2	0.4
83-9	33	先端炭化材	沢部	６層	先端ヘラ状で一部炭化　長さ34.5cm、径2.3cm			
84-1	33	ヘラ状材	MA58	－		17.8	1.5	0.9
84-2	33	ヘラ状材	LR58・59	６層		13.3	2.3	0.9
84-3	33	ヘラ状材	LR61	６層		14.9	2.5	1.1
84-4	33	ヘラ状材	LS60	６層		17.3	1.1	0.5
84-5	33	ヘラ状材	LS60	６層		27	4	0.6
84-6	33	ヘラ状材	LS61	６層	竹ひご状	29.9	1.1	0.3
84-7	33	棒材(断面円)	LQ60	－	両端のおよぶ長い削り面を残す　上端部細かな面取り　長さ31.1cm、径2.5cm			
84-8	33	棒材(断面円)	LQ60	－	一端にくびれ状の削りだし　長さ27.4cm、径21.8cm			
84-9	33	棒材(断面円)	LT59	－	長さ20.5cm、径1.0cm			
84-10	33	棒材(断面円)	LR58・59	６層	長さ28cm、径2.5cm			
84-11	33	棒材(断面円)	MC58	６層		23.8	1.6	1.1
84-12	33	棒材(断面角)	LQ59	６層	角材	29.8	1.4	1.0
84-13	33	棒材(断面角)	LQ61	６層		26.7	1.9	1.4
84-14	33	棒材(断面角)	LQ61	６層	板材	32.6	2.7	10.0
84-15	33	棒材(断面角)	LQ61	６層	板材	28.4	2.7	1.1
84-16	33	棒材(断面角)	LS61	６層	角材	35.5	1.4	0.8
84-17	33	棒材(断面角)	LS59	泥炭上	角材	40.2	3.0	2.4
85-1	34	部材	LT60	６層	連結材　仕口で２つの材が結合　机等の脚か　スギ科スギ属スギ	21.0	17.1	6.2
85-2	34	部材	LR58	－	枘・枘穴あり　枘の先端部に径３mmの穿孔あり	22.8	3.3	3.8
85-3	34	部材	LT60	６層	枘穴(未貫通)あり　深さ約２cm	17.2	3.9	2.6
85-4	34	部材	LS59	６層	角穴あり	8.1	3.6	1.0
85-5	34	部材	沢部	－	角穴あり	6.0	4.4	0.9
85-6	34	部材	LT59	６層	楣　扉軸穴(片扉)あり(φ2.5cm)、他に仕口あり	60.0	15.5	2.6
86-1	34	部材	沢部	－	下端部に円形の穴？	30.3	12.0	5.0
86-2	34	板材	LT60	－	割板	83.9	21.3	2.6
86-3	34	板材	沢部	－	割板	84.5	17.6	2.4
86-4	32	柱材？	LT58・59	－	割板　足場材？	234.6	22.8	2.4

出土層位のアラビア数字は、北側沢地での層位を示す。

第4章　理化学的分析

第1節　家ノ浦Ⅱ遺跡の自然科学分析

はじめに

家ノ浦Ⅱ遺跡（秋田県にかほ市両前寺）は、標高200～500mのなだらかな台地からなる仁賀保高原から西側へ下る斜面を構成している丘陵上に位置する。調査区は、その丘陵を開析して日本海へ流下する両前寺川の右岸に形成された標高21m前後の斜面上に立地している。本遺跡の発掘調査では、10世紀前半頃を中心とする鍛冶関連の工房と祭祀の場であったことが明らかにされている。

本報告では、調査区南側斜面の堆積層に認められた火山灰（テフラ）層とみられる堆積物の特性、土坑から出土した焼骨片とみられる白色物質の同定、及び前述した堆積層や土坑、木道として使用された可能性がある自然木の年代の検討を目的として、自然科学分析調査を実施した。

1　放射性炭素年代測定

(1)試料

試料は、骨同定試料に供されたＳＫ38（試料番号1）、ＳＫ39（試料番号2）、及びＳＮ34焼土遺構（試料番号8）より出土した炭化材、後述するテフラ同定に供された不撹乱の土壌ブロック（試料番号6）中に挟在する黒～黒灰色の炭化物、さらに調査区北側から出土した木道の可能性がある木材（試料番号7）の5点である。

測定に供した試料については、試料の由来（履歴）確認として概査を行った結果、試料番号1が広葉樹、試料番号7・8がブナ属（*Fagus*）であることを確認した。また、試料番号6は、実体顕微鏡などによる観察では微細な植物繊維の集合体を呈し、簡易な灰像分析によりイネ属の植物珪酸体とその細胞列が検出された。なお、試料番号2は、炭化材が極めて細片であったことから、概査対象からは除外している。

(2)分析方法

土壌や根などの目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO_2を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO_2と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1㎜の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に^{13}C/^{12}Cの測

定も行うため、この値を用いてδ^{13}Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0.0（Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5,730±40年）を較正することである。暦年較正は、CALIB REV6.0.0のマニュアルにしたがい、１年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値を用いて行う。また、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用い、測定誤差σ、２σ（σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、２σは真の値が95%の確率で存在する範囲）双方の値を計算する。表中の相対比とは、σ、２σの範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。較正された暦年代は、将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、１年単位で表された値を記す。

（３）結果及び考察

各試料の同位体効果による補正を行った測定結果（補正年代）は、ＳＫ38の炭化材（試料番号１）が1,210±30yrBP、ＳＫ39の炭化材（試料番号２）が1,160±20yrBP、南側斜面３の炭化物（試料番号６）が1,170±30yrBP、北側沢地出土遺材とされる木材（試料番号７）が1,410±30yrBP、ＳＮ34焼土遺構の炭化材（試料番号８）が1,220±30yrBPを示す。較正暦年代（測定誤差σ）は、試料番号１がcalAD 777～calAD 868、試料番号２がcalAD 784～calAD 950、試料番号６がcalAD 782～calAD 933、試料番号７がcalAD 619～calAD 652、試料番号８がcalAD 728～calAD 868であった（第16表，第87図）。

以上の結果を参考とすると、土坑試料（SK38・39）と南側斜面の堆積層に認められた堆積層中の炭化物は、８世紀後半から９世紀後半、及び10世紀前半～中頃という暦年代の範囲に収まる。また、焼土遺構（ＳＮ34）はこれよりやや古い値と言える。一方、調査区北側の沢地から出土した木材の暦年代は、７世紀代と上記した各試料に比べ明らかに古い。この年代が木道として使用された年代（伐採年代）であるとすれば、集落の主体となる時期よりも以前に構築された遺構である可能性がある。ただし、その年代観の確定には、この他に多数出土しているとされる木製品などの測定事例の蓄積、及びその年代との比較検討が必要と考えられる。

２　テフラ分析

（１）試料

試料は、両前寺川に面した調査区南側斜面の堆積層より不撹乱の土壌塊として採取された、灰白色を呈する均質なシルトである（試料番号４～６）。この灰白色シルト中には、色調や粒径が異なる砕屑物からなる層理が認められ、さらに厚さ数㎜の黒色を呈する微細な炭化物層が狭在する。発掘調査所見によれば、灰白色シルトは筋状に多数挟まれており、斜面上部からの再堆積層であると考えられている。また、灰白色シルトの実体顕微鏡観察では、含有される砂分は微量であるが、鉱物粒や火山ガラスなどを認めることができた。

（２）分析方法

テフラ層とされる灰白色シルト部分を削り取り、蒸発皿に入れ、水を加えて泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象として観察し、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。火山ガラスについては、その形態によりバブル型と中間型、軽石型に分類する。バブル型は薄手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分であるY字状の高まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの、軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状及び気泡の長く延びた繊維束状のものとする。

実体顕微鏡観察の後に、砂分を篩別して、得られた粒径1/4㎜、1/8㎜の砂分を、ポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96に調整）により重液分離し、得られた重鉱物を偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定し、その粒数の割合から重鉱物組成を求める。同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒は「その他」とする。

さらに軽鉱物分については、火山ガラスを抽出し、その屈折率を測定することにより、テフラ同定のための指標とする。屈折率の測定は、古澤（1995）のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

（３）結果

処理後の砂分の観察結果を第17表に示す。火山噴出物の本質物質としては、3点の試料ともに微量の火山ガラスが含まれる。火山ガラスは、無色透明のバブル型と軽石型が混在する。砂分を構成する主たる砕屑物は白色～透明の石英や長石などの鉱物粒と濃い緑色や褐色を呈する輝石類の鉱物粒、さらに暗灰色を呈する安山岩片や凝灰岩片などが認められる。

重鉱物組成を第18表、第88図に示す。3点の試料ともに斜方輝石と不透明鉱物が同量程度で多く、次いで単斜輝石が多い。ただし、試料番号６については、単斜輝石も斜方輝石や不透明鉱物と同量程度に多く含まれる。さらに３点の試料には少量の角閃石が含まれ、試料番号5には極めて微量のジルコン、試料番号６には極めて微量の緑廉石も含まれる。

火山ガラスの屈折率測定結果を第89図に示す。３点の試料は、レンジおよびモードともにほぼ同じ値を示す。レンジは、n1.499または1.498から1.502または1.503までであり、モードはn1.500である。

（４）考察

テフラとされた灰白色シルトは、処理前の観察でも砂分が微量であることが確認され、処理後の砂分でも火山噴出物の本質物質と考えられる火山ガラスは微量しか得られなかった。この状況から、灰白色シルトは、火山ガラス質テフラが風化により粘土化した堆積物であると推定される。発掘調査所見では斜面上部からの再堆積層であると考えられているが、今回の試料で観察する限りにおいては灰白色シルトのブロック内部にはほとんど土壌の混在が認められない。このことから、再堆積する過程においてテフラ層の直上や直下の土壌が混入しないような厚いテフラ層に由来する可能性がある。ただし、家ノ浦Ⅱ遺跡の立地する秋田県南部において、後期更新世までのテフラの中では、そのような厚い堆積層を形成するテフラ層は認められていない（例えば町田ほか（1981;1984）、Arai et

al.(1986)、町田・新井(2003)など)。

現時点では、家ノ浦Ⅱ遺跡周辺の中期更新世以前のテフラの産状は不明であるが、上述したように土壌の混在が認められないことは、丘陵の表層に形成された土壌中に挟まれているテフラ層に由来するものではないことを示唆していると考えることができる。すなわち、丘陵を構成するいわゆる基盤地質に由来する可能性がある。丘陵を構成する地質は、新第三紀鮮新世の泥岩からなる天徳寺層であり、厚さ数10㎝から２ｍとされる酸性凝灰岩が複数挟まれている(大沢ほか,1982)。同文献の地質図によれば、家ノ浦Ⅱ遺跡の立地する斜面上にも凝灰岩層が分布していることから、今回検出された灰白色シルトブロックは、斜面上方に露出した天徳寺層中の凝灰岩層に由来する可能性がある。このことは、灰白色シルトブロックが風化の進んだテフラであることとも整合する。天徳寺層中の凝灰岩層については、火山ガラスの形態や屈折率などの分析例はないために、今回の分析結果から詳細な対比をすることはできない。今後、遺跡周辺における凝灰岩層の産状やその分析による検証が必要であると考えられる。

なお、家ノ浦Ⅱ遺跡が、10世紀前半頃の年代を中心とするとされていることから、西暦915年に東北地方一帯に降灰した十和田ａテフラ(To-a:町田ほか,1981;1984;町田・新井,2003)あるいは10世紀中頃に東北地方北部から北海道にかけて降灰した白頭山苫小牧テフラ(B-Tm:町田ほか,1981;1984;町田・新井,2003)が、降灰時に偶々、良好に保存されるような状況であったという想定もある。ただし、残存している火山ガラスが微量である(すなわち風化が進んでいる)ことと火山ガラスの屈折率が上記いずれのテフラとも一致しないこと、さらには角閃石を含む重鉱物組成などから、その可能性は低いと考えられる。

３　骨同定

(１)試料

試料は、ＳＫ38土坑(試料番号１)、ＳＫ39土坑(試料番号２)、ＳＫＰ633柱穴様ピット(試料番号３)の各遺構埋土から出土した焼骨と考えられる白色物質である。

(２)分析方法

各試料に認められた白色物質は、土壌(褐色土)から分離や水洗などを行うと形質を損なう恐れがあったことから、今回は土壌塊のままの状態で肉眼観察をし、その形態的特徴から種と部位の同定を行った。

(３)結果

各試料に認められた白色物質は、焼骨と判断された。ただし、いずれも骨端部が残存しておらず、また微細な破片であったため、種類および部位の特定には至らなかった。

引用文献

Arai,F.・Machida,H.・Okumura,K.・Miyauchi,T.・Soda,T.・Yamagata,K,1986,Catalog for late quaternary marker-tephras in JapanⅡ-Tephras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido-.Geographical reports of Tokyo Metropolitan University No.21,223-250.

古澤　明, 1995, 火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別.地質学雑誌, 101, 123-133.

町田　洋・新井房夫, 2003, 新編　火山灰アトラス. 東京大学出版会, 336p.

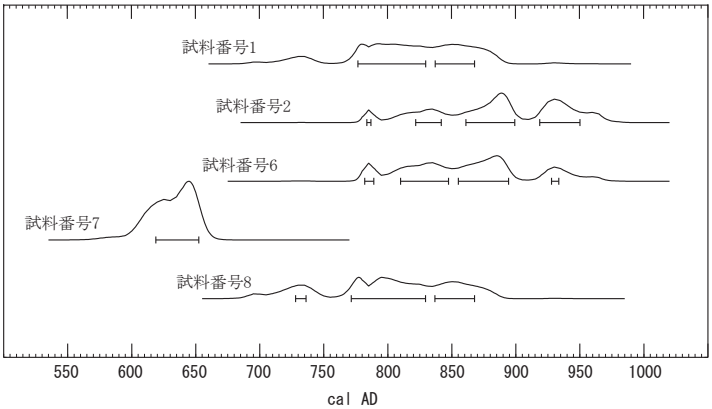
町田　洋・新井房夫・森脇　広, 1981, 日本海を渡ってきたテフラ. 科学, 51, 562-569.

町田　洋・新井房夫・杉原重夫・小田静夫・遠藤邦彦, 1984, テフラと日本考古学-考古学研究と関連するテフラのカタログ-. 渡辺直経(編)古文化財に関する保存科学と人文・自然科学. 同朋舎, 865-928.

大沢　穠・池辺　穣・荒川洋一・土谷信之・佐藤博之・垣見俊弘, 1982, 象潟地域の地質（酒田地域の一部,飛島を含む）. 地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所, 73p.

第16表　放射性炭素年代測定及び暦年較正結果

試　料	補正年代 (yrBP)	δ^{13}C (‰)	補正年代 (暦年較正用) (yrBP)	暦年較正年代（cal）								相対比	測定機関 Code No.
試料番号１ ＳＫ38 土坑出土骨 炭化材（広葉樹）	1,210±30	-25.12±0.56	1,208±26	σ	cal	AD	777	-	cal	AD	830	0.637	IAAA-112035
					cal	AD	837	-	cal	AD	868	0.363	
				2σ	cal	AD	716	-	cal	AD	744	0.073	
					cal	AD	768	-	cal	AD	890	0.927	
試料番号２ ＳＫ39 土坑出土骨 炭化材（－）	1,160±20	-25.25±0.56	1,155±24	σ	cal	AD	784	-	cal	AD	787	0.021	IAAA-112036
					cal	AD	822	-	cal	AD	842	0.154	
					cal	AD	861	-	cal	AD	899	0.463	
					cal	AD	919	-	cal	AD	950	0.361	
				2σ	cal	AD	779	-	cal	AD	792	0.050	
					cal	AD	803	-	cal	AD	904	0.602	
					cal	AD	913	-	cal	AD	969	0.348	
試料番号６ 南側斜面３ 炭化物（イネ属）	1,170±30	-24.40±0.35	1,167±25	σ	cal	AD	782	-	cal	AD	789	0.070	IAAA-112037
					cal	AD	810	-	cal	AD	847	0.387	
					cal	AD	855	-	cal	AD	894	0.490	
					cal	AD	928	-	cal	AD	933	0.052	
				2σ	cal	AD	777	-	cal	AD	899	0.846	
					cal	AD	918	-	cal	AD	954	0.148	
					cal	AD	957	-	cal	AD	961	0.006	
試料番号７ 北側沢地出土遺材 木材（ブナ属）	1,410±30	-24.35±0.45	1,413±26	σ	cal	AD	619	-	cal	AD	652	1.000	IAAA-112038
				2σ	cal	AD	598	-	cal	AD	661	1.000	
試料番号８ ＳＮ34 焼土遺構 炭化材（ブナ属）	1,220±30	-26.44±0.71	1,221±26	σ	cal	AD	728	-	cal	AD	736	0.070	IAAA-112228
					cal	AD	771	-	cal	AD	829	0.625	
					cal	AD	837	-	cal	AD	868	0.305	
				2σ	cal	AD	694	-	cal	AD	702	0.016	
					cal	AD	707	-	cal	AD	747	0.175	
					cal	AD	765	-	cal	AD	885	0.808	

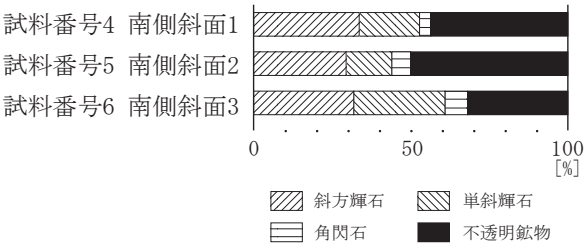


第87図　暦年較正結果

第17表　テフラ観察結果

試料番号	試料名	スコリア	火山ガラス		軽石	その他の砕屑物
		量	量	色調・形態	量	
4	南側斜面1	－	＋	cl・bw, cl・pm	－	qz, pl, opx, cpx, An, Tf
5	南側斜面2	－	＋	cl・bw, cl・pm	－	qz, pl, opx, cpx, An, Tf
6	南側斜面3	－	＋	cl・bw, cl・pm	－	qz, pl, opx, cpx, An, Tf

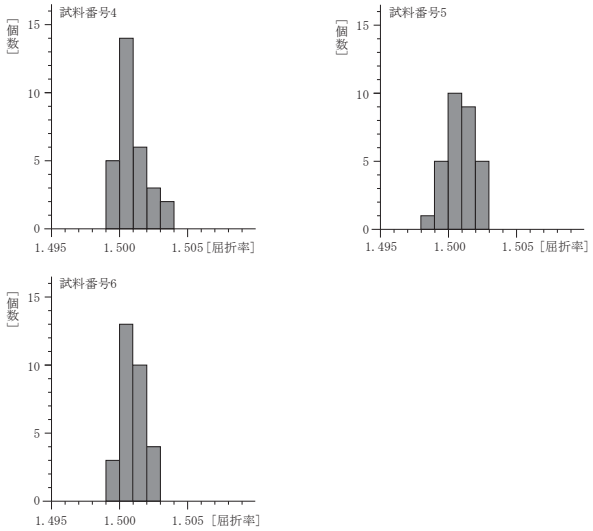
＜凡例＞
－:含まれない．(＋):きわめて微量．＋:微量．＋＋:少量．＋＋＋:中量．＋＋＋＋:多量．
cl:無色透明．br:褐色．bw:バブル型．md:中間型．pm:軽石型．
qz:石英．Pl:斜長石．opx:斜方輝石．cpx:単斜輝石．An:安山岩片．Tf:凝灰岩片．



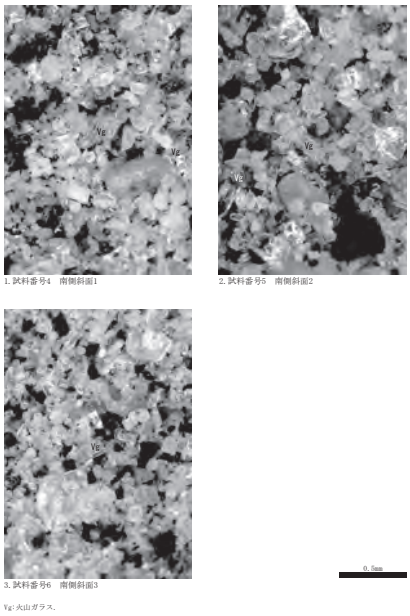
第88図　重鉱物組成

第18表　重鉱物分析結果

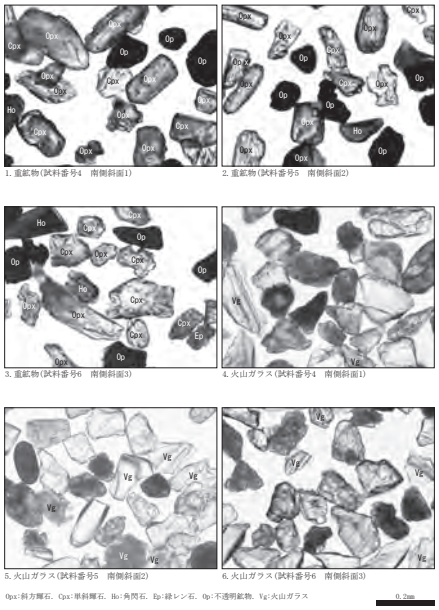
試料番号	試料名	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	緑レン石	ジルコン	不透明鉱物	その他	合計
4	南側斜面1	84	48	9	0	0	109	0	250
5	南側斜面2	73	36	15	0	1	124	1	250
6	南側斜面3	79	72	18	1	0	79	1	250



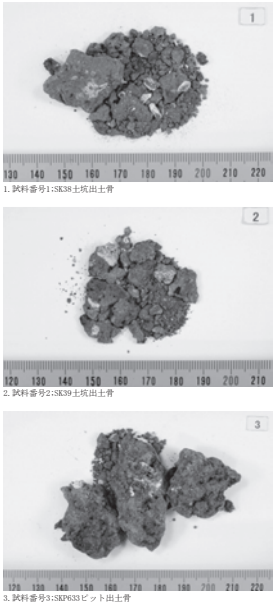
第89図　火山ガラス屈折率



第90図　テフラ試料の砂分の状況



第91図　テフラ試料の重鉱物と火山ガラス



第92図　骨同定試料の状況

第２節　家ノ浦Ⅱ遺跡出土木製品の樹種調査

（１）試料

試料は秋田県家ノ浦Ⅱ遺跡から出土した服飾具３点、容器３点、祭祀具２点、建築部材１点、用途不明品９点の合計18点である。

（２）観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

（３）結果

樹種同定結果（針葉樹１種、広葉樹１種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

１）スギ科スギ属スギ(*Cryptomeria japonica* D.Don)

（遺物№1, 2, 5～18）

（写真№1, 2, 5～18）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で１分野に１～３個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

２）ニレ科ケヤキ属ケヤキ(*Zelkova serrata* Makino)

（遺物№3, 4）

（写真№3, 4）

環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管（～270μm）が1列で孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集団管孔を形成している。軸方向柔細胞は孔圏部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している（イニシアル柔組織）。放射組織は1～数列で多数の筋として見られる。柾目では大道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。板目では放射組織は少数の１～３列のものと大部分を占める6～7細胞列のほぼ大きさの一様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の上下端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。

参考文献

林　昭三「日本産木材顕微鏡写真集」京都大学木質科学研究所(1991)

伊東隆夫 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」京都大学木質科学研究所(1999)

島地　謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版(1988)

北村四郎・村田　源「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」 保育社(1979)

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇」(1985)

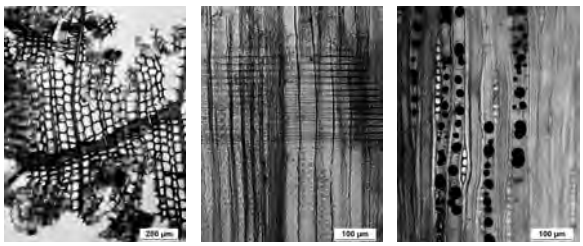
奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始篇」(1993)

使用顕微鏡

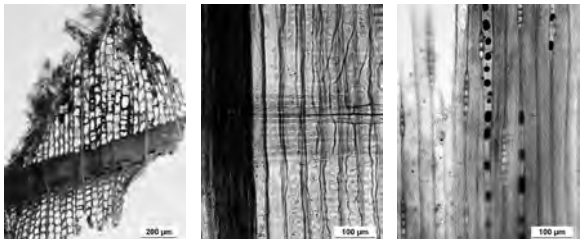
Nikon DS-Fi1

第19表　家ノ浦Ⅱ遺跡出土木製品同定表

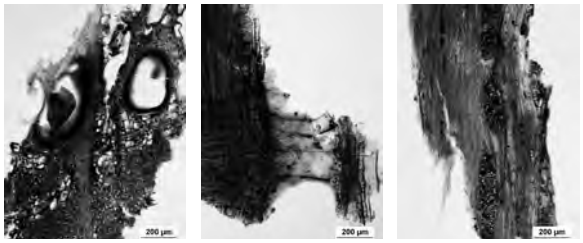
No.	品　　名	樹　　種	挿図番号
1	板材	スギ科スギ属スギ	第81図－８
2	曲物(底板)	スギ科スギ属スギ	第79図－４
3	蓋？	ニレ科ケヤキ属ケヤキ	第78図－２
4	皿	ニレ科ケヤキ属ケヤキ	第78図－３
5	先端炭化材	スギ科スギ属スギ	第83図－９
6	曲物(底板)	スギ科スギ属スギ	第80図－１
7	形代	スギ科スギ属スギ	第81図－９
8	題箋軸	スギ科スギ属スギ	第81図－１
9	串状材	スギ科スギ属スギ	第82図－５
10	檜扇	スギ科スギ属スギ	第80図－４
11	下駄	スギ科スギ属スギ	第80図－３
12	棒材(断面円)	スギ科スギ属スギ	第84図－８
13	棒材(断面円)	スギ科スギ属スギ	第84図－７
14	部材	スギ科スギ属スギ	第85図－２
15	ヘラ状材	スギ科スギ属スギ	第82図－８
16	板材	スギ科スギ属スギ	第81図－13
17	部材	スギ科スギ属スギ	第85図－６
18	檜扇	スギ科スギ属スギ	第80図－５



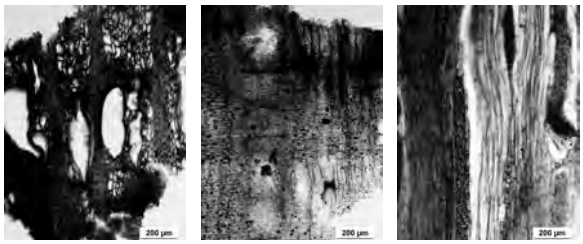
木口　柾目　板目
No-1　スギ科スギ属スギ



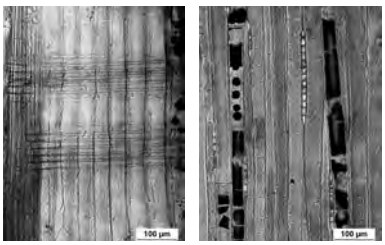
木口　柾目　板目
No-2　スギ科スギ属スギ



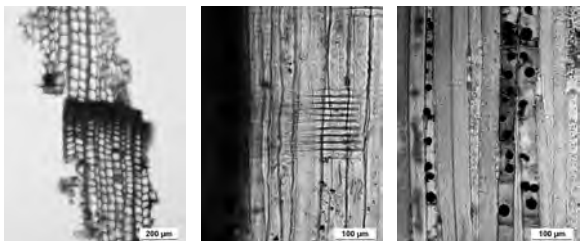
木口　柾目　板目
No-3　ニレ科ケヤキ属ケヤキ



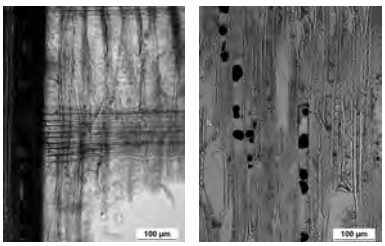
木口　柾目　板目
No-4　スギ科スギ属スギ



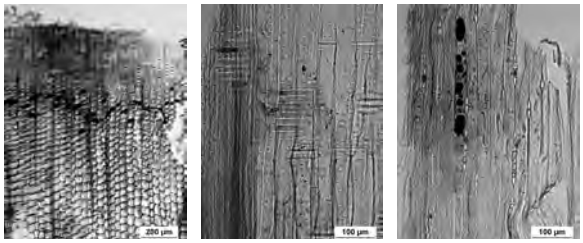
木口　柾目　板目
No-5　スギ科スギ属スギ



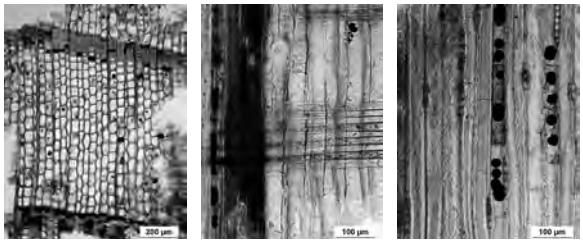
木口　柾目　板目
No-6　スギ科スギ属スギ



木口　柾目　板目
No-7　スギ科スギ属スギ

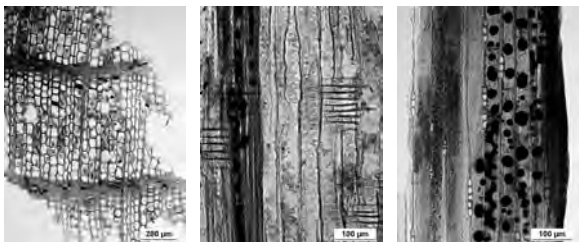


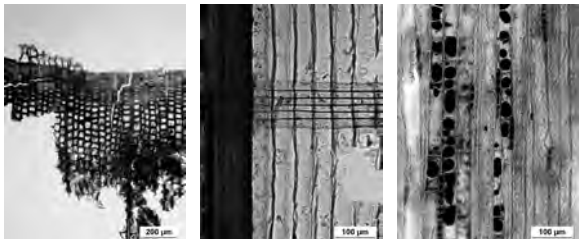
木口　柾目　板目
No-8　スギ科スギ属スギ

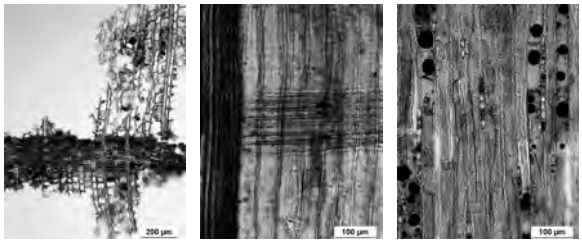


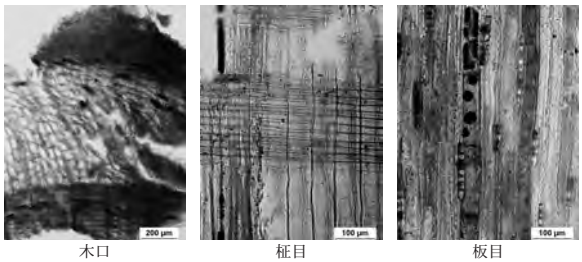
木口　柾目　板目
No-9　スギ科スギ属スギ

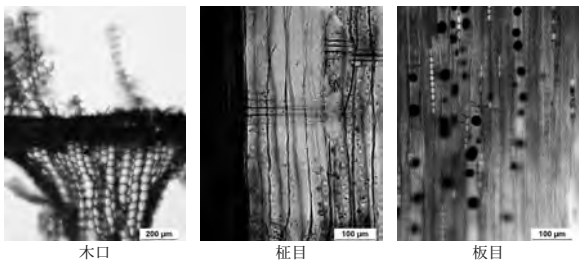
第93図　プレパラート顕微鏡写真（１）

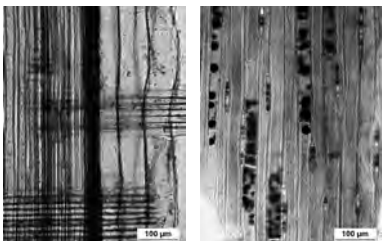

木口　柾目　板目
No-10　スギ科スギ属スギ

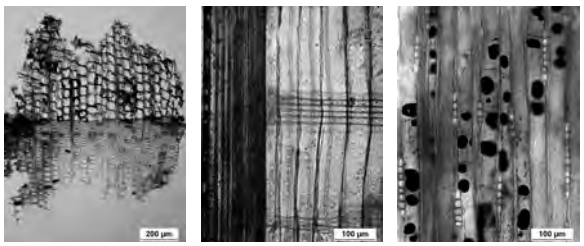

木口　柾目　板目
No-11　スギ科スギ属スギ

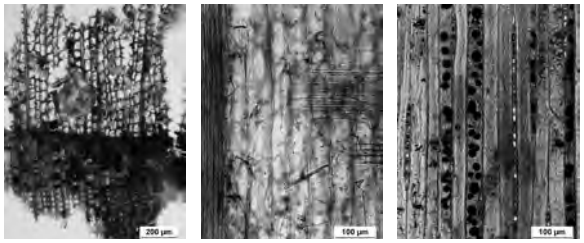

木口　柾目　板目
No-12　スギ科スギ属スギ

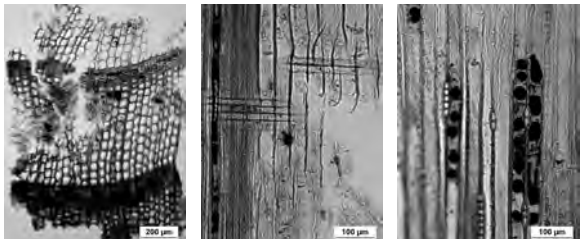

木口　柾目　板目
No-13　スギ科スギ属スギ


木口　柾目　板目
No-14　スギ科スギ属スギ


木口　柾目　板目
No-15　スギ科スギ属スギ


木口　柾目　板目
No-16　スギ科スギ属スギ


木口　柾目　板目
No-17　スギ科スギ属スギ


木口　柾目　板目
No-18　スギ科スギ属スギ

第94図　プレパラート顕微鏡写真（２）

第５章　総括

今回の調査で本遺跡は、平安時代を中心とする祭祀や鍛冶作業の場であることがわかった。以下に遺構の変遷、特徴的な遺物、立地、周辺遺跡の特徴等をふまえ、本遺跡周辺の様相を考察したい。

１　遺構の性格と変遷

（１）遺構の性格

①ＳＢ114・116掘立柱建物跡

総柱掘立柱建物跡であるＳＢ114は他の建物より柱穴が大きく深さもあるため、より安定した構造の建物だったと推測する。これと桁方向の柱筋を同じくするのがＳＢ116掘立柱建物跡である。２つの建物は、祭祀遺構と想定するＳＱ65敷石遺構が構築されているＳＤ26溝跡と平行する位置にあるため、水辺（溝）で行われた祭祀で使用された建物と推測する。また、これらと平行する位置関係にあるＳＡ125・126・127柵列跡も同時期と考える。なお、２つの建物には、南東隅に隅丸方形平面の深い土坑（ＳＫ48・67）が位置するという共通点がある。

②ＳＢ115掘立柱建物跡

建物跡内に位置するＳＳ09鍛冶炉やＳＮ32・33・52焼土遺構の存在から、ＳＢ115掘立柱建物跡(註1)は鍛冶工房跡と考えられる。この建物を構成する南東隅の柱穴（Ｐ５）からは、地鎮等で埋納されたと見られる土師器の坏が出土しているが、この柱穴は桁方向の柱筋からややずれ、また平面形も小さいため、南側への一間分の増築を示すものである可能性がある。

③溝跡

主な溝跡を概観すると、ＳＤ57溝跡は盛土による西側整地地業前の平坦面の縁に沿って延びるため、整地前の地形に沿って作られたと考えられる。つまり整地前に作られた可能性が高いといえる。ＳＤ26・70・60溝跡の新旧関係は、切り合いからＳＤ60がＳＤ26より古いことがわかり、ＳＤ26とＳＤ70は、ＳＢ114･116掘立柱建物跡と平行する部分があるため、同時期と考えられる。ＳＢ116については、西側整地地業前の斜面の肩部にあるＰ１（ＳＫＰ620）が、当初から不安定な斜面に柱を据えたとは考えにくいため、整地地業で拡張された平坦面に柱穴を掘り込み建物を構築したと推測する。以上を整理すると新旧関係は、ＳＤ57・60→西側整地地業→ＳＢ114・116・ＳＡ127及びＳＤ26・70の順となる。溝（ＳＤ60）と土坑（ＳＫ22・27）による祭祀の場としての利用から建物（ＳＢ114・116）を伴う祭祀への移行と、また次の段階としてＳＤ60を直線化し建物に平行させたＳＤ26の掘削とＳＱ65敷石遺構の構築による新たな祭祀場としての使用が想定できる。ＳＤ26・60埋土からは埋没過程で廃棄された鉄床石や被熱礫が出土しているため、これらの遺構が廃絶した後、ＳＢ115鍛冶工房跡などにおいて本格的な鍛冶作業が行われるようになったと推測する。

（２）調査区内の使われ方と主要遺構の変遷（第95図）

以上の遺構群の性格や新旧関係をもとに、調査区内の使われ方の変遷をまとめると次のようになる。

Ⅰ期：北側沢地祭祀開始

Ⅱ期：西側整地地業前　　ＳＤ57・60溝跡、ＳＫ22・27土坑等祭祀、北側沢地祭祀、南側斜面祭祀

Ⅲ期：西側整地地業→中央部整地

ＳＢ114・116等建物群・ＳＡ125・126・127柵列跡、ＳＤ26・60溝跡・ＳＱ65敷石遺構、土坑祭祀、北側沢地祭祀、南側斜面祭祀

Ⅳ期：鍛冶作業の盛行　ＳＢ115建物跡・ＳＳ09鍛冶炉 → ＳＮ34焼土遺構、南側斜面祭祀

北側沢地の利用開始は須恵器蓋（第59図15）や黒笹90号窯式の緑釉陶器（第71図６）の出土から９世紀代に遡り、西側整地やＳＫ27等の廃絶時期よりも古い時期になると推測する。これをⅠ期とする。Ⅱ期は、沢地、溝、土坑、南側斜面を使用した遺物廃絶儀礼を中心とする祭祀の場として使われたと推測する。南側斜面の使用は、両前寺川の浸食作用で上限は不明であるが、整地地業前の旧地表面であるⅣｂ層を由来とするⅣａ層の堆積により少なくとも当期からの使用が確認できる。Ⅲ期では、西側の盛土整地とともにＳＢ114・116等の建物群が作られる。これらとともに、東側に平行してＳＤ26が掘削され、ＳＤ60の交点にＳＱ65敷石遺構が作られる。これらの遺構群は、祭祀に伴うものと考えられる。Ⅱ～Ⅲ期の年代については、各遺構出土遺物から９世紀後葉から10世紀前葉頃と想定する。Ⅳ期では、平坦面においては鍛冶作業が盛行するようになる。Ⅳ期の始まりは10世紀前葉以降、南側斜面祭祀の終末は、Ⅲｂ層出土土師器（第64図14）から10世紀後半から11世紀初葉頃と推測される。

２　出土遺物の特徴

（１）施釉陶器（第96図）

本遺跡からは、少なくとも16個体分の緑釉陶器（34点：828.6ｇ）、８個体分の灰釉陶器（24点：455.6ｇ）が出土した。緑釉陶器は、黒笹90号窯式を中心に大原２号窯式、洛西産が僅かに含まれ、器種は、碗・皿類が中心で瓶類が１～２個体（９点）含まれる。灰釉陶器は、黒笹90号窯式、東濃産があり、碗１点を除き全て壺・瓶類である。緑釉陶器・灰釉陶器は９世紀後葉から10世紀前葉に至る時期幅があり、灰釉陶器の方がやや年代的に新しい物が含まれる。出土した場所は、ほとんどが包含層からの出土である。中でも北側の沢地周辺が多く、中央部にもやや集中するが建物群との関係は不明である。10世紀前後の出羽北部では土坑や水辺に土器を廃棄する廃絶儀礼が知られており[註2]、本遺跡も９世紀後半から一定期間にわたり、北側の沢地（水辺）を中心に施釉陶器の廃絶儀礼を行う場所として使用されていたと考えられる。施釉陶器は、廃絶儀礼に伴い本遺跡に持ち込まれたものと想定される。

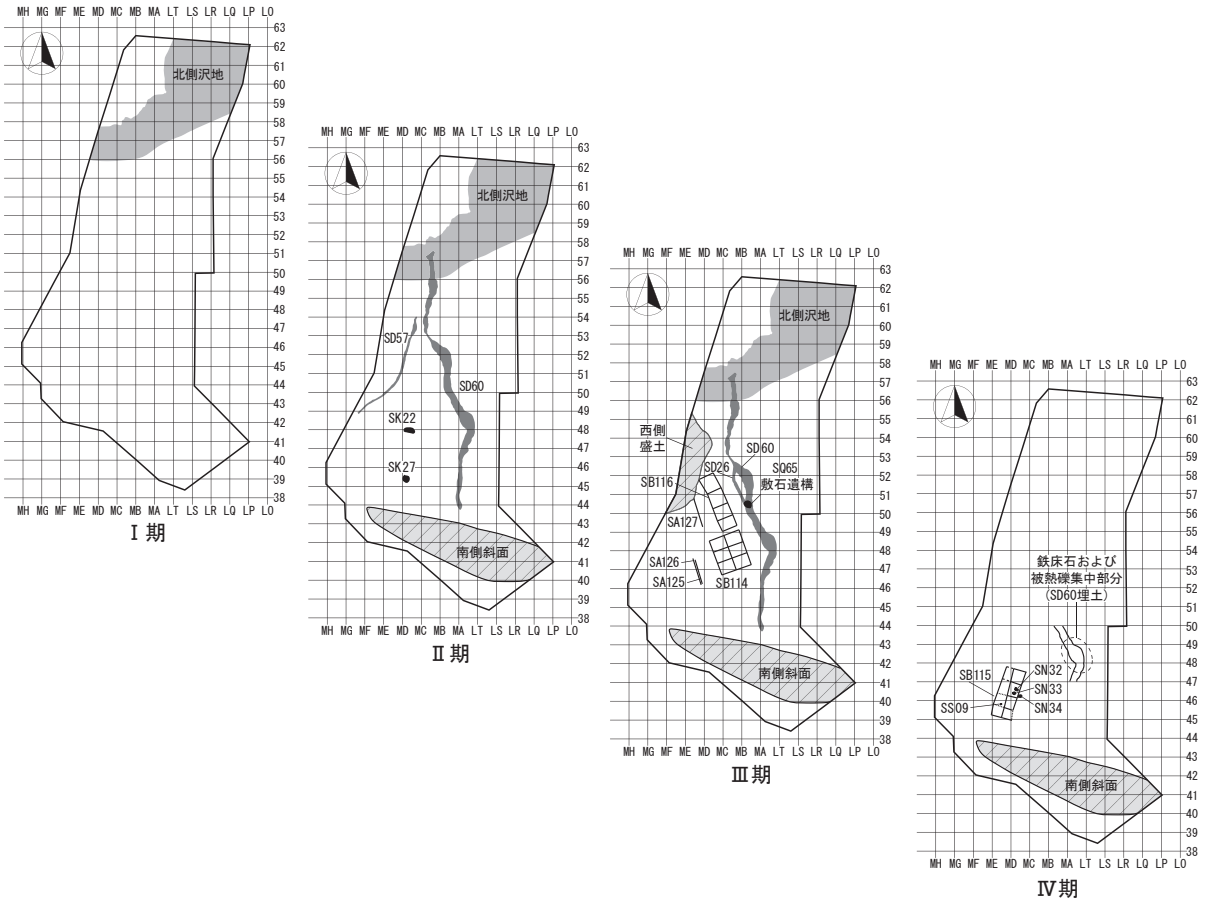
（２）定形硯及び文字関連遺物

本遺跡からは風字硯（二面硯）が出土している。また、文字関連遺物では、出土した31点の墨書土器のうち「貯」または、貯を意味すると見られる貯の左辺の「貝」、右辺の「宇・守」を墨書した土器が12点（貯：７、守：３、貝：２）出土していることが注目される。「貯」が記された墨書土器の出土例は、他に県内ではみられず、字義の解明が本遺跡の性格を検討する上で重要な課題となろう。

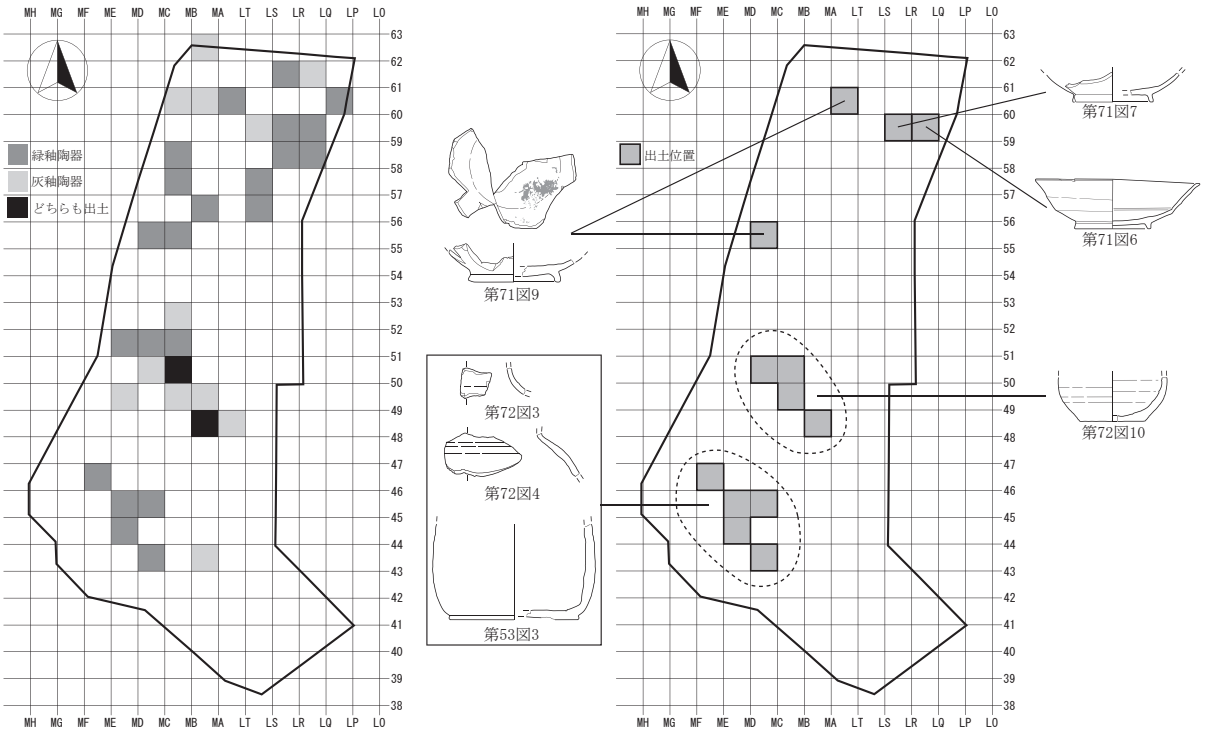
３　まとめ

本遺跡から出土した施釉陶器の個体数・出土点数は、本県においては秋田城跡及び払田柵跡に次ぐものであり、本遺跡を特徴づける突出した量となっている[註3]。そのため官衙や有力者の邸宅[註4]のなどの存在も想定されるが、本遺跡ではこれに相応する規模・形態を示す建物群等は見あたらない。

ここで本遺跡周辺の同時期の遺跡群を検討すると、家ノ浦遺跡では西の国道側から延びる道路跡と平安時代から中世に至る25基の掘立柱建物跡が検出されている。立沢遺跡では掘立柱建物跡や製塩作業場が検出され、越州窯系の青磁や仏具である鉄鉢を模した土師器が出土している。横枕遺跡では居



第95図　主要遺構の変遷



第96図　緑釉陶器・灰釉陶器出土位置

住施設と鍛冶作業場が検出され、そして本遺跡は、祭祀場と鍛冶作業場であることが判明している。出土遺物で注目されるのが、家ノ浦・本遺跡出土の風字硯、立沢遺跡出土の円面硯といった官衙に特徴的な定形硯、家ノ浦遺跡出土の題箋軸木簡や石帯、本遺跡出土の題箋軸等で、これらの遺物は文書を管理していた公的な施設が近くにあった可能性が高いことを示唆している。以上の状況に加え、本遺跡の南1.3ｋｍに位置する清水尻Ⅱ遺跡では、９世紀後葉から10世紀前半の官道が確認されている。(註５) この官道の続きは本遺跡南側の高台にある横枕遺跡の調査では確認されなかった。島方洸一氏らは、高台を避け丘陵地末端部を通るルート、つまり本遺跡の西に接する国道７号線付近を駅路等重要古代道路の指定ラインとして地図上に示している。(註６) 前述した遺跡群はこの推定ライン沿いに分布しており、官道と時期的にも矛盾はないため同時存在した遺跡群である可能性が高いといえる。以上から本遺跡や周辺の遺跡群は、官道と係わりのある人々の作業場兼居住域、祭祀場兼作業場等であったことが想定され、そこでは鍛冶や製塩など馬との関連をうかがわせる作業が行われている点が注目される。丘陵地末端部を通る官道に沿って遺跡が帯状に分布するのは、地盤の安定した広い平坦面がないためと考えられる。

清水尻Ⅱ遺跡の官道、蚶方駅と由理駅の推定地の中ほどにあり、厩牧令の駅間距離三十里（約16㎞）に近い点など、本遺跡は駅が存在しても不都合ない環境にある。しかしながら駅家の構造は、築地塀で囲まれた駅館院を中心としており、(註７・８) 本遺跡周辺ではこのような施設は確認されていない。現状では本遺跡周辺に駅が存在したとはいえないが、蚶方駅と由理駅の推定地間の距離は30㎞以上あるため、駅間に駅使等に対する支援や道路の維持管理を目的とした施設が存在した可能性は考えられるだろう。(註９) 想定される施設の核心部は今のところ不明であるが、家ノ浦遺跡周辺や阿部舘遺跡北東側部分などが想定され、家ノ浦遺跡の道路跡は、官道からの引き込み路であった可能性がある。

本章では、施釉陶器、定形硯、題箋軸木簡等の官衙に特徴的な遺物や清水尻Ⅱ遺跡の官道などから、本遺跡周辺には、駅使等の支援や道路の維持管理を行う施設が存在した可能性を想定し得る点を指摘した。今後は類例の調査とともに、長さ78m以上に及ぶ大溝や本県では珍しい平安時代の土坑墓群が検出された阿部舘遺跡を始めとする周辺遺跡の再検討による核心部の絞り込みが必要である。

註１　建物の外側に排水溝を持つ遺構は、県内の平安時代の遺跡からもいくつか確認されており、焼土や鍛冶炉を伴う。近いところでは由利本荘市の樋ノ口遺跡の例がある。
秋田県教育委員会　『樋ノ口遺跡・芋種坂Ⅲ遺跡　－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書ＸＸＶ－』　秋田県文化財調査報告書第424集　2007（平成19）年

註２　五十嵐一治　「払田柵における律令祭祀の様相と変容－形代としての土器－」『千葉大学文学部考古学研究室30周年記念考古学論攷Ⅰ』2012（平成24）年

註３　村田淳　「東北地方出土の平安時代施釉陶磁器集成」『岩手県埋蔵文化財センター紀要』ＸＸＸⅠ　2012（平成24）年

註４　高橋照彦氏は、地方官衙においては、郡家から出土する緑釉陶器は概してかなり少なく、緑釉陶器の消費形態において国府と郡家の差が顕著であり、国府関連遺跡やその周辺において緑釉陶器の出土量が目立つことを指摘している。
高橋照彦　「地方官衙出土の平安時代の緑釉陶器」『考古学ジャーナル』No.475　2001（平成13）年

註５　高橋学　「にかほ市平沢で発見された古代官道の意味するところ」『由理柵・駅研究会第11回例会資料』　2012（平成24）年

註６　島方洸一　『地図でみる東日本の古代－律令制下の陸海交通・条里・史跡－』　平凡社　2012（平成24）年
このほか、清水尻Ⅱ遺跡から北側の由利本荘市境界域までの駅路については、小松正夫氏もほぼ同様のルート（国道７号線かＪＲ羽越線沿い）を想定している。
小松正夫　「由理柵・駅と古代想定駅路－由利地域の駅路を中心に－」『古代由理柵の研究』　高志書院　2013（平成25）年

註７　龍野市教育委員会　『布勢駅家Ⅱ－子犬丸遺跡1992・1993年度発掘調査概報－』　1994（平成６）年

註８　上郡町教育委員会　『古代山陽道野磨駅跡－落地遺跡飯坂地区ほか発掘調査報告書－』　2005（平成17）年

註９　荒木志伸氏は、蚶方駅と由理駅の長い距離から、その間に道路管理支援施設のようなものが存在した可能性も否定できないとしている。
荒木志伸　「出羽国と京を結ぶ官道－古代道路のはたした役割－」『日本海沿岸古代の道　第１回ふるさと考古学セミナー資料』　2012（平成24）年

1　掘立柱建物跡群（上が東南東）

2　掘立柱建物跡群（上が東南東）

図版2

1　SB114(南西→北東)

2　LT46～49遺構確認状態(東→西)

3　SA101確認状態(西→東)

4　SA103 RW1断面(南→北)

1　SD28確認状態（南西→北東）

2　SD28・41土層断面（南→北）

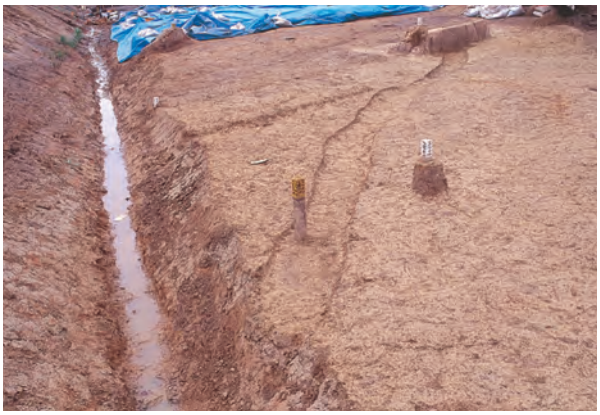
3　SD47完掘状態（南東→北西）

4　SD49・50、SK120・121完掘状態（南西→北東）

5　SD49・50土層断面（北→南）

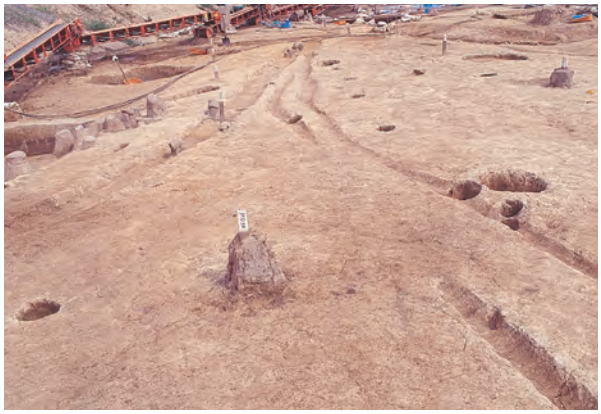
6　SD56完掘状態（南西→北東）

7　西側整地面とSD57確認状態（南→北）



8　SD57完掘状態（南西→北東）

図版4

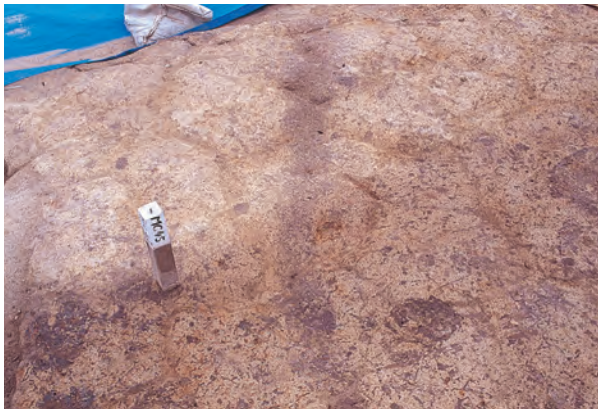


1　SD57・72・85完掘状態（南→北）

2　SD60確認状態（南→北）

3　SD60完掘状態（南→北）

4　SD60遺物出土状態（北→南）



5　SD83確認状態（南東→北西）

6　SD90確認状態（南→北）

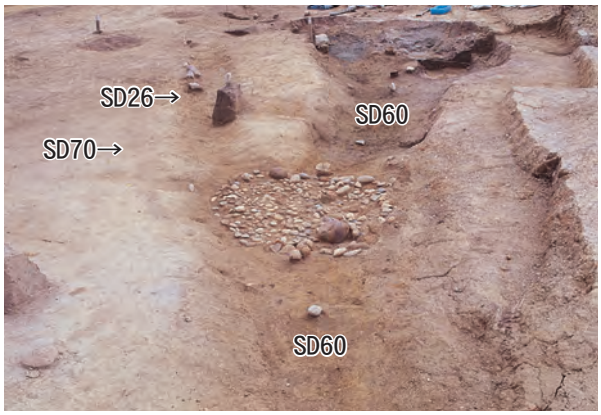
7　SD92土層断面（南→北）

8　SD100完掘状態（北東→南西）

1　SD107土層断面(西→東)

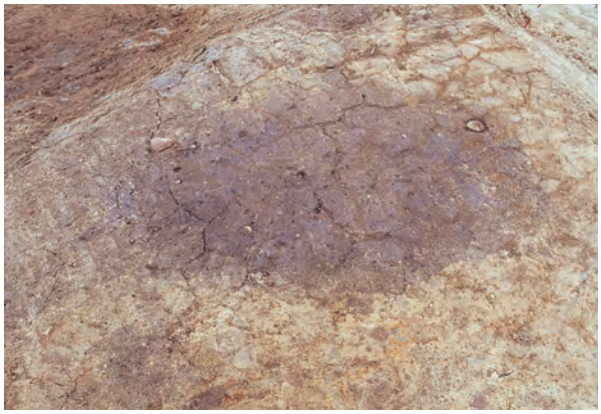
2　SD123土層断面(西→東)

3　SQ65確認状態(南→北)



4　SQ65、SD70確認状態(南→北)

5　SQ65、SD60土層断面(南→北)



1　SK01・03確認状態（南東→北西）

2　SK01・03完掘状態（南東→北西）

3　SK04完掘状態（東→西）

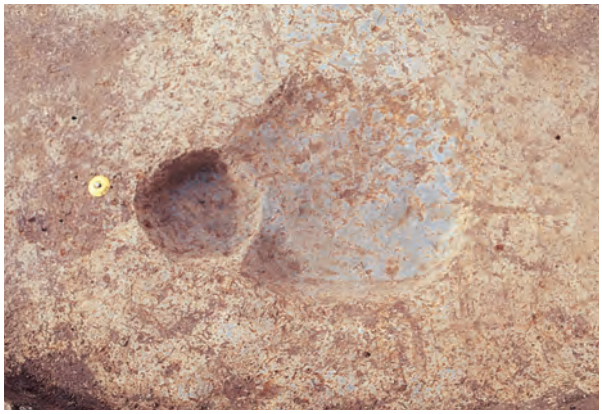
4　SK05完掘状態（西→東）

5　SK07完掘状態（南西→北東）

6　SK08完掘状態（南西→北東）

7　SK17土層断面（南西→北東）

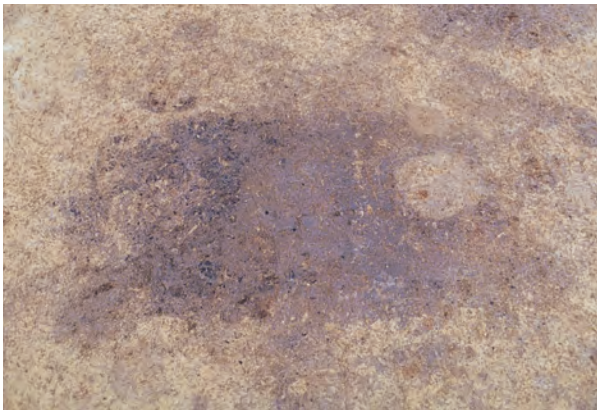
8　SK17土器出土状態（南西→北東）



1　SK19完掘状態(南→北)

2　SK20・21確認状態(北西→南東)

3　SK21完掘状態(北→南)



4　SK22確認状態(南→北)

5　SK23完掘状態(南西→北東)

6　SK24完掘状態(南東→北西)

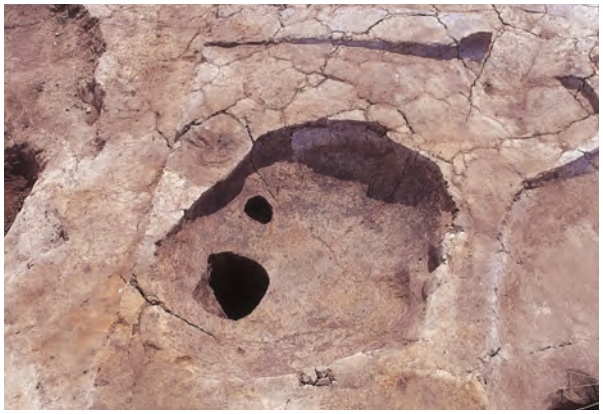
7　SK25完掘状態(北東→南西)

8　SK27、SD42確認状態(西→東)

1　SK27遺物出土状態（南→北）

2　SK29・30、SD35完掘状態（南東→北西）

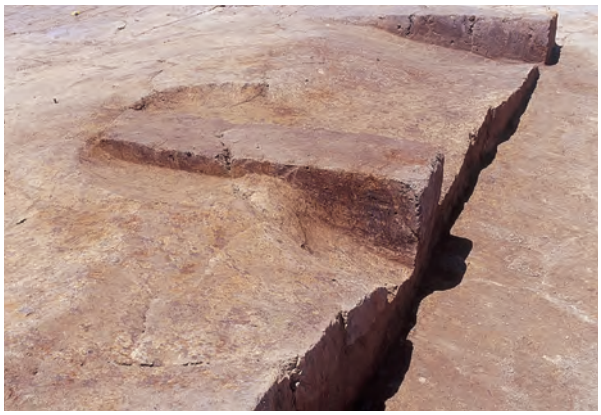
3　SK36完掘状態（南東→北西）



4　SK37完掘状態（西→東）

5　SK38・39（南→北）

6　SK39完掘状態（南→北）

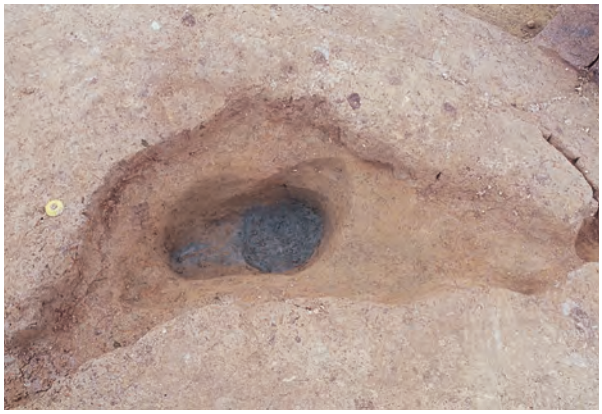


7　SK43・44・110土層断面（北東→南西）

8　SK45完掘状態（北西→南東）

1　SK48完掘状態(南→北)

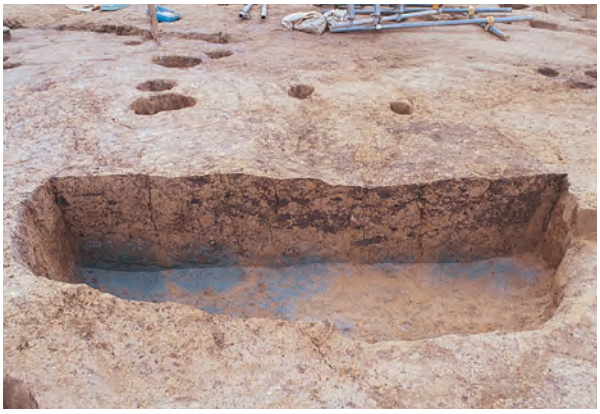
2　SK53完掘状態(東→西)



3　SK61完掘状態(南→北)

4　SK63確認状態・土層断面(北→南)

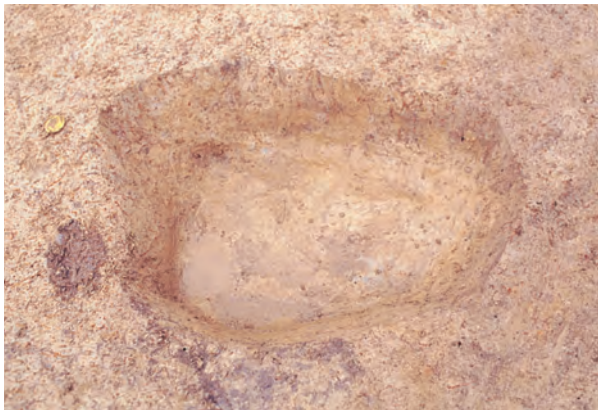
5　SK66土層断面(南西→北東)



6　SK67土層断面(北→南)

7　SK67完掘状態(北→南)

8　SK68完掘状態(東→西)



1　SK69・81完掘状態（南東→北西）

2　SK73完掘状態（北西→南東）

3　SK74土層断面（南→北）

4　SK75土層断面（南→北）

5　SK76土層断面（南→北）

6　SK74・75・76・117完掘状態（南→北）

7　SK77完掘状態（東→西）

8　SK79藁出土状態（北東→南西）

1　SK82土層断面(南→北)

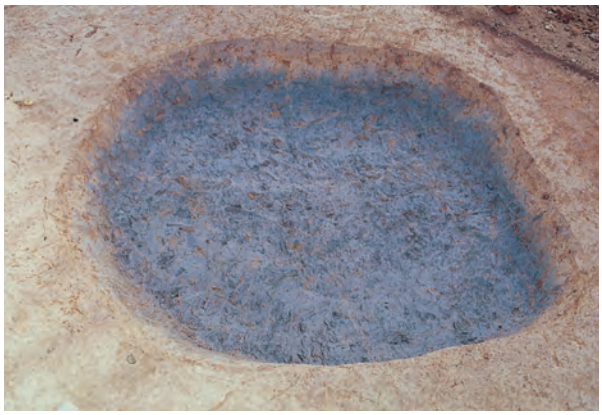
2　SK84完掘状態(南東→北西)

3　SK87･88完掘状態(西→東)

4　SK91土層断面(南西→北東)

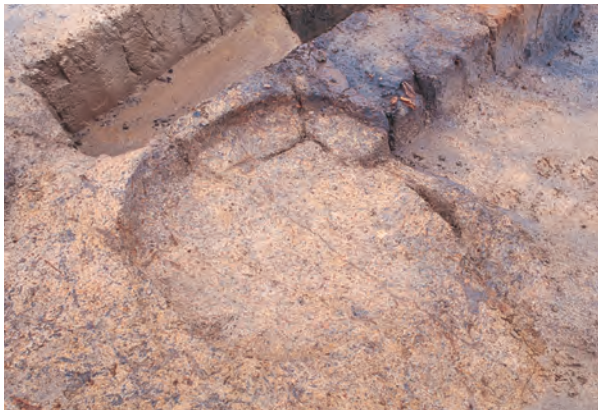
5　SK94･84完掘状態(南東→北西)

6　SK95確認状態(東→西)



7　SK95完掘状態(北東→南西)

8　SK97完掘状態(南西→北東)



1　SK98完掘状態(北西→南東)

2　SK99完掘状態(北→南)

3　SK104遺物出土状態(南東→北西)

4　SK105土層断面(南東→北西)

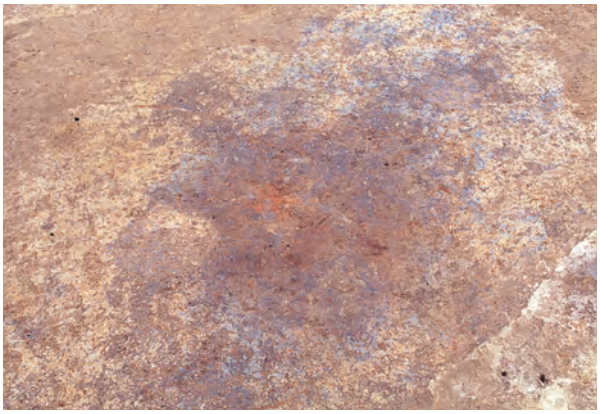
5　SK106、SD123完掘状態(西→東)

6　SK111完掘状態(西→東)

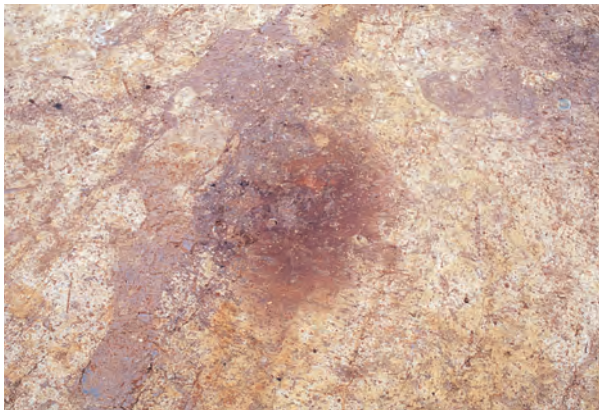
7　SX89確認状態(南西→北東)

8　SR109遺物確認状態(南東→北西)

1　SN10確認状態(南→北)



2　SN12確認状態(南西→北東)



3　SN13確認状態(北西→南東)

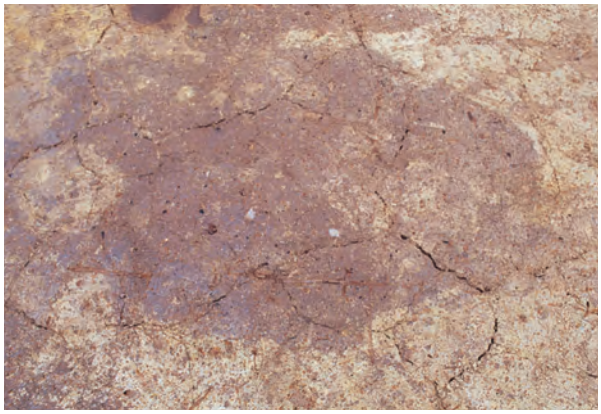
4　SN14･15･16確認状態(北→南)

5　SK18、SN112確認状態(南東→北西)

6　SN32確認状態(北→南)

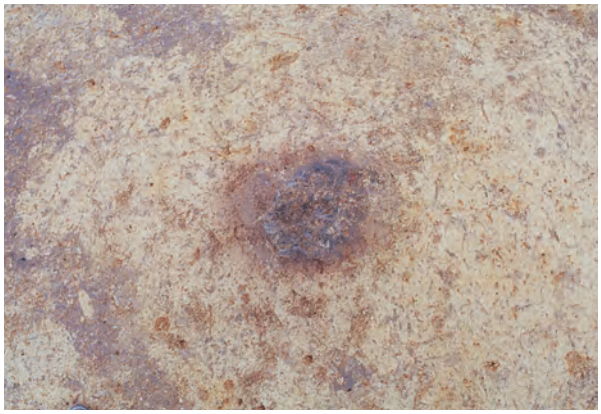
7　SN33確認状態(西→東)

8　SN34確認状態(東→西)



1　SN52、SK53確認状態（東→西）

2　SN62確認状態（西→東）



3　SS09確認状態（北西→南東）

4　SB115P5（SKP470）遺物出土状態（北→南）

5　LS59遺物出土状態（南→北）

6　LT60木製品出土状態（南西→北東）

7　MD・ME51土層断面（南→北）

8　MC42・43、MD42基本層序断面Ｉ－Ｊ（西→東）

1　南西側から見た調査区

2　北側沢地最深部（南西→北東）

3　調査状況（北西→南東）

4　調査状況（南東→北西）

5　南側斜面肩部地割れ（東→西）

6　基本層序断面Ｅ－Ｆ（南→北）

7　基本層序断面Ｇ－Ｈ（北西→南東）

8　基本層序断面Ｃ－Ｄ（南東→北西）

図版16　出土遺物1

第47図 1

第47図 2

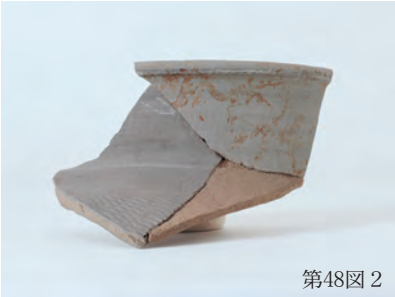
第47図 3

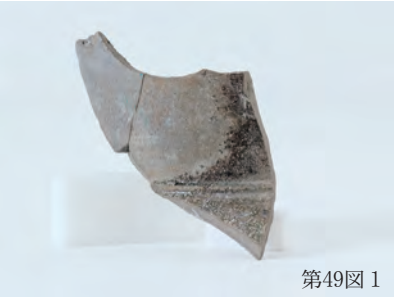
第47図 4

第47図 5

第47図 7

第47図 9


第48図 2


第49図 1

第49図 2

第49図 3

第49図 4

第49図 5

第49図 6

第49図 7

第49図 8

第49図 9

第49図10

第49図11

第49図12

第50図 1

第50図 2

第50図 3

第51図 4

第51図 5

第50図 6

第50図 7

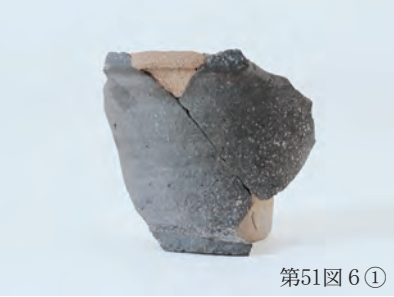
第50図 8

第50図 9

第50図10

第51図 4

第51図 5


第51図 6 ①

第51図 6 ②

第51図 6 ③

第51図 7

第51図 8

第52図 2

第52図 3

第52図 4

第52図 5

第52図 6

第52図 7

第52図 8

第52図 9

第53図 1

第53図 2

第53図 3

第53図 6

第53図 7

第54図 1

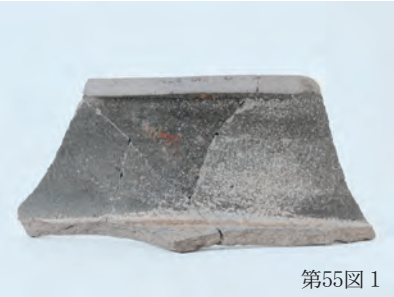
第54図 2

第54図 3

第54図 4

第54図 6

第54図 7


第55図 1

第55図 2

第55図 3

第55図 4

第55図 5

第55図 6

第55図 9

第55図10

第55図11

第55図12

第56図 2

第56図 3

第56図 4

第56図 7

第56図 8

第57図 1

第59図 1

第59図 2

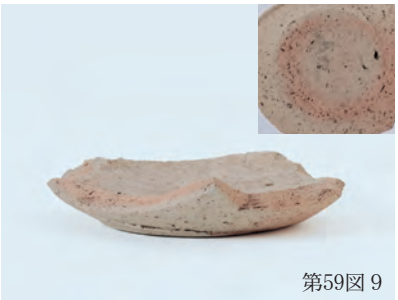
第59図 3

第59図 4

第59図 5

第59図 6

第59図 7


第59図 9

第59図10

第59図11

第59図13

第59図14

第59図15

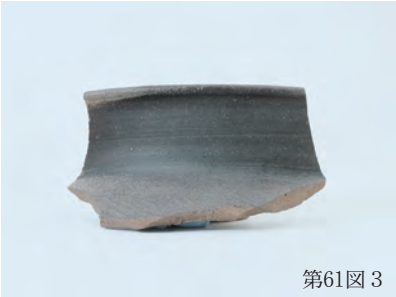
第60図 1

第60図 2

第60図 3

第60図 4

第61図 2

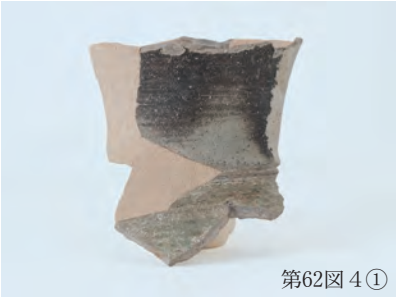

第61図 3

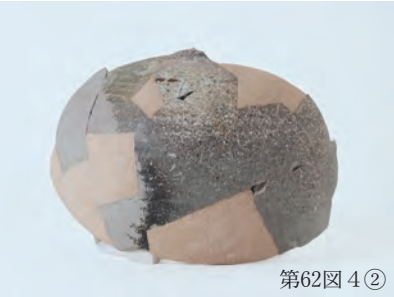
第61図 4

第62図 1

第62図 2

第62図 3


第62図 4①


第62図 4②

第63図 1

第63図 2

第63図 3

第63図 4

第63図 5

第63図 6

第63図 7

第63図 8

第63図 9

第63図10

第64図 1

第64図 2

第64図 3

第64図 4

第64図 6

第64図 7

第64図 8

第64図 9

第64図10

第64図11

第64図12

第64図13

第64図14

第64図15

第65図 1

第65図 2

第65図 3

第65図 4

第65図 5

第65図 8

第65図14

第65図15

第65図16

第66図 9

第66図10

第66図11

第66図12

第66図13

第66図14

第66図15

第66図16

第66図17

第66図18

第67図 2

第67図 3

第67図 4

第67図 5

第67図 7

第67図 8

第68図 2

第69図 3

第69図 6

第71図 6

第71図 7

第71図 9

第71図13

第71図22

第72図10

第72図19

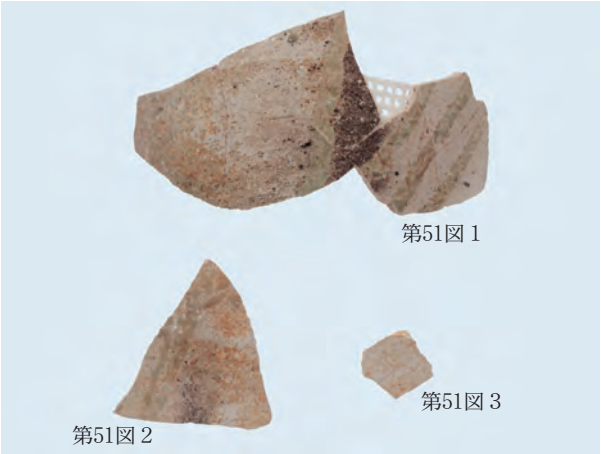
第72図23

第73図 5

第73図 7

第73図 9

第73図10


第51図 1
第51図 2
第51図 3

第54図 5
第54図 8
第54図 9

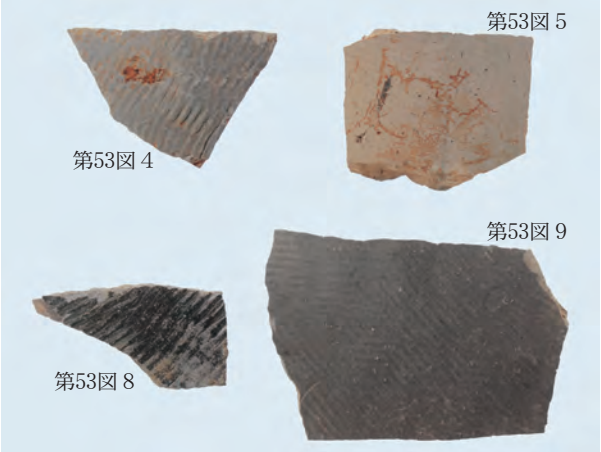
第47図 6

第51図 9
第52図 1

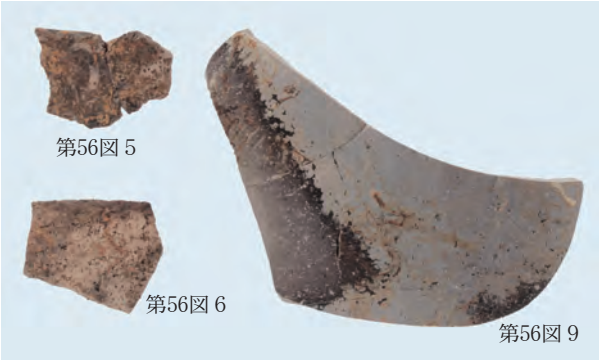
第54図10

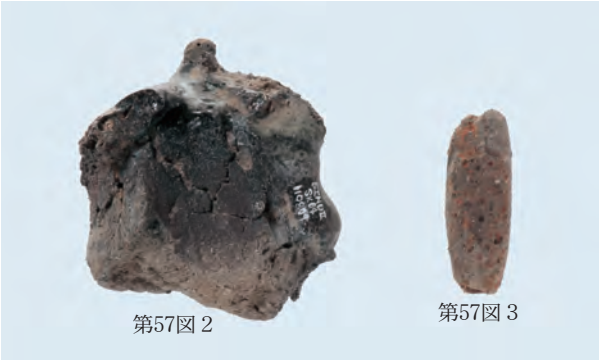
第52図 9
第52図10

第54図11
第55図 7
第55図 8

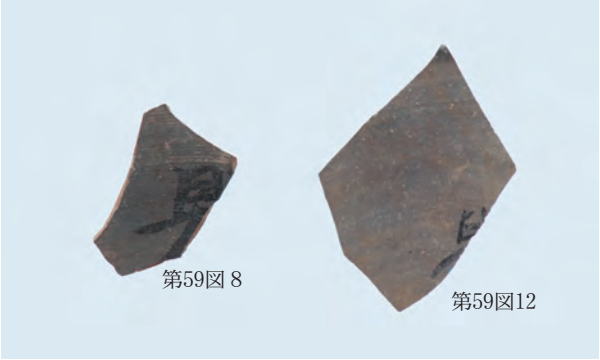

第53図 5
第53図 4
第53図 9
第53図 8

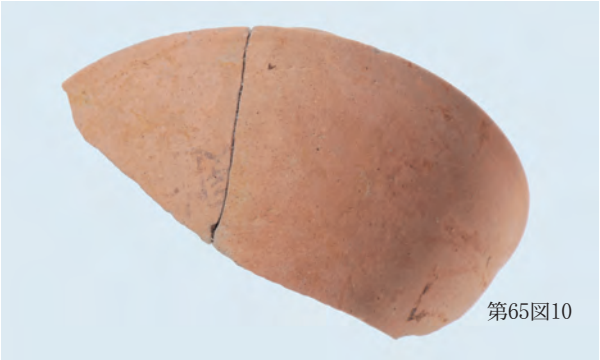
第56図 1

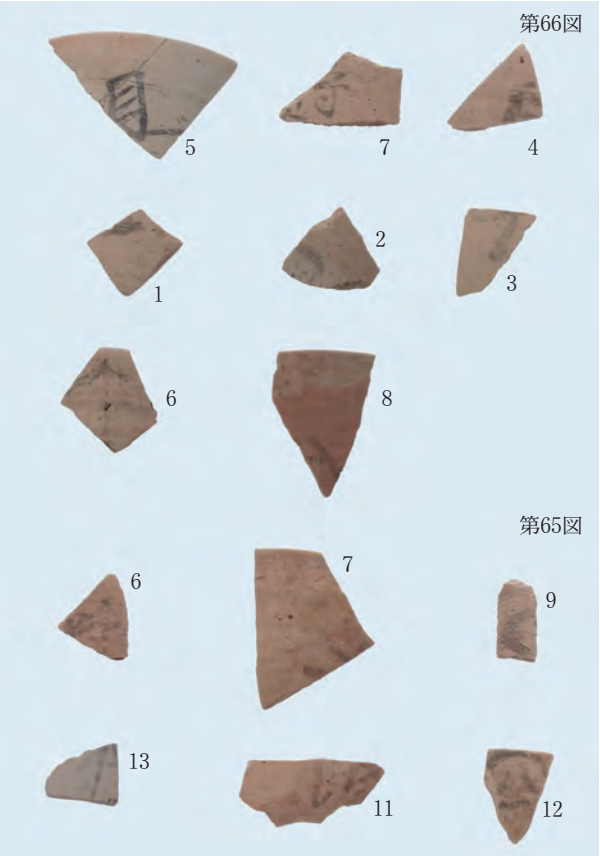

第56図 5
第56図 6
第56図 9

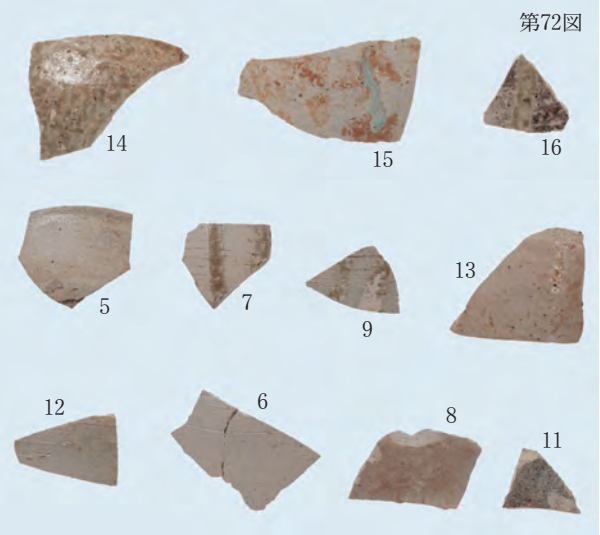

第57図 2
第57図 3

第57図 8
第57図 7

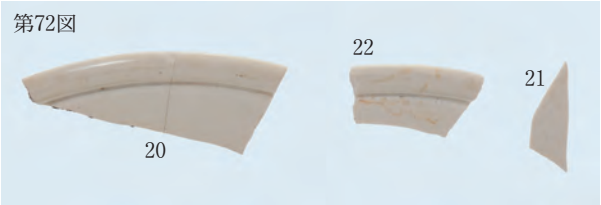

第59図 8
第59図12

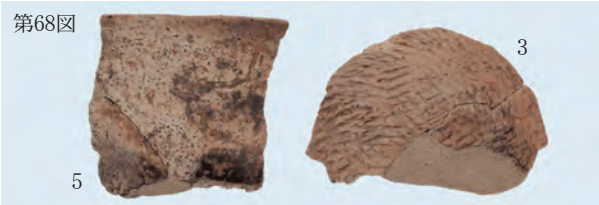

第65図10

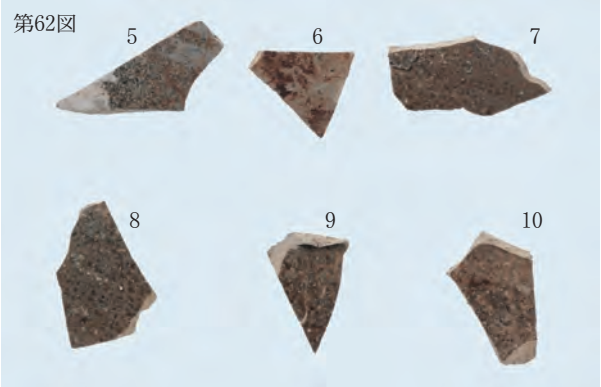

第66図
5
7
4
1
2
3
6
8
第65図
6
7
9
13
11
12


第72図
14
15
16
5
7
9
13
12
6
8
11

第72図 3
第72図 4
第72図 2

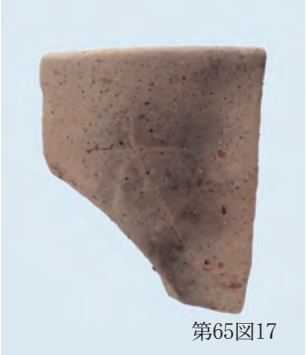

第72図
22
21
20

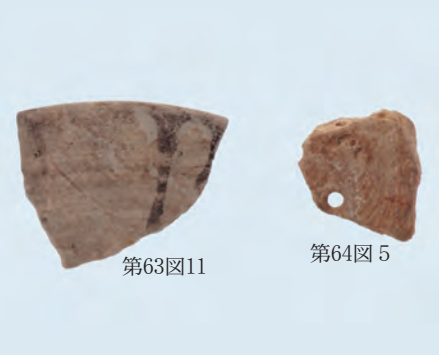

第68図
3
5

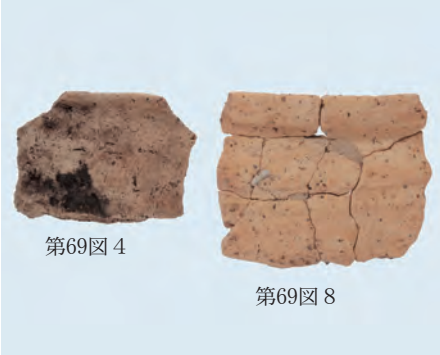

第62図
5
6
7
8
9
10

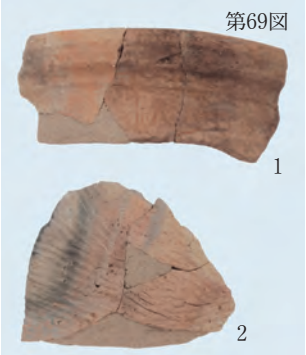
第72図17
第72図18

第61図 1


第65図17


第63図11
第64図 5


第69図 4
第69図 8


第69図
1
2

第68図 4

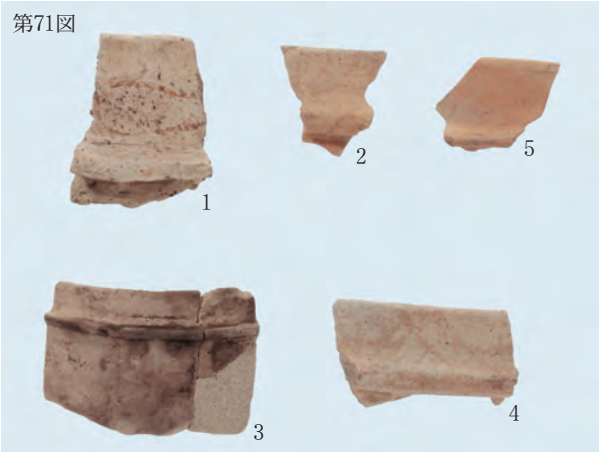
第67図 6

第70図 1

第68図 1
第70図 2

第70図 3
第70図 5
第70図 4

第74図
1
2
4
5
6
7
3


第71図
1
2
5
3
4

8
9
10

第73図 2
第73図 3
第73図 1

第71図
13
14

第73図 4

第71図
11
12

第75図 1

第75図 2

第58図 3

第57図 4

第57図 5

第58図 2

第57図 6

第58図 1

第75図

第76図 1

第76図 2

第76図 3

第76図 5

第76図 6

第77図 1

第76図 8

第76図 7

第76図 4

第77図 2

第77図 3

第77図 4

第77図 5

第77図 6

第77図 7

第77図 8

第77図 9

第77図10

第77図11

第78図 1

第78図 2

第78図 3

第78図 4

第79図 1

第79図 2

第80図 1

第79図 3

第79図 4

第79図 5

第80図 2

第80図 3

第80図 4

第80図 5

第81図 1

第81図 2

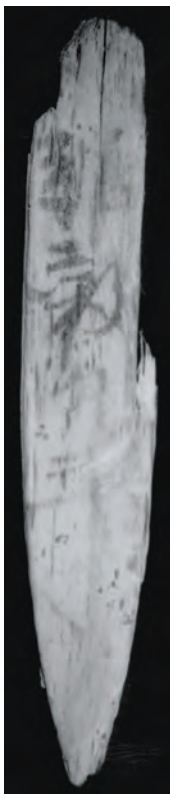
第81図 3

第81図 4

第81図 5

第81図 6

第81図 8


第81図 7

第81図13

第81図12

第81図 9

第81図10

第81図11

第82図 1

第82図 2

第82図 3

第82図 4

第82図 5

第82図 6

第82図 7

第82図 8

第82図 9

第82図10

第83図 1

第83図 2

第83図 3

第83図 4

第83図 5

第83図 6

第83図 7

第83図 8

第83図 9

第84図 1

第84図 2

第84図 3

第84図 4

第84図 5

第84図 6

第84図 7

第84図 8

第84図 9

第84図10

第84図11

第84図12

第84図13

第84図14

第84図15

第84図16

第84図17

第82図11

第82図12

第82図13

第82図14

第82図15

第82図16

第82図17

第82図18

第82図19

第82図20

第82図21

第82図22

第82図23

第82図24

第82図25

第82図26

第82図27

第82図28

第82図29

第82図30

第82図31

第82図32

第85図 1

第85図 2

第85図 3

第85図 4

第85図 5

第86図 1

第85図 6

第86図 2

第86図 3

第86図 4

報 告 書 抄 録

ふ り が な	いえのうら２いせき
書　　名	家ノ浦Ⅱ遺跡
副　書　名	一般国道７号仁賀保本荘道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書
シリーズ番号	第485集
編 著 者 名	村上義直　簗瀬圭二
編 集 機 関	秋田県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒014-0802　秋田県大仙市払田字牛嶋20番地　TEL 0187-69-3331
発 行 機 関	秋田県教育委員会
所　在　地	〒010-8580　秋田県秋田市山王三丁目１番１号　TEL 018-860-5193
発行年月日	西暦 2013年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
家ノ浦Ⅱ遺跡（いえのうら２いせき）	秋田県 にかほ市 両前寺 字家ノ浦 １－１外	05214	214-35-65	39° 17′ 40″	139° 58′ 35″	20110601 ～ 20110907	3,150	一般国道７号仁賀保本荘道路建設事業に係る埋蔵文化財事前発掘調査

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
家ノ浦Ⅱ遺跡	祭祀遺跡 生産遺跡	縄文時代 弥生時代 平安時代	掘立柱建物跡　4棟 柵列跡･杭列跡　6条 溝跡　22条 敷石遺構　1基 集石遺構　1基 土器埋設遺構　1基 土坑　65基 焼土遺構　13基 鍛冶炉　1基 性格不明遺構　1基 柱穴様ピット　475基	石匙 弥生土器 須恵器 土師器 緑釉陶器 灰釉陶器 白磁 土製品 石器 木製品 鉄製品 鉄滓	緑釉陶器・灰釉陶器等の古代の施釉陶器が58点出土した。
		近　　世		紅皿	

要　　約	平安時代を中心とする祭祀域と鍛冶関連の作業場。当初からの祭祀域としての性格に、鍛冶関連の作業場としての機能が加わる。祭祀は、沢・川縁・溝など水辺に関連するものと、土坑で行われる２形態がある。溝の一つには、敷石遺構が構築され、祭祀などが行われていたと考えられる。鍛冶作業を裏付けるものとして、掘立柱建物跡からなる工房や鍛冶炉・焼土などの遺構の他、椀形鍛冶滓、鉄床石、鉄製品などの遺物がある。緑釉陶器・灰釉陶器などの施釉陶器の出土量は、県内では、秋田城跡、払田柵跡に次ぎ、付近に官衙等の律令制に係わる施設が存在する可能性も想定される。清水尻Ⅱ遺跡で検出された古代の官道と推定される道路跡との関連も注目される。

秋田県文化財調査報告書第485集
家　ノ　浦　Ⅱ　遺　跡
― 一般国道７号仁賀保本荘道路建設事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ ―

印刷・発行　平成25年３月
編　　集　秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802　大仙市払田字牛嶋20番地
電話(0187)69-3331　FAX(0187)69-3330
発　　行　秋田県教育委員会
〒010-8580　秋田市山王三丁目１番１号
電話(018)860-5193
印　　刷　株式会社 成　文　社